



Parallels Remote Application Server

管理者ガイド

v15

Parallels IP Holdings GmbH
Vordergasse 59
8200 Schaffhausen
スイス
Tel : + 41 52 632 0411
FAX : + 41 52 672 2010
www.parallels.com/jp

Copyright © 1999-2016 Parallels IP Holdings GmbH and its affiliates. All rights reserved.

この製品は、米国著作権法および国際著作権条約およびその他の知的所有権条約によって保護されています。製品の基本となる技術、特許、および商標は、<http://www.parallels.com/jp/trademarks> に一覧表示されています。

Microsoft、Windows、Windows Server、Windows NT、Windows Vista、および MS-DOS は、Microsoft Corporation の登録商標です。

Apple、Mac、Mac ロゴ、Mac OS、iPad、iPhone、iPod touch、FaceTime HD カメラおよび iSight は米国およびその他の国における Apple Inc. の商標または登録商標です。

Linux は、Linus Torvalds の登録商標です。

ここに記載したその他のマークおよび名前は、それぞれの所有者の商標である可能性があります。

目次

Parallels Remote Application Server の概要	10
Parallels Remote Application Server とは	10
このドキュメントについて	11
用語と略語	11
Parallels Remote Application Server のインストール	15
システム要件	15
ソフトウェア要件	15
ハードウェア要件	17
Parallels Remote Application Server のインストール	17
Parallels ビジネスアカウントへのサインイン	23
Parallels Remote Application Server のアクティベート	25
ライセンスの管理	25
Parallels Remote Application Server を使用する前に	26
Parallels Remote Application Server Console.....	26
簡単な RAS 環境のセットアップ	28
ターミナルサーバーを追加する	29
アプリケーションの公開	31
ユーザーを招待	32
結論	35
サイトと管理者	36
サイトと管理	36
ファームへの新しいサイトの追加	37
サイトの管理	40
管理者:追加、管理、構成	41
管理者アカウントの追加	41
管理者アカウントの権限の構成	42
管理者アカウントの管理	43
管理者用インスタントメッセージの使用	43

カスタマエクスペリエンスプログラムへの参加	44
ターミナルサーバー	45
利用できるターミナルサーバーの表示	45
ターミナル サーバーの追加	46
手動による RAS Terminal Server Agent のインストール	48
ターミナル サーバーの構成	49
RAS Terminal Server Agent のステータスの確認	49
ターミナルサーバーのサイト割り当ての変更	50
ターミナルサーバーのプロパティの表示と変更	51
ターミナル サーバーのグループ化	57
ターミナルサーバーのスケジューラーを使用	57
クライアントセッションからのログオンの管理	59
ターミナルサーバーからの公開	60
ターミナルサーバーからのデスクトップの公開	61
ターミナルサーバーからのアプリケーションの公開	63
ターミナルサーバーからのウェブアプリケーションの公開	67
ターミナルサーバーからのネットワークフォルダーの公開	67
ターミナルサーバーからのドキュメントの公開	69
VDI ホスト	71
VDI ホストの追加	71
RAS VDI Agent のステータスの確認	73
手動による RAS VDI Agent のインストール	73
アプライアンスのインストールおよび VDI ホストの構成	75
RAS テンプレートの管理	78
RAS テンプレートの作成	79
バーチャルゲストをテンプレートから作成する方法	80
RAS テンプレートの構成	80
RAS テンプレートのメンテナンス	82
VDI ホストのプール管理	83
プールの追加および削除	84
プールメンバーの追加および削除	84

プールでのバーチャルゲストの構成	85
ワイルドカード機能の使用	87
パーシスタントゲスト	87
ゲストからの公開	88
ゲストからのバーチャルデスクトップの公開	88
ゲストからのアプリケーションの公開	89
ゲストからのウェブアプリケーションの公開	90
ゲストからのネットワークフォルダーの公開	91
ゲストからのドキュメントの公開	92
VDI Agent 技術	93
Citrix XenServer.....	94
Microsoft Hyper-V.....	102
VMWare vSphere.....	105
リモート PC.....	121
リモート PC の追加	121
RAS PC Agent の手動インストール	122
リモート PC の構成	123
リモート PC からの公開	125
リモート PC からのデスクトップの公開	125
リモート PC からのアプリケーションの公開	125
リモート PC からのウェブアプリケーションの公開	126
リモート PC からのネットワークフォルダーの公開	127
リモート PC からのドキュメントの公開	127

公開およびフィルタリング	129
公開済みのアプリケーションの管理	129
公開デスクトップの管理	134
公開ドキュメントの管理	136
公開フォルダーの管理	139
ユーザー、クライアント、IP、MAC、ゲートウェイによるルールのフィルタリング	139
RAS Secure Client Gateway.....	143
RAS Secure Client Gateway の概要	143
RAS Secure Client Gateway の追加	145
手動による RAS Secure Client Gateway の追加	146
RAS Secure Client Gateway のステータスの確認	147
RAS Secure Client Gateway の管理	148
RAS Secure Client Gateway の有効化および無効化	148
受信接続用の IP アドレスの構成	149
RAS Secure Client Gateway ネットワークオプションの構成.....	150
RAS Secure Client Gateway での SSL 暗号化の有効化	151
ゲートウェイでの HTML5 サポートの有効化	153
ゲートウェイモードと転送設定の変更	156
Wyse シンクライアント OS のサポート	157
RAS Secure Client Gateway へのアクセスのフィルター.....	157
ゲートウェイのトンネリングポリシー.....	157
トンネリングポリシーの構成.....	158

RAS Web Portal.....	159
RAS Web Portal:前提条件およびインストール	159
管理ページへのログイン	162
ファーム設定	163
一般設定	166
バックアップの Publishing Agent.....	172
バックアップ Publishing Agent の追加	172
バックアップの Publishing Agent 管理	173
ロードバランス	174
リソースベースのロードバランスおよびラウンドロビンのロードバランス	174
ロードバランスの詳細設定	176
高可用性ロード バランス	177
RAS Console での HALB アプライアンスの構成	178
HALB アプライアンスのパスワードの変更	181
ユニバーサルプリント	183
ユニバーサルプリントサーバーの管理	183
ユニバーサルプリントのフィルタリング	185
フォントマネジメント	186
ユニバーサルスキャン	188
ユニバーサルスキャンの管理	188
スキャン アプリケーションの管理	190
デバイスの管理	192
デバイスを接続するようユーザーを招待	192
デバイスのモニタリング	194
Windows デバイスの管理	195
Windows デスクトップの置換	199

Windows デバイスグループ	202
Windows デバイスおよびグループの電源サイクルのスケジューリング	203
Parallels Client 設定の管理	205
レポート作成	209
RAS レポートの展開および構成	209
詳細設定	211
RAS レポート	211
接続および認証の設定	215
RAS Publishing Agent の接続設定	215
Parallels Client の種類とビルド番号によるアクセスの制限	217
二要素認証	218
Parallels Remote Application Server の構成	218
Safenet での作業	222
Deepnet での作業	225
Parallels Remote Application Server の管理	240
Parallels Remote Application Server のステータス	240
ライセンス	241
セッションの管理	243
モニタリング カウンターおよび電子メール アラートの構成	245
モニタリングカウンターの構成	245
メールを介してシステム通知を行うように SMTP サーバー接続を構成する	245
Parallels Remote Application Server の構成変更の表示	246
監査ログの構成	246
Parallels Remote Application Server のログ (サーバー別)	247
Parallels Remote Application Server のログ (サイト別)	248

メンテナンスとバックアップ	248
ファーム設定のエクスポートおよびインポート	249
問題の報告とトラブルシューティング	250
ポート参照	254
インデックス	257

第 1 章

Parallels Remote Application Server の概要

この章の内容

Parallels Remote Application Server とは.....	10
このドキュメントについて.....	11
用語と略語.....	11

Parallels Remote Application Server とは

Parallels Remote Application Server を使用すると、単一のプラットフォームからバーチャルデスクトップとアプリケーションをベンダーに依存せずに配信できます。Parallels Remote Application Server には、ネイティブクライアントとウェブ対応ソリューション (Parallels RAS HTML5 Gateway など) を使用してあらゆる場所からアクセスできます。これにより、仮想環境内ですべてのデスクトップ、アプリケーション、ドキュメントを公開できるため、デスクトップの管理とセキュリティが強化され、パフォーマンスが向上します。

Parallels Remote Application Server では、カスタマイズされたシェルと、Microsoft RDP プロトコルを介した仮想チャネル拡張を使用して、Windows ターミナルサービスを拡張しています。また、Microsoft 製、VMware 製など、すべての主要なハイパーバイザーをサポートしており、バーチャルデスクトップやアプリケーションを Parallels Client に公開できます。

この製品には、強力なユニバーサルプリント機能とユニバーサルスキャン機能、リソーススペースの大容量ロードバランス、および管理機能が含まれています。

Parallels Remote Application Server 用の Parallels Client マネージャーモジュールでは、ユーザー接続のほか、無料の Parallels Client を使用してシンクライアントに変換された PC を集中管理することもできます。

仕組み

ユーザーがバーチャルデスクトップまたはアプリケーションを要求すると、負荷の最も低い VDI ホストの 1 つ、または負荷の最も低いターミナルサーバーが検索され、そのホストまたはサー

バーを使用して RDP 接続が開始または復元されます。Microsoft RDP プロトコルを使用して、バーチャルデスクトップまたは公開済みのアプリケーションがユーザーに提供されます。

ユーザーは、Windows、Linux、OS X、Android、Chrome、iOS で実行できる無料の Parallels Client を使用して、Parallels Remote Application Server に接続できます。また、HTML5 ブラウザーまたは Chromebook を使用して接続することもできます。

Windows の新規バージョンが次々に開発される中、移行コストを削減できますか？Parallels Remote Application Server はコスト削減に役立ちます。デスクトップの置換を使用することで、ハードウェア寿命を延長し、最新 OS への移行をユーザーに最も適した時期まで遅らせることができます。Parallels Remote Application Server ソリューションを使用すると、非常に柔軟に対応できます。たとえば、ユーザー側のマシン構成をロックすることで、企業データを極めて安全な場所に配置することができます。また、ユーザーが一部のローカルアプリケーションまたはリモートアプリケーション以外を実行できないようにすることもできます。Parallels Client のデスクトップの置換を使用すると、最もよく使用するローカル構成オプションを無効にすることでローカルマシンの操作性を抑えながら、シンクライアントによって提供されるのと同レベルのサービスとセキュリティを保証できます。しかも、これらをすべて既存の PC から実行できます。

このドキュメントについて

このガイドは、Parallels Remote Application Server をインストールおよび構成するシステム管理者向けです。このガイドは、Microsoft ターミナルサーバーに習熟し、中程度のネットワーク知識を有している読者を想定しています。

用語と略語

このガイドでは、次の用語と略語を使用します。

用語/略語	説明
RAS Console	Parallels Remote Application Server Console。RAS Console は、Parallels Remote Application Server の構成、管理、実行に使用する主要なインターフェイスです。管理者は、RAS Console を使用して、ファーム、サイト、ターミナルサーバー、公開済みのリソース、クライアント接続などを管理します。
カテゴリー	RAS Console では、メインインターフェイスの左側のペインに [カテゴリー] が表示されます。各カテゴリーは、特定のタスクまたは操作に関連するいく

	<p>つかの設定で構成されます。</p> <p>次のカテゴリがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 開始 • ファーム • ロードバランス • 公開 • ユニバーサルプリント • ユニバーサルスキャン • 接続 • クライアント マネージャー • ポリシー • 管理 • 情報 • レポート作成 • ライセンス
ファーム	<p>ファームは、1つまたは複数のサイト上の Parallels Remote Application Server インストール環境で構成されます。</p>
サイト	<p>1つのサイトは、少なくとも1つの RAS Publishing Agent、RAS Secure Client Gateway（または複数のゲートウェイ）、およびターミナルサーバー、VDI ホスト、または PC にインストールされた RAS エージェントで構成されます。</p> <p>特定のターミナルサーバー、VDI ホスト、または PC が、同時に複数のサイトのメンバーになることはできません。</p>
ライセンスサーバーサイト	<p>メインの構成データベースが保存されているサイトであり、RAS ファーム内の他のすべてのサイトが管理されます。メインのライセンスサーバーを利用できない場合、サイト内の他のサーバーをライセンスサーバーにアップグレードできます。</p> <p>注意: Parallels Remote Application Server のアップグレードは最初にライセンスサーバーサイトに適用する必要があります。</p>
RAS Secure Client Gateway	<p>RAS Secure Client Gateway は、アプリケーションで必要とされるすべてのトラフィックを単一のポー</p>

	トでトンネリングして、安全な接続を実現します。
HTML5 ゲートウェイ	HTML5 ゲートウェイを使用すると、公開済みのリソースにウェブブラウザ経由でクライアントを使用せずにアクセスできます。HTML5 は、RAS Secure Client Gateway の一部です。
公開	リモートデスクトップサーバー、VDI ホスト、またはリモート PC にインストールされたアイテムを Parallels Remote Application Server を介してユーザーに提供すること。
RAS Publishing Agent	RAS Publishing Agent では、公開済みのアプリケーションおよびデスクトップのロードバランスが実行されます。
RAS Terminal Server Agent	RAS Terminal Server Agent では、Publishing Agent で必要とされる情報が MS RDS から収集され、必要に応じて Publishing Agent に送信されます。
RAS PC Agent	RAS PC Agent では、Publishing Agent で必要とされる情報がリモート PC ホストから収集され、必要に応じて Publishing Agent に送信されます。
RAS Guest Agent	RAS Guest Agent では、Publishing Agent で必要とされる情報が VDI デスクトップから収集され、必要に応じて Publishing Agent に送信されます。
RAS VDI Agent	RAS VDI Agent では、Parallels Remote Application Server Infrastructure から情報が収集され、ネイティブ API を介して VDI が制御されます。また、Secure Client Gateway またはダイレクトモードのクライアントと、ゲストまたは（実装されている場合は）VDI から起動された RDP サーバーの間のゲートウェイとしても機能します。
RAS Web Portal	RAS Web Portal は、クライアントの自動検出機能とクライアントの配布ポイントを備えたウェブページです。RAS Web Portal により、公開済みのリソースにウェブブラウザ経由でアクセスできます。また、OEM を可能にします。
RDS	リモートデスクトップサービスは、Windows Server のサーバーロールです。このテクノロジーによって、ユーザーはバーチャルデスクトップおよびセッションベースのデスクトップとアプリケーションに接続できます。RDS は、Windows 2008 R2 以降で使用されているターミナルサービスの代わりになります。
ターミナルサービス	上記の RDS を参照してください。

HALB	<p>HALB（高可用性ロードバランス）は、ユーザーと Parallels Secure Client Gateway の間に配置されるソフトウェアソリューションです。多くの HALB アプライアンスを同時に実行できます。1 つがマスターとして機能し、その他がスレーブとして機能します。利用できる HALB アプライアンスの数が多いほど、ダウンタイムの可能性が低くなります。マスターとスレーブのアプライアンスは、共通 IP または仮想 IP（VIP と呼ばれる）を共有します。マスターの HALB アプライアンスに障害が発生した場合、スレーブがマスターになるように要求され、マスターの地位をシームレスに引き継ぎます。エンドユーザーの接続に影響することはありません。</p>
------	--

第 2 章

Parallels Remote Application Server のインストール

この章の内容

システム要件.....	15
Parallels Remote Application Server のインストール.....	17
Parallels ビジネスアカウントへのサインイン.....	23
Parallels Remote Application Server のアクティベート.....	25
ライセンスの管理.....	25

システム要件

ソフトウェア要件

Parallels Remote Application Server のコアコンポーネント

RAS Publishing Agent と RAS Secure Client Gateway (Parallels Remote Application Server のコアコンポーネント) は、次のいずれかのバージョンの Windows Server 上にインストールされている必要があります。

- Windows Server 2003 SP1 以降
- Windows Server 2008
- Windows Server 2008 R2
- Windows Server 2012
- Windows Server 2012 R2

注意: DHCP サーバーを実行しているドメインコントローラやその他のサーバーに Parallels Remote Application Server をインストールしないでください。

RAS Terminal Server Agent

RAS Terminal Server Agent は、次のいずれかのバージョンの Windows Server 上にインストールされている必要があります。

- Windows Server 2003 SP1 以降
- Windows Server 2008
- Windows Server 2008 R2
- Windows Server 2012
- Windows Server 2012 R2

注意: リモートデスクトップサービス (Windows Server 2008 以前のバージョンではターミナルサービス) が有効になっている必要があります。

Parallels Client

Parallels Client は、次のオペレーティングシステムで認定されています (32 ビット版と 64 ビット版がある場合はその両方に対応)。

- Windows XP SP3、Vista、7、8. x、10
- Windows Server 2003 SP1 以降
- Windows Embedded
- Windows CE
- OS X 10.8 以降
- iOS 7.0 以降 (iPhone および iPad)
- Android 2.2 以降
- Chrome OS
- Windows Phone
- Ubuntu 12.04 LTS
- Ubuntu 14.04 LTS
- Open Suse 12.3
- OpenSuse 13.2
- Fedora 20
- Xubuntu 15.10
- Raspbian OS Wheezy
- Raspbian OS Jessie

ハードウェア要件

Parallels Remote Application Server は、物理プラットフォームおよび仮想プラットフォーム上で広範囲にわたってテストされています。Parallels Remote Application Server を実行するうえで認定されたハードウェアの最低要件を以下に示します。

- 物理マシン - デュアルコアプロセッサ、最小 4GB の RAM。
- 仮想マシン - 2 x 仮想プロセッサ、最小 4GB の仮想ハードウェアメモリ。

Parallels Remote Application Server をインストールおよび構成するためのサーバーハードウェア要件は、エンドユーザーの要件によって異なる可能性があります。

通常、30 ユーザー以下のインストールの場合、1 つの高性能サーバーに Parallels Remote Application Server をインストールし、そのサーバーからリソースを直接公開することができます。30 ユーザー以上の場合、複数のサーバーが必要になる可能性があります。

Parallels Remote Application Server の展開を計画する段階で、以下の点を考慮する必要があります。

- 複数の CPU コア、高性能のディスク転送速度、および十分な RAM で構成される高性能サーバーを使用する必要があります。
- エンドユーザーが必要とするリソースが適切に計算されている場合は、仮想マシンハイパーバイザを使用できます。
- 1 つのターミナルサーバーを使用するユーザーが 50 を超えないようにする必要があります。
- Secure Client Gateway では、1 つのサーバーにつき受信接続ユーザーが 200 を超えないようにする必要があります。
- VDI ハイパーバイザリソースの要件を計画する場合、仮想マシンごとの RAM 使用量、ディスク容量など、追加の要件を考慮する必要があります。

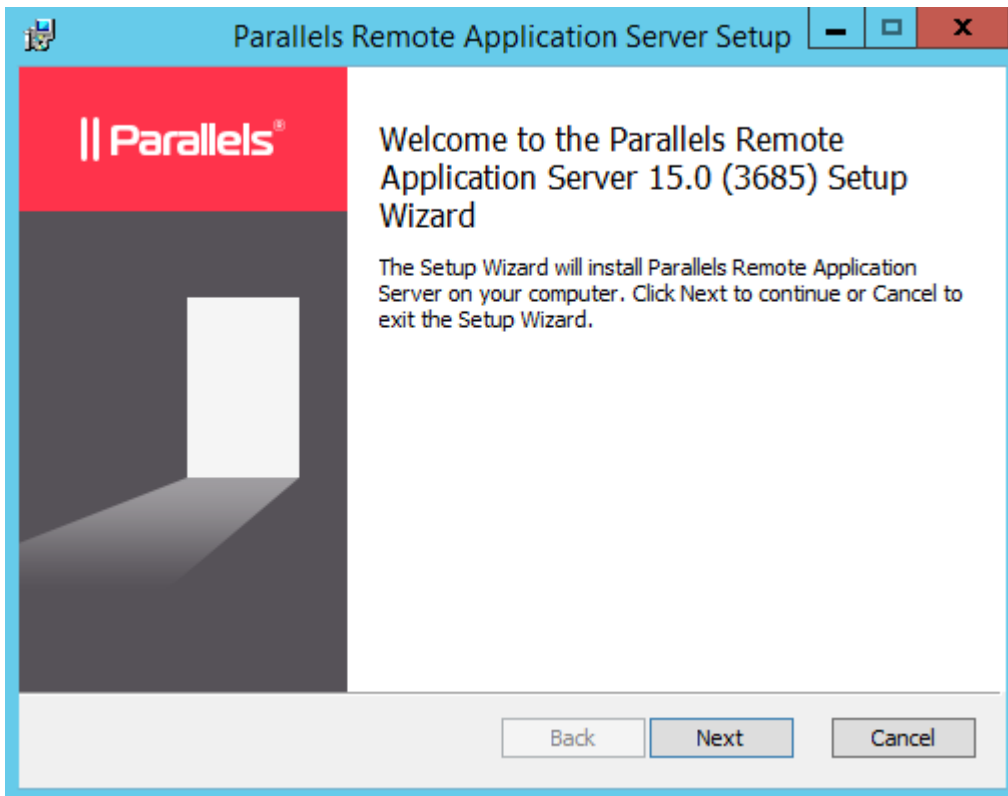
ポートの要件については、「ポート参照」セクション (p. 254) を参照してください。

Parallels Remote Application Server のインストール

Parallels Remote Application Server をインストールするには、次の手順を実行します。

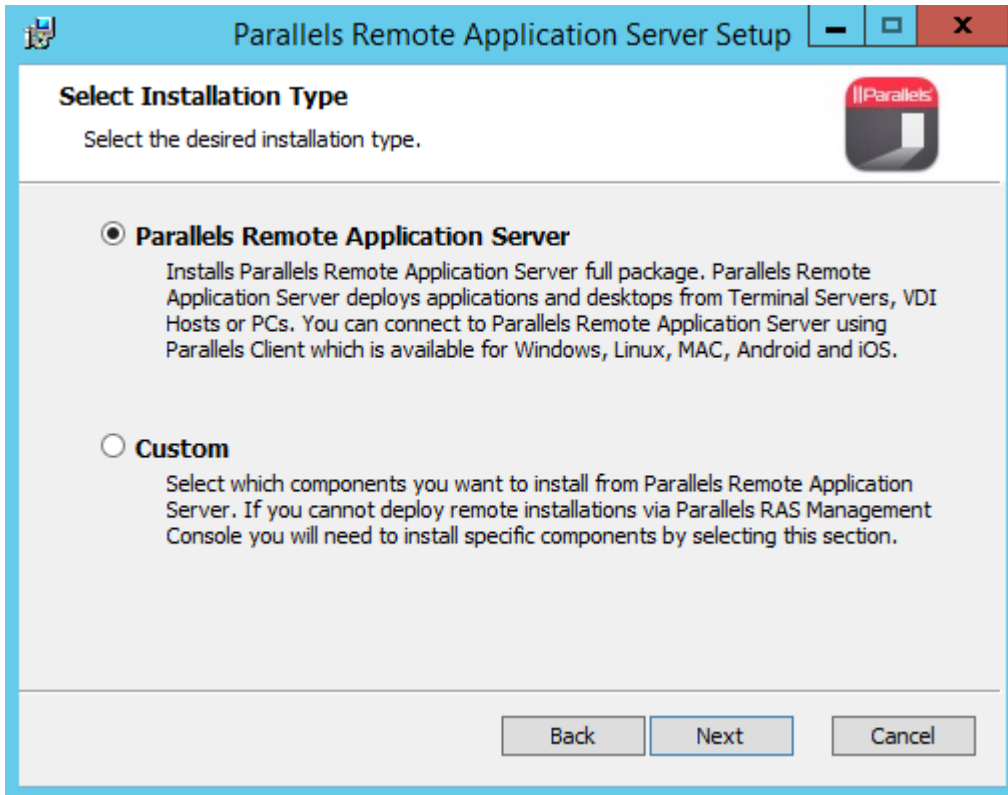
- 1 続行する前に、管理権限を持つアカウントを使用してインストールを実行するコンピューターにログインしていることを確認します。

- 2 Parallels Remote Application Server の最新バージョンを Parallels ウェブサイトからダウンロードします。
- 3 RASInstaller.msi ファイルをダブルクリックし、Parallels Remote Application Server のインストールウィザードを起動します。



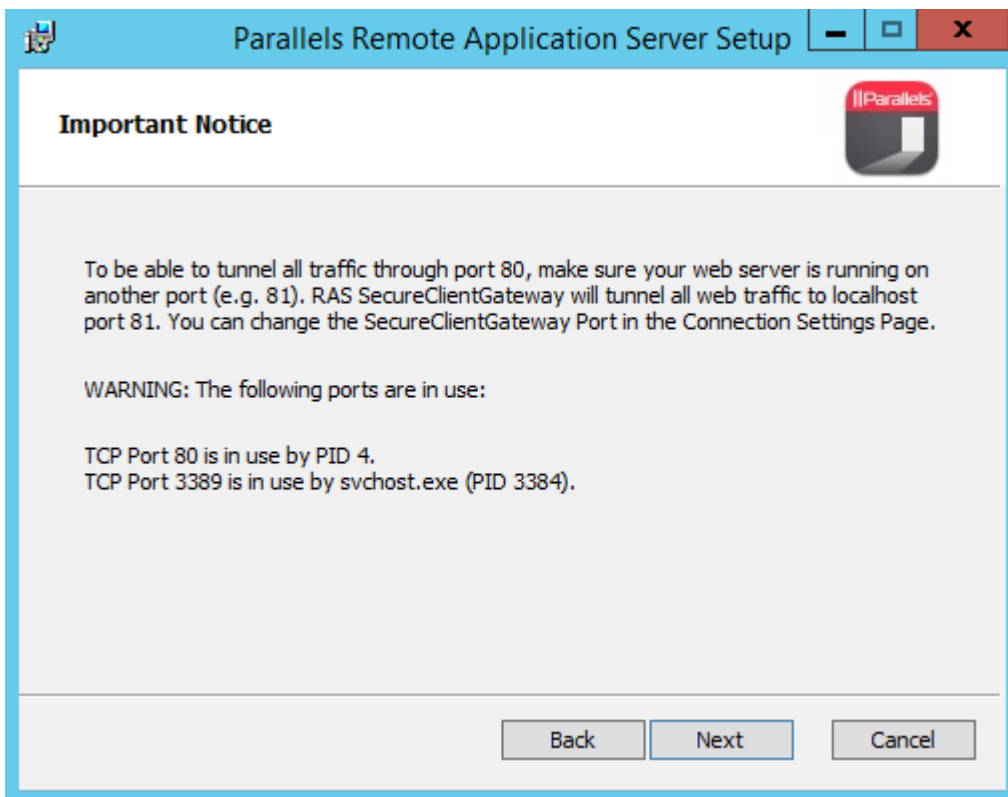
- 4 [次へ] をクリックします。
- 5 エンドユーザー使用許諾契約書を確認および承認して、[次へ] をクリックします。
- 6 Parallels Remote Application Server のインストール先のフォルダーの場所を指定し、[次へ] をクリックします。
- 7 インストールタイプを選択します。
 - デフォルトのインストールを実行するには、[Parallels Remote Application Server] を選択します。

- インストールするコンポーネントを指定するには、[カスタム] を選択して（[次へ] ボタンをクリックした後）、コンポーネントを指定します。



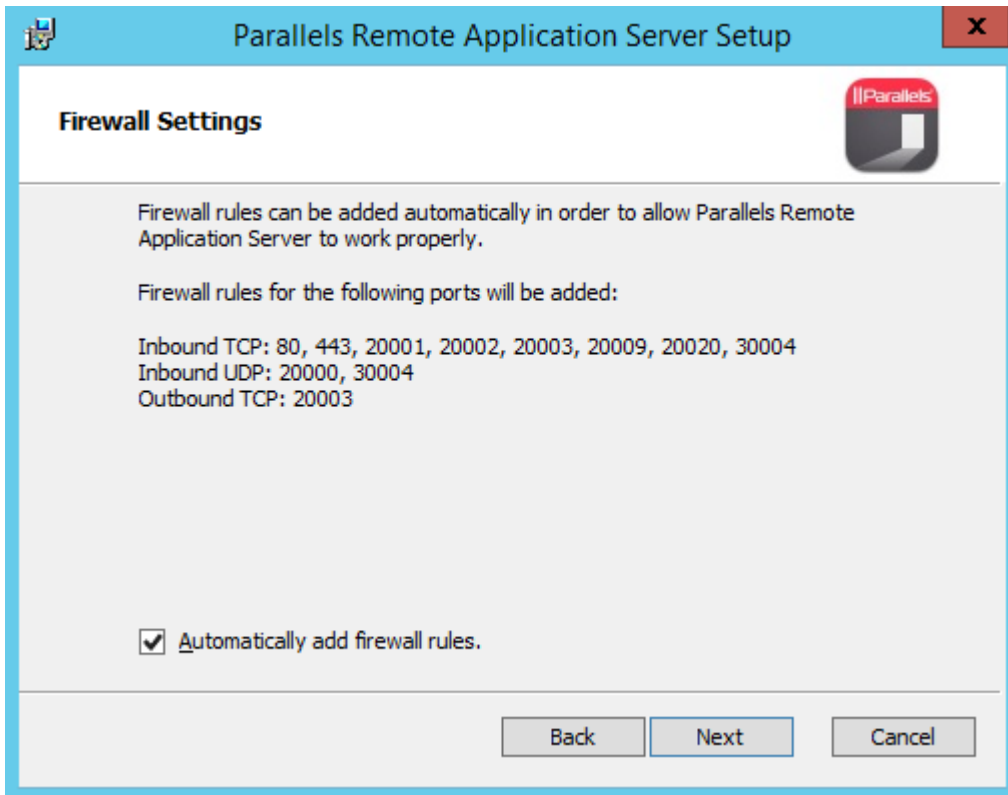
- 8 [次へ] をクリックします。

- 9 ポートの競合がある場合は、[重要なお知らせ] ウィザードページの注意事項を確認します。競合は後で解決できます。



- 10 [次へ] をクリックします。

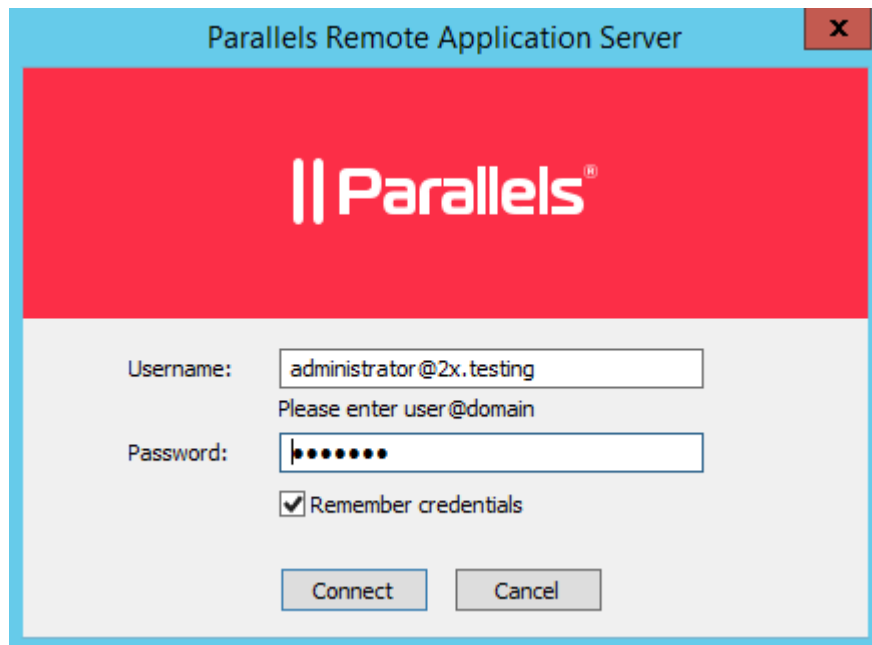
- 11 [ファイアウォールの設定] ページで [ファイアウォールルールを自動的に追加] を選択します。これにより、Parallels Remote Application Server が適切に動作するようにこのコンピュータでファイアウォールが自動的に構成されます。



- 12 [次へ] をクリックし、[インストール] をクリックします。
- 13 インストールが終了するまで待って、[完了] をクリックします。

RAS Console への最初のログイン

Parallels Remote Application Server Console の最初の起動時に、管理権限を持つユーザー（通常はドメイン管理者またはローカル管理者）の資格情報を指定する必要があります。ユーザー名は UPN 形式（例: administrator@domain.local）で指定する必要があります。指定したユーザーは自動的に Parallels Remote Application Server 管理者として構成されます。



The image shows a login dialog box titled "Parallels Remote Application Server". The dialog has a red header with the Parallels logo. Below the header, there are two input fields: "Username:" with the text "administrator@2x.testing" and a hint "Please enter user@domain"; and "Password:" with masked characters. There is a checked checkbox for "Remember credentials". At the bottom, there are "Connect" and "Cancel" buttons.

Parallels ビジネスアカウントへのサインイン

Parallels Remote Application Server と RAS Console の使用を開始するには、Parallels ビジネスアカウントが必要です。RAS Console を初めて実行すると、[Parallels ビジネスアカウントへのサインイン] ダイアログが表示されます。



The screenshot shows a dialog box titled "Parallels ビジネスアカウントへのサインイン" (Sign in to Parallels Business Account). The dialog has a red header with the Parallels logo. Below the header, there is an information icon and the text "Parallels ビジネスアカウントにサインインしてください。" (Please sign in to your Parallels Business Account). There are two input fields: "メール(E):" (Email) containing "RASScreenShots@gmail.com" and "パスワード(P):" (Password) which is empty. Below the password field is a blue link "パスワードをお忘れの場合" (If you forgot your password). At the bottom, there are three buttons: "登録(R)..." (Register...), "サインイン(S)" (Sign In), and "キャンセル" (Cancel).

すでにアカウントをお持ちの場合は、アカウントの登録時に使用した電子メールアドレスとパスワードを入力して、[サインイン] をクリックします。

新しい Parallels ビジネスアカウントを作成するには、次の操作を実行します。

- 1 [登録] をクリックします。[Parallels ビジネスアカウントを登録] ダイアログが開きます。

Parallels ビジネスアカウントを登録

管理者

名(F): Name

姓(L): Surname

メール(E): example123@gmail.com

アカウントパスワード

パスワード(P): ●●●●●●

パスワードの確認(V): ●●●●●●

会社

氏名(N): MyCompany

国(C):

住所(S):

郵便番号(Z): ABC123

電話(職場)(B): 12345678

登録すると、Parallels の利用規約に同意したことになります。

登録(R) キャンセル

- 2 既存の 2X Remote Application Server ライセンスをお持ちで、新しい Parallels Remote Application Server にアップグレードする場合は、[Parallels ビジネスアカウントを登録] ダイアログに既存のライセンス情報が事前に入力されています。既存のライセンスをお持ちでない場合（または、新しいサーバーに Parallels Remote Application Server をインストールした場合は、登録情報を入力する必要があります。
- 3 [登録] をクリックしてアカウントを作成します。

既存の 2X ライセンスをアップグレードする場合は、[ライセンスキーの移行] ウィンドウが開き、現在所有しているライセンスが新しい Parallels Remote Application Server 形式に移行

されます。移行が完了すると、アップグレードされたライセンスキーが Parallels ビジネスアカウントに登録され、Parallels Remote Application Server がアクティベートされます。

既存の 2X ライセンスをお持ちでない場合は、” Parallels Business Account が正しく登録されました” という確認メッセージが表示されます。[OK] をクリックして、メッセージボックスを閉じます。[Parallels ビジネスアカウントへのサインイン] ダイアログで、Parallels ビジネスアカウントの登録に使用した電子メールアドレスとパスワードを入力し、[サインイン] をクリックします。[ライセンス認証] ダイアログが表示されます。Parallels Remote Application Server のアクティベート方法についての説明をお読みください。

Parallels Remote Application Server のアクティベート

Parallels Remote Application Server のライセンスキーをすでにお持ちの場合は、[ライセンスキーを使用してアクティベートする] オプションを選択して、表示されているフィールドにキーを入力します。フィールドの横にあるボタンをクリックすると、ビジネスアカウントに登録されているサブスクリプションと永久ライセンスキーのリストを表示することができます。リストが空の場合は、サブスクリプションまたはライセンスキーがなく、まず初めに購入する必要があります。

- サブスクリプションをオンラインで購入するには、[ライセンスを購入する] リンクをクリックします。
- [トライアルバージョンをアクティベートする] オプションを選択して、トライアル版の Parallels Remote Application Server をアクティベートすることもできます。

ライセンスキーを入力した後（またはトライアル版のアクティベートを選択した後）、[アクティベート] をクリックします。Parallels Remote Application Server が正常にアクティベートされたことを示す確認メッセージが表示されます。

ライセンスの管理

後で Parallels Remote Application Server ライセンス情報を確認する必要がある場合や、別の Parallels ビジネスアカウントに切り替えたり、別のライセンスキーを使用して Parallels Remote Application Server をアクティベートする場合には、Parallels Remote Application Server Console で [ライセンス] カテゴリーを選択します。詳細については、「ライセンス」セクション (p. 241) を参照してください。

第 3 章

Parallels Remote Application Server を使用する前に

この章の内容

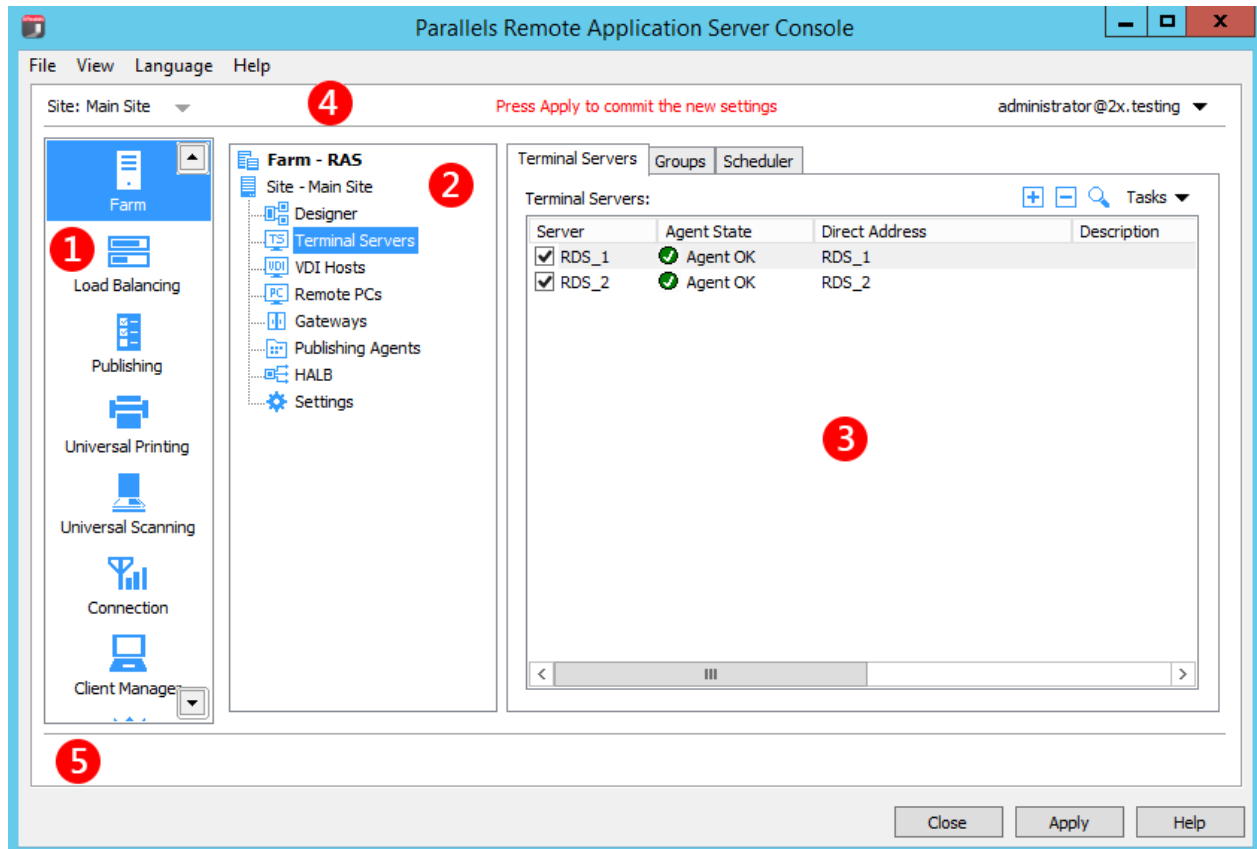
Parallels Remote Application Server Console.....	26
簡単な RAS 環境のセットアップ.....	28

Parallels Remote Application Server Console

Parallels Remote Application Server の基本機能の 1 つは、シームレスなアプリケーションをユーザーに個別に公開できることです。つまり、ユーザーには、ターミナルサービスのデスクトップ全体ではなく、アクセス権が与えられたアプリケーションのみが表示されます。

Parallels Remote Application Server は Parallels Remote Application Server Console で管理します。このコンソールを使用して、アプリケーションまたはデスクトップの公開、VDI ホストのターミナルサーバーのファームへの追加、Parallels Remote Application Server の構成および他の構成変更のバックアップを行います。

Parallels Remote Application Server Console のレイアウト



RAS Console は、次の各セクションで構成されています。

- 1** このセクションにはカテゴリがリスト表示されます。カテゴリを選択すると、そのカテゴリに関連する要素が右側のペインに表示されます。
- 2** このセクションは、[ファーム] カテゴリと [公開] カテゴリの場合のみ利用できるようになります。ナビゲーションツリーでは、選択したカテゴリに関連するオブジェクトを参照できます。
- 3** このセクションには、ファーム内のサーバー、公開済みのアプリケーションのプロパティなど、選択したオブジェクトまたはカテゴリのプロパティが表示されます。

- 4 この情報バーには現在ログインしているサイトと、接続に使用しているユーザーアカウントが表示されます。中央には赤字で”新しい設定を確定するには [適用] を押します” というメッセージが表示されています。このメッセージは、1 つ以上のオブジェクトまたはアイテムを変更したが、変更内容を Parallels Remote Application Server で確定していない場合に表示されます。画面下部の [適用] ボタンをクリックすると変更内容が確定されます。現在保留中の変更がない場合、このメッセージは表示されません。
- 5 最新のコンソール通知があれば、それが画面下部の情報バーに表示されます。

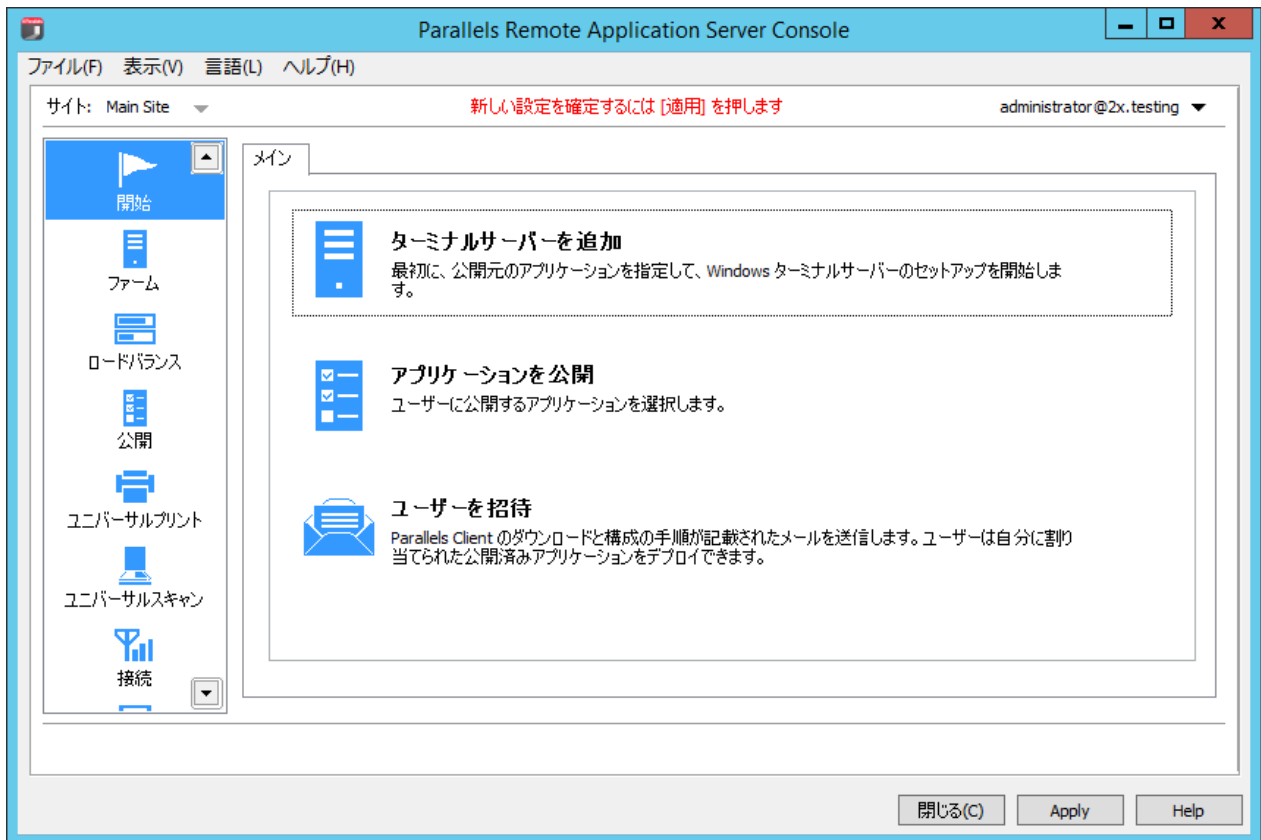
簡単な RAS 環境のセットアップ

このセクションは、必要なコンポーネントすべてが単一サーバーで動作するシンプルな Parallels Remote Application Server 環境を設定します。Parallels RAS 環境の設定について基本的な方法を理解したら、ここで基本として説明する方法をより高度なマルチサーバー環境をニーズに合わせて設定するために活用できます。

Parallels RAS 環境を設定するには、次の操作を実行します。

- 1 Parallels Remote Application Server Console にログインします。

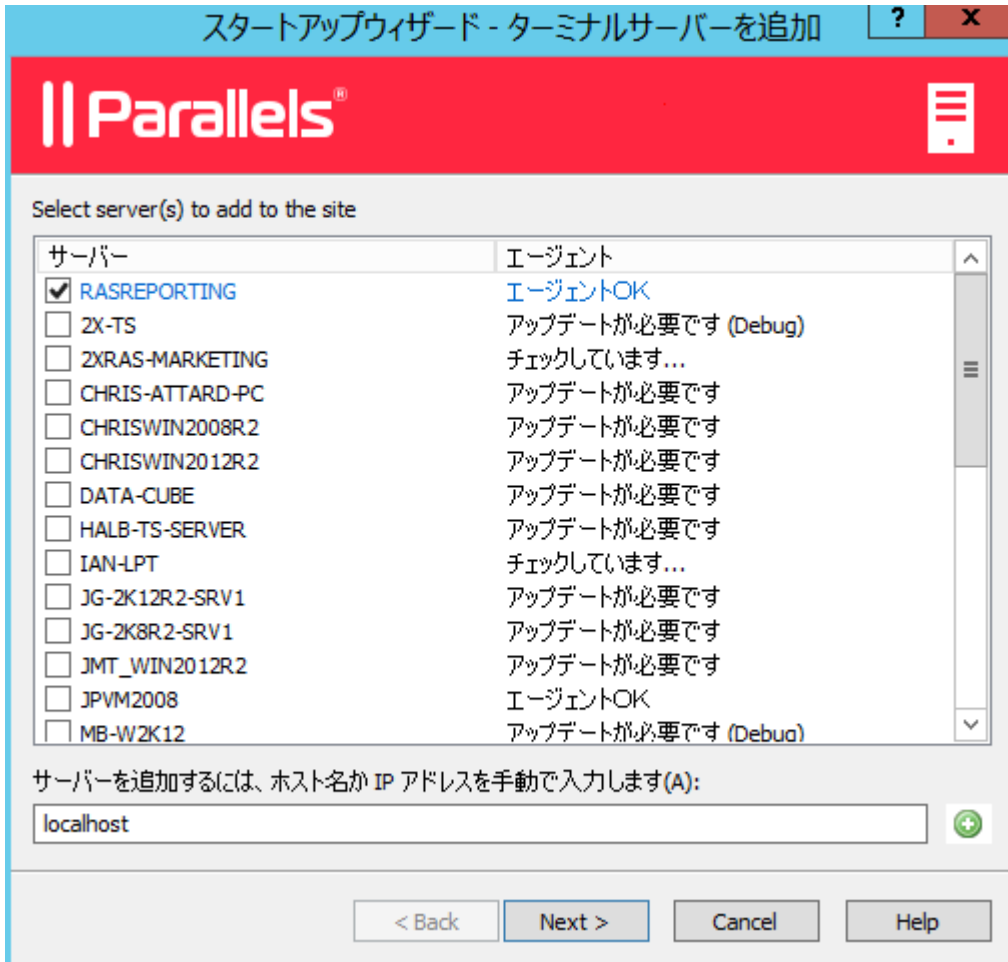
- 2 コンソールで、[開始] カテゴリーを選択します。このカテゴリーから 3 つのウィザードにアクセスして、ターミナルサーバーを追加する、アプリケーションを公開する、これらのアプリケーションを使用するためにユーザーを招待するなど、重要なタスクを簡単に実行できます。



ターミナルサーバーを追加する

最初に、ターミナルサーバーをサイトに追加する必要があります。このチュートリアルでは、Parallels Remote Application Server がインストールされるローカルサーバーを追加します。ターミナルサーバーを追加するには、次の操作を実行します。

- 1 [ターミナルサーバーを追加] 項目をクリックします。[ターミナルサーバーを追加] ウィザードが開きます。



- 2 最初のページで、リストのローカルサーバーを選択するか、ページ下部の編集ボックスにホスト名を入力して、プラス記号アイコンをクリックします。
- 3 [次へ] をクリックします。
- 4 次のページで、サーバーにファイアウォールを構成する必要があるかどうか、RDS ロールをインストールする必要があるかどうかなどを指定できます。デフォルト値を変更せず、[次へ] をクリックします。
- 5 設定を確認して、[次へ] をクリックします。
- 6 [Terminal Server Agent をインストール] ダイアログボックスが開きます。サーバーに Terminal Server Agent がインストールされたら、[完了] をクリックしてダイアログボックスを閉じます。
- 7 [完了] をクリックして、ウィザードを閉じます。

ターミナルサーバーがサイトに追加されていることを確認するには、[ファーム] カテゴリー（[開始] カテゴリーの下）をクリックして、ナビゲーションツリー（真ん中のペイン）で [ターミナルサーバー] をクリックします。サーバーは、[ターミナルサーバー] リストに追加されているはずですが、[エージェント] 列に、警告メッセージが表示されることがあります。警告メッセージが表示された場合は、サーバーを再起動します。[エージェント] 列に、“エージェント OK” と表示されているなら、ターミナルサーバーは完全に機能しています。

アプリケーションの公開

ターミナルサーバーが使用できる状態になったら、ターミナルサーバーからユーザーに提供するアプリケーションを公開する必要があります。この例では、RAS Console アプリケーションを公開します（必要に応じて、サーバーで利用できるその他の任意のアプリケーションを公開できます）。

アプリケーションを公開するには、次の操作を実行します。

- 1 [アプリケーションを公開] アイテムをクリックします。

注意: 利用できるサーバーがないというメッセージがメッセージボックスに表示される場合は、サーバーをターミナルサーバーとしてサイトに追加したことを確認してから、サーバーを再起動してください。

- 2 [アプリケーションを公開] ウィザードが開きます。
- 3 ターミナルサーバーが 1 台しかない場合、ウィザードの最初のページは表示されません。ターミナルサーバーが 2 台以上ある場合は、最初のページが表示され、アプリケーションの公開元となるターミナルサーバーを選択できます。たとえば、[個々のサーバー] オプションを選択してから、リストでローカルサーバーを選択できます。
- 4 次のページで、[Parallels] / [Parallels Remote Application Server] に移動し、[Parallels Remote Application Server Console] アプリケーション（または、公開するその他のアプリケーション）を選択します。

ターミナルサーバーが 2 台以上あり、前の画面でサーバーを 2 台以上選択した場合は、[すべての対象サーバーで使用できないアプリケーションを表示] オプションを選択できるようになります。このオプションをオフにすると（デフォルトはオフ）、ディレクトリツリーには、選択したすべてのサーバーで利用できるアプリケーションが表示されます。このオプションをオンにすると、ディレクトリツリーには、一部のサーバーでのみ利用でき、他のサーバーでは利用できない可能性のあるアプリケーションも表示されます。

- 5 [次へ] をクリックします。概要情報を確認して、[次へ] を再度クリックします。
- 6 準備が完了したら、[完了] をクリックします。

- 7 アプリケーションが公開されたことを確認するには、[公開] カテゴリーを選択し、[公開済みのリソース] リスト（中央のペイン）に [Parallels Remote Application Server Console] アプリケーションが存在していることを確認します。

ユーザーを招待

Parallels RAS 環境は完全に操作可能な状態になりました。ターミナルサーバーと公開済みのアプリケーションがあります。必要なことは、Parallels Client ソフトウェアをデバイスにインストールするようユーザーを招待するのみです。これで、ユーザーは公開済みのアプリケーションを使用できるようになります。

ユーザーを招待するには、次の手順を実行します。

- 1 [ユーザーを招待] アイテムをクリックします。[ユーザーを招待] ウィザードが開きます。
- 2 Parallels RAS インストール内をまだ何も構成していない場合、最初のウィザードページで、ユーザーに通知を送信するためのメールボックスを構成するように要求されます。
- 3 送信メールサーバーの名前と送信者のアドレスを入力します（自分のメールアドレスなど）。TLS/SSL プロトコルを使用するかどうか、および SMTP サーバーで認証を要求するかどうか（要求する場合は、ユーザー名とパスワードを入力する）を選択します。テストメールを送信して、送信メールサーバーの設定をテストすることもできます。
- 4 [次へ] をクリックします。
- 5 ウィザードの次のページで、送信先のデバイスおよび接続オプションを指定します。
 - 送信先デバイスのリストで、招待の送信先のデバイスのタイプを選択します。特定のタイプの各送信先デバイスに電子メールが送信されます。メールには、そのデバイスタイプで Parallels Client ソフトウェアをダウンロード、インストール、構成するための手順が含まれています。
 - [パブリックゲートウェイ IP] フィールドで、RAS Secure Client Gateway のドメイン名または IP アドレスを指定します。リモートユーザーがシステムにアクセスできるように、これをパブリック IP アドレスとすることができます。[...] ボタンをクリックし、リストからゲートウェイを選択することができます。

- [接続モード] ドロップダウンリストで、RAS Secure Client Gateway 接続モードを選択します。SSL モードの場合は、ゲートウェイで SSL が構成されている必要があります。

Startup Wizard - Invite Users

Parallels

Specify target devices:

Name
<input checked="" type="checkbox"/> Windows
<input type="checkbox"/> Mac
<input type="checkbox"/> HTML5
<input type="checkbox"/> iOS
<input type="checkbox"/> Android
<input type="checkbox"/> ChromeApp
<input type="checkbox"/> Linux

Specify connection options:

Public Gateway IP: 10.124.4.143:80/443 (IP:GW Port/SSL Port) ...

Connection Mode: Gateway Mode

< Back Next > Cancel Help

- 6 [次へ] をクリックします。

- 7 次のページで、メールの受信者を指定します。[...] ボタンをクリックし、ユーザーまたはグループを選択します。

The screenshot shows the 'Startup Wizard - Invite Users' window. The title bar is blue with a question mark and a close button. The main area has a red header with the Parallels logo and a mail icon. Below the header, there are two text areas. The first is labeled 'Specify the list of recipients:' and contains the email address 'txtesting@gmail.com'. The second is labeled 'Review the invitation e-mail:' and contains a template with variables: 'Dear %RECIPIENT%,', 'You have been invited by %SENDER% to connect to Parallels Remote Application Server.', '%INSTRUCTIONS%', '%MANUALINSTRUCTIONS%', 'Thanks,', and 'System Administrator'. Below the email review area are 'Preview' and 'Default' buttons. At the bottom of the window are '< Back', 'Next >', 'Cancel', and 'Help' buttons.

- 8 [招待状メールをレビュー] ボックスに表示された招待メールのテンプレートを確認します。必要に応じて、テンプレートの文章を変更できます。テンプレートでは変数も使用できます (詳細は以下を参照)。
- %RECIPIENT% - メールメッセージの受信者の名前を指定します。
 - %SENDER% - 送信メールサーバーの設定を構成したときにこのウィザードの最初の手順で指定した送信者のメールアドレスです。
 - %INSTRUCTIONS% - Parallels Client を自動構成するためのスクリプトおよびそれを実行するリンクを含めます。
 - %MANUALINSTRUCTIONS% - Parallels Client を手動構成するための手順を含めます。
- 変数は、送信先デバイスのタイプとその他の設定に基づいて動的に定義されます。通常は、これらの情報を常にメッセージに含める必要があります。これで、ユーザーはすべての必要

な指示およびリンクを受け取ることができます。メッセージを確認するには、[プレビュー] ボタンをクリックします。別のウィンドウに HTML バージョンのメッセージが表示されます。これは、ユーザーが受信するメールメッセージです。

- 9 [次へ] をクリックし、指定した設定を確認します。[次へ] を再度クリックすると、選択したユーザーに招待メールが送信されます。

ユーザーに招待メールを送信したら、ユーザーはメールに含まれる手順に従って自分のデバイスに Parallels Client をインストールできます。その後、ユーザーは Parallels Remote Application Server に接続し、公開されたアプリケーションを使用できます。

結論

このチュートリアルでは、1 つのターミナルサーバーと 1 つの公開されたアプリケーションからなるシンプルな Parallels Remote Application Server 環境を構成しました。次に送信メール用のメールボックスを構成して、ユーザーに招待メールを送信しました。このメールには、Parallels Client のインストール方法、Parallels Remote Application Server への接続方法、公開されたアプリケーションのリモートでの実行方法について記載されています。つまり、完全に機能する Parallels Remote Application Server の作成に成功し、リモートユーザーにアプリケーションを提供しています。

必要に応じてチュートリアルを繰り返し、その他のターミナルサーバーの追加、その他のアプリケーションの公開、さまざまなタイプのデバイスのユーザーへの招待メールの送信を行うことができます。方法は基本的に同じです。

第 4 章

サイトと管理者

この章の内容

サイトと管理.....	36
管理者:追加、管理、構成.....	41
カスタマエクスペリエンスプログラムへの参加.....	44

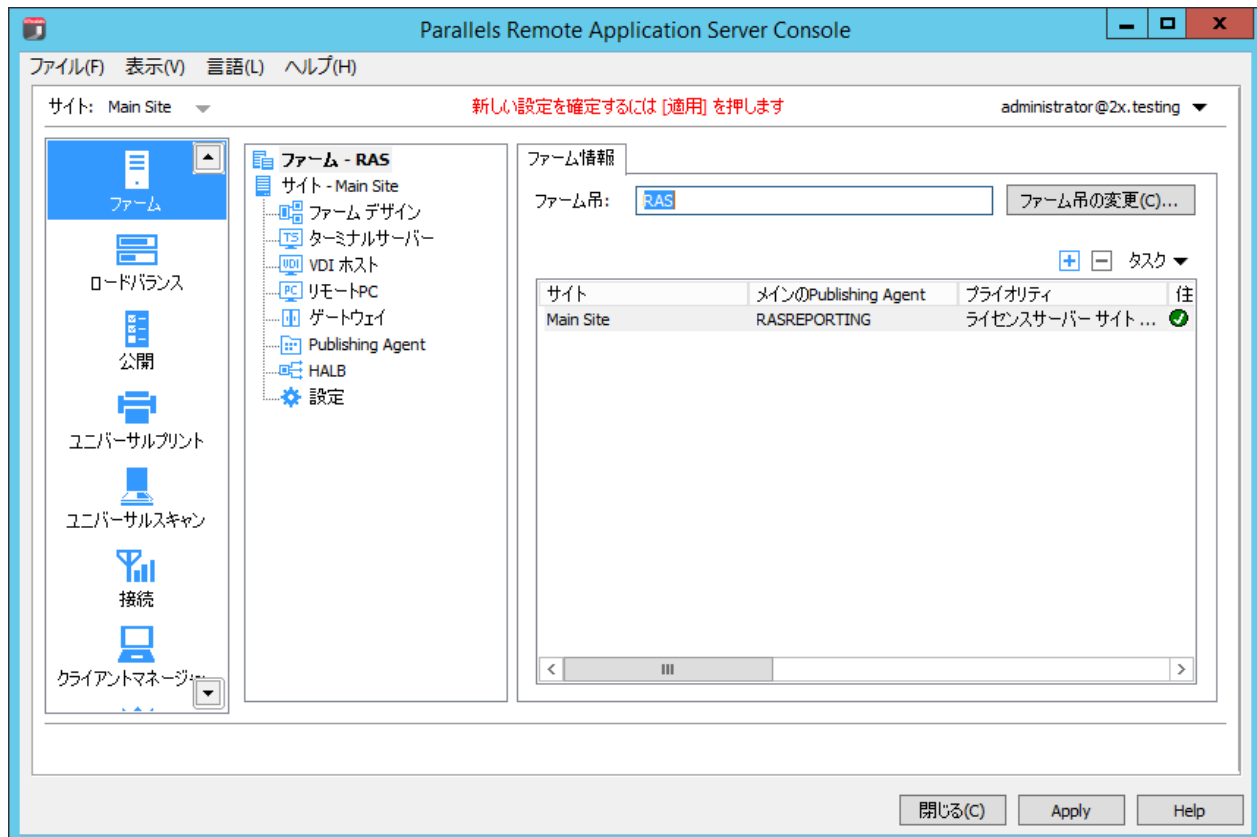
サイトと管理

サイト

Parallels Remote Application Server ファームには複数のサイトを含めることができます。各サイトは、少なくとも 1 つの RAS Publishing Agent、RAS Secure Client Gateway（または複数のゲートウェイ）、およびターミナルサーバー、VDI ホスト、または PC にインストールされたエージェントで構成されます。サイトにある少なくとも 1 つのサーバーは、マスターの RAS Publishing Agent および RAS Secure Client Gateway をホストするための専用マシンとして使用する必要があります。特定のターミナルサーバー、VDI ホスト、または PC が、同時に複数のサイトのメンバーになることはできません。

Parallels Remote Application Server ファームに追加される最初のデフォルトサイトはライセンスサーバーです。ここに、メインの Parallels Remote Application Server の構成データベースが保存されます。ファームに追加されるすべてのサイトには、この構成データベースがコピーされメインのデータベースと同期されます。特定のサイトに変更が適用されると、メインの構成データベースがその変更内容で自動的にアップデートされます。

Parallels Remote Application Server Console でサイトを管理するには、[ファーム] カテゴリをクリックします。利用できるサイトは中央のペインに表示されます。



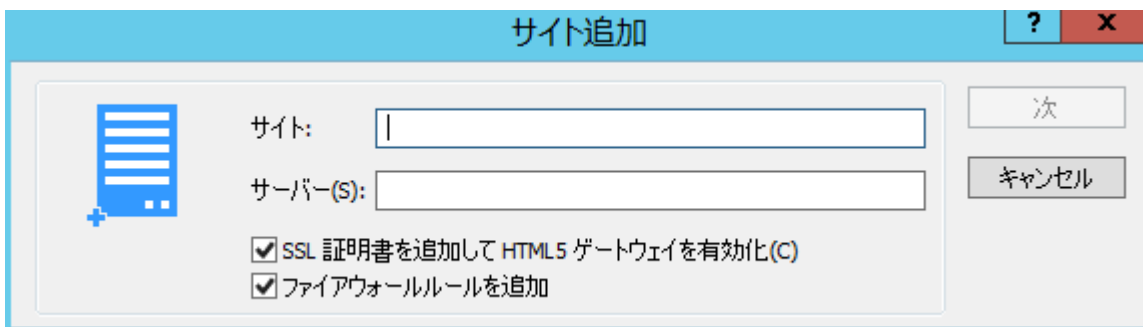
注意: [ファーム] ノードを利用できるのは、そのファームに対するすべての権限を付与されている管理者のみです。管理者と権限の詳細については、「管理者: 追加、管理、および構成」(p. 41)を参照してください。

ファームへの新しいサイトの追加

ファームにサイトを追加するには、次の操作を実行します。

- 1 RAS Console で、[ファーム] ノードを選択して、ナビゲーションツリーでファームを選択します。
- 2 [タスク]ドロップダウンメニュー（右側のペイン、サイトリストの上部）で[追加]（または+アイコン）をクリックします。
- 3 [サイト追加] ダイアログボックスで、次の操作を実行します。
 - サイト名と、マスターの Publishing Agent およびゲートウェイをインストールするサーバーの IP アドレスまたは FQDN を指定します。

- [SSL 証明書の追加と HTML5 ゲートウェイの有効化] オプションを選択して、自己署名証明書の作成、SSL の有効化、および HTML5 サポートの有効化を自動で行います。詳細については、「ゲートウェイでの HTML5 サポートの有効化」(p. 153) を参照してください。



- 4 [次へ] をクリックします。
- 5 [サイトマスタープロパティ] ダイアログボックスが開きます。最初に、指定されたサイトサーバーに RAS Publishing Agent がインストールされているかどうかを確認されます。インストールされていない場合、インストールされていないことが [ステータス] フィールドに表示されます。[インストール] ボタンをクリックして、エージェントをインストールします。



- 6 [RAS Publishing Agent のインストール] ダイアログボックスで、RAS Publishing Agent がインストールされるサーバーの名前を選択します。
- 7 (オプション) 別の資格情報を使用してサーバーに接続し、エージェントをインストールするには、[資格情報の上書き] オプションを選択します。
- 8 [インストール] をクリックして、Publishing Agent とゲートウェイをインストールします。正常にインストールされたら、[完了] をクリックします。

サイト構成へのアクセス

新しいサイトを作成したら、サイトサーバーで Parallels Remote Application Server Console を実行するか、Parallels Remote Application Server Console からサイトの構成に切り替える（次のセクション「各サイトの構成間の切り替え」を参照）ことで、作成したサイトの構成にアクセスできます。

注意: Parallels Remote Application Server Console を実行するときは、サイトサーバーから実行する場合であっても、メインの構成データベースに常に接続することになります。変更を適用すると、構成の変更がライセンスサーバーからサイトサーバーに複製されます。

各サイトの構成間の切り替え

Parallels Remote Application Server Console では、1 度に 1 つのサイトの構成のみを表示できます。ファーム管理者としてログインした場合、ライセンスサーバーサイトの構成がロードされます。特定のサイトへのアクセス権を持つ管理者としてログインした場合、そのサイトの構成がロードされます。

Parallels Remote Application Server Console で各サイトの構成を切り替えるには、以下の手順を実行します。

- 1 [ファーム] カテゴリを開き、ナビゲーションツリーから [ファーム] ノードをクリックして、ファーム内のサイトのリストにアクセスします。
- 2 構成するサイトを選択して、[タスク] ドロップダウンメニューの [このサイトへ切替える] をクリックします。または、上部バーを使用して、切り替え先のサイトを [サイト] ドロップダウンリストから選択することもできます。

サイトの管理

すべてのサイトへのサイト設定の複製

サイトに依存するあらゆる設定を他のすべてのサイトに複製できます。他のサイトにどの設定を複製できるかについての詳細は、以下の表を参照してください。

Category	Section	Options
Farm	VDI Hosts, Persistent Guests	Auto removal timeout
Farm	Settings, Auditing	All Settings
Farm	Settings, Global Logging	Logging Settings
Farm	URL Redirection	All Settings
Load Balancing	Load Balancing	All Settings
Publishing	Advanced, Shortcuts	All Settings
Publishing	Advanced, Extensions	All Settings
Publishing	Advanced, Licensing	All Settings
Publishing	Advanced, Display	All Settings
Publishing	Filtering, User	All Settings
Publishing	Filtering, Client	All Settings
Publishing	Filtering, IP Address	All Settings
Publishing	Filtering, MAC	All Settings
Universal Printing	Universal Printing	Printer Renaming
Universal Printing	Font Management	All Settings
Universal Scanning	Scanning Applications	All Settings
Connection	Authentication	All Settings
Connection	Second Level Authentication	All Settings
Connection	Allowed Devices	All Settings
Reporting	Reporting Engine	Reporting Engine Type
Reporting	Engine specific settings	All Settings

サイト設定を他のすべてのサイトに複製するには、中央のペインで <サイト名> / [設定] を選択してから、（[監査] タブページの下部にある）[設定を複製する] オプションを選択します。ファーム内にサイトが 1 つしかない場合、このオプションは非表示になります。

複製されたサイト設定の上書き

複製設定を有効または無効にする権限を持つ管理者が特定の設定を変更すると、その設定は他のすべてのサイトに複製されます。

特定のサイトへのアクセス権のみを持つ管理者が、複製されたサイト設定を変更すると、複製された設定は上書きされ、[設定を複製する] オプションが自動的にオフになります。そのため、その設定は他のサイトに複製されなくなります。

サイトをライセンスサーバーとして設定する

ライセンスサーバーで障害が発生した場合、または別のサイトをライセンスサーバーとして設定する場合は、[ファーム] ノードのサイト名をクリックし、[タスク] ドロップダウンメニューで [サイトをライセンスサーバーとして設定する] をクリックします。

管理者:追加、管理、構成

ファームとサイトを管理できる複数の Parallels Remote Application Server 管理者を指定できます。必要に応じて、特定の Kategorie およびサイトへのアクセスを制限するように権限を構成できます。

Parallels Remote Application Server を Active Directory 環境にインストールする場合、昇格された権限とインストールディレクトリへの書き込みアクセス権を持つユーザーを Parallels Remote Application Server 管理者として構成できます。

Parallels Remote Application Server をスタンドアロンマシンにインストールする場合、昇格された権限とインストールディレクトリへの書き込みアクセス権を持つユーザーを Parallels Remote Application Server 管理者として構成できます。

デフォルトの Parallels Remote Application Server 管理者

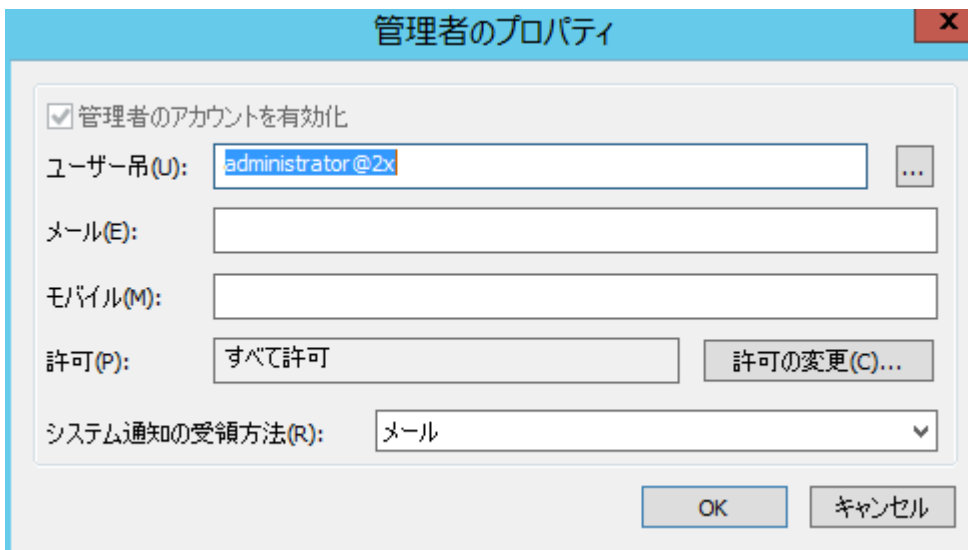
初めて RAS Console にログインしたときに指定したユーザーは、自動的にすべての権限が付与され、ファーム内のすべてのタスクを実行できます。ファームには、すべて許可された 1 つ以上の有効な管理者が常に必要です。

管理者アカウントの追加

管理者アカウントを Parallels Remote Application Server に追加するには、次の操作を実行します。

- 1 RAS Console で、[管理] Kategorie を選択して、右側のペインの [管理] タブをクリックします。
- 2 [タスク] ドロップダウンメニューをクリックして、[追加] を選択します。

- 3 [管理者のプロパティ] ダイアログボックスが開きます。



- 4 ユーザー名、電子メールアドレス、携帯電話番号を指定します。
- 5 [許可] フィールドでは、このユーザーの権限を構成できます。デフォルトでは、[すべて許可] オプションが選択されています。特定の権限を付与するには、[許可の変更] ボタンをクリックします。詳しい指示については、「管理者アカウントの権限の構成」セクション (p. 42) を参照してください。
- 6 [システム通知の受領方法] ドロップダウンリストで、[電子メール] を選択します。これにより、指定された電子メールアドレスにすべてのシステム通知が送信されます。このアカウントへの電子メールシステム通知を無効にするには、[なし] を選択します。
- 7 [OK] をクリックして、新しい管理者アカウントを追加します。

管理者アカウントの権限の構成

管理者権限は、新しい管理者アカウントの作成時に構成できます。また、[プロパティ] から、既存のアカウントの管理者権限を構成することもできます。権限はカテゴリーごと（ファーム、公開、ユニバーサルプリントなど）、さらにサイトごとに割り当てることができます。

管理者がすべてのカテゴリー、サイト、およびファーム内のグローバル設定を変更できるようにするには、[すべて許可] オプションを選択します。

[サイト許可] セクションで 1 つ以上のオプションを選択し、次にこれらの権限を適用する 1 つ以上のサイトを選択します。次の権限を管理者に付与できます。

- ファームの変更を許可: カテゴリー ([サイト]、[ロードバランス]、[ユニバーサルプリント]、[ユニバーサルスキャン]) を変更できます。
- 公開の変更を許可: [公開] カテゴリーを変更できます。
- 接続の変更を許可: [接続] カテゴリーを変更できます。
- RAS レポート作成機能の表示を許可: RAS Reporting Engine によって作成されたレポートを表示できます。
- サイト情報へのアクセスを許可: サイト情報を表示できます (変更はできません)。
- セッション管理を許可: セッションの実行を管理できます。
- クライアント管理の変更を許可: [クライアントマネージャー] カテゴリーを変更できます。
- 情報へのアクセスを許可: 読み取り専用の [情報] カテゴリーを表示できます。

管理者アカウントの管理

管理者のアカウントを表示および変更するには、次の操作を実行します。

- 1 RAS Console で、[管理] カテゴリーを選択し、[管理] タブをクリックします。
- 2 アカウントを右クリックし、コンテキストメニューで [プロパティ] を選択します。
- 3 [管理者のプロパティ] ダイアログを使用して、必要な情報を変更します。詳細については、「管理者アカウントの追加」 (p. 41) を参照してください。

管理者のログオフ

管理者がカテゴリー (ユニバーサルプリントなど) にアクセスすると、そのカテゴリーは他のすべての管理者に対してロックされます。したがって、ロックされたカテゴリーに別の管理者がアクセスすると、オブジェクトがロックされているというエラーがその管理者に表示されます。

ロックを解除する必要がある場合、次の手順を実行できます。

- 1 [管理] タブページで [タスク] ドロップダウンメニューをクリックし、[セッションを表示] を選択します。
- 2 [セッション] ダイアログで、カテゴリーをロックしている管理者を選択し、[メッセージを送付する] をクリックしてその管理者と連絡をとるか、[ログオフ] をクリックします。

管理者用インスタントメッセージの使用

同じファームにログオンしている Parallels Remote Application Server 管理者は、組み込みのインスタントメッセージャーを使用して互いに通信できます。

別の管理者 (またはログオンしているすべての管理者) とインスタントメッセージャーを使用して通信するには、次の操作を実行します。

- 1 RAS Console で [管理] カテゴリーを選択します。
- 2 ユーザー名 (コンソール画面の右上隅) の横のドロップダウンメニューを展開して、[チャット...] をクリックします。
- 3 [Parallels Remote Application Server チャット] ウィンドウが開きます。
メッセージを送信するには、次の操作を実行します。
 - 1 下部の入力パネルにメッセージテキストを入力します。
 - 2 [ログオン済みの管理者] リストボックスで、メッセージの送信先として特定の管理者を選択します。ログオンしているすべての管理者にメッセージを送信するには、[全て] を選択します。
 - 3 [送信] をクリックします。
 - 4 [メッセージ] パネルには、メッセージ履歴が表示されます。履歴を消去するには、[すべてクリア] をクリックします。
 - 5 チャット履歴に (自分のメッセージだけでなく) すべての管理者間のメッセージをすべて表示することもできます。それには、コンソールで [管理] ノードを選択してから、[チャット履歴] タブを選択します。

カスタマエクスペリエンスプログラムへの参加

Parallels カスタマエクスペリエンスプログラムは、Parallels Remote Applications Server の品質と信頼性の向上に役立てられます。プログラムの参加に同意された場合、ユーザーの Parallels Remote Application Server の使用状況に関する情報が収集されます。氏名、住所、電話番号、キーボードの入力内容などの個人情報は収集されません。

プログラムに参加するには、次の手順を実行します。

- 1 RAS Console で [管理] カテゴリーを選択します。
- 2 右ペインで、[CEP] タブをクリックします (このタブを表示するには、右ペインを横にスクロールしなければならない場合があります) 。
- 3 [Parallels カスタマエクスペリエンスプログラムに参加する] オプションを選択します。

プログラムに参加すると、CEP は、ユーザーが Parallels Remote Application Server をどのように使用しているかについて、情報の収集を開始します。皆様から収集した情報は十分に分析され、Parallels Remote Application Server の向上に役立てられます。

第 5 章

ターミナルサーバー

この章の内容

利用できるターミナルサーバーの表示.....	45
ターミナル サーバーの追加.....	46
ターミナル サーバーの構成.....	49
ターミナル サーバーのグループ化.....	57
ターミナルサーバーのスケジューラーを使用.....	57
クライアントセッションからのログオンの管理.....	59
ターミナルサーバーからの公開.....	60

利用できるターミナルサーバーの表示

Parallels Remote Application Server を使用してユーザーにアプリケーションとデスクトップを公開できるようにするには、ファームに 1 台以上のターミナルサーバーが必要です。

ファーム内のターミナルサーバーのリストを表示するには、次の操作を実行します。

- 1 RAS Console で、[ファーム] / <サイト名> / [ターミナルサーバー] に移動します。
- 2 右側のペインの [ターミナルサーバー] タブページに利用できるターミナルサーバーが表示されます。

ターミナルサーバーリストのフィルタリング

リストに多くのターミナルサーバーが含まれている場合は、次のようにリストをフィルターして、必要なサーバーのみ表示できます。

- 1 リストの上のツールバーにある虫眼鏡アイコンをクリックします。
- 2 リストの上に追加の行が表示されるので、リストのフィルタリングに使用する列に文字列を入力します。複数の列を使用することもできます。
- 3 たとえば、サーバー名で検索する場合は、[サーバー] 列にテキストを入力します。サーバー名全体を入力することも、一致するサーバーが見つかるまで最初の数文字を入力することもできます。文字を入力するとリストがフィルタリングされ、一致するサーバーのみが表示されます。

- 4 2つ以上の列にフィルター文字列を入力すると、それらの条件が AND 論理演算子で組み合わせられます。
- 5 フィルターを削除してリスト全体を表示するには、虫眼鏡アイコンを再度クリックします。
- 6 虫眼鏡アイコンをもう一度クリックすると、先ほど指定したフィルターがまだ残っていることがわかります。フィルターを完全に削除するには、列からフィルター文字列を削除します。

ターミナルサーバーの追加

Parallels Remote Application Server を使用してユーザーにアプリケーションとデスクトップを公開できるようにするには、1つ以上のターミナルサーバーをサイトに追加する必要があります。

注意: ターミナルサーバーをサイトに追加するには、リモートデスクトップサービス (RDS) がインストールされている必要があります。RDS は、Windows 2008 R2 以前では、ターミナルサービスと呼ばれていました。一部の古いバージョンの Windows Server では、ターミナルサービスはデフォルトでインストールされていません。ここで説明する機能を使用すると、RAS Console から RDS をサーバーに適切にインストールできます。

ターミナルサーバーの簡単な追加

RAS Console の [開始] カテゴリから、ターミナルサーバーをサイトに簡単に追加できます。[ターミナルサーバーを追加] ウィザードには、最小限のユーザー操作で実行できる簡素化されたプロセスが実装されています。このプロセスについては、「簡単な RAS 環境のセットアップ」セクション (p. 28) を参照してください。

このセクションの残りの部分で、[ファーム] カテゴリからターミナルサーバーを追加する方法について説明します。このプロセスは多くの手順から構成されていますが、利用可能なオプションを詳細に管理できるようになっています。

サーバーの検索

ターミナルサーバーとして使用するために必要な要件（「システム要件」を参照）を満たすサーバーを Active Directory ドメインで検索できます。

サーバーを検索するには、次の操作を実行します。

- 1 [ターミナルサーバー] タブページで、[タスク] > [検索] をクリックします。
- 2 [サーバー検索] ダイアログボックスが開き、適切なサーバーの検索が始まります。サーバーが見つからない場合は、メッセージボックスが表示されるので、そこで [OK] をクリックし

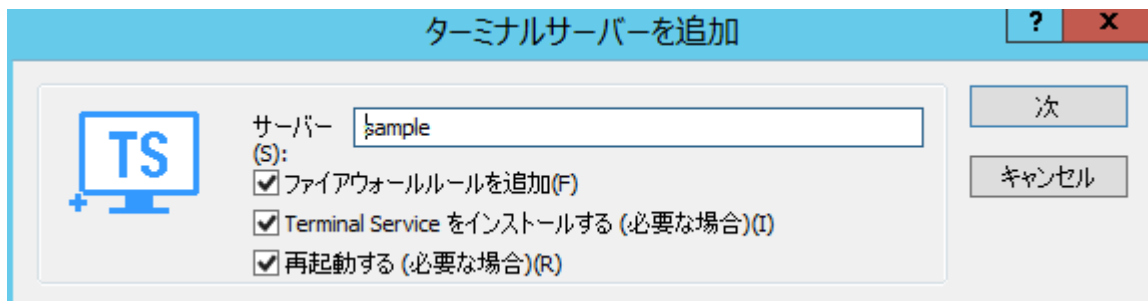
てダイアログボックスを閉じることができます。そのような場合は、サーバーを手動で追加できます（以下の「手動によるターミナルサーバーの追加」サブセクションを参照してください）。

- 3 適切なサーバーが 1 台以上見つかった場合は、見つかったサーバーがダイアログボックスに表示されます。
- 4 サイトにターミナルサーバーとして追加するサーバーを選択し、[エージェント] 列を参照して、RAS Terminal Server Agent がインストールされているかどうかを確認します。エージェントがインストールされていない場合は、[エージェントのインストール] ボタンをクリックして、指示に従います。必ずサーバーに RDS もインストールしてください（上記の注意を参照）。

手動によるターミナルサーバーの追加

上記で説明した機能を使用してサーバーを見つけられなかった場合は、次のようにサーバーを手動で追加できます。

- 1 [タスク] ドロップダウンメニューで [追加] をクリックして、[ターミナルサーバーを追加] ウィザードを起動します。



- 2 [サーバー] フィールドで、サーバーの IP アドレスまたは FQDN を指定します。
- 3 サーバー上のファイアウォールを自動的に構成するには、[ファイアウォールルールを追加] オプションを選択します。
- 4 サーバーにターミナルサービスがインストールされていない場合は、[Terminal Service をインストール] オプションを選択します。このトピックの始めにある注意を参照してください。
- 5 必要に応じて [再起動] オプションを選択します。ローカルマシンで再起動が保留状態になっている場合、このオプションは無視されます（ローカルマシンが強制的に再起動されることはありません）。
- 6 [次へ] をクリックします。
- 7 次の手順で、サーバーに RAS Terminal Server Agent がインストールされているかどうかのチェックが実行されます。

結果がネガティブ（エージェントがインストールされていない）場合は、次の操作を実行します。

- a [インストール] クリックして、エージェントをプッシュインストールします。
 - b [Terminal Server Agent のインストール] ダイアログボックスで、エージェントをインストールするサーバーの名前を選択します。
 - c （オプション）別の資格情報を使用してサーバーに接続するには、[資格情報の上書き] オプションを選択します。
 - d [インストール] をクリックして、エージェントをインストールします。エージェントがインストールされたら、[完了] をクリックします。RAS Terminal Server Agent のプッシュインストールに失敗したら（SMB 共有を利用できない、ファイアウォールルールによりエージェントをプッシュできないなど）、この後の「手動による RAS Terminal Server Agent のインストール」セクション（p. 48）を参照してください。
- 8 [エージェント情報] ダイアログボックスで、[追加] をクリックして、ターミナルサーバーを Parallels Remote Application Server ファームに追加します。
 - 9 新しい設定を確定するには [適用] をクリックします。

手動による RAS Terminal Server Agent のインストール

自動でプッシュインストールを実行できない場合は、RAS Terminal Server Agent を手動でインストールしなければならないことがあります。たとえば、SMB 共有を利用できない場合や、ファイアウォールルールによってプッシュインストールができない場合があります。

手動による RAS Terminal Server Agent のインストール

- 1 管理者アカウントを使用して、RAS Terminal Server Agent のインストール先のサーバーにログインして、他のすべてのアプリケーションを閉じます。
- 2 Parallels Remote Application Server のインストールファイル（RASInstaller.msi）をサーバーにコピーし、そのファイルをダブルクリックして、インストールを開始します。
- 3 プロンプトが表示されたら、[次へ] をクリックし、エンドユーザー使用許諾契約書に同意します。
- 4 RAS Terminal Server Agent のインストール先のパスを指定して、[次へ] をクリックします。
- 5 [カスタム] を選択し、[次へ] をクリックします。
- 6 [RAS Terminal Server Agent] をクリックし、ドロップダウンメニューから [このコンピューターのローカルディスクにすべての機能をインストールします] を選択します。
- 7 他のすべてのコンポーネントが選択解除されていることを確認し、[次へ] をクリックします。
- 8 [インストール] をクリックしてインストールを開始します。

9 インストールが終了したら、[完了] をクリックします。

RAS Terminal Server Agent は構成を必要としません。エージェントがインストールされたら、Parallels Remote Application Server Console でサーバー名を選択し、[タスク] ドロップダウンメニューで [エージェントをチェック] をクリックして、サーバーのステータスを更新します。

RAS Terminal Server Agent のアンインストール

サーバーから RAS Terminal Server Agent をアンインストールするには、次の操作を実行します。

- 1 スタートボタン > [コントロールパネル] > [プログラム] > [プログラムのアンインストール] に移動します。
- 2 インストールされているプログラムのリストから、[Parallels Remote Application Server] を見つけます。
- 3 サーバー上に保持する必要がある他の Parallels RAS コンポーネントがない場合、[Parallels Remote Application Server] を右クリックして [アンインストール] をクリックします。手順に従って、プログラムをアンインストールします。以下の手順は省略できます。
- 4 サーバー上に保持する必要がある他の RAS コンポーネントがある場合、[Parallels Remote Application Server] を右クリックして [変更] をクリックします。
- 5 [よろこそ] ページで、[次へ] をクリックします。
- 6 [変更、修復、または削除] ページで [変更] を選択します。
- 7 次のページで [カスタム] を選択します。
- 8 [RAS Terminal Server Agent] を選択したら、前面のドロップダウンメニューをクリックして、[すべての機能が利用できなくなります] をクリックします。
- 9 [次へ] をクリックして、ウィザードを完了します。

ターミナル サーバーの構成

RAS Terminal Server Agent のステータスの確認

ターミナルサーバーが目的の機能を提供するためには、ターミナルサーバーに RAS Terminal Server Agent がインストールされている必要があります。このほか、サーバー上の Windows にリモートデスクトップサービス（以前はターミナルサービス）がインストールされている必要があります。

通常、RAS Console でターミナルサーバーをサイトに追加すると、Terminal Server Agent とリモートデスクトップサービスがデフォルトでインストールされます。しかしインストールを省略した場合（あるいは、後でエージェントまたは RDS をサーバーからアンインストールした場合）は、ステータスを確認して、適切に対処できます。

RAS Terminal Server Agent と RDS のステータスを確認し、必要に応じてインストールするには、次の操作を実行します。

- 1 最初に、[ターミナルサービス] リストの [エージェント] 列を確認します。Terminal Server Agent または RDS で問題が発生している場合、その列には該当するエラーメッセージが表示されます。
- 2 サーバーを右クリックして、コンテキストメニューの [エージェントをチェック] をクリックします。[エージェント情報] ダイアログボックスが開きます。



- 3 エージェントやターミナルサービス (RDS) がサーバーにインストールされていない場合、インストールする必要があります。それらをインストールするには、[インストール] をクリックして、指示に従います。
- 4 インストールが完了したら、インストールが実行されたターミナルサーバーの再起動が必要になる場合があります。

ターミナルサーバーのサイト割り当ての変更

必要に応じて、ターミナルサーバーをファーム内の別のサイトに割り当てることができます。この機能は、ファーム内に複数のサイトがある場合にのみ利用できます。

サイトの割り当てを変更するには、次の操作を実行します。

- 1 ターミナルサーバーを右クリックして、コンテキストメニューの [サイトの変更] をクリックします。[サイトの変更] ダイアログボックスが開きます。

- 2 リストからサイトを選択して、[OK] をクリックします。サーバーは、ターゲットサイトの [ターミナルサーバー] ([ファーム] / <新規サイト名> / [ターミナルサーバー]) リストに移動します。

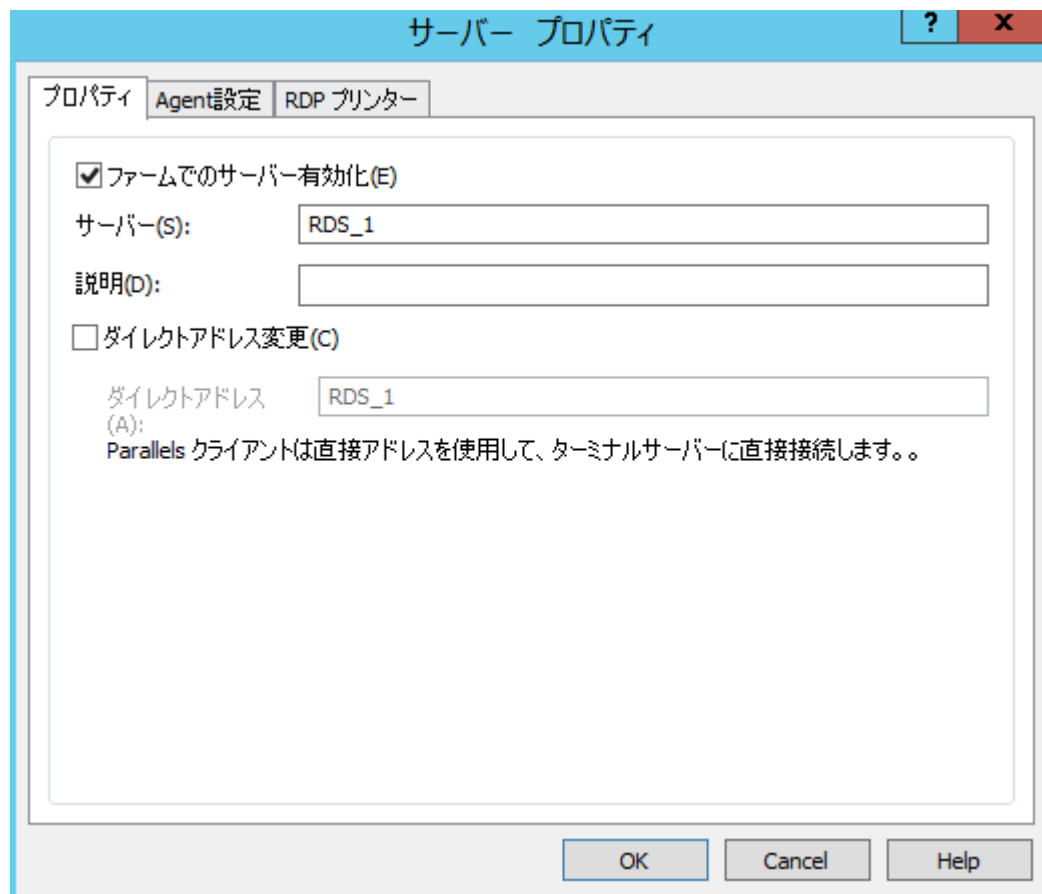
ターミナルサーバーのプロパティの表示と変更

ターミナルサーバーを構成するには、次の操作を実行します。

- 1 RAS Console で、[ファーム] / <サイト名> / [ターミナルサーバー] に移動します。
- 2 サーバーを右クリックして、コンテキストメニューで [プロパティ] をクリックします。
- 3 [サーバープロパティ] ダイアログが開きます。このダイアログでターミナルサーバーを構成できます。

このセクションの残りの部分では、サーバーの個々の構成プロパティを設定する方法を説明します。

[プロパティ] タブページ



[ファームでのサーバー有効化] オプションをオンまたはオフにすると、サイトでサーバーを有効または無効にできます。デフォルトで、サーバーは有効です。無効にされているサーバーから公開済みのアプリケーションやバーチャルデスクトップをクライアントに提供することはできません。

[プロパティ] ページには、他にも次の要素があります。

- サーバー - サーバー名を指定します。
- 説明 - サーバーの説明を指定します。
- ダイレクトアドレス変更 - Parallels Client からターミナルサーバーへの直接接続を確立するとき使用するダイレクトアドレスを変更する必要がある場合は、このオプションをオンにします。

[Agent 設定] タブページ

ファーム内の各ターミナルサーバーには RAS ターミナルサーバーエージェントがインストールされています。これにより、Parallels Remote Application Server とターミナルサーバーの間の接続が提供されます。エージェントを構成するには、[Agent 設定] タブページを使用します。

The screenshot shows the 'Server Properties' dialog box with the 'Agent Settings' tab selected. The 'Default settings are inherited' checkbox is checked. The 'Port' is set to 3389, 'Max Sessions' to 1000, and 'Timeout' to 25 seconds. 'Client URL/Email redirection' is set to 'Enabled' and 'Log' to 'None'. There are also checkboxes for 'Allow 2XRemoteExec to send commands to clients' (checked) and 'Use RemoteApps' (unchecked). Buttons for 'OK', 'Cancel', and 'Help' are at the bottom.

デフォルトの設定を使用するには、[デフォルト設定を継承] オプションを選択します。デフォルトの設定を確認または変更するには、[デフォルトを編集] リンクをクリックします。

特定のサーバーにカスタム設定を指定する場合は、[デフォルト設定を継承] オプションをオフにして、次の各エージェントプロパティを指定します。

- **ポート** :サーバーでデフォルト以外のポートが構成されている場合、別のリモートデスクトップ接続ポート番号を指定します。
- **セッション最大数** :セッションの最大数を指定します。

- 公開セッションのタイムアウト :ユーザーが公開済みアプリケーションを閉じた後、各セッションがバックグラウンドで接続状態を保持する時間を指定します。このオプションを使用して、サーバーへの不必要な再接続を回避します。
- クライアント URL/メールのリダイレクションを許可 :サーバーのリソースではなくクライアントコンピューターのローカルアプリケーションを使用して http リンクと mailto リンクを開くことができるようにするには、このオプションを選択します。リダイレクトを禁止する URL のリストを構成するには、サイトの [設定] ノードの [URL リダイレクト] タブに移動します。
- ログ :RAS ターミナルサーバーエージェントのログを有効または無効にします。このログは、Parallels サポートからの指示があった場合にのみ有効にする必要があります。
- RemoteApps を使用 (ある場合) :このオプションを有効にすると、シェル関連の問題でアプリが正しく表示されない場合に、リモートアプリを使用できます。この機能は、Windows 用 Parallels Client でのみサポートされています。
- 2XRemoteExec がクライアントにコマンドを送信することを許可。サーバーで実行されているプロセスにより、クライアント側でのアプリケーションの展開をクライアントに指示することを許可するには、このオプションをオンにします。2XRemoteExec の詳細については、次のサブセクションで説明します。

RemoteExec の使用

RemoteExec は、サーバーからクライアントへのコマンドの送信を容易に行えるようにするための機能です。そのために、コマンドラインユーティリティ 2XRemoteExec.exe を使用します。次のコマンドラインオプションが用意されています。

コマンドラインパラメーター	パラメーターの説明
-s	2XRemoteExec コマンドを”サイレント”モードで実行するのに使用します。このパラメーターを省略すると、コマンドにより、アプリケーションからのポップアップメッセージが表示されます。このパラメーターを指定すると、メッセージは表示されません。
-t	アプリケーションが開始されるまでのタイムアウトを指定するのに使用します。タイムアウトは 5000 ミリ秒~30000 ミリ秒の値にする必要があります。値の単位は”ミリ秒”である点に注意してください。タイムアウトが発生すると、コマンドはエラーを返します。タイムアウトが発生しても、クライアントでアプリケーションが開始されている場合があります。
-?	2XRemoteExec で使用されるパラメーターのヘルプリストを表示します。

” リモートアプリケーションのパス”	サーバーからの要求に従ってクライアントで開始されるアプリケーション。
--------------------	------------------------------------

例:

次のコマンドを実行すると、使用できるパラメーターの説明がメッセージボックスに表示されます。

```
2XRemoteExec -?
```

このコマンドを実行すると、クライアントでメモ帳が起動します。

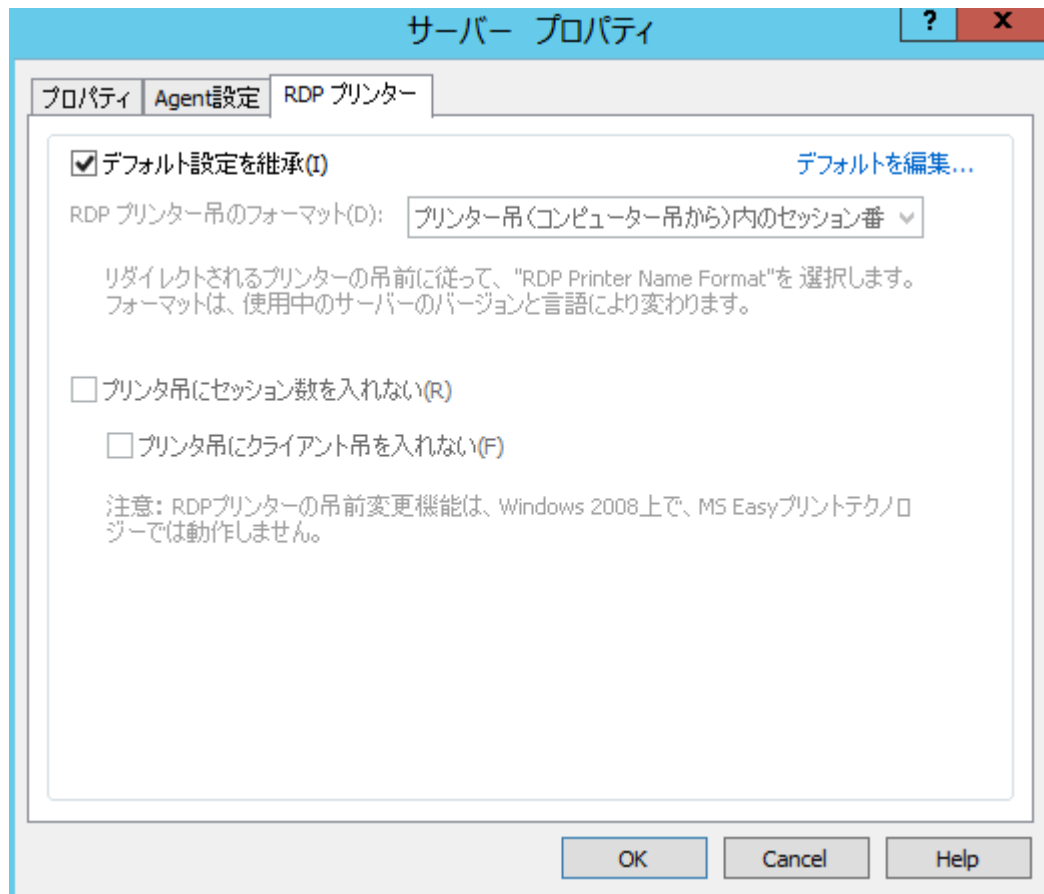
```
2XRemoteExec C:¥Windows¥System32¥Notepad.exe
```

この例のコマンドを実行すると、クライアントのメモ帳でC:¥readme.txt ファイルが開きます。メッセージは表示されず、2XRemoteExec は 6 秒間、またはアプリケーションが起動するまで待機します。

```
2XRemoteExec C:¥Windows¥System32¥Notepad.exe "C:¥readme.txt"
```

[RDP プリンター] タブページ

[RDP プリンター] タブページでは、リダイレクトされたプリンターの名前変更フォーマットを構成できます。フォーマットは、サーバーのどのバージョンと言語を使用しているかによって異なる場合があります。



デフォルトの RDP プリンター設定を使用するには、[デフォルト設定を継承] オプションを選択します。デフォルトのオプションを確認または変更するには、[デフォルトを編集] リンクをクリックします。

[RDP プリンター名のフォーマット] ドロップダウンリストでは、構成したサーバーに固有のプリンター名フォーマットを選択できます。

[プリンター名にセッション番号を入れない] や [プリンター名にクライアント名を入れない] を選択すると、対応する情報をプリンター名から除外できます。

ターミナル サーバーのグループ化

ターミナルサーバーグループを使用して、ウィザードでどのサーバーグループから公開リソースを公開するかを指定します。マルチサーバー環境では、グループを使用して公開アイテムを管理しやすくすることを強くお勧めします。

ターミナルサーバーグループを作成または変更するには、次の操作を実行します。

- 1 [ファーム] を選択し、ナビゲーションツリーで [ターミナルサーバー] を選択して、[グループ] タブをクリックします。
- 2 新しいグループを作成するには、[タスク] ドロップダウンメニューから [追加] をクリックします（または+アイコンをクリックします）。既存のグループを変更するには、そのグループを右クリックし、コンテキストメニューで [プロパティ] を選択します。
- 3 [グループプロパティ] ダイアログで、グループ名を指定し、グループに追加するサーバーを選択します。

ターミナルサーバーのスケジューラーを使用

[ターミナルサーバー] ビューの [スケジューラー] タブページでは、スケジュールに従ってサーバーを再起動したり、一時的に無効にしたりできます。

新しいスケジューラータスクの作成または既存のスケジューラータスクの変更を行うには、次の操作を実行します。

- 1 RAS Console で、[ファーム] / <サーバー名> / [ターミナルサーバー] に移動します。
- 2 右ペインで、[スケジューラー] タブをクリックします。
- 3 新しいタスクを作成するには、[タスク] ドロップダウンメニューで [追加] をクリックし、目的のタスクを次のオプションから選択します。
 - サーバーを無効化
 - サーバーグループを無効化
 - サーバーを再起動
 - サーバーグループを再起動

既存のタスクを変更するには、対象のタスクを右クリックし、コンテキストメニューで [プロパティ] を選択します。タスクを削除するには、対象のタスクを右クリックして [削除] を選択します。

- 4 スケジュールプロパティのダイアログに表示されるオプションは、[タスク] > [追加] ドロップダウンメニューで選択するタスクタイプに応じて少し異なります。次の手順では、その違いについても説明します。
- 5 [スケジュールを有効化] を選択してタスクを有効にします。
- 6 タスク名、対象サーバー（グループタスクを選択した場合はサーバーグループ）、および説明（オプション）を指定します。
- 7 開始日、開始時刻、期間、およびスコープ（[リピート] プロパティ）を指定します。[リピート] ドロップダウンボックスで [使用しない] を選択した場合、タスクは 1 回のみ実行されます。
- 8 [ユーザーメッセージを通知] ボックスでは、タスクを実行する前にユーザーに送信するメッセージを入力できます（[メッセージを送付する [] 後にアクションをトリガー] ドロップダウンリストを使用して期間を選択できます）。
- 9 [オプション] セクションに表示されるオプションは、タスクタイプに応じて異なります。
 - タスクが [サーバーを無効化] または [サーバーグループを無効化] の場合、利用可能なオプションは [無効時の処理] です。これを使用して、アクティブなセッション状態をどのように処理するかを指定できます。
 - タスクが [サーバーを再起動] または [サーバーグループを再起動] の場合、利用可能なオプションは [ドレインモードを有効化] と [強制的にサーバーを再起動するまで後] です（これらのオプションは連携して動作します）。ドレインモードを選択した場合、次のように動作します。タスクがトリガーされると、サーバーへの新しい接続は拒否されますが、アクティブな接続は引き続き実行されます。すべてのアクティブなユーザーがセッションを終了したとき、またはサーバーの再起動を強制する時間になったときのどちらか早い時点で、サーバーが再起動されます。アクティブなユーザーが作業内容を失わないように、[ユーザーメッセージを通知] ボックスで、作業内容を保存してログオフするように指示するメッセージを指定します。以下の「ターミナルサーバーのドレインモードの例」サブセクションも参照してください。
- 10 [OK] をクリックし、変更内容を保存してダイアログを閉じます。

ターミナルサーバーのドレインモードの例

例 1: ドレインモードなしでサーバーグループを再起動するようにスケジュールする

サーバーグループに次の 3 つのサーバーが含まれる: A、B、C

- 日付: 2015/07/24
- 開始時刻: 午前 10:45
- メッセージを送信: 2 分前

サーバーの再起動タスクがトリガーされる 2 分前に、アクティブなセッションを持つユーザーに通知が送信されます。

例 2: ドレインモードを有効にしてサーバーグループを再起動するようにスケジュールする

サーバーグループに次の 3 つのサーバーが含まれる:A、B、C

- 日付:2015/07/24
- 開始時刻:午前 10:45
- ドレインモード: 有効
- 強制的にサーバーを再起動するまで後:3 時間
- メッセージを送信:2 分前

サーバーの再起動タスクがトリガーされる 2 分前にセッションユーザーに通知が送信されます。

タスクがトリガーされたときの動作:

- 1 サーバーでドレインモードが有効になります。
- 2 サーバー A と B にはアクティブなセッションや切断されたセッションが存在しないため、それらのサーバーは直ちに再起動されます。
- 3 サーバー C には、開いている/切断されたセッションがまだ存在するため、サーバー C は、すべてのユーザーがセッションを終了するまで引き続き実行されます。3 時間経過してもサーバーにアクティブなセッションがまだ存在する場合、そのセッションは終了し、サーバーは再起動されます。

注意:[コンピューターの構成] / [管理用テンプレート] / [Windows コンポーネント] / [リモートデスクトップサービス] / [リモートデスクトップセッションホスト] / [接続] / [ユーザーがリモートデスクトップサービスを使ってリモート接続することを許可する] は [未構成] に設定されている必要があります。それ以外の場合、この設定が優先されます。

クライアントセッションからのログオンの管理

ログオン管理機能を使用すると、クライアントセッションからのログオンを有効または無効にすることができます。この機能は、change logon コマンドラインユーティリティと同じタスクを実行します。

クライアントセッションからのログオンを管理するには、次の操作を実行します。

- 1 Parallels Remote Application Server Console で、[ファーム] / <サイト名> / [ターミナルサーバー] に移動します。
- 2 ターミナルサーバーを選択し、[タスク] > [コントロール] をクリックします。

3 [コントロール] メニュー項目には、次のサブメニュー項目があります。

- ログオンを有効化 - コンソールからではなく、クライアントセッションからのログオンを有効にします。このオプションは、`change logon /enable` コマンドと同じアクションを実行します。
- ログオンと再接続を無効化 - コンソールからではなく、クライアントセッションからの以降のログオンを無効にします。現在ログオンしているユーザーには影響しません。このオプションは、`change logon /disable` コマンドと同じアクションを実行します。
- サーバーの再起動までログオンを無効化 - コンピューターが再起動するまで、新しいクライアントセッションからのログオンを無効にします。ただし、既存のセッションへの再接続は許可します。`change logon /drainuntilrestart` コマンドと同じアクションを実行します。

ターミナルサーバーの現在のログオン制御モードを表示するには、ターミナルサーバーを右クリックし、コンテキストメニューの [コントロール] をポイントします。チェックアウトされたオプションが、選択したターミナルサーバーの現在のログオン制御モードを示します。この確認をコマンドラインから実行するには、サーバーで `change logon /QUERY` コマンドを実行します。

次の点にも注意してください。

- サーバーにログオン制御モードを適用する場合、エージェントの状態がそれに従って更新されることを確認してください。
- サーバーのログオン制御オプションは1つずつ設定する必要があります。サーバーグループに対してログオン制御オプションを設定する場合は、スケジューラーを使用できます（「ターミナルサーバーのスケジューラーの使用」（p. 57）を参照）。
- 新しいクライアントセッションからのログオンを無効にして既存のセッションへの再接続を許可するためのオプションはありません（`change logon /DRAIN`）。その動作が [サーバーの再起動までログオンを無効化] オプション（`change logon /DRAINUNTILRESTART`）と同じためです。
- [コンピューターの構成] / [管理用テンプレート] / [Windows コンポーネント] / [リモートデスクトップサービス] / [リモートデスクトップセッションホスト] / [接続] / [ユーザーがリモートデスクトップサービスを使ってリモート接続することを許可する] は [未構成] に設定されている必要があります。それ以外の場合、この設定が優先されます。

ターミナルサーバーからの公開

ガイドのこのセクションでは、ターミナルサーバーでホストされるリソースを公開する方法について説明します。ここで説明される公開機能は、RAS Console の [公開] カテゴリーから利用できます。

「簡単な RAS 環境のセットアップ」(p. 28) クションで説明したとおり、[開始]カテゴリーの公開ウィザードを使用してリソースを公開することもできます。[開始]カテゴリーの公開ウィザードは簡易バージョンで、公開するリソースを選択するための使いやすいオプションが用意されています。どちらの方法を使用してもかまいません。ニーズに合った方法を選択してください。

ターミナルサーバーからのデスクトップの公開

ターミナルサーバーからデスクトップを公開するには、次の操作を実行します。

- 4 RAS Console で、[公開]カテゴリーを選択し、[公開済みのリソース]ツリーの下にある[追加]アイコンをクリックします。公開ウィザードが開きます。
- 5 ウィザードの最初のステップで、[デスクトップ]を選択し、[次へ]をクリックします。



- 6 [デスクトップの種類を選択] ステップで [ターミナルサーバーデスクトップ] を選択し、[次へ] をクリックします。



- 7 どのターミナルサーバーのデスクトップを公開するかを選択します。サイト上のすべてのサーバー、サーバーグループ、または個々のサーバーを選択できます。ターミナルサーバーが1つのみの場合、このステップはスキップされます。
- 8 [次へ] をクリックします。
- 9 次のステップで以下の操作を行います。
- 共有デスクトップの名前と説明を指定して、必要に応じてアイコンを変更します。
 - [コンソールに接続] オプションを選択します。これで、ユーザーは仮想セッションではなくコンソールに接続します。

- [サイズ] ドロップダウンリストを使用して、目的の画面解像度を指定します。カスタムの画面幅および高さを設定するには、[サイズ] ドロップダウンリストで [カスタム] を選択し、提供されたフィールドに目的の値を指定します。



10 以上の操作を実行して [完了] をクリックすると、デスクトップが公開されます。

ターミナルサーバーからのアプリケーションの公開

ターミナルサーバーからアプリケーションを公開するには、以下の手順を実行します。

- 1 RAS Console で [公開] カテゴリーを選択し、[公開済みのリソース] ツリーの下にある [追加] アイコンをクリックします（または [公開済みのリソース] ボックス内を右クリックし、コンテキストメニューで [追加] をクリックします）。公開ウィザードが開きます。

- 2 [アイテムタイプの選択] ウィザードページで [アプリケーション] を選択し、[次へ] をクリックします。



- 3 [サーバータイプの選択] ページで [ターミナルサーバー] を選択し、[次へ] をクリックします。
- 4 [アプリケーションタイプの選択] ページで、利用可能な以下のいずれかのオプションを選択します。
- 1つのアプリケーション: 実行ファイルのパスなど、アプリケーション設定をユーザー自身ですべて構成するには、このオプションを選択します。
 - 導入されたアプリケーション: サーバーにすでにインストールされているアプリケーションを公開するには、このオプションを選択します。つまり、すべてのアプリケーション設定が自動的に構成されます。
 - 既存のアプリケーション: Windows エクスプローラーなど、日常的に使用する Windows アプリケーションを公開するには、このオプションを選択します。

- 5 [次へ] をクリックします。
- 6 [公開元の選択] ページで、どのターミナルサーバーからアプリケーションを公開するかを指定します。以下のオプションがあります。
 - サイト内の全サーバー: 選択すると、サイトで利用可能なすべてのサーバーからアプリケーションが公開されます。
 - サーバークラウド: このオプションを選択した後、アプリケーションの公開元である個々のサーバークラウドを選択します。
 - 個々のサーバー: このオプションを選択し、アプリケーションの公開元である個々のサーバーを選択します。

複数のターミナルサーバーがある場合のみ、[公開元の選択] ウィザードページが表示されます。サーバーが1つのみの場合、ウィザードはこのページをスキップします。インストールしているアプリケーションタイプが [既存のアプリケーション] の場合もこのページはスキップされます。

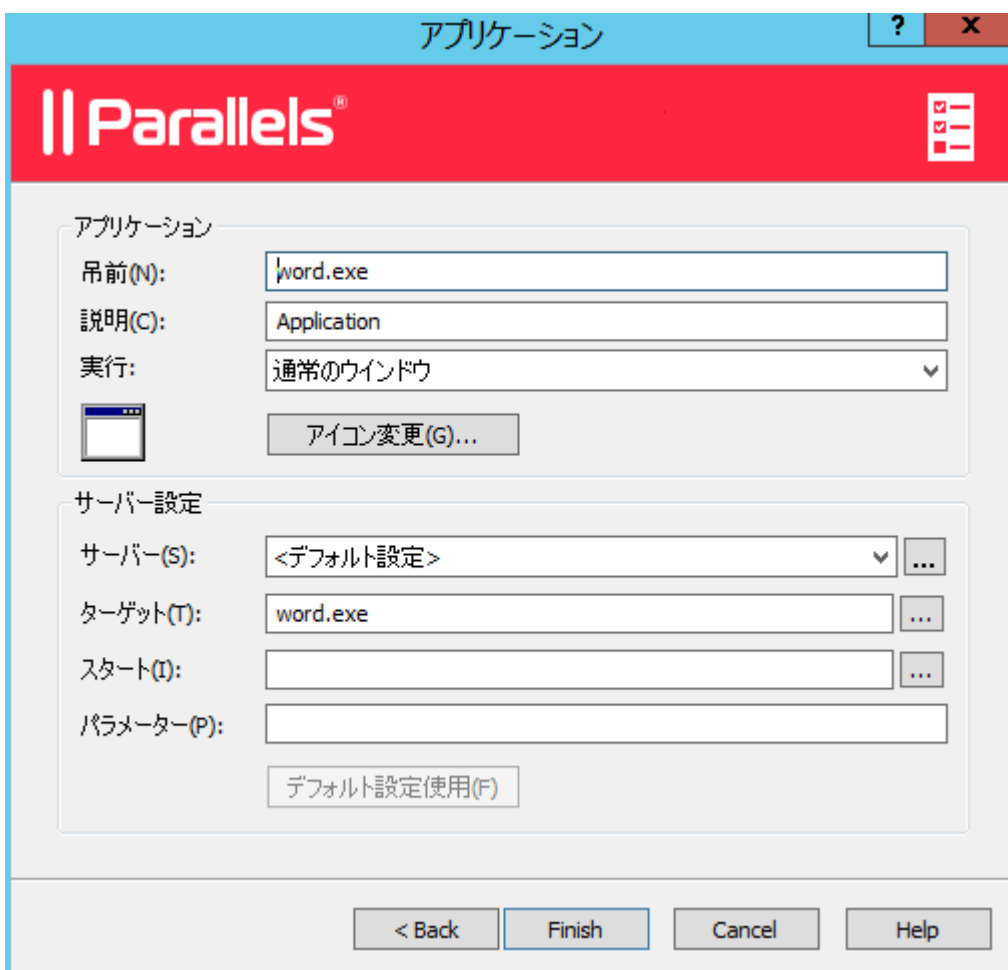
- 7 [次へ] をクリックします。
- 8 [アプリケーションタイプの選択] ページで選択したアプリケーションタイプに応じて、次に表示されるウィザードページは以下のいずれかになります。
 - [1つのアプリケーション] を選択した場合、[アプリケーション] ページが開きます。このページで、アプリケーションの設定を手動で指定する必要があります (このオプションの詳細については、このセクションの後で説明します)。
 - [導入されたアプリケーション] を選択した場合、[導入されたアプリケーション] ページが開きます。このページには、利用可能なアプリケーションのリストが表示されます (アプリケーションは機能別にグループ化されています)。インストールするアプリケーションを選択し、[次へ] をクリックします。指示に従ってウィザードを完了します。
 - [既存のアプリケーション] を選択した場合、[既存のアプリケーションの選択] ページが開きます。このページには、利用可能なアプリケーションのリストが表示されます。公開するアプリケーションを選択し、[完了] をクリックします。

- 9 [アプリケーションタイプの選択] ウィザードページで [1つのアプリケーション] を選択した場合、この時点で [アプリケーション] ページが開きます。アプリケーションの設定を次のように指定します (以下のスクリーンショットを参照)。

最初に「参照」ボタン ([...]) を使用して [ターゲット] フィールドを入力した場合、アプリケーションの [名前]、[説明]、およびアイコンが自動的に選択されます。必要に応じて、これらのオプションを変更できます。

- 名前: 選択して、アプリケーションの名前を入力します。
- 説明: 説明を入力します (オプション)。

- 実行:アプリケーションウィンドウの状態(通常のウィンドウ、最小化、最大化)を選択します。
- アイコン変更:アプリケーションのアイコンを変更します(オプション)。
- サーバー:アプリケーションの公開元のサーバーごとに、残りのサーバーパラメーターを個々に指定できます。ドロップダウンリストボックスからサーバーを選択し、パラメーターを指定します。リスト内の他のサーバーに対してこれを繰り返します。
- ターゲット:アプリケーションの実行ファイルのパスとファイル名を指定します。
- スタート:[ターゲット]フィールドが有効な場合、このフィールドには値が自動的に入力されます。必要に応じて、独自のパスを指定できます。
- パラメーター:アプリケーションが起動パラメーターを受け付ける場合、パラメーターをこのフィールドで指定できます。



10 以上の操作を実行して [完了] をクリックすると、アプリケーションが公開されます。

ターミナルサーバーからのウェブアプリケーションの公開

ウェブアプリケーションは、他のアプリケーションと同様、標準のアプリケーション公開機能を使用して公開できます。ただし、ウェブアプリケーションに対する URL リンクをそのまま公開する方法を簡素化するために、別の公開アイテムタイプを利用できます。これにより、最小限の手順数で公開タスクを実行できます。

ウェブアプリケーションを公開するには、次の操作を実行します。

- 1 RAS Console で [公開] カテゴリーを選択し、[公開済みのリソース] ツリーの下にある [追加] アイコンをクリックします（または [公開済みのリソース] ボックス内を右クリックし、コンテキストメニューで [追加] をクリックします）。公開ウィザードが開きます。
- 2 [アイテムタイプの選択] ウィザードページで、[ウェブアプリケーション] を選択し、[次へ] をクリックします。
- 3 [サーバータイプの選択] ページで [ターミナルサーバー] を選択し、[次へ] をクリックします。
- 4 [公開元の選択] ページで、公開元のサーバーを選択します。ターミナルサーバーが 1 台しかない場合は、[公開元の選択] ページは表示されません。
- 5 [ウェブアプリケーション] ウィザードページが開いたら、ウェブアプリケーションの名前、説明、ウィンドウ状態、URL を指定します。必要に応じて、[Internet Explorer の使用を強制] オプションを選択します。特定のアプリケーションアイコンを参照するには、[アイコン変更] をクリックします。
- 6 以上の操作を実行して [完了] をクリックすると、アプリケーションが公開されます。

公開されたウェブアプリケーションは、他のアプリケーションと同様、[公開] > [公開済みのリソース] リストに表示されます。

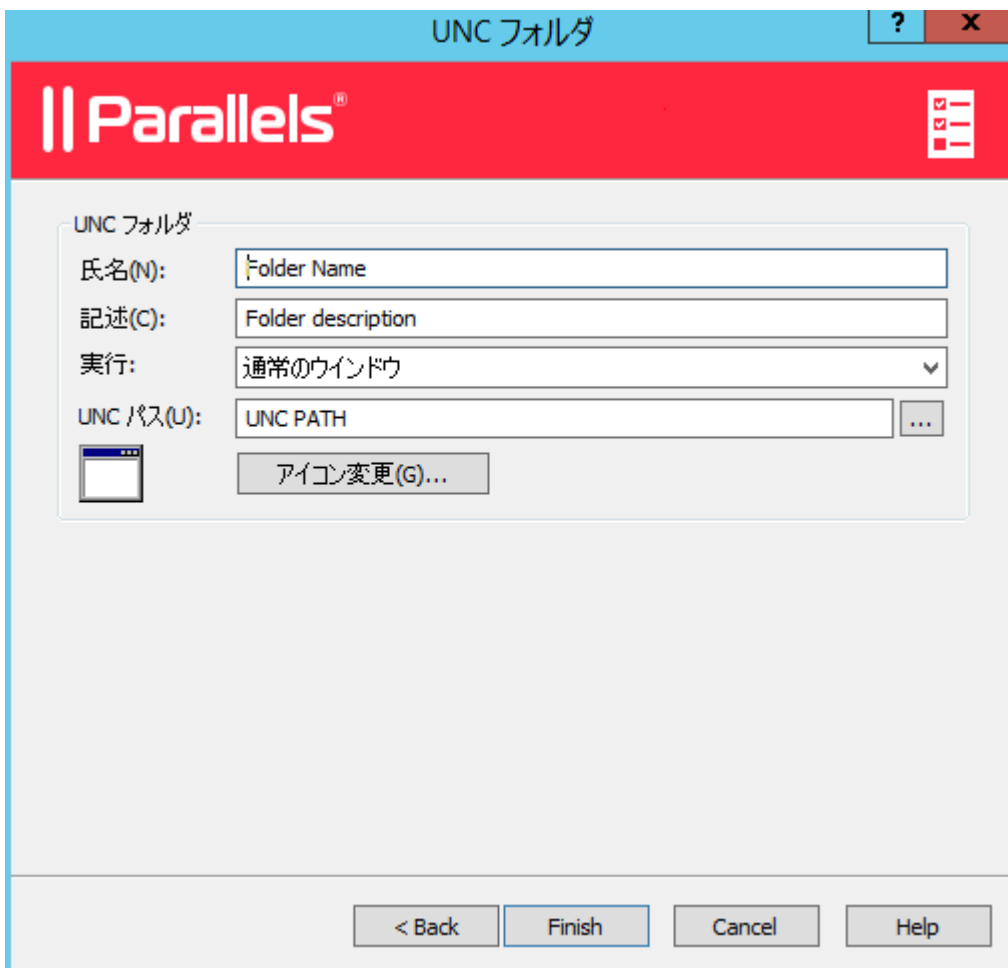
ターミナルサーバーからのネットワークフォルダーの公開

UNC パスを使用してファイルシステムフォルダーを公開し、そのフォルダーを Windows エクスプローラーで開くことができます。構成の手順数を最小限にするため、ターミナルサーバーからネットワークフォルダーを公開できる特殊な公開アイテムを利用できます。

ネットワークフォルダーを公開するには、次の操作を実行します。

- 1 RAS Console で [公開] カテゴリーを選択し、[公開済みのリソース] ツリーの下にある [追加] アイコンをクリックします（または [公開済みのリソース] ボックス内を右クリックし、コンテキストメニューで [追加] をクリックします）。公開ウィザードが開きます。

- 2 [アイテムタイプの選択] ウィザードページで、[ファイルシステム上のフォルダー] を選択し、[次へ] をクリックします。
- 3 [サーバータイプの選択] ページで [ターミナルサーバー] を選択し、[次へ] をクリックします。
- 4 [公開元の選択] ページで、公開元のサーバーを選択します。ターミナルサーバーが 1 台しかない場合は、[公開元の選択] ページは表示されません。
- 5 [UNC フォルダ] ウィザードページで、通常のアプリケーションプロパティを指定します。
- 6 [UNC パス] フィールドに、公開するフォルダーの UNC パスを入力します。[...] ボタンをクリックしてフォルダーを参照します ([フォルダの参照] ダイアログが開くまでに時間がかかることがあります)。



- 7 [完了] をクリックすると、フォルダーが公開され、ウィザードが閉じます。

公開されたネットワークフォルダーは、他のアプリケーションと同様、[公開] > [公開済みのリソース] リストに表示されます。公開されたネットワークフォルダーを選択してから、[アプリケーション] タブをクリックすると、次のアプリケーション設定が表示されます。

- [ターゲット] プロパティは常に PublishedExplorer.exe に設定されます。このバイナリは (エージェントプッシュによって) 自動的に作成されるもので、標準の explorer.exe 実行ファイルの単純なコピーです。
- [パラメーター] プロパティには、公開するネットワークフォルダーが指定されます。フォルダーパスは、explorer.exe で処理できる任意の形式で指定できます。

この公開アイテムでは、標準のアプリケーションプロパティタブがすべて有効になっていますが、少なくとも次の項目は全く無関係であるため無視してください。

- 公開元
- ファイル拡張子

ターミナルサーバーからのドキュメントの公開

ターミナルサーバーからドキュメントを公開するには、次の手順を実行します。

- 1 RAS Console で [公開] カテゴリーを選択し、[公開済みのリソース] ツリーの下にある [追加] アイコンをクリックします (または [公開済みのリソース] ボックス内を右クリックし、コンテキストメニューで [追加] をクリックします)。公開ウィザードが開きます。
- 2 [アイテムタイプの選択] ウィザードページで [ドキュメント] を選択し、[次へ] をクリックします。
- 3 [ターミナルサーバー] を選択し、[次へ] をクリックします。
- 4 公開するドキュメントのドキュメントタイプを指定します。事前に定義されたリストからドキュメントタイプを選択するか、[ドキュメントタイプ指定] 入力フィールドにカスタムドキュメントタイプを指定できます。
- 5 準備が完了したら、[次へ] をクリックします。
- 6 [公開元の選択] ページで、どのターミナルサーバーからアプリケーションを公開するかを指定します。以下のオプションがあります。
 - サイト内の全サーバー: 選択すると、サイトで利用可能なすべてのサーバーからアプリケーションが公開されます。
 - サーバークラスタ: このオプションを選択した後、アプリケーションの公開元である個々のサーバークラスタを選択します。
 - 個々のサーバー: このオプションを選択し、アプリケーションの公開元である個々のサーバーを選択します。

複数のターミナルサーバーがある場合のみ、[公開元の選択] ウィザードページが表示されます。サーバーが 1 つのみの場合、ウィザードはこのページをスキップします。

- 7 [アプリケーション] ページで、名前、説明（オプション）、ウィンドウの状態を入力し、必要に応じてアイコンを変更します。
- 8 [ターゲット] 入力フィールドの横にある [...] ボタンを使用して、ドキュメントを参照します。他のすべてのフィールドのデータは自動的に読み込まれます。自動読み込みフィールドのいずれかを編集するには、該当のフィールドを選択し、必要な詳細情報を入力します。
- 9 （オプション） [パラメーター] 入力フィールドで、アプリケーションの開始時にアプリケーションに渡すパラメーターを指定します。

注意: 特定のサーバー上でドキュメントを異なる方法で構成する場合は、[サーバー] ドロップダウンリストを使用して、その特定のサーバー用の異なるドキュメント設定を指定します。設定は、個別に選択したサーバーごとに保存されます。

- 10 [完了] をクリックしてドキュメントを公開します。

第 6 章

VDI ホスト

この章の内容

VDI ホストの追加.....	71
アプライアンスのインストールおよび VDI ホストの構成.....	75
RAS テンプレートの管理.....	78
VDI ホストのプール管理.....	83
パーシスタントゲスト.....	87
ゲストからの公開.....	88
VDI Agent 技術.....	93

VDI ホストの追加

VDI ホストは、ハイパーバイザーが 1 台以上の仮想マシン（バーチャルゲスト、または単にゲストとも呼ばれます）を実行しているコンピューターです。各仮想マシンは、ゲストオペレーティングシステムと呼ばれるオペレーティングシステムを実行します。ホストは、それぞれゲストオペレーティングシステムを実行している、複数の仮想マシンを実行できます。Parallels Remote Application Server では、ゲストオペレーティングシステムとしてのみ Windows をサポートします。

VDI ホストを Parallels Remote Application Server サイトに追加すると、ホストで実行されている仮想マシンの管理、テンプレートからの新しい仮想マシンの作成、それぞれのゲストオペレーティングシステムからのデスクトップとアプリケーションの公開を行うことができます。

注意: サーバーを VDI ホストとしてサイトに追加する前に、サポートされているハイパーバイザーの 1 つをサーバーにインストールする必要があります。「VDI Agent 技術」セクション (p. 93) には、さまざまなハイパーバイザーのインストール方法に関する情報が記載されています。このセクションの残りの部分は、ハイパーバイザーがサーバーにインストール済みであることを想定しています。

VDI ホストの検索

ネットワーク上で利用可能な VDI ホストを検索するには、次の操作を実行します。

- 1 RAS Console で、[ファーム] / <サイト名> / [VDI ホスト] ノードに移動します。<サイト名> は、VDI ホストを追加するホストです。

- 2 [バーチャルデスクトップホスト] タブページで、[タスク] > [検索] をクリックします。
- 3 [バーチャルデスクトップホストを検索する] ダイアログボックスが開き、VDI ホストの検索が始まります。VDI ホストが見つからなかった場合は、ホストを手動で追加できます（以下の「手動による VDI ホストの追加」サブセクションを参照してください）。
- 4 適切な VDI ホストが 1 台以上見つかった場合は、見つかったホストがダイアログボックスに表示されます。[全てのホストを表示する] オプションを選択すると、システムの最低要件を満たさないホストも含め、利用可能なすべてのホストを表示できます。リストを更新するには、[更新] をクリックします。
- 5 [エージェント] 列を参照して、目的のホストに RAS VDI Agent がインストールされていることを確認します。エージェントがインストールされていない場合は、[エージェントのインストール] ボタンをクリックして、指示に従います。
- 6 [OK] をクリックして、VDI ホストをサイトに追加します。

手動による VDI ホストの追加

VDI ホストを手動で追加するには、次の操作を実行します。

- 1 [タスク] ドロップダウンメニューで、[追加] をクリックして、[VDI サーバーを追加] ウィザードを起動します。

- 2 VDI ホストが実行しているハイパーバイザータイプを選択して、ホストの IP アドレスまたは FQDN を指定します。
- 3 サーバー上のファイアウォールを自動的に構成するには、[ファイアウォールルールを追加] オプションを選択します。
- 4 VDI Agent 固有のオプションは、ハイパーバイザータイプによって異なります。「VDI Agent 技術」セクション (p. 93) に、すべての詳細情報が記載されています。
- 5 [次へ] をクリックします。

- 6 この手順で、Parallels Remote Application Server は RAS VDI Agent が VDI ホストにインストールされているかどうかを確認します。エージェントがインストールされていない場合は、次の操作を実行します。
 - a [インストール] クリックして、VDI ホストにエージェントをプッシュインストールします。
 - b [RAS VDI Host Agent のインストール] ダイアログボックスで、RAS Agent のインストール先のサーバー名を選択します。
 - c (オプション) 別の資格情報を使用してターゲットサーバーにログインするには、[資格情報の上書き] オプションを選択します。
 - d [インストール] をクリックして、エージェントをインストールします。
 - e エージェントがインストールされたら、[完了] をクリックします。RAS VDI Agent の自動インストールが失敗する場合は、「手動による RAS VDI Agent のインストール」セクション (p. 73) を参照してください。
- 7 [追加] をクリックして、VDI ホストを Parallels Remote Application Server ファームに追加します。

RAS VDI Agent のステータスの確認

VDI ホストがハイパーバイザーと通信し、リモートデスクトップサービスを提供するためには、VDI ホストに RAS VDI Agent をインストールする必要があります。

RAS VDI Agent のステータスを確認するには、次の操作を実行します。

- 1 最初に、[VDI ホスト] リストの [エージェント] 列を確認します。エージェントで問題が発生している場合は、その列に該当するエラーメッセージが表示されます。
- 2 ホストを右クリックして、コンテキストメニューの [エージェントをチェック] をクリックします。[VDI Agent 情報] ダイアログボックスが開き、VDI Agent、VDI サービスに関する情報やその他の関連情報が表示されます。
- 3 VDI Agent がインストールされていない場合は、[インストール] ボタンをクリックして、指示に従います。同様に、VDI サービスが有効になっていない場合は有効にします。

手動による RAS VDI Agent のインストール

自動のプッシュインストールを実行できない場合は、RAS VDI Agent を VDI ホストに手動でインストールしなければならないことがあります。たとえば、SMB 共有を利用できない場合や、ファイアウォールルールによってプッシュインストールができない場合があります。

手動による RAS VDI Agent のインストール

エージェントをインストールするには、次の操作を実行します。

- 1 管理者アカウントを使用して RAS VDI Agent のインストール先のサーバーにログインし、他のすべてのアプリケーションを閉じます。
- 2 Parallels Remote Application Server のインストールファイル (RASInstaller.msi) をサーバーにコピーし、そのファイルをダブルクリックします。
- 3 プロンプトが表示されたら、[次へ] をクリックし、エンドユーザー使用許諾契約書に同意します。
- 4 RAS Agent のインストール先のパスを指定して、[次へ] をクリックします。
- 5 [カスタム] を選択し、[次へ] をクリックします。
- 6 [RAS VDI Agent] をクリックし、ドロップダウンメニューから [このコンピューターのローカルディスクにすべての機能をインストールします] を選択します。
- 7 他のすべてのコンポーネントが選択解除されていることを確認し、[次へ] をクリックします。
- 8 [インストール] をクリックしてインストールを開始します。インストールが終了したら、[完了] をクリックします。

RAS VDI Agent は構成を必要としません。エージェントをインストールしたら、RAS Console でサーバー名を選択し、[エージェントをチェック] をクリックします。エージェントが適切にインストールされている場合、ステータスは ” エージェントをインストールしました ” に変わります。

RAS VDI Agent のアンインストール

サーバーから RAS VDI Agent をアンインストールするには、次の操作を実行します。

- 1 スタートボタン > [コントロールパネル] > [プログラム] > [プログラムのアンインストール] に移動します。
- 2 インストールされているプログラムのリストから、[Parallels Remote Application Server] を見つけます。
- 3 サーバー上に保持する必要がある他の Parallels RAS コンポーネントがない場合、[Parallels Remote Application Server] を右クリックして [アンインストール] をクリックします。手順に従って、プログラムをアンインストールします。この指示の残りの部分は省略できます。
- 4 サーバー上に保持する必要がある他の RAS コンポーネントがある場合、[Parallels Remote Application Server] を右クリックして [変更] をクリックします。
- 5 [よろこび] ページで、[次へ] をクリックします。

- 6 [変更、修復、または削除] ページで [変更] を選択します。
- 7 次のページで [カスタム] を選択します。
- 8 [RAS VDI Agent] を選択したら、前面のドロップダウンメニューをクリックして、[すべての機能が利用できなくなります] をクリックします。
- 9 [次へ] をクリックして、ウィザードを完了します。

アプライアンスのインストールおよび VDI ホストの構成

VMware ESXi サーバーなど、一部のハイパーバイザでは、RAS VDI Agent の代わりにアプライアンスを構成して実行する必要があります。アプライアンスは、特定の 방법으로構成された仮想マシンであり、これを RAS VDI Agent として指定することができます。

アプライアンスのインストール

アプライアンスのインストール方法については、「VDI Agent テクノロジ」セクション (p. 93) を参照してください。

VDI ホストの構成

VDI ホストを構成するには、[バーチャルデスクトップホスト] リストで VDI ホストを選択し、[タスク] > [プロパティ] をクリックします。[ホストプロパティ] ダイアログが開きます。

注意:一部のサーバーでは、以下のいくつかのプロパティを利用できない場合があります。これは、ホストサーバーにインストールされたハイパーバイザによって異なります。

ファームでの VDI ホストの有効化または無効化

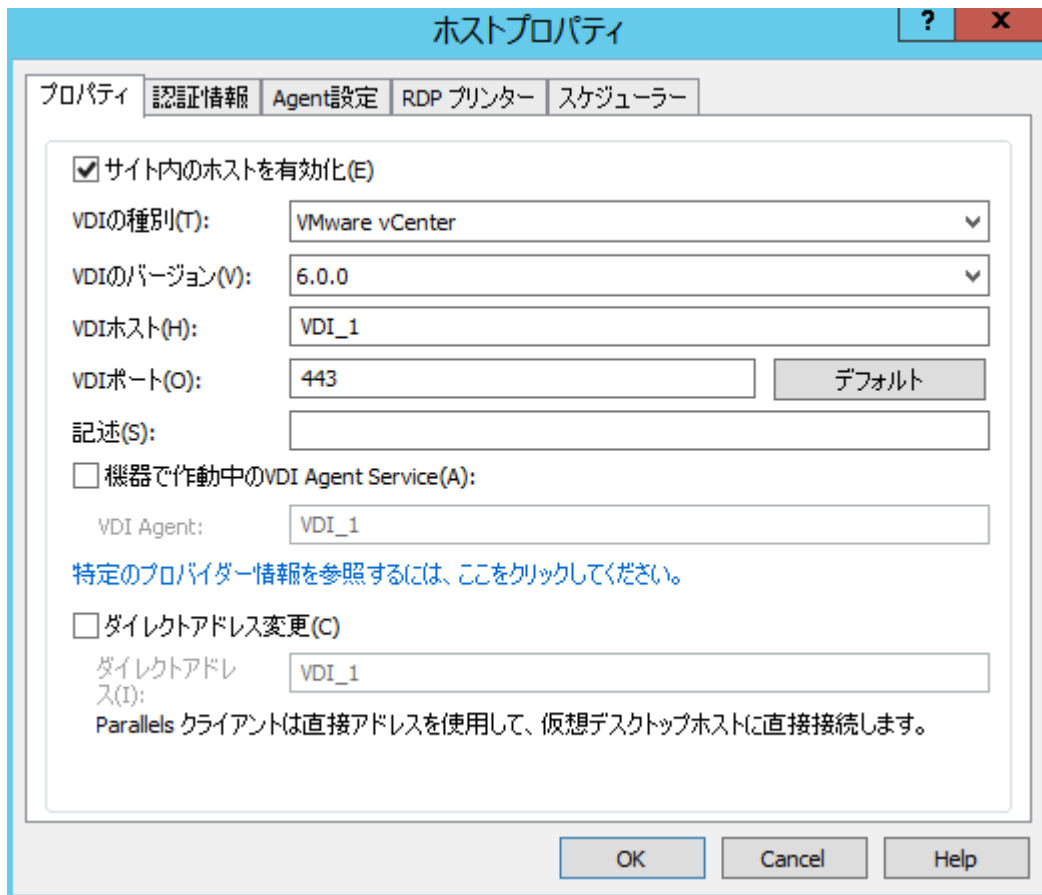
デフォルトでは、VDI ホストはファーム内で有効になっています。サーバーを無効にすると、公開済みのアプリケーションとバーチャルデスクトップをサーバーから提供できなくなります。ホストを無効にするには、[プロパティ] タブページの [サイト内のホストを有効化] オプションをクリアします。

VDI ホストの接続設定の構成

[プロパティ] タブページでは次のプロパティを構成できます。

- VDI の種別 : 仮想化技術の種別。
- VDI のバージョン : 選択した仮想化技術のバージョン。使用しているハイパーバイザのバージョンが含まれていない場合、[他:] を選択します。

- VDI ホスト: VDI ホストの IP アドレス。
- VDI ポート: VDI ホストが受信接続を待機しているポート番号。
- VDI Agent: アプライアンスの IP アドレス (アプライアンスでエージェントを実行している場合)。
- ダイレクトアドレス変更: 選択した場合、ここに指定した IP アドレスを使用して Parallels Client はホストに直接接続できます。ダイレクトアドレスはダイレクト接続モードでのみ使用されます。このアドレスには、内部 IP アドレスまたは外部 IP アドレスを使用できます。

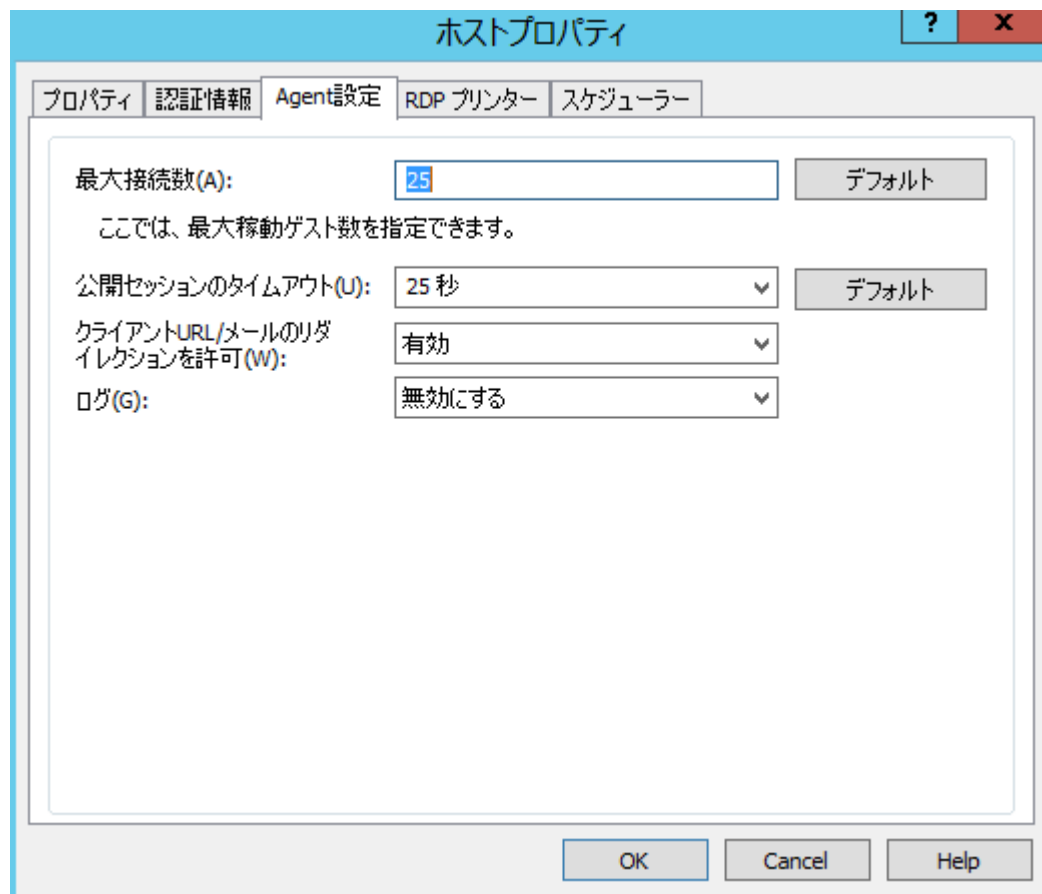


資格情報の指定

[資格情報] タブで、VDI ホストにログインするためのユーザー名とパスワードを指定します。[証明書をチェック] ボタンをクリックして、入力した証明書を確認します。

サーバーでの RAS VDI Agent の構成

ファームの各 VDI ホストに RAS VDI Agent がインストールされています（またはアプライアンスとして実行されています）。VDI Agent は [Agent 設定] タブページで構成できます。



- 最大接続数 : 最大稼働ゲスト数を指定します。
- 公開セッションのタイムアウト : ユーザーが公開済みアプリケーションを閉じた後、各セッションがバックグラウンドで接続状態を保持する時間を指定します。このオプションを使用して、ゲストへの不必要な再接続を回避します。
- クライアント URL/メールのリダイレクションを許可 : サーバーのリソースではなくクライアントコンピューターのローカルアプリケーションを使用して http リンクと mailto リンクを開くことができるようにするには、このオプションを選択します。
- ログ : RAS VDI Agent のログを有効または無効にします。ログは、Parallels RAS サポートからの指示があった場合にのみ有効にする必要があります。

RDP 印刷の構成

[RDP プリンター] タブでは、リダイレクトされたプリンターの名前変更フォーマットを構成できます。フォーマットは、サーバーのどのバージョンと言語を使用しているかによって異なる場合があります。構成したサーバーに固有の [RDP プリンター名のフォーマット] オプションを選択します。

- プリンター名 (コンピューター名から) 内のセッション番号
- セッション番号 (コンピューター名から) プリンター名
- プリント名 (リダイレクト セッション番号)

[RDP プリンター] タブで指定できるその他の RDP 印刷オプションは次のとおりです。

- プリンター名にセッション数を入れない
- プリンター名にクライアント名を入れない

VDI ホストのメンテナンス時刻ウィンドウの構成

[スケジューラー] タブページでは、サーバーのメンテナンス時刻ウィンドウを作成できます。この期間、該当のサーバーから、公開済みのリソースにアクセスできません。

メンテナンス時刻ウィンドウを構成するには、[タスク] > [追加] をクリックし、以下のオプションを設定します。

- 開始日
- 時刻
- 所要時間
- リピート

[無効時の処理] オプションでは、スケジュールされたタスクがトリガーされたときに現在のセッションに対して何を実行するかを指定できます。

RAS テンプレートの管理

RAS テンプレートは、Parallels Remote Application Server でバーチャルゲストの作成と展開を自動化するために使用されます。RAS テンプレートは、既存のバーチャルゲストのコピーとして作成されますが、正規のバーチャルゲストとして実行することはできません。RAS テンプレートは、Parallels Remote Application Server で使用するために、必要に応じてカスタマイズできます。テンプレートの準備ができたなら、テンプレートを使用して、テンプレートのすべてのプロパティを継承するバーチャルゲストのクローンを作成できますが、そのクローンは、アプリケ

ーション、ドキュメント、デスクトップなどを Remote Application Server ユーザーに提供できる正規のバーチャルゲストとして作成されません。

RAS テンプレートは、次のバージョンの Windows でのみゲスト OS として作成できます（他の種類のオペレーティングシステムはサポートされていません）。

- Windows XP SP3
- Windows Vista
- Windows 7
- Windows 8
- Windows 10

RAS テンプレートの作成

注意:既存のバーチャルゲストからテンプレートを作成するには、IP アドレスを DHCP サーバー経由で取得するようにゲストオペレーティングシステム (Windows) を構成する必要があります。

新しい RAS テンプレートを作成するには、次の手順を実行します。

- 1 RAS Console で、[ファーム] / <サイト名> / [VDI ホスト] に移動します。
- 2 右ペインで [RAS テンプレート] タブを選択します。
- 3 [タスク] ドロップダウンメニューで [追加] をクリックします。
- 4 [バーチャルゲストのリスト] ダイアログで、どのゲストから RAS テンプレートを作成するかを選択し、[OK] をクリックします。
- 5 次の手順で、Parallels Remote Application Server は、ゲストに RAS ゲストエージェントがインストールされているかどうかを確認します。エージェントがインストールされていない場合、[インストール] をクリックし、資格情報を指定してバーチャルゲストの Windows にログインします。完了したら [完了] をクリックします。RAS ゲストエージェントの自動インストールが失敗した場合（SMB 共有を利用できない場合や、ファイアウォールルールでプッシュインストールの実行が許可されていない場合など）、バーチャルゲストの Windows でメインの Parallels Remote Application Server インストーラー (RASInstaller.msi) を実行し、手動インストールを試みます。[カスタム] インストールオプションを使用して、インストールする [RAS ゲストエージェント] コンポーネントを選択します。
- 6 [ゲストエージェントの情報] ダイアログで、[テンプレートの作成] ボタンをクリックし、RAS テンプレートを作成します。
- 7 ソースのバーチャルゲストの電源がオフになり（必要な場合）、テンプレートの作成プロセスが開始されます。

バーチャルゲストをテンプレートから作成する方法

RAS テンプレートの変更が Parallels Remote Application Server にコミットされると、テンプレートからのバーチャルゲストの作成が開始されます。ゲストは一度に 1 つずつ作成されます。作成するゲストの数は、[プロパティ] ページの [事前作成ゲスト] フィールドに指定された値で決まります（「RAS テンプレートの構成」（p. 80）参照）。

ユーザーがバーチャルゲストに接続するとすぐに Parallels Remote Application Server はテンプレートから新しいゲストの作成を開始し、事前作成ゲストの数を設定のとおり維持します。テンプレートから新しいゲストを作成するには少し時間がかかります。ユーザーがバーチャルゲストへの接続を試みたときにバーチャルゲストが利用可能であった場合、ユーザーは接続を待つ必要はありません。ゲストが作成の途中であり、他の利用可能なゲストがない場合、ユーザーは待つ必要があります。

あるバーチャルゲストが使用されておらず、既存のゲストの数が「事前作成」の値を超えている場合、そのゲストは、[プロパティ] ページの [未使用のゲストを削除します] の [次の時間経過後] フィールドに指定された期間経過した後に削除されます。このオプションを選択していない場合、ゲストは削除されません。ただし、ゲストの合計数が [プロパティ] ページの [最大ゲスト数] フィールドの値を超えることはありません。

RAS テンプレートの構成

テンプレートが作成されると、テンプレート構成ウィザードが自動的に開きます。テンプレートを使用してバーチャルゲストのクローンを作成できるようにするには、ウィザードを完了する必要があります。

RAS テンプレート構成ウィザードは、以下で説明するいくつかのページから構成されています。

注意: 既存のテンプレートの同じ構成ページにアクセスするには、リストで既存のテンプレートを選択して、[タスク] > [プロパティ] をクリックします。これにより（以下で説明するウィザードではなく）ダイアログボックスが開きますが、ページと構成オプションは同じです。

プロパティ

[プロパティ] ページで、次のオプションを指定します。

- RAS テンプレート: テンプレートの名前を選択して入力します。
- 最大ゲスト数: テンプレートから作成できるゲストクローンの最大数を指定します。

- 事前作成ゲスト：自動的に事前作成するゲストクローンの数を指定します。ユーザーは接続先としてこれらのゲストを直ちに使用できます。
- ゲスト名：テンプレートから作成されるゲストクローンの名前を指定します。各ゲストの名前を一意にするために、ゲスト ID がこの名前に追加されます。
- 未使用のゲストを削除します：このオプションを有効にすると、特定の期間使用されていないゲストクローンを自動的に削除します。[次の時間経過後] ドロップダウンリストを使用して、期間を指定します。

詳細

[詳細] ページで、次のオプションを指定します。

- フォルダー：この RAS テンプレートから作成されるゲストクローンを保存するフォルダーを指定します。このオプションは、Hyper-V、Hyper-V Failover Cluster、VMware vCenter、および Citrix XenServer を使用している場合に利用できます。
- ネイティブプール：ゲストクローンを追加するネイティブプールを指定します。このオプションは、VMware ESX および VMware vCenter を使用している場合に利用できます。

SysPrep

[SysPrep] ページで、RAS テンプレート内の Windows の SysPrep 設定を構成できます。

次のオプションがあります。

- コンピューター名：ゲストクローンに割り当てるコンピューター名を指定します。
- オーナー名：オーナー名を指定します。
- 組織：組織名を指定します。
- 管理者パスワード：Windows の管理者パスワードを指定します。
- Workgroup に追加する：バーチャルゲストクローンをワークグループに含める場合は、このオプションを選択して、ワークグループを指定します。
- ドメインに参加：バーチャルゲストクローンをドメインに含める場合は、このオプションを選択して、ドメイン名と資格情報を指定します。

ライセンスキー

[ライセンス] ページで、RAS テンプレートにインストールされている Windows のアクティベーション用のライセンスキーとキーの制限を指定できます。

キーを追加するには、次の操作を実行します。

- 1 [追加] ボタンをクリックします。
- 2 [ライセンスキー] フィールドに有効なキーを入力します。

- 3 [最大ゲスト数] フィールドに、このテンプレートから作成できるゲストの最大数を指定します。
- 4 [OK] をクリックします。
- 5 [完了] ボタンをクリックして、テンプレート構成情報を保存します。

後からテンプレート構成情報を変更する必要がある場合は、RAS テンプレートリストでテンプレートを選択して、[タスク] > [プロパティ] をクリックします。開いたダイアログボックスを使用して、テンプレートのプロパティを表示して変更します。

RAS テンプレートのメンテナンス

テンプレートに対しては、テンプレート構成プロパティの確認と変更以外にも、いくつかのメンテナンスタスクを実行できます。これらのタスクについて、以下に説明します。

テンプレートから作成したバーチャルゲストの表示

テンプレートから作成したバーチャルゲストのリストを表示するには、リストでテンプレートを選択して、[タスク] > [情報] をクリックします。[テンプレートゲストのリスト] ダイアログに、バーチャルゲストとその関連情報がリスト表示されます。画面の下部で残りのライセンス数情報も確認できます。

テンプレート内の RAS Guest Agent のアップデート

RAS テンプレートには、RAS Guest Agent の最新バージョンがインストールされている必要があります。RAS Guest Agent はテンプレートの作成時にインストールされます。RAS Guest Agent の新しいバージョンが入手できるようになったら、RAS Guest Agent をアップデートする必要があります。

テンプレート内の RAS Guest Agent のステータスを確認するには、[タスク] > [アップデート] をクリックします。エージェントが最新である場合、メッセージボックスには最新の状態を確認したことが表示されます。

RAS Guest Agent の新しいバージョンが入手できる場合は、アップデートするかどうかを尋ねるダイアログが表示されます。[はい] をクリックして、エージェントをアップデートします。[いいえ] をクリックした場合は、後でステータスを再度確認し、その際に RAS Guest Agent をアップデートできます。

テンプレートメンテナンスモードの使用

テンプレート内の Windows をアップデート（サービスパックや新しいソフトウェアのインストールなど）する必要がある場合は、テンプレートをメンテナンスモードにする必要があります。このためには、テンプレートを選択して、[タスク] > [メンテナンス] をクリックします。

メンテナンスモードではテンプレートからゲストを作成できないため、テンプレートは、[RAS テンプレート] リストでグレーアウトされています。メンテナンスモードでは、テンプレートを通常のバーチャルマシンとして起動し、必要に応じて構成できます。変更を適用してバーチャルマシンをシャットダウンしたら、[タスク] > [メンテナンス] を再度クリックして、標準のテンプレートモードに切り替えます。

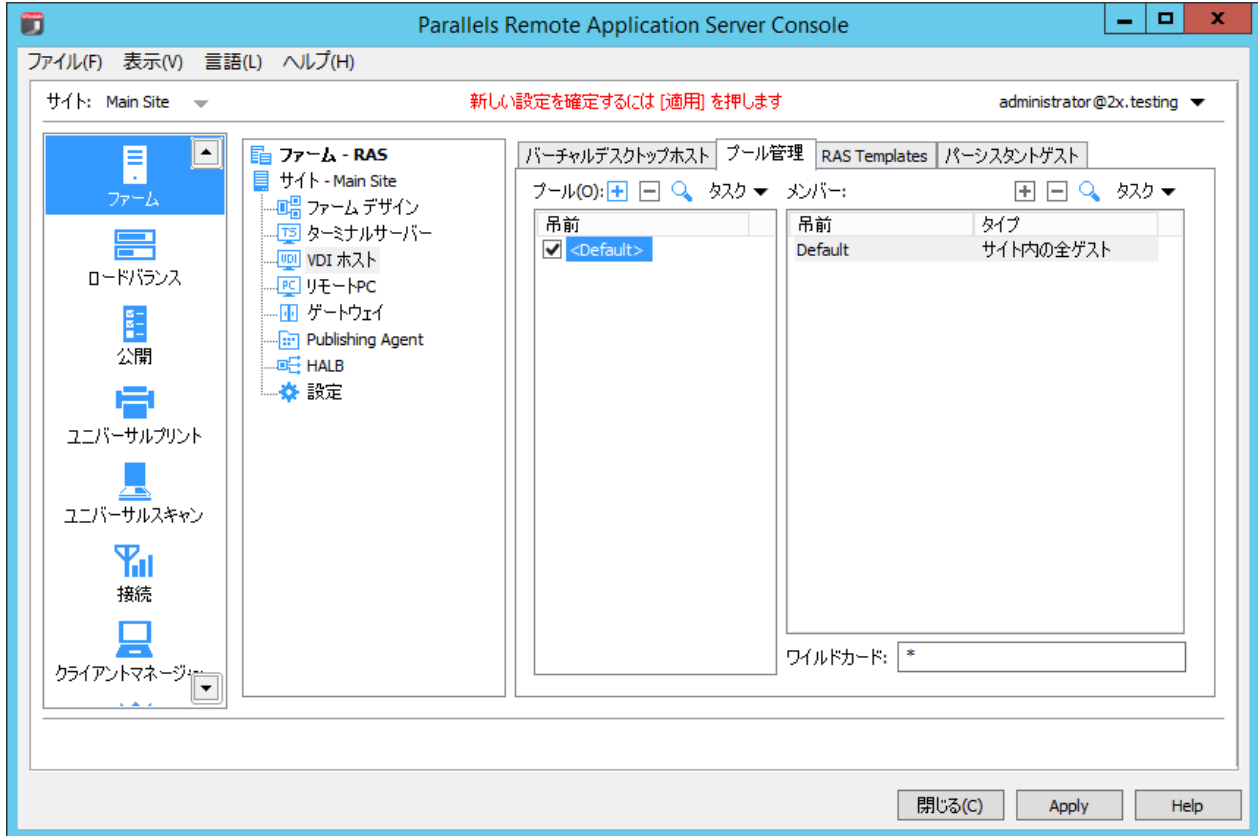
テンプレートがメンテナンスモードのときに Windows に適用されたアップデートは、以降のクローンにのみ反映されます。このテンプレートから作成された既存のゲストには反映されません。

RAS テンプレートの構成が完了したら、RAS Console のメインウィンドウにある [適用] ボタンをクリックして、変更内容を Parallels Remote Application Server で確定します。

VDI ホストのプール管理

多くのバーチャルゲストを管理する場合、特に、ゲストが大規模な企業インフラストラクチャに実装されている場合は、プールによって管理者の柔軟性が高まります。RAS Console では、プール管理の包括的な基盤を作成するのに必要なフレームワークとツールを利用できます。

プールを管理するには、RAS Console で、[ファーム] / <site_name> / [VDI ホスト] に移動してから、[プール管理] タブをクリックします。



プールの追加および削除

プールを追加するには、[プール] リストの上にある [タスク] ドロップダウンメニューをクリックして、[追加]（またはプラス記号アイコン）をクリックします。プール名を入力して、編集フィールド外の任意の場所をクリックします。

プールを削除するには、削除するプールを右クリックして [削除] をクリックします（またはマイナス記号アイコンをクリックするか、[タスク] > [削除] をクリックします）。

プールメンバーの追加および削除

VDI プールには、さまざまなタイプのメンバーを追加できます。メンバーとして、利用可能なすべてのゲスト、特定のゲスト、テンプレートから作成されたゲスト、さらに他のプールを指定できます。

メンバーをプールに追加するには、次の操作を実行します。

- 1 [プール] リストでプールを選択します。
- 2 [メンバー] リストの上にある [タスク] ドロップダウンメニューで [追加] をクリックして、次のリストからメンバーのタイプを選択します。
 - サイト内の全ゲスト:サイトに配置されているすべての VDI ホスト上のすべてのゲスト。
 - ホスト内の全ゲスト:特定の VDI ホストに配置されているすべてのゲスト。このオプションをクリックすると、VDI ホストを選択できるようになります。
 - ゲスト:ファームに配置されている特定のゲスト。このオプションをクリックすると、リストからゲストを選択できるようになります。
 - ネイティブプール:ハイパーバイザー内でプールとしてネイティブに構成されたゲストのグループ。ハイパーバイザーでは、プールに関して別の用語 (リソースプールなど) を使用する場合があります。このオプションをクリックすると、リストからネイティブプール (利用可能な場合) を選択できるようになります。
 - プール:Parallels Remote Application Server の既存のプール (プールのネスト化)。このオプションをクリックすると、リストから既存のプールを選択できるようになります。
 - RAS テンプレート:RAS テンプレートから自動的に作成されるゲスト。このオプションを選択すると、RAS テンプレートを選択できるようになります。RAS テンプレートの詳細については、「RAS テンプレートの管理」 (p. 78) 照してください。
- 3 上記のメニュー項目の 1 つ ([サイト内の全ゲスト] を除く) をクリックすると、利用可能なホスト、ゲスト、プール、またはテンプレートのリストが表示され、それらを選択できます。[サイト内の全ゲスト] 項目は、利用可能なすべてのゲストがプールに追加されたときに、単にメンバーリストに追加されるだけです。

プールからメンバーを削除するには、プールを選択してから、削除するプールメンバーを選択して、[タスク] > [削除] をクリックします。

プールでのバーチャルゲストの構成

プールに含まれるバーチャルゲストを構成するには、プールを選択し、[タスク] > [プールにゲストを表示する] をクリックして、[バーチャルゲストのリスト] ダイアログを開きます。

RAS ゲストエージェントのステータスの確認

バーチャルゲストには RAS ゲストエージェントがインストールされている必要があります。RAS テンプレートからゲストを作成すると、エージェントがデフォルトでインストールされます。ネイティブのハイパーバイザツールを使用して RAS Console の外部からゲストが作成されている

場合は、RAS ゲストエージェントがインストールされていない可能性があります。この場合、ゲストはデスクトップとしてのみ機能できますが、アプリケーションやドキュメントはゲストに含まれません。一般に、RAS ゲストエージェントをバーチャルゲストにインストールすることをお勧めします。

RAS ゲストエージェントがゲストにインストールされているかどうかをチェックするには、次の手順を実行します。

- 1 リストでゲストを選択し、[タスク] > [エージェントをチェック] をクリックします。
- 2 [ゲストエージェントの情報] ダイアログが開き、RAS ゲストエージェントの情報が表示されます。
- 3 エージェントがインストールされていない場合、[インストール] ボタンをクリックして指示に従います。バーチャルゲスト内で実行されている Windows にエージェントがプッシュインストールされます。

ゲストの電源操作の実行

ダイアログの下部にある電源操作アイコンを使用すると、バーチャルゲストの開始、停止、サスペンド、リセットができます。

バーチャルゲストのプロパティの構成

バーチャルゲストのプロパティを表示および変更するには、次の手順を実行します。

ゲストを選択し、[タスク] > [プロパティ] をクリックします。[ゲスト詳細設定] ダイアログが開きます。このダイアログで次のプロパティを構成します。

- このゲストを使用しない：これを選択すると、ゲストは使用されません。
- コンピューター名：このゲストへの接続に使用するネットワーク名（ドメイン名 / IP アドレス）を指定します。
- ポート：このゲストへの接続に使用するポート番号を指定します。
- デフォルト設定を上書きする：これをクリアすると、グレーアウトされたプロパティに対してデフォルト設定が使用されます。デフォルト設定を上書きするには、このオプションを選択して独自の値を指定します。
 - デフォルト設定の表示および変更を行うには、[デフォルト設定] ボタンをクリックします。デフォルト設定の設定方法については、以下の「デフォルトのゲストプロパティの構成」を参照してください。
- 接続タイムアウト：この時間内にゲストとの接続を確立できない場合、Parallels Remote Application Server は接続の試みをキャンセルします。

- プロトコル : ゲストとの通信に Parallels Remote Application Server で使用するプロトコルを指定します。
- セッションが切れてから : ユーザーがセッションから切断された場合に実行するアクションを指定します。[次の時間経過後] フィールドでは、選択したアクションを実行するまでに経過する必要がある時間を指定します。
- 切断されたセッションの終了 : 切断されたセッションを終了するかどうか（および切断されたセッションをいつ終了するか）を指定します。セッションが依然として利用可能な場合、ユーザーは以前のセッションに再接続できます。

[OK] をクリックし、変更内容を保存してダイアログを閉じます。

デフォルトのゲスト設定の構成

デフォルトのゲスト設定を構成するには、[バーチャルゲストのリスト] ダイアログで、[タスク] > [デフォルト設定] をクリックします（または歯車アイコンをクリックします）。[デフォルトゲスト詳細設定] ダイアログを使用して、デフォルト設定を指定します。これらのプロパティの詳細については、上記の説明を参照してください。

ワイルドカード機能の使用

[プール管理] タブの下部にある [ワイルドカード] 入力フィールドを使用して、ユーザーが利用できるゲストを示すワイルドカードを指定できます。ゲストの名前がワイルドカードに一致すると、そのゲストを利用できます。一致しない場合、ユーザーはそのゲストを使用できません。ワイルドカードを指定するには、アスタリスク演算子 (*) を使用します（例：ABC*、*ABC*）。

パーシスタントゲスト

バーチャルゲストから公開されたアプリケーションまたはデスクトップがパーシスタントとして設定されている場合、ユーザーがアプリケーションまたはデスクトップを最初に起動したときに、Publishing Agent によってパーシスタントゲストルールが作成されます。パーシスタントゲストルールは、[パーシスタントゲスト] タブページで構成できます。

パーシスタントゲストルールの削除

パーシスタントゲストルールの削除するには、[パーシスタントゲスト] タブページでルールを選択し、[タスク] > [削除] をクリックします。すべてのルールを削除する場合は、Ctrl+A キーを押してすべてのルールを選択し、Delete キーを押します。

パーシスタントゲストルールの自動削除の構成

[パーシスタントゲスト] タブの下部にある [以下の時間使われていない場合は、自動的にパーシスタントデスクトップを削除する] ドロップダウンメニューで、未使用のパーシスタントゲストルールを保持する最大時間を指定できます。この時間が経過すると、そのルールは自動的に削除されます。また、設定する時間を手動で入力することもできます (1 週間と 3 日など)。

ゲストからの公開

ゲストからのバーチャルデスクトップの公開

ゲストまたはゲストクローンからバーチャルデスクトップを公開するには、次の手順を実行します。

- 4 RAS Console で、[公開] カテゴリーを選択し、[公開済みのリソース] ツリーの下にある [追加] アイコンをクリックします。公開ウィザードが開きます。
- 5 ウィザードの最初のステップで、[デスクトップ] を選択し、[次へ] をクリックします。
- 6 [デスクトップの種類を選択] ページで [バーチャルデスクトップ] を選択し、[次へ] をクリックします。
- 7 [バーチャルデスクトップ] ページで、バーチャルデスクトップの名前と説明 (オプション) を入力し、必要に応じてアイコンを変更します。
- 8 [プロパティ] セクションで、バーチャルデスクトップをどの場所から公開するかを指定します。

まず、[接続先] ドロップダウンリストでオプションを選択し、次にその下のフィールドで追加パラメーターを指定する必要があります (詳細は以下を参照)。

- 任意のゲスト : [プールから] ドロップダウンリストを使用して、プールを指定します。
 - 特定のゲスト : [ゲスト] ドロップダウンメニューを展開してから、リストから特定のゲストを選択して、ゲストを指定します。
 - ゲスト : [プールから] ドロップダウンリストでプールを指定してから、[名前が同じ場合] でユーザー名または IP を指定します。
 - 特定の RAS テンプレート : [RAS テンプレート] ドロップダウンリストを展開して、テンプレートを選択します。
- 9 [パーシスタント] オプションを選択すると、ユーザーの最初の接続時にパーシスタントゲストルールが作成されます。
 - 10 [デスクトップサイズ] セクションで、デスクトップ画面の解像度とサイズを指定します。

11 設定が完了したら [完了] をクリックします。

ゲストからのアプリケーションの公開

ゲストまたはゲストクローンからアプリケーションを公開するには、次の操作を実行します。

- 1 RAS Console で [公開] カテゴリーを選択し、[公開済みのリソース] ツリーの下にある [追加] アイコンをクリックします（または [公開済みのリソース] ボックス内を右クリックし、コンテキストメニューで [追加] をクリックします）。公開ウィザードが開きます。
- 2 [アイテムタイプの選択] ウィザードページで [アプリケーション] を選択し、[次へ] をクリックします。
- 3 [サーバータイプの選択] ページで、[バーチャルゲスト] を選択し、[次へ] をクリックします。
- 4 [アプリケーションタイプの選択] ページで [1 つのアプリケーション] を選択し、[次へ] をクリックします。[バーチャルデスクトップアプリケーション] ページが開きます。
- 5 名前と説明（オプション）を入力します。
- 6 [実行] ドロップダウンメニューで、アプリケーションを通常のウィンドウで実行するか、最大化するか、または最小化するかを指定します。
- 7 [ターゲット] フィールドで、公開するアプリケーションを指定します。[...] ボタンをクリックして、アプリケーションを参照することができます。
- 8 [開始] フィールドで、"start in" フォルダーを指定（または参照）します。パスを手動で入力する場合は、Windows 環境変数を使用します。
- 9 （オプション） [パラメーター] 入力フィールドで、アプリケーションの開始時にアプリケーションに渡すパラメーターを指定します。
- 10 [バーチャルゲストの設定] セクションで、アプリケーションをどの場所から公開するかを指定します。

まず、[接続先] ドロップダウンリストでオプションを選択し、次にその下のフィールドで追加パラメーターを指定する必要があります（詳細は以下を参照）。

- 任意のゲスト : [プールから] ドロップダウンリストを使用して、プールを指定します。
- 特定のゲスト : [ゲスト] ドロップダウンメニューを展開してから、リストから特定のゲストを選択して、ゲストを指定します。
- ゲスト : [プールから] ドロップダウンリストでプールを指定してから、[名前が同じ場合] でユーザー名または IP を指定します。
- 特定の RAS テンプレート : [RAS テンプレート] ドロップダウンリストを展開して、テンプレートを選択します。

- 11 [パーシスタント] オプションを選択すると、ユーザーの最初の接続時にパーシスタントゲストルールが作成されます。
- 12 以上の操作を実行して [完了] をクリックすると、アプリケーションが公開されます。

ゲストからのウェブアプリケーションの公開

ウェブアプリケーションは、他のアプリケーションと同様、標準のアプリケーション公開機能を使用して公開できます。ただし、ウェブアプリケーションに対する URL リンクをそのまま公開する方法を簡素化するために、別の公開アイテムタイプを利用できます。これにより、最小限の手順数で公開タスクを実行できます。

ウェブアプリケーションを公開するには、次の操作を実行します。

- 1 RAS Console で [公開] カテゴリーを選択し、[公開済みのリソース] ツリーの下にある [追加] アイコンをクリックします（または [公開済みのリソース] ボックス内を右クリックし、コンテキストメニューで [追加] をクリックします）。公開ウィザードが開きます。
- 2 [アイテムタイプの選択] ウィザードページで、[ウェブアプリケーション] を選択し、[次へ] をクリックします。
- 3 [サーバータイプの選択] ページで、[バーチャルゲスト] を選択し、[次へ] をクリックします。
- 4 [仮想デスクトップウェブアプリケーション] ウィザードページが開いたら、ウェブアプリケーションの名前、説明、ウィンドウ状態、URL を指定します。必要に応じて、[Internet Explorer の使用を強制] オプションを選択します。特定のアプリケーションアイコンを参照するには、[アイコン変更] をクリックします。
- 5 [バーチャルゲストの設定] セクションを使用して、アプリケーションをどの場所から公開するかを指定します。

次のオプションがあります。

- 任意のゲスト：選択したプール内の任意のゲストからアプリケーションを公開します。このオプションを選択してから、[プールから] ドロップダウンリストでプールを選択します。
- 特定のゲスト：特定のゲストからアプリケーションを公開します。このオプションを選択してから、[プールから] ドロップダウンリストでゲストを選択します。
- ゲスト：このオプションを選択してから、[プールから] でプールを選択します。[名前が同じ場合] ドロップダウンリストで、[ユーザー名] または [IP] を選択します。アプリケーションは選択したプールに属するゲストのうち、名前や IP が、接続先のユーザーのユーザー名や IP と一致するゲストから公開されます。

- 特定の RAS テンプレート : 特定の RAS テンプレートからアプリケーションを公開します。このオプションを選択してから、[RAS テンプレート] ドロップダウンリストでテンプレートを選択します。

[パーシスタント] オプションを選択して、パーシスタントゲストルールを作成します。

- 6 以上の操作を実行して [完了] をクリックすると、アプリケーションが公開されます。

ゲストからのネットワークフォルダーの公開

UNC パスを使用してファイルシステムフォルダーを公開すると、そのフォルダーを Windows エクスプローラーで開くことができます。構成の手順数を最小限にするため、ゲストからネットワークフォルダーを公開できる特殊な公開アイテムを利用できます。

ネットワークフォルダーを公開するには、次の操作を実行します。

- 1 RAS Console で [公開] カテゴリーを選択し、[公開済みのリソース] ツリーの下にある [追加] アイコンをクリックします (または [公開済みのリソース] ボックス内を右クリックし、コンテキストメニューで [追加] をクリックします)。公開ウィザードが開きます。
- 2 [アイテムタイプの選択] ウィザードページで、[ファイルシステム上のフォルダー] を選択し、[次へ] をクリックします。
- 3 [サーバータイプの選択] ページで、[バーチャルゲスト] を選択し、[次へ] をクリックします。
- 4 [仮想デスクトップ UNC フォルダ] ウィザードページで、通常のアプリケーションプロパティを指定します。
- 5 [UNC パス] フィールドに、公開するフォルダーの UNC パスを入力します。[...] ボタンをクリックしてフォルダーを参照します ([フォルダの参照] ダイアログが開くまでに時間がかかることがあります)。
- 6 「ゲストからのアプリケーションの公開」で説明したとおり、[バーチャルゲストの設定] (p. 89) を指定します。
- 7 [完了] をクリックすると、フォルダーが公開され、ウィザードが閉じます。

公開されたネットワークフォルダーは、他のアプリケーションと同様、[公開] > [公開済みのリソース] リストに表示されます。プロパティを表示するには、公開されたネットワークフォルダーを選択して [バーチャルデスクトップアプリケーション] タブをクリックします。

- [ターゲット] プロパティは常に PublishedExplorer.exe に設定されます。このバイナリは (エージェントプッシュによって) 自動的に作成されるもので、標準の explorer.exe 実行ファイルの単純なコピーです。
- [パラメーター] プロパティには、公開するネットワークフォルダーが指定されます。フォルダーパスは、explorer.exe で処理できる任意の形式で指定できます。

ゲストからのドキュメントの公開

ゲストまたはゲストクローンからドキュメントを公開するには、次の操作を実行します。

- 1 RAS Console で [公開] カテゴリーを選択し、[公開済みのリソース] ツリーの下にある [追加] アイコンをクリックします（または [公開済みのリソース] ボックス内を右クリックし、コンテキストメニューで [追加] をクリックします）。公開ウィザードが開きます。
- 2 [アイテムタイプの選択] ウィザードページで [ドキュメント] を選択し、[次へ] をクリックします。
- 3 [バーチャルゲスト] を選択し、[次へ] をクリックします。
- 4 公開するドキュメントのドキュメントタイプを指定します。事前に定義されたリストからドキュメントタイプを選択するか、[ドキュメントタイプ指定] 入力フィールドにカスタムドキュメントタイプを指定できます。
- 5 [次へ] をクリックします。
- 6 [バーチャルデスクトップアプリケーション] ページで、名前、説明（オプション）、ウィンドウの状態を入力し、必要に応じてアイコンを変更します。
- 7 [ターゲット] 入力フィールドの横にある [...] ボタンを使用して、ドキュメントを参照します。他のすべてのフィールドのデータは自動的に読み込まれます。自動読み込みフィールドのいずれかを編集するには、該当のフィールドを選択し、必要な詳細情報を入力します。
- 8 （オプション） [パラメーター] 入力フィールドで、アプリケーションの開始時にアプリケーションに渡すパラメーターを指定します。

注意: 特定のサーバー上でドキュメントを異なる方法で構成する場合は、[サーバー] ドロップダウンリストを使用して、その特定のサーバー用の異なるドキュメント設定を指定します。設定は、個別に選択したサーバーごとに保存されます。

- 9 [バーチャルゲストの設定] セクションで、バーチャルデスクトップをどの場所から公開するかを指定します。

まず、[接続先] ドロップダウンリストでオプションを選択し、次にその下のフィールドで追加パラメーターを指定する必要があります（詳細は以下を参照）。

- 任意のゲスト : [プールから] ドロップダウンリストを使用して、プールを指定します。
- 特定のゲスト : [ゲスト] ドロップダウンメニューを展開してから、リストから特定のゲストを選択して、ゲストを指定します。
- ゲスト : [プールから] ドロップダウンリストでプールを指定してから、[名前が同じ場合] でユーザー名または IP を指定します。
- 特定の RAS テンプレート : [RAS テンプレート] ドロップダウンリストを展開して、テンプレートを選択します。

- 10 [パーシスタント] オプションを選択すると、ユーザーの最初の接続時にパーシスタントゲストルールが作成されます。
- 11 [完了] をクリックしてドキュメントを公開します。

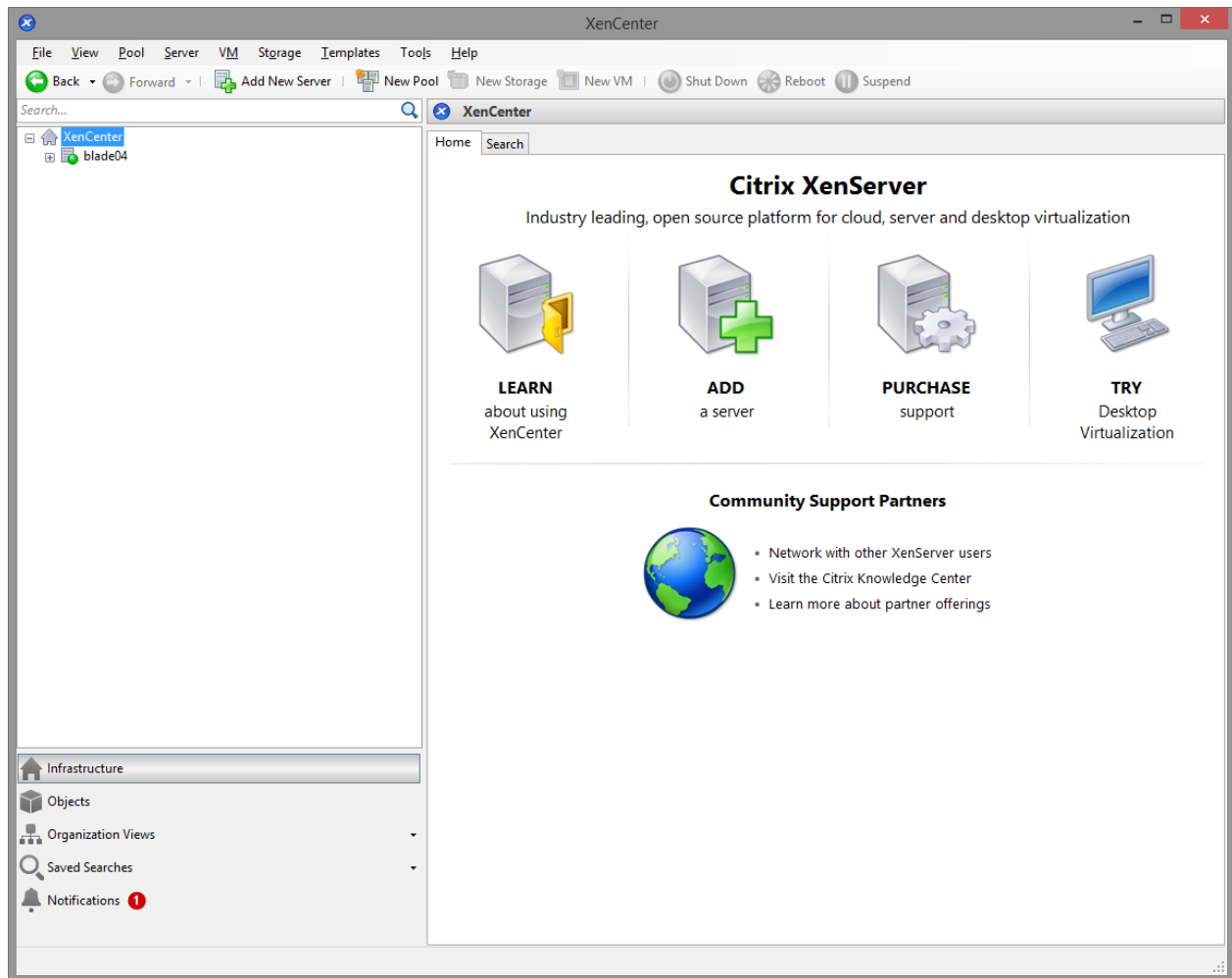
VDI Agent 技術

サーバーを VDI ホストとしてサイトに追加する前に、サーバーにハイパーバイザーをインストールする必要があります。このセクションでは、Parallels Remote Application Server によってサポートされているハイパーバイザーをインストールする方法について説明します。

Citrix XenServer

Parallels Remote Application Server 向けに Citrix XenServer を用意する

環境をセットアップする前に、XenCenter から Citrix XenServer に接続できることを確認してください。



ゲストオペレーティングシステム (Windows) は、RDP サーバーとしての機能を備えた Citrix XenServer 上に作成されている必要があります。

重要: ゲスト名はコンピューター名と同じであるのが理想的です。

ゲスト OS に XenServer ツールをインストールしてください。

ゲスト OS のインストールが完了したら、RDP サーバーが起動していることを確認します。サーバー稼働していることを確認するには、リモートデスクトップクライアントを起動して、(ゲスト OS の) コンピューター名と RDP ポート (デフォルトの RDP ポートは 3389) を使用してゲストオペレーティングシステムに接続します。

Citrix XenServer 用 RAS VDI Agent アプライアンスの設定

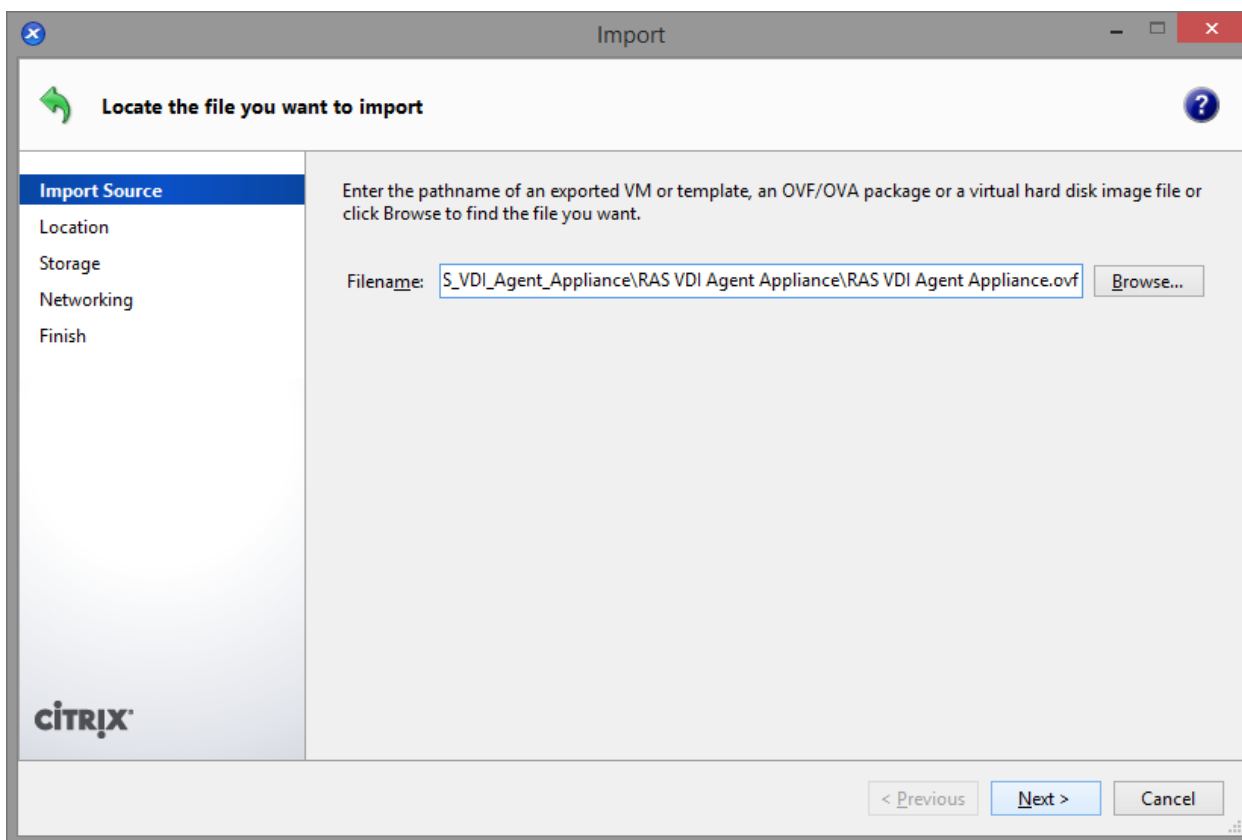
Citrix XenServer 用 RAS VDI Agent アプライアンスは、次の場所からダウンロードできます。

http://download.parallels.com/ras/v15/RAS_VDI_Appliance.ova

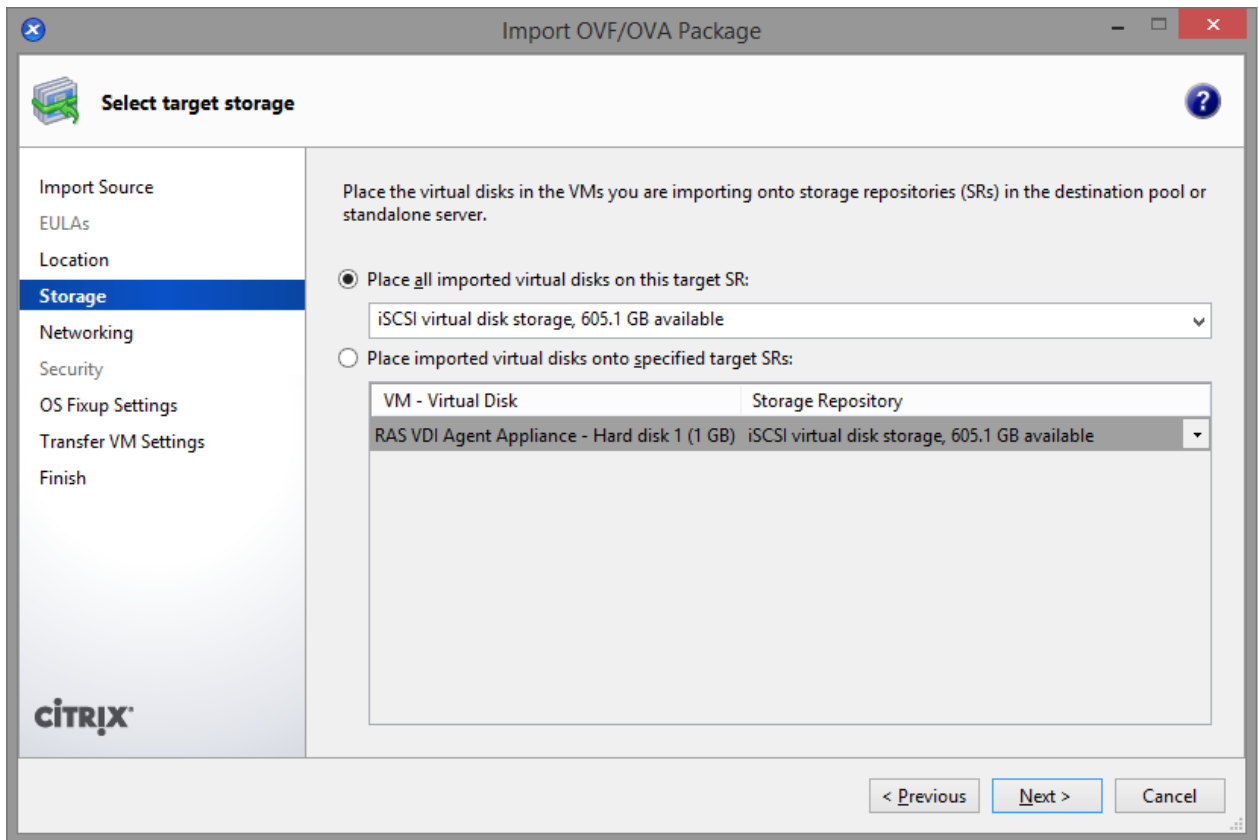
RAS VDI Agent アプライアンスをダウンロードしたら、サーバー上にインストールする必要があります。

アプライアンスをインストールするには、次の操作を実行します。

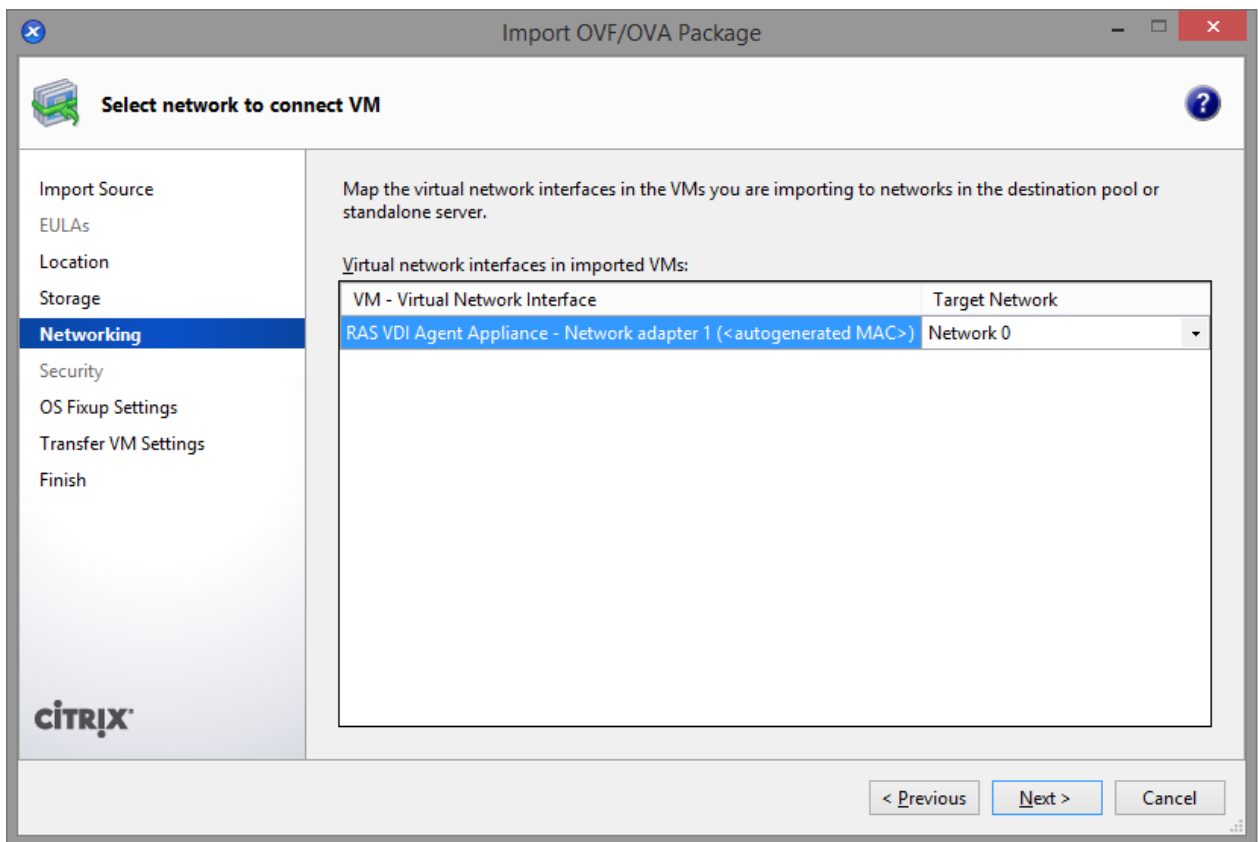
- 1 ZIP ファイルのコンテンツを一時ディレクトリに抽出します。
- 2 XenCenter を開きます。
- 3 ホストを右クリックして、[インポート] を選択します。



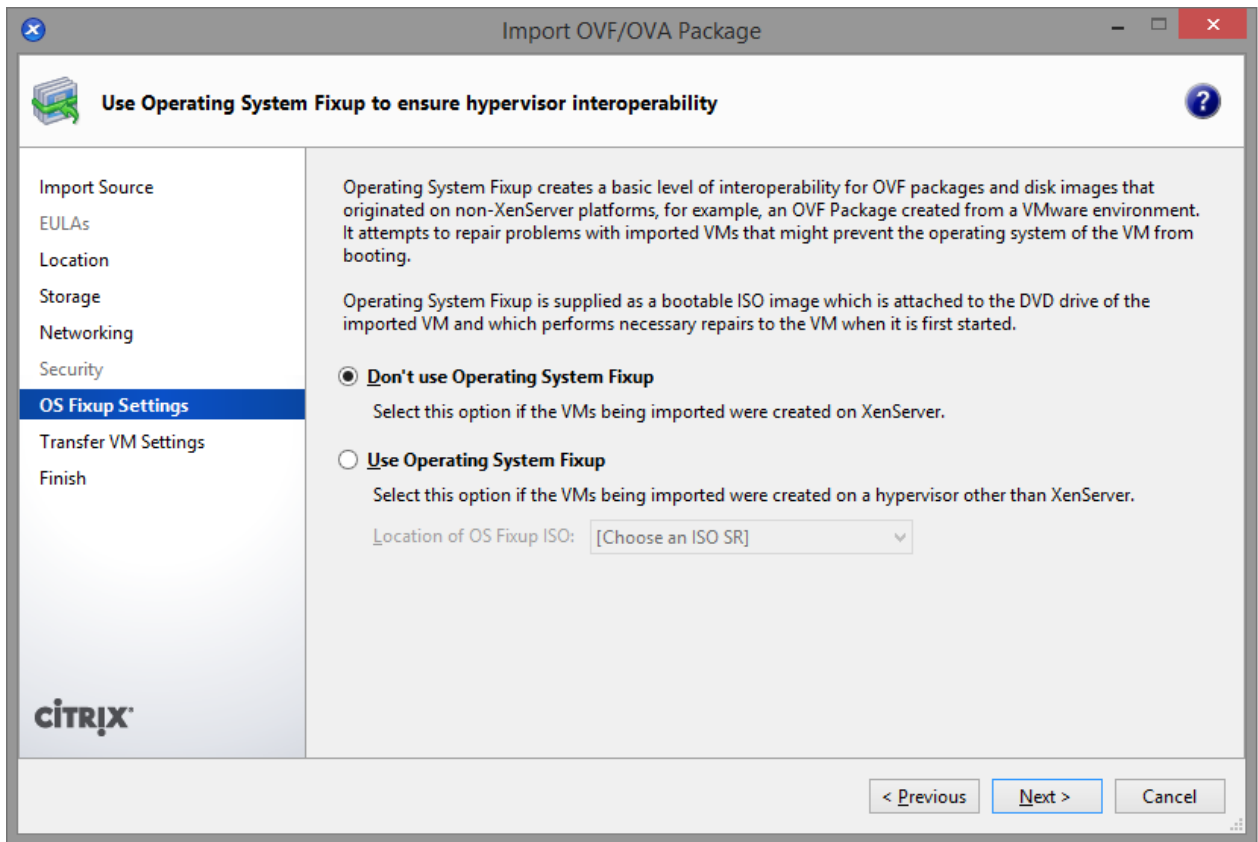
4 ステップ 1 で抽出した OVA ファイルを選択します。



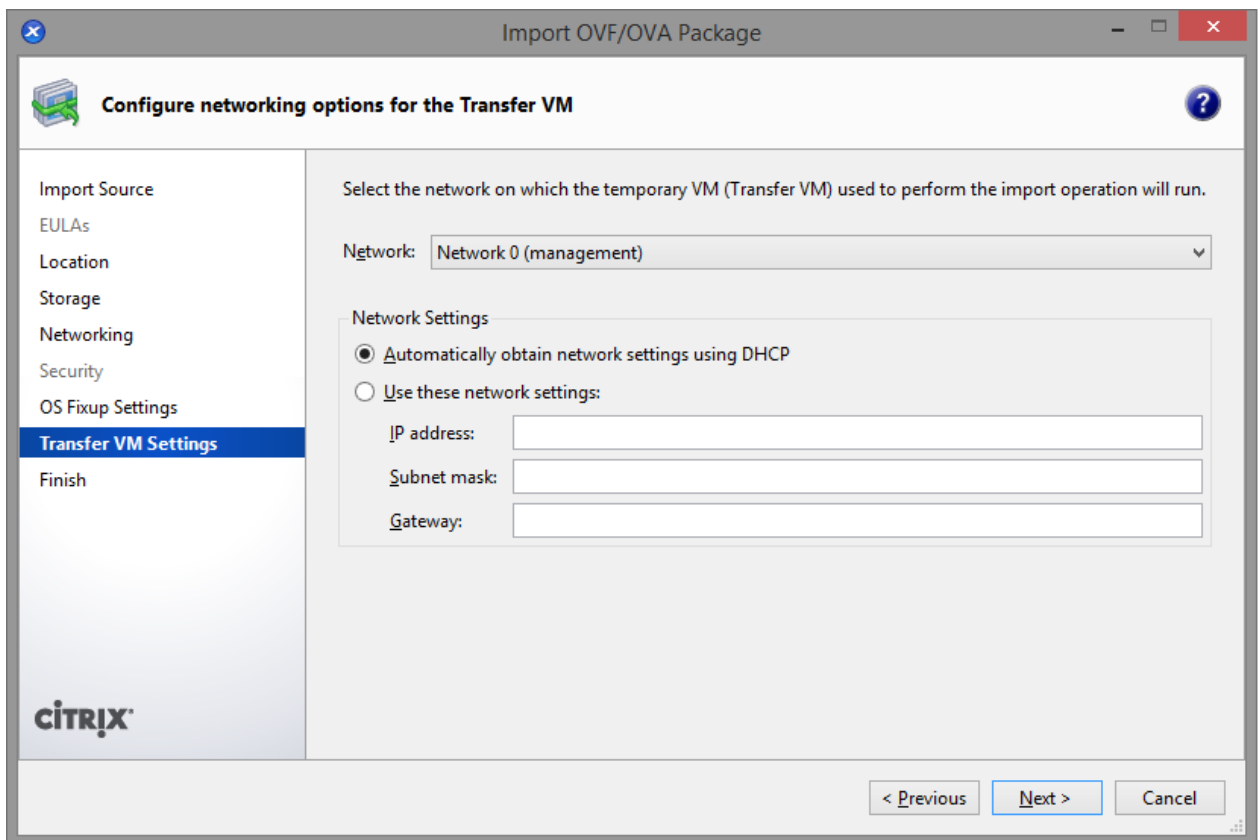
- 5 ストレージの場所を選択し、[次へ] をクリックします。



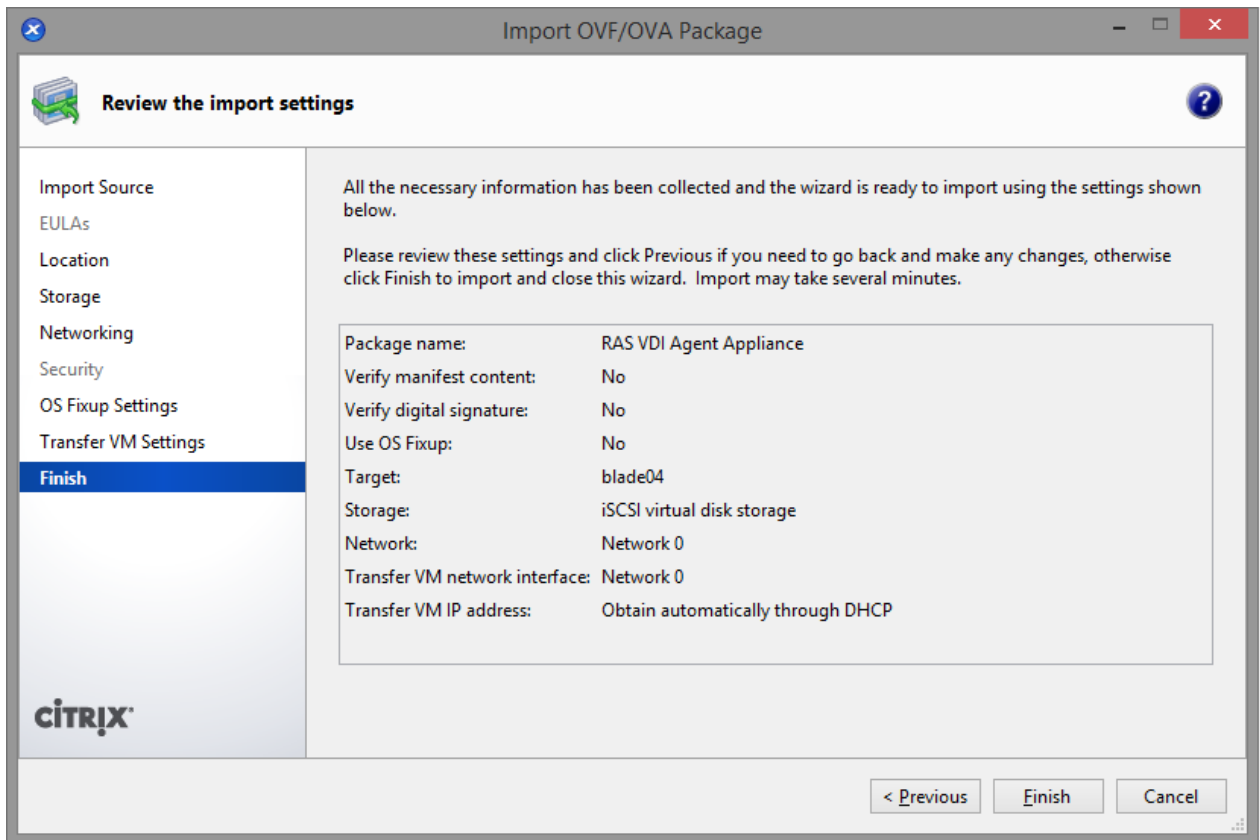
6 ネットワーク設定を構成し、[次へ] をクリックします。



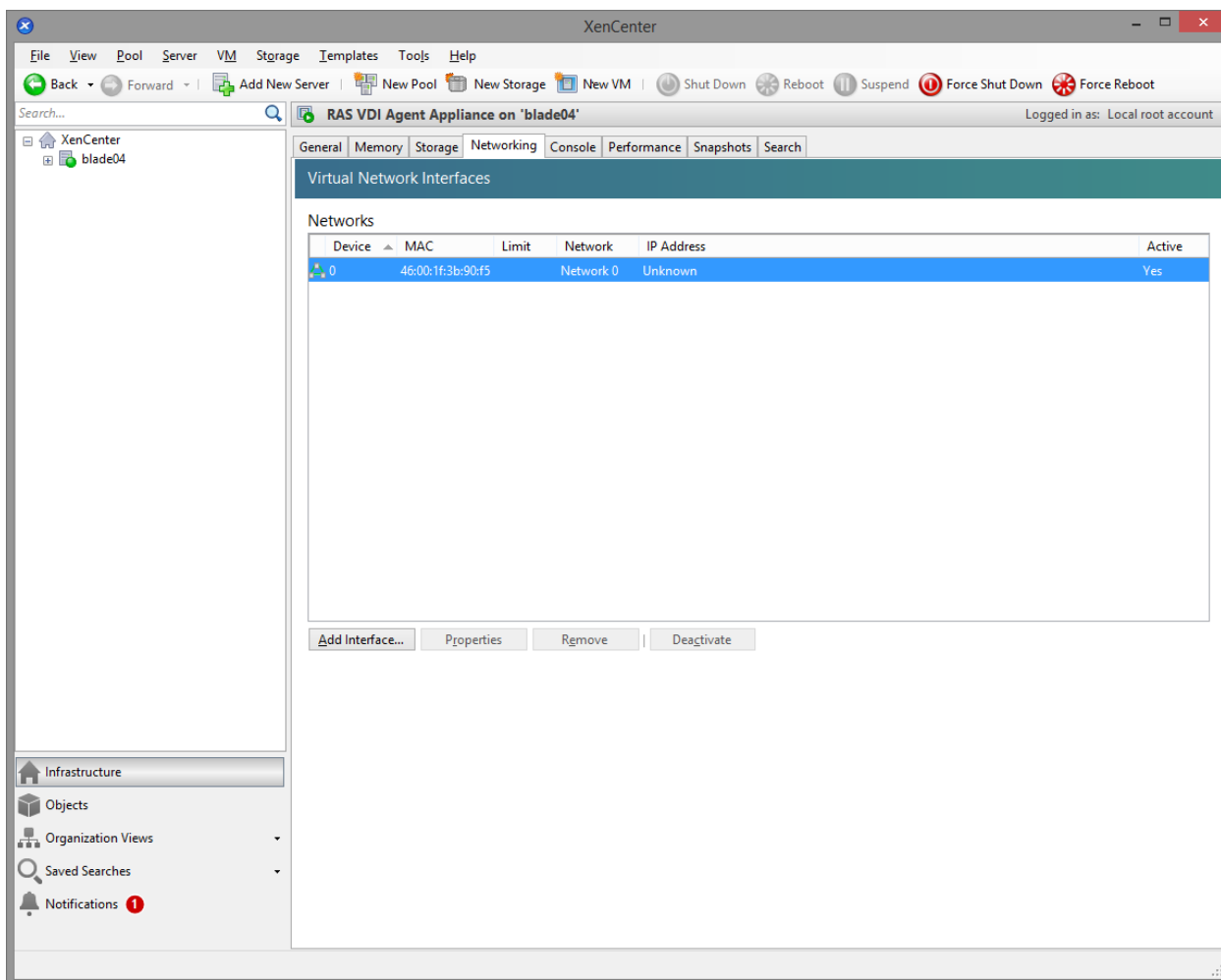
- 7 [オペレーティングシステムの修正] を使用しないように選択します。



- 8 アプライアンスのインポートに使用するネットワークを選択し、[次へ] をクリックします。

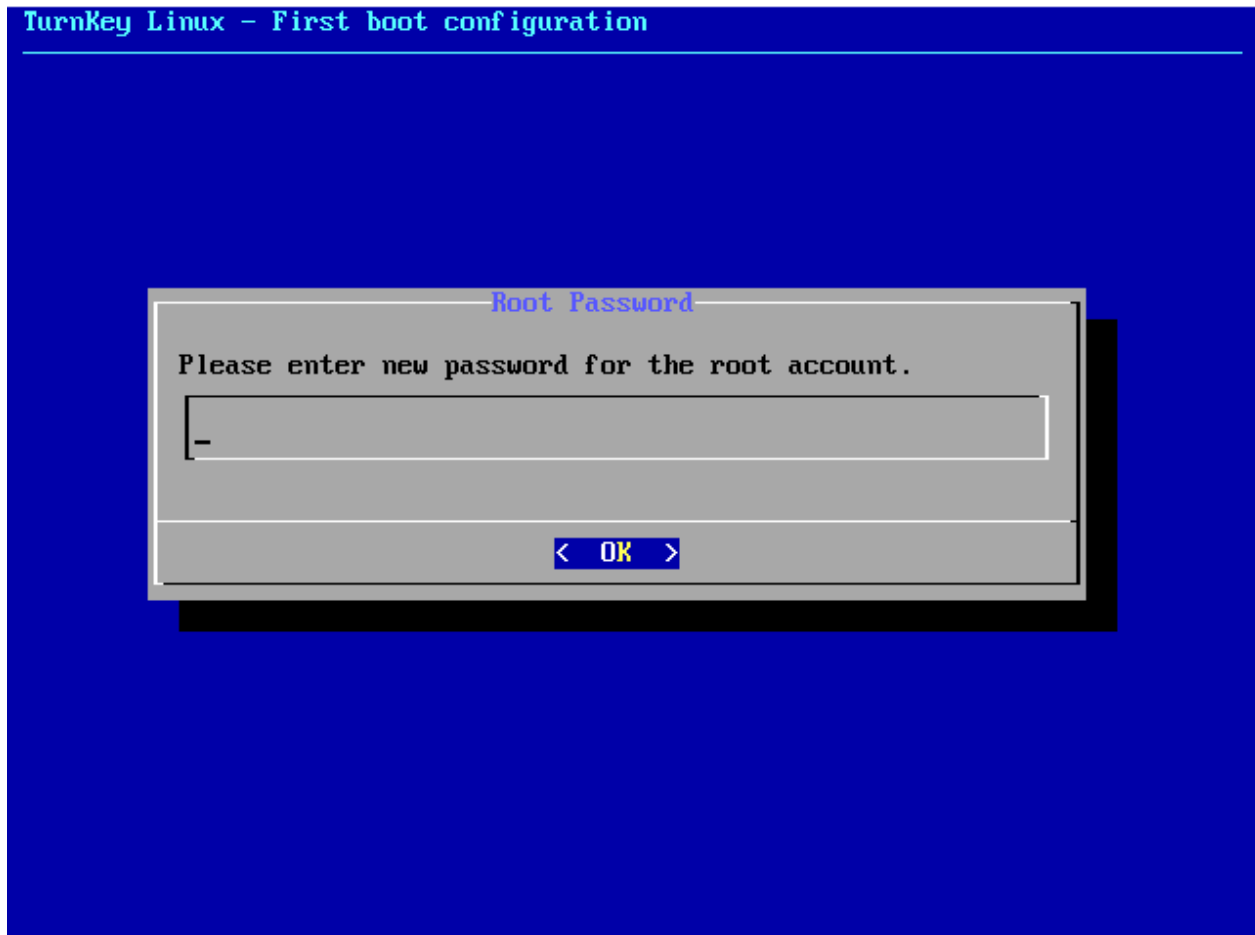


9 [完了] をクリックして、インポートジョブが完了するまで待ちます。



ネットワーク管理者は、固定 IP アドレスをアプライアンスに割り当てる必要があります。

DHCP を使用する場合は、アプライアンスに割り当てられた MAC アドレスにメモし、DHCP 予約を追加してください。DHCP を利用できない場合は、静的 IP アドレスを手動で構成する必要があります。ネットワーク設定を変更するには、[詳細] > [ネットワーキング] メニューを選択します。



Microsoft Hyper-V

Parallels Remote Application Server 向けに Hyper-V を用意する

RAS VDI Agent のシステム要件

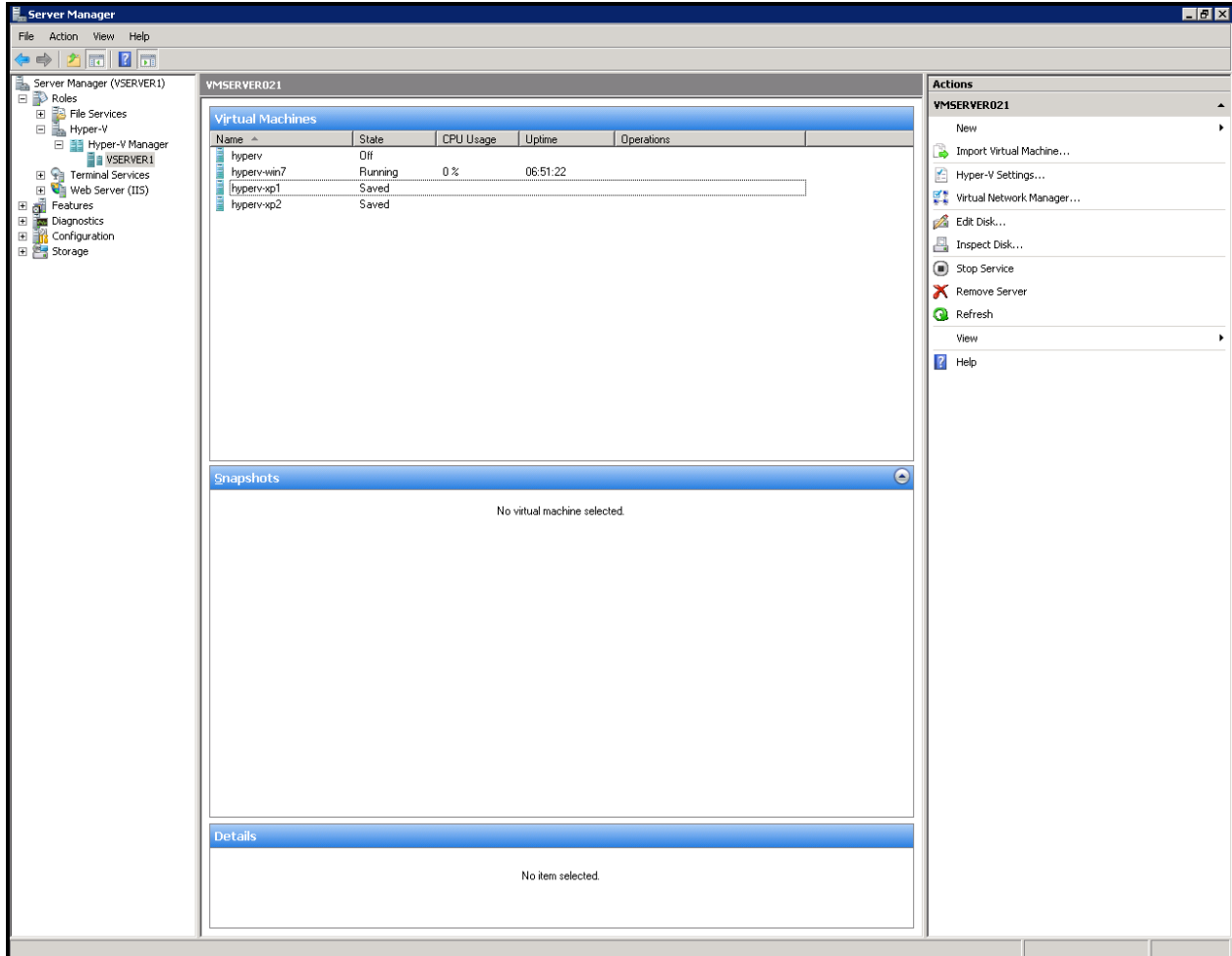
6.0.6001 Windows Server 2008 Standard (フル/サーバーコア)

6.0.6001 Windows Server 2008 Enterprise (フル/サーバーコア)

6.0.6001 Windows Server 2008 Datacenter (フル/サーバーコア)

-
- 6.1.7601 Windows Server 2008 R2 Standard (フル/サーバーコア)
 - 6.1.7601 Windows Server 2008 R2 Enterprise (フル/サーバーコア)
 - 6.1.7601 Windows Server 2008 R2 Datacenter (フル/サーバーコア)
 - 6.1.7600 Hyper-V Server 2008 R2
 - 6.2.9200 Windows Server 2012 Standard (フル/サーバーコア)
 - 6.2.9200 Windows Server 2012 Datacenter (フル/サーバーコア)
 - 6.2.9200 Hyper-V Server 2012
 - 6.3.9600 Windows Server 2012 R2 Standard (フル/サーバーコア)
 - 6.3.9600 Windows Server 2012 R2 Datacenter (フル/サーバーコア)
 - 6.3.9600 Hyper-V Server 2012 R2

環境のセットアップを続行する前に、Hyper-V がインストールされていること、および Windows Server でロールが有効になっていることを確認してください。



ゲストオペレーティングシステム (Windows など) は、RDP サーバーとしての機能を備えた Hyper-V サーバー上に作成されている必要があります。

重要:

- ゲスト名はコンピューター名と同じである必要があります。
- ゲストオペレーティングシステムでは固定 IP アドレスを使用することをお勧めします。

ゲスト OS のインストールが完了したら、RDP サーバーが起動していることを確認します。サーバー稼働していることを確認するには、ホストマシン (Hyper-V サーバー) 上でターミナルサーバークライアントを起動して、(ゲスト OS の) コンピューター名と RDP ポート (デフォルトの RDP ポートは 3389) を使用してゲストオペレーティングシステムに接続します。

VMware vSphere

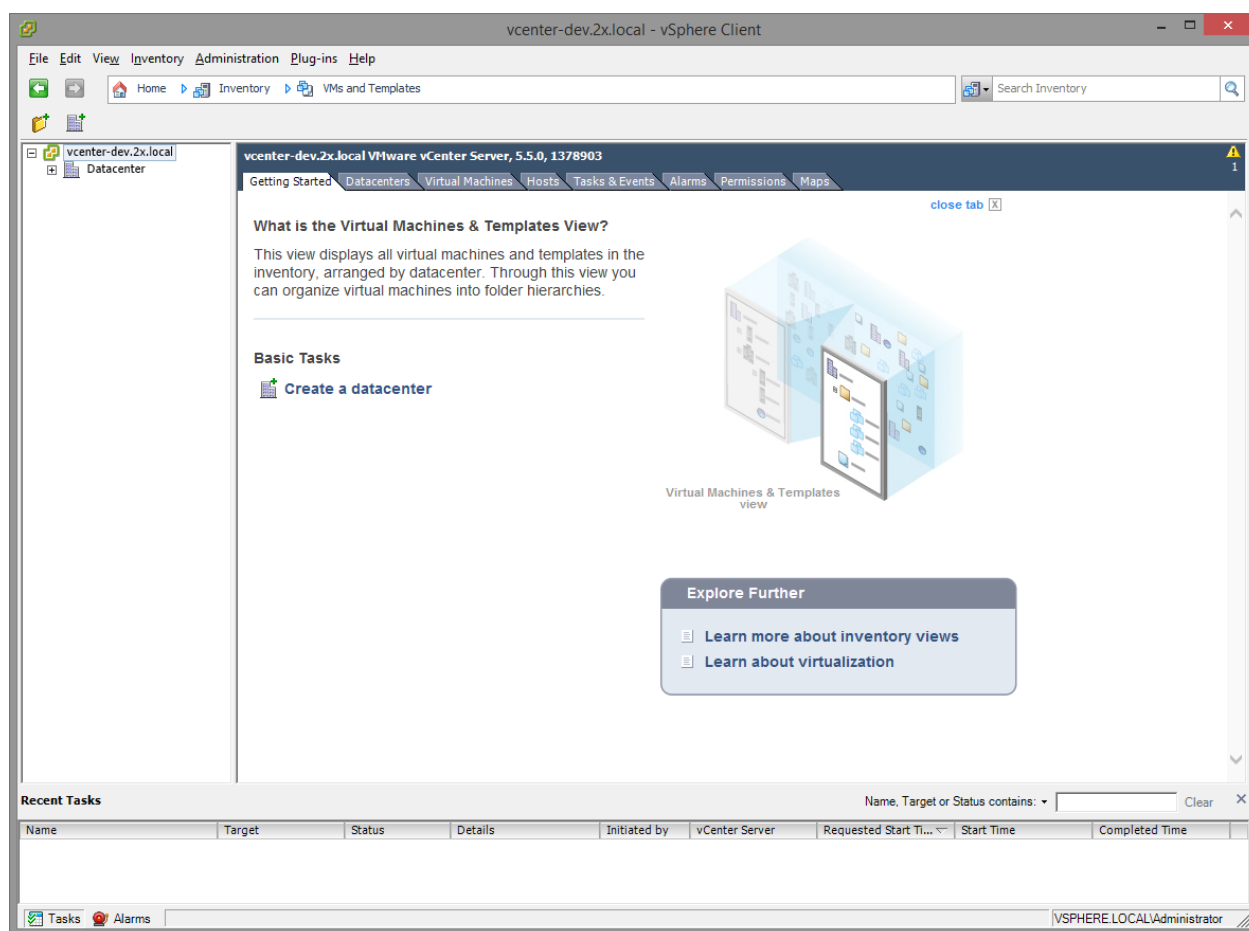
Parallels Remote Application Server 向けに VMware vSphere を用意する

RAS VDI Agent のシステム要件

- VMware ESXi
- VMware vSphere Client
- VMware vCenter

vSphere v5.1 より、ネイティブの vSphere Client の代わりに、vSphere Web Client を使用できるようになりました。

環境のセットアップを続行する前に、VMware vSphere Client が VMware vSphere サーバーに接続できることを確認してください。



ゲストオペレーティングシステム (Windows) は、RDP サーバーとしての機能を備えた VMware vSphere サーバー上に作成されている必要があります。

ゲスト名はコンピューター名と同じであるのが理想的です。

ゲストオペレーティングシステムでは固定 IP アドレスを使用することをお勧めします。

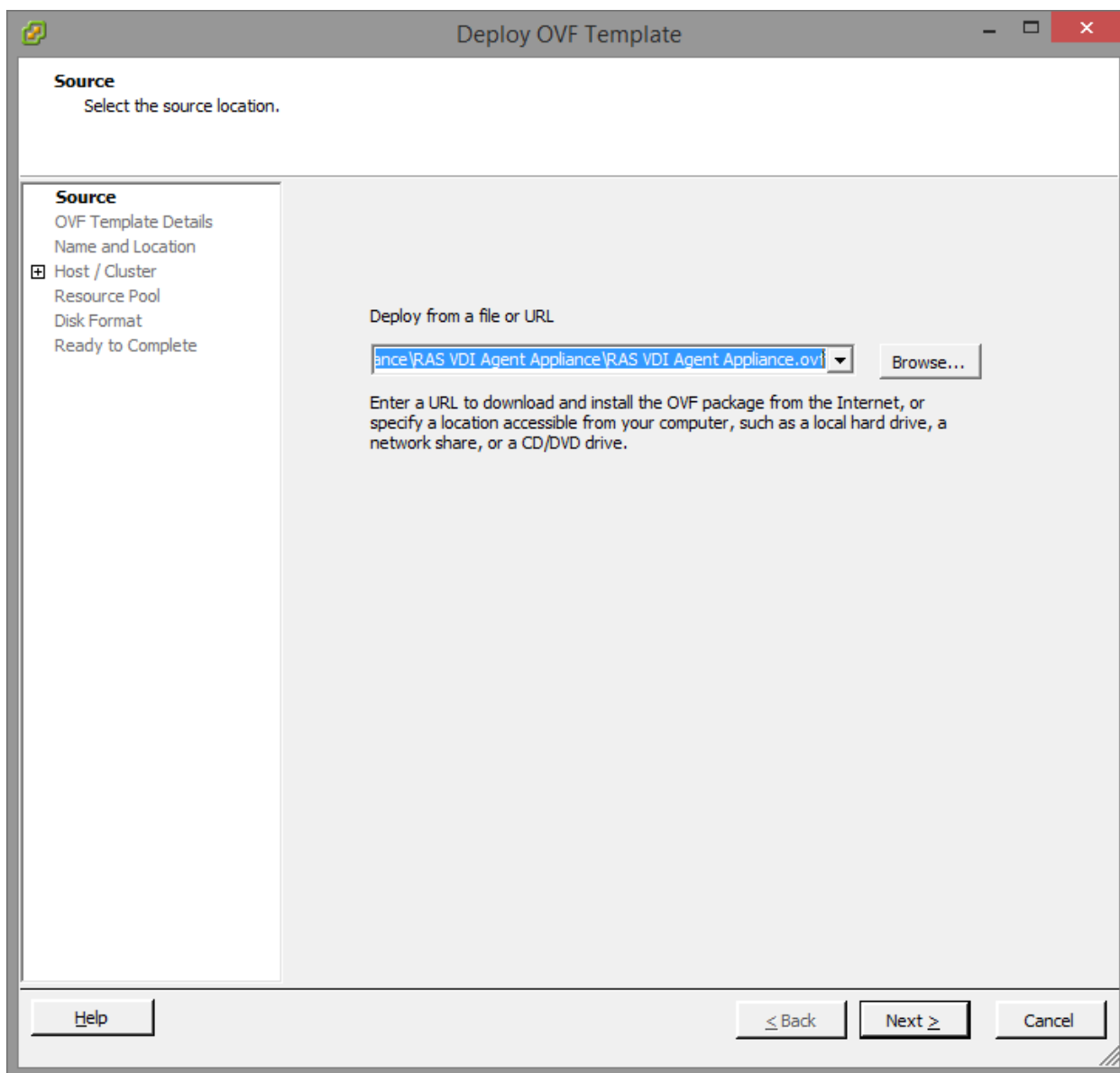
ゲスト OS のインストールが完了したら、RDP サーバーが起動していることを確認します。サーバー稼働していることを確認するには、リモートデスクトップクライアントを起動して、(ゲスト OS の) コンピューター名と RDP ポート (デフォルトの RDP ポートは 3389) を使用してゲストオペレーティングシステムに接続します。

VMware vSphere 用 RAS VDI Agent アプライアンスのセットアップ

ネイティブの vSphere Client の場合は、次の操作を実行します。

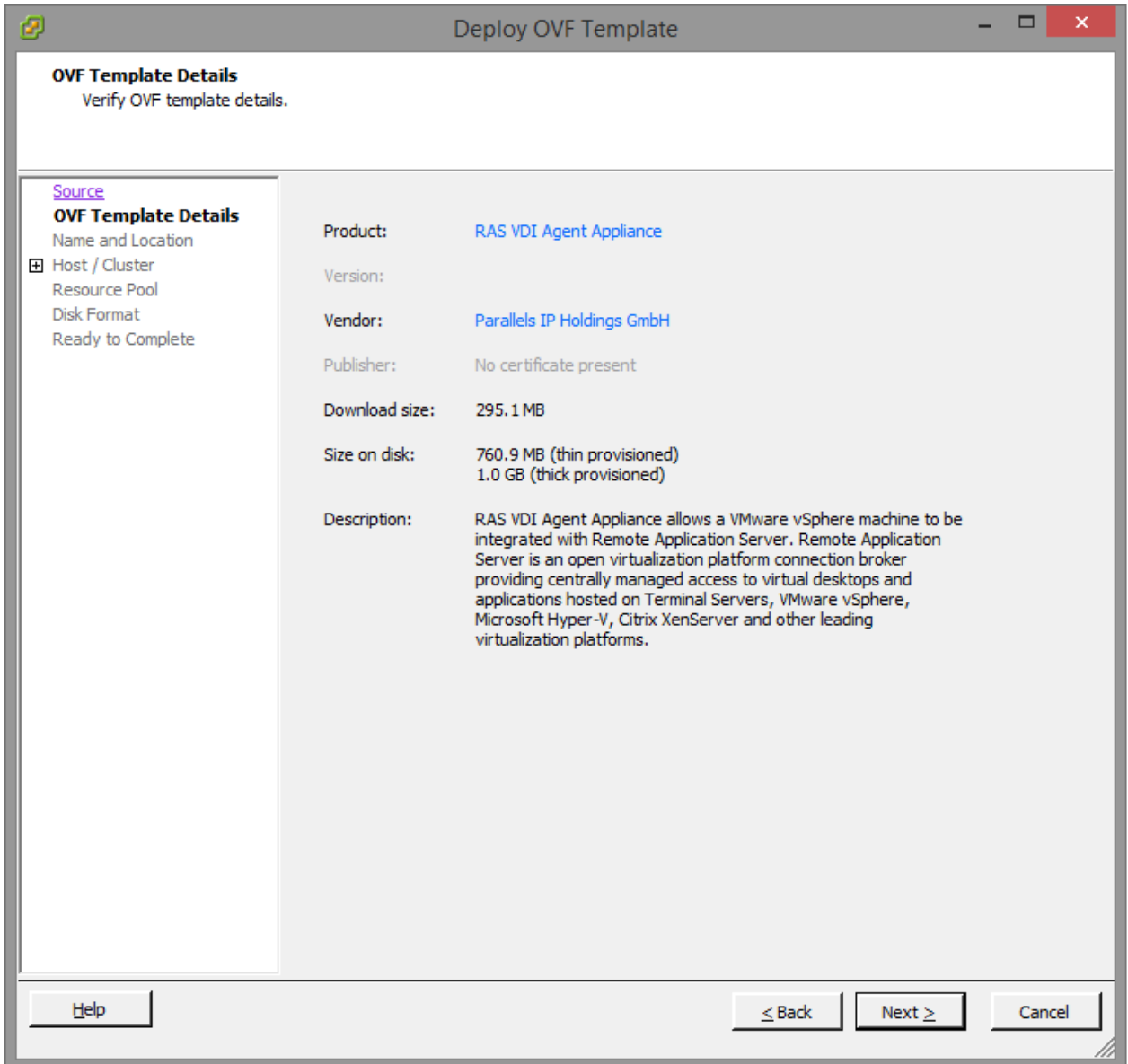
- 1 ZIP ファイルのコンテンツを一時ディレクトリに抽出します。

- 2 VMware vSphere クライアントでログインします。



- 3 [ファイル] メニューで [OVF テンプレートの展開] を選択します。

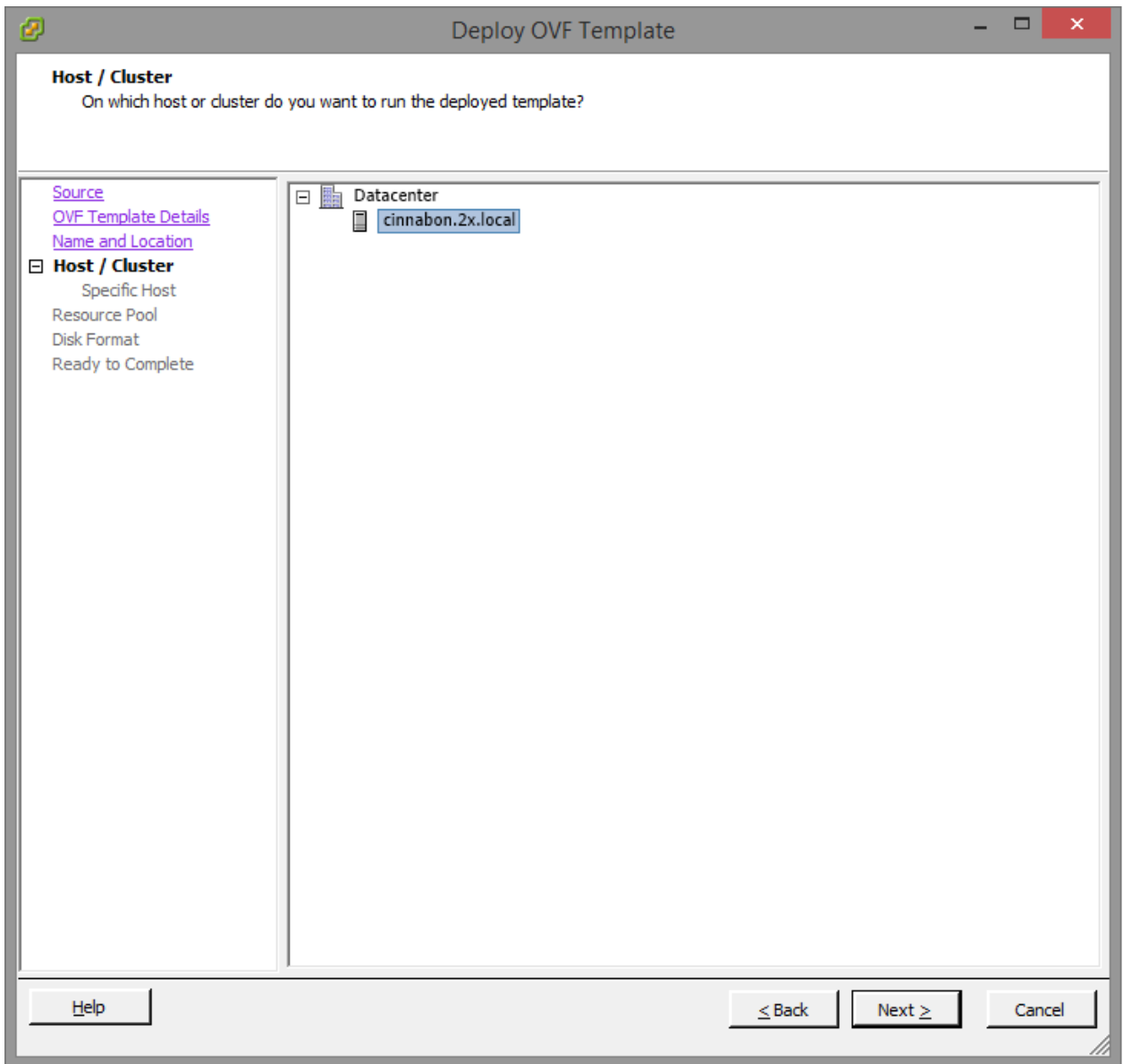
- 4 ZIP ファイル（アプライアンスが含まれている）の抽出先フォルダーを参照し、[次へ] をクリックします。



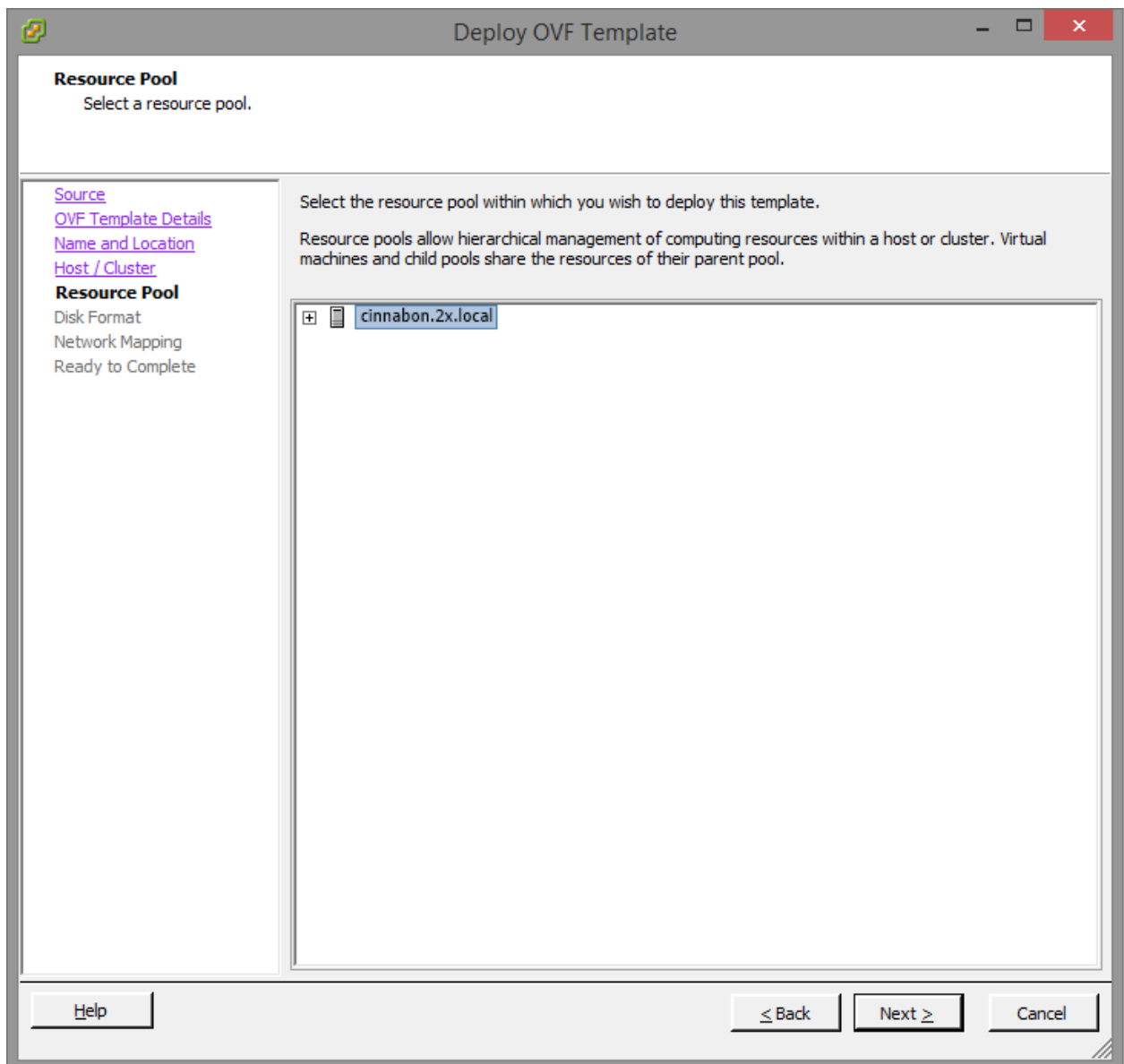
- 5 製品の詳細を確認して、[次へ] をクリックします。

The screenshot shows the 'Deploy OVF Template' wizard window. The title bar reads 'Deploy OVF Template'. The main heading is 'Name and Location' with the instruction 'Specify a name and location for the deployed template'. On the left, a navigation pane shows 'Source', 'OVF Template Details', and 'Name and Location' (which is selected). Under 'Name and Location', the steps are: Host / Cluster, Resource Pool, Disk Format, and Ready to Complete. The main area has a 'Name:' field containing 'RAS VDI Agent Appliance' and a note: 'The name can contain up to 80 characters and it must be unique within the inventory folder.' Below that is an 'Inventory Location:' tree view showing a folder 'vcenter-dev.2x.local' containing a sub-folder 'Datacenter'. At the bottom, there are buttons for 'Help', '< Back', 'Next >', and 'Cancel'.

- 6 展開するテンプレートの名前と場所を選択して、[次へ] をクリックします。



- 7 テンプレートを展開するホストまたはクラスターを選択して、[次へ] をクリックします。



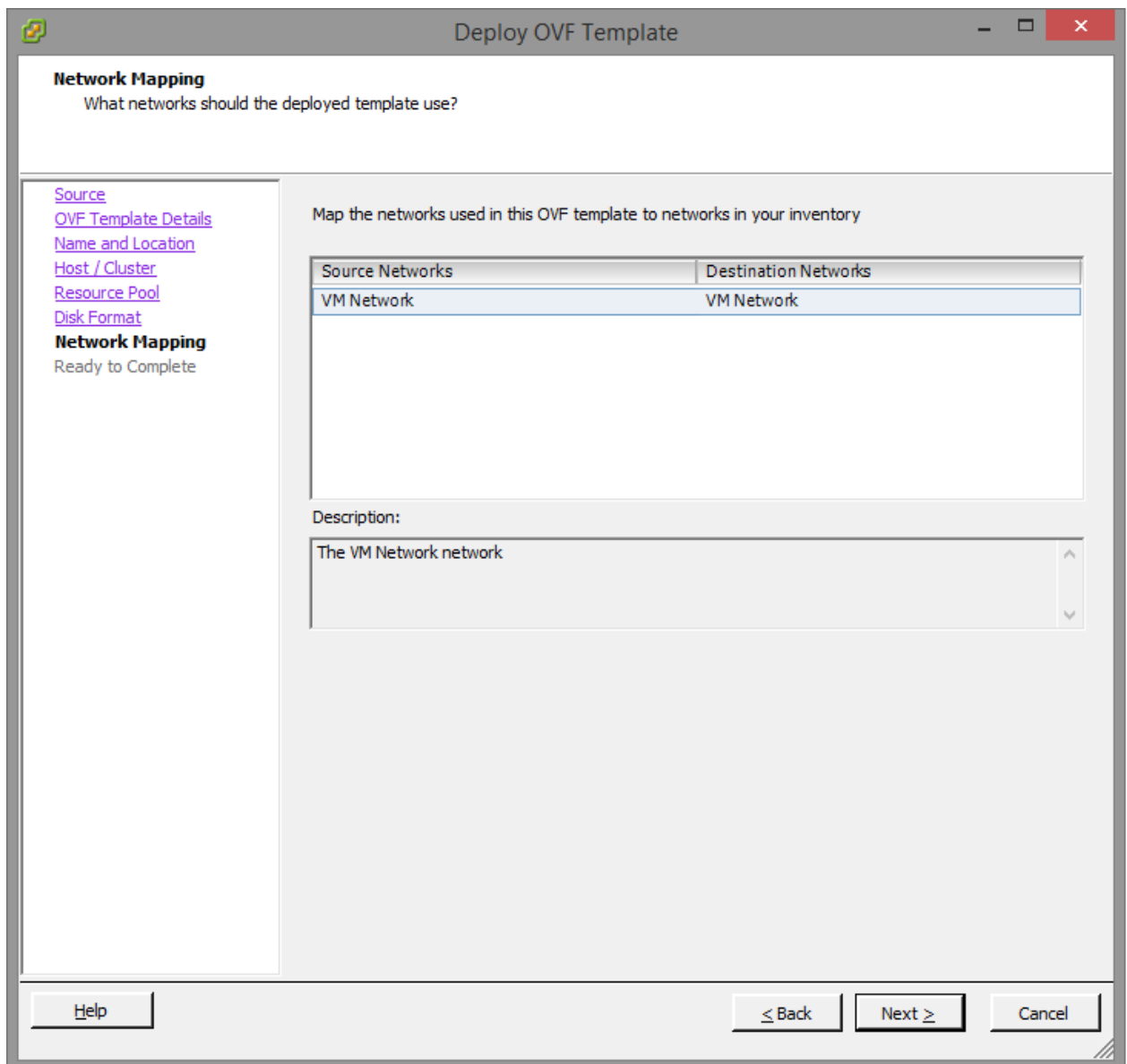
- 8 使用するリソースプールを選択して、[次へ] をクリックします。

The screenshot shows a window titled "Deploy OVF Template" with a "Disk Format" sub-header. Below the header is the question "In which format do you want to store the virtual disks?". On the left, there is a navigation pane with links for "Source", "OVF Template Details", "Name and Location", "Host / Cluster", "Resource Pool", "Disk Format", "Network Mapping", and "Ready to Complete". The "Disk Format" section is active. The main area contains the following fields and options:

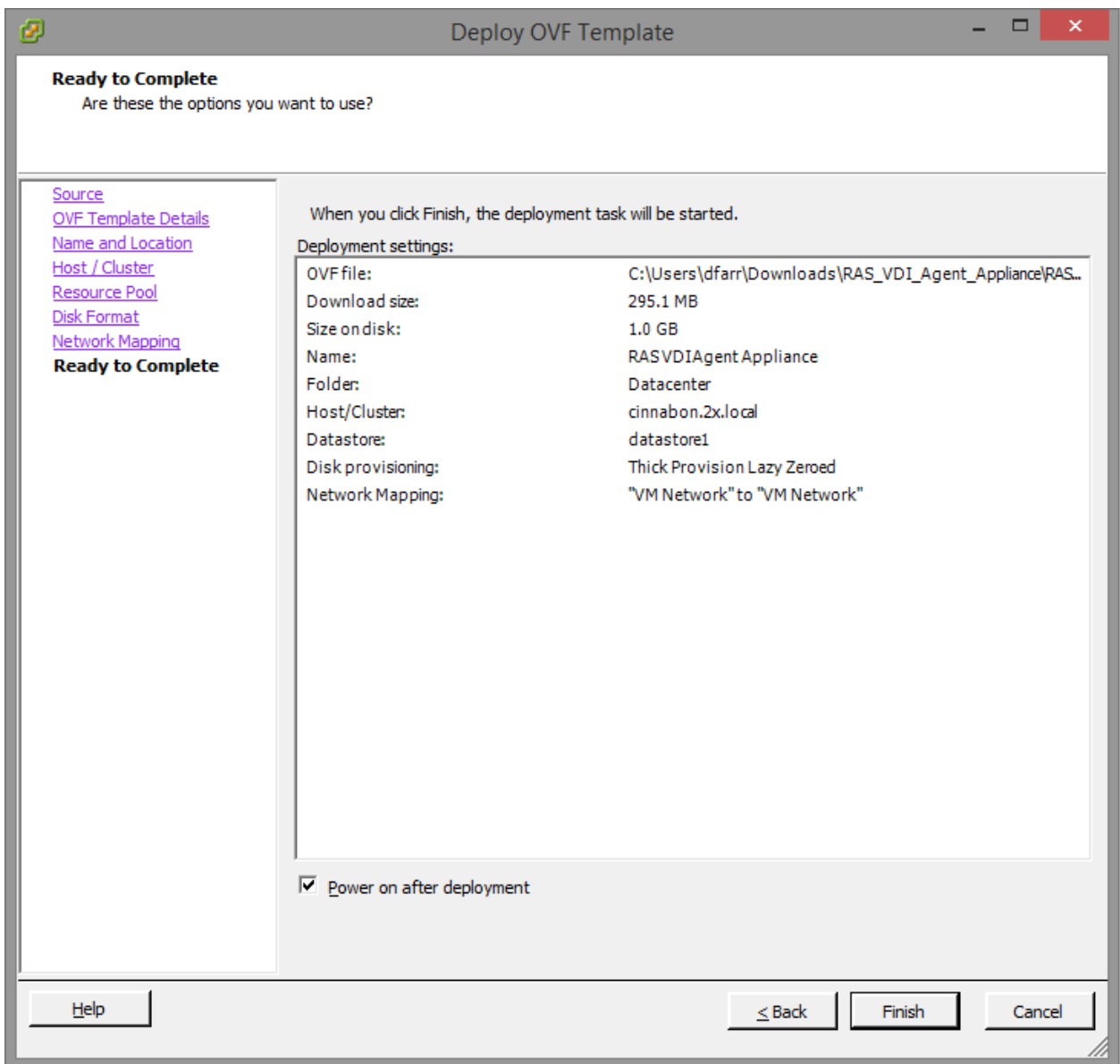
- Datastore:** A text box containing "datastore 1".
- Available space (GB):** A text box containing "1637.2".
- Provisioning options:** Three radio buttons are present:
 - Thick Provision Lazy Zeroed
 - Thick Provision Eager Zeroed
 - Thin Provision

At the bottom of the window, there are three buttons: "Help", "≤ Back", and "Next ≥", along with a "Cancel" button.

- 9 使用するディスクプロビジョニング形式を選択して、[次へ] をクリックします。

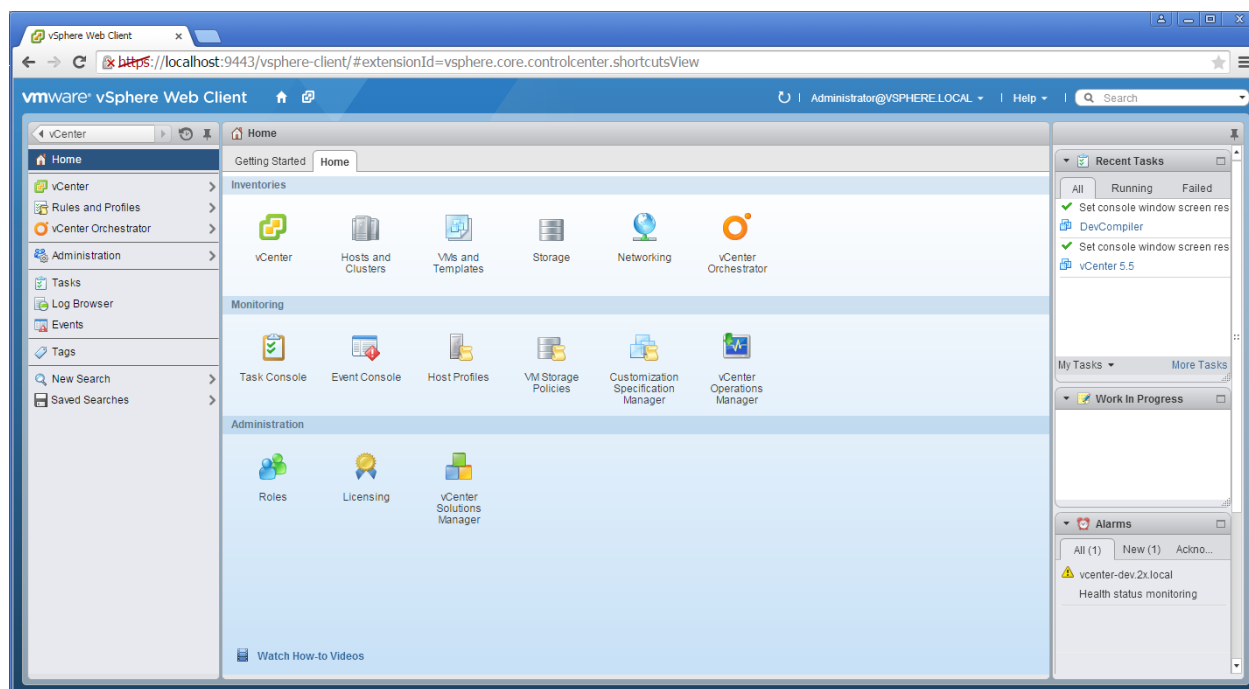


- 10 アプライアンスに適切な VDI ネットワークを選択し、[次へ] をクリックします。

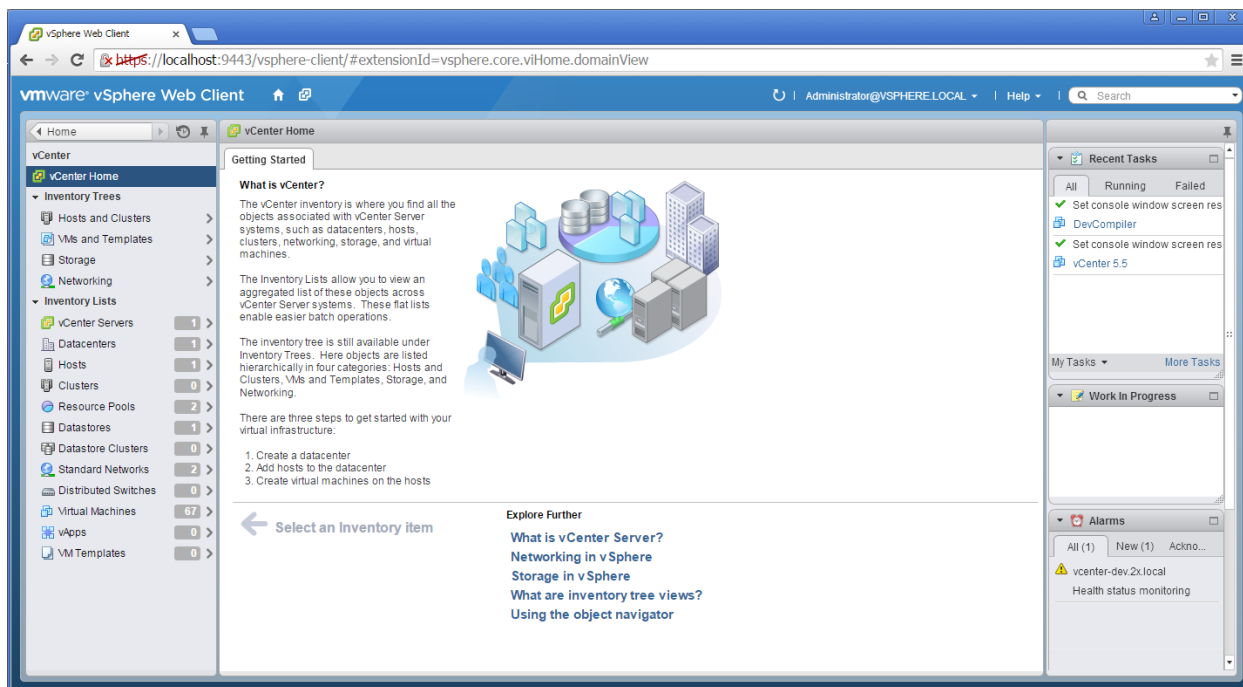


- 11 [展開後に電源をオンにする] オプションを選択します。
 12 [完了] をクリックして、インポートジョブが完了するまで待ちます。

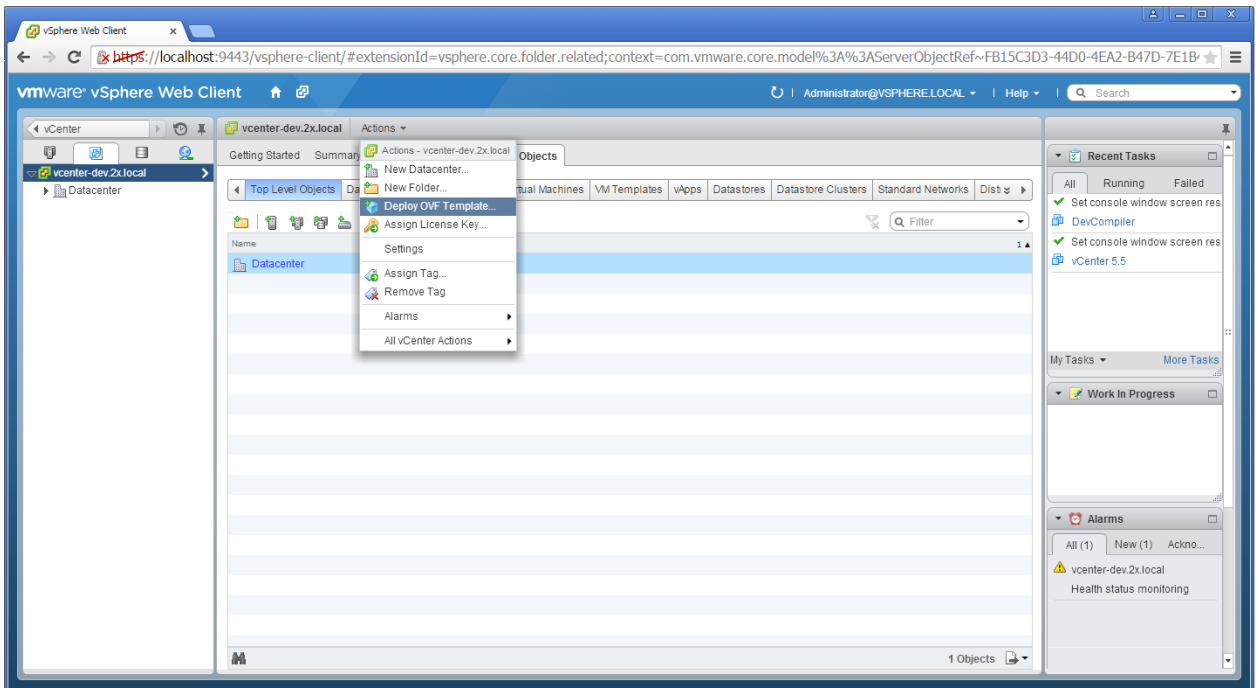
vSphere Web Client の場合は、次の操作を実行します。



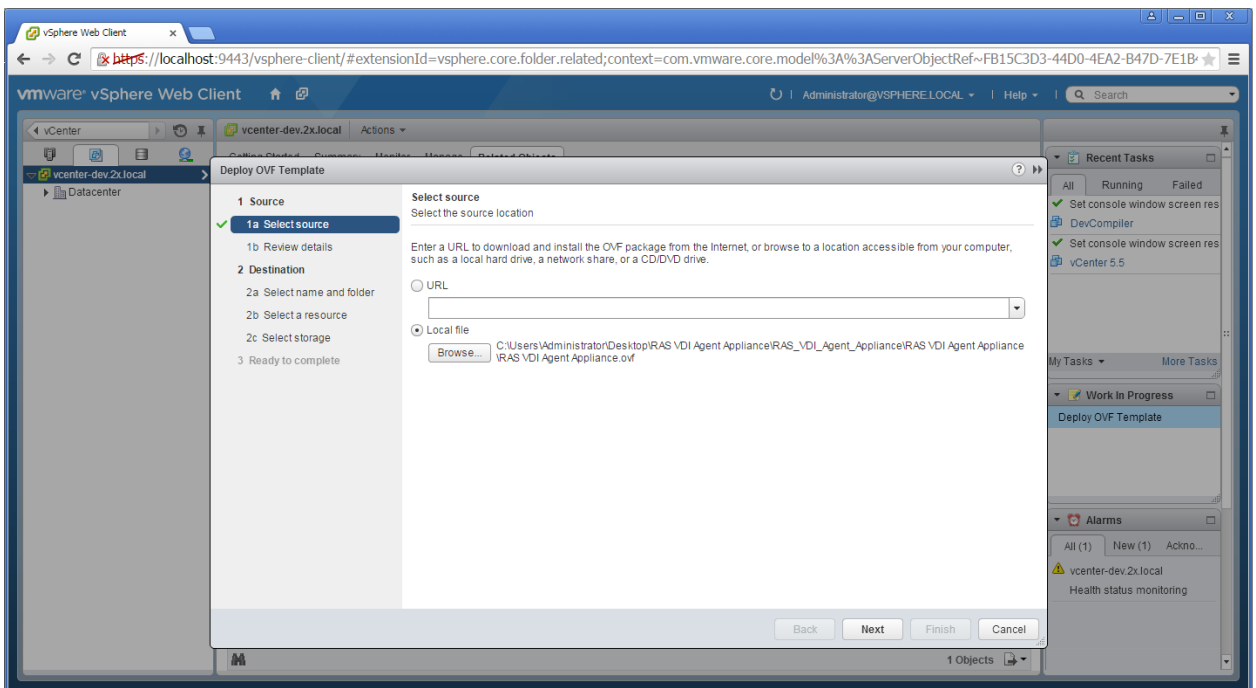
- 1 ZIP ファイルのコンテンツを一時ディレクトリに抽出します。
- 2 vSphere Web Client にログインします。



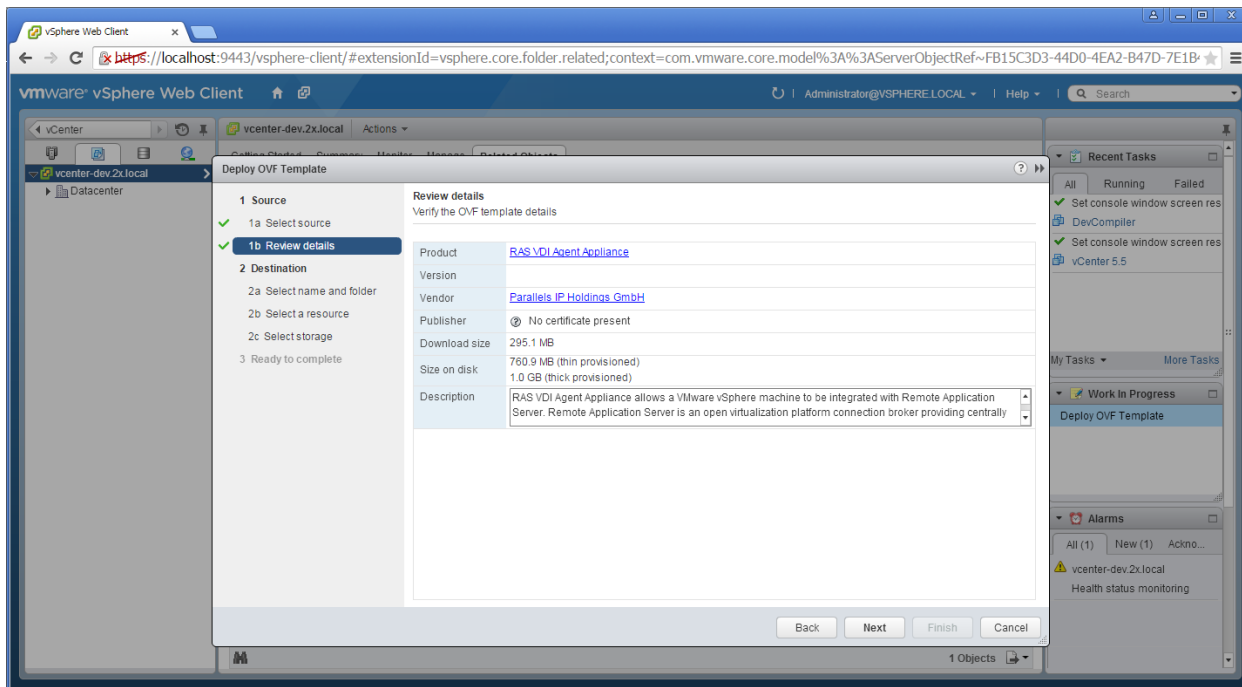
- 3 [ホーム] > [vCenter] > [VM とテンプレート] に移動します。



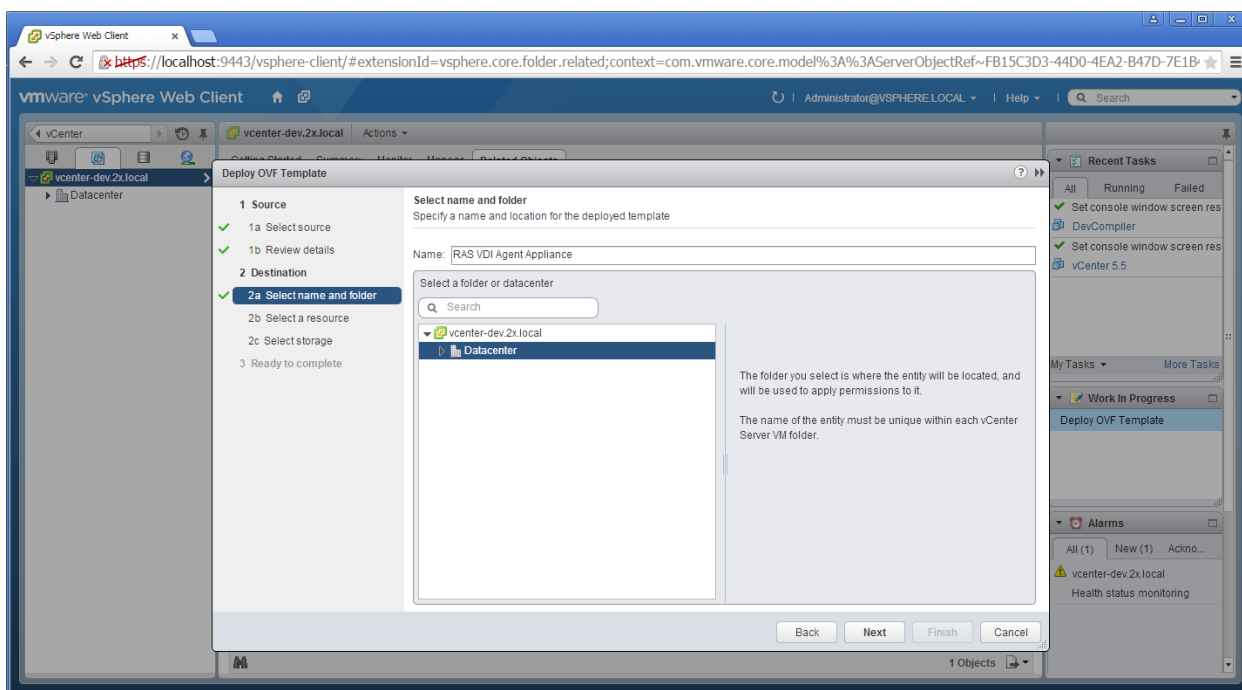
- 4 vCenter ホストを選択し、[動作] メニューから [OVF テンプレートの展開] を選択します。



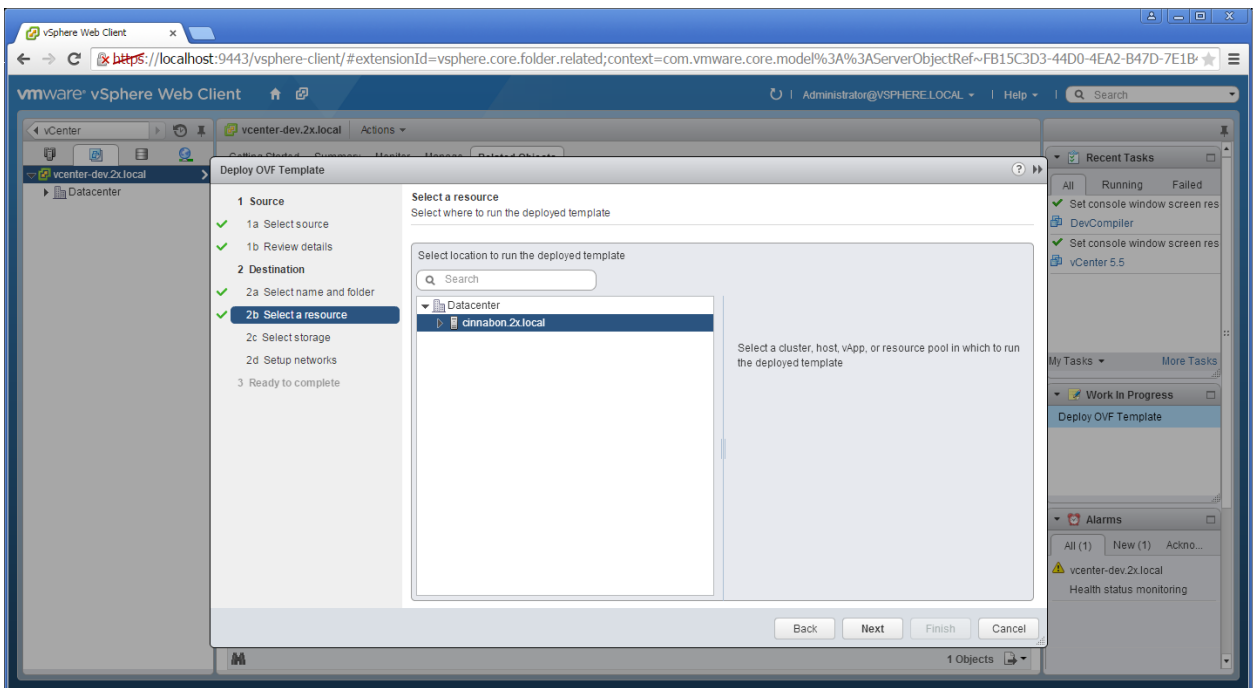
- 5 [ローカルファイル] を選択して、ZIP ファイル（アプライアンスが含まれている）の抽出先フォルダーを参照し、[次へ] をクリックします。



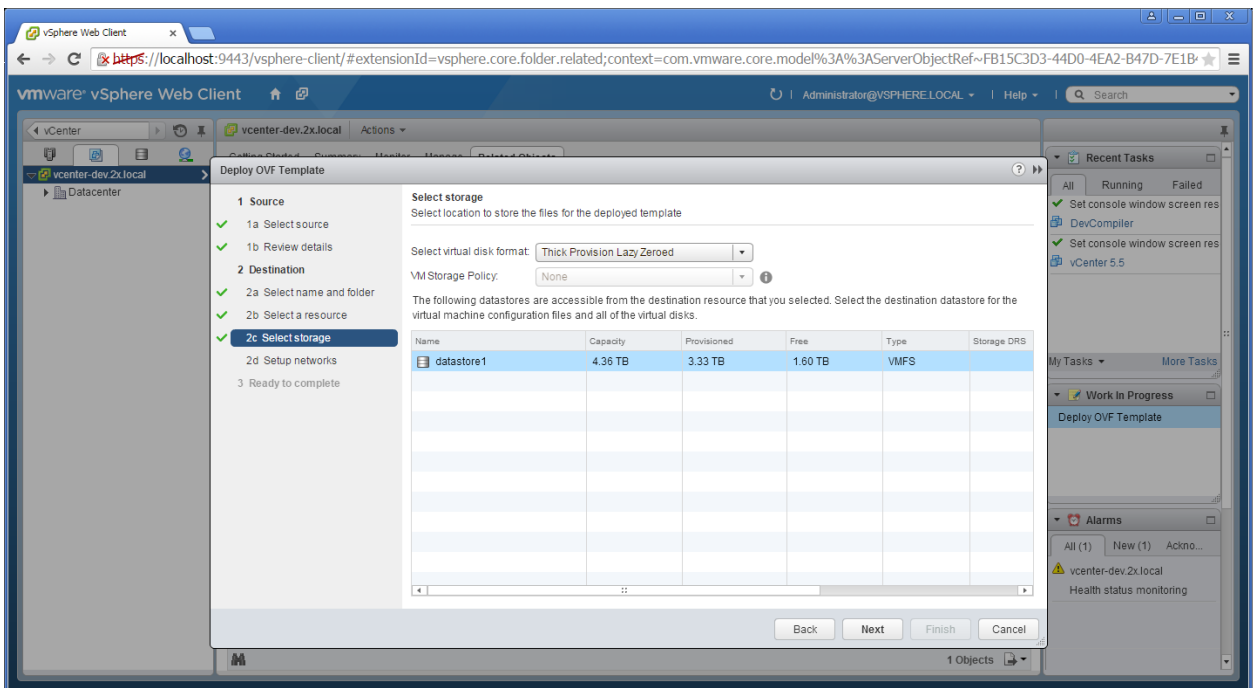
- 6 製品の詳細を確認して、[次へ] をクリックします。



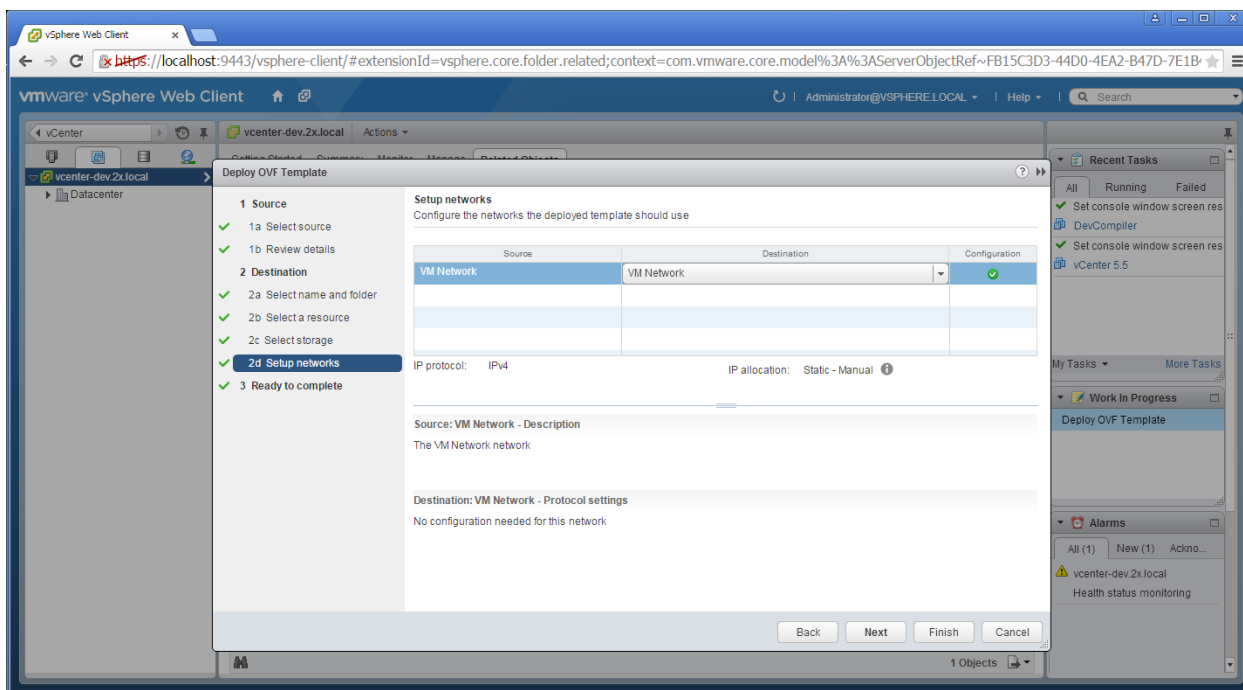
- 7 展開するテンプレートの名前と場所を選択して、[次へ] をクリックします。



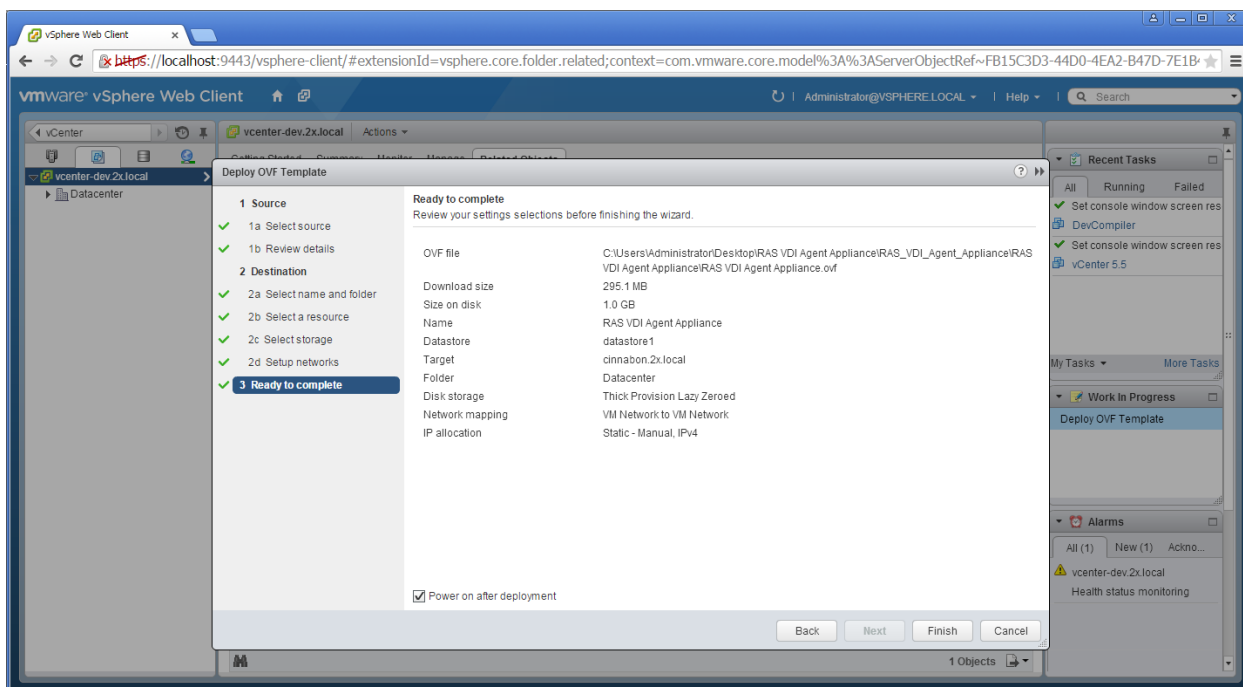
- 8 テンプレートを展開するホストまたはクラスターを選択して、[次へ] をクリックします。



- 9 使用するストレージ設定を選択して、[次へ] をクリックします。



- 10 アプライアンスに適切な VDI ネットワークを選択し、[次へ] をクリックします。

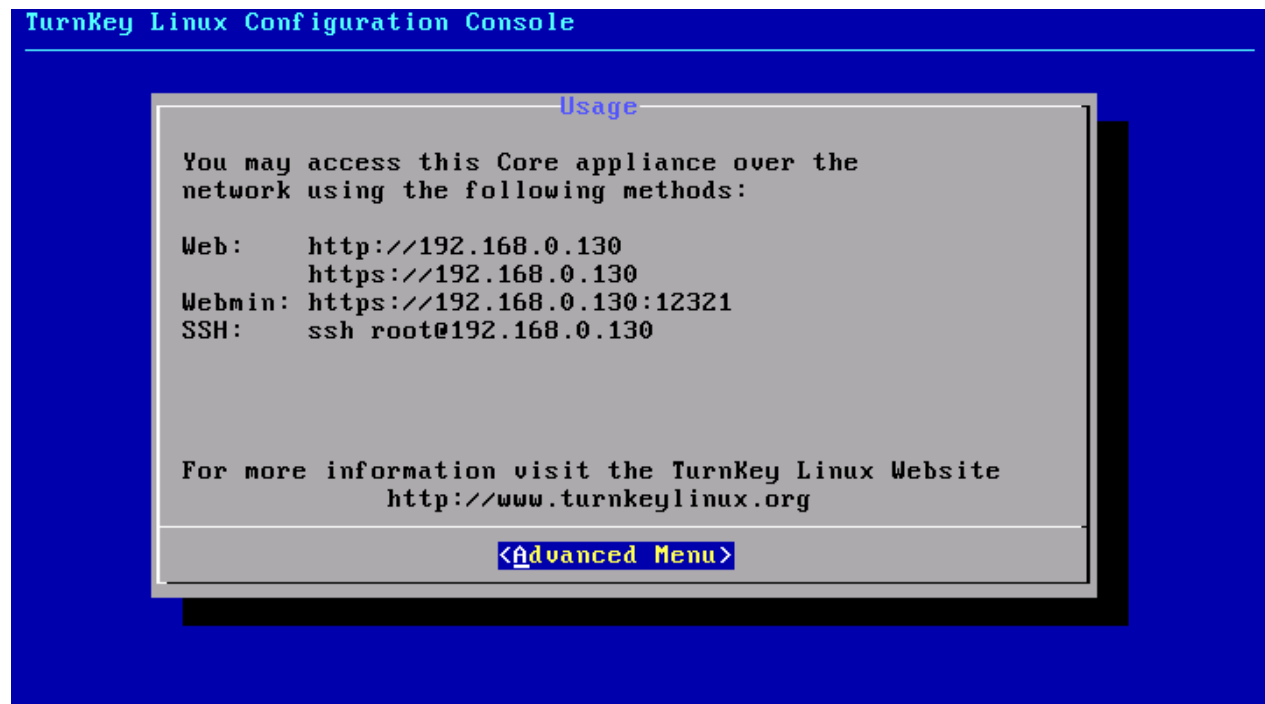


- 11 [展開後に電源をオンにする] オプションを選択します。

12 [完了] をクリックして、インポートジョブが完了するまで待ちます。

ネットワーク管理者は、固定 IP アドレスをアプライアンスに割り当てる必要があります。DHCP を使用する場合は、アプライアンスに割り当てられた MAC アドレスにメモし、DHCP 予約を追加してください。DHCP を利用できない場合は、静的 IP を手動で構成する必要があります。ネットワーク設定を変更するには、[詳細] > [ネットワークキング] メニューを選択します。

VMware 製品を使用した仮想アプライアンスの展開に関する詳細については、VMware のウェブサイト参照してください。



第 7 章

リモート PC

この章の内容

リモート PC の追加.....	121
RAS PC Agent の手動インストール.....	122
リモート PC の構成.....	123
リモート PC からの公開.....	125

リモート PC の追加

サポートされているバージョンの Windows を実行しているリモート PC から、デスクトップとアプリケーションを公開できます。リモート PC として、スタンドアロンコンピューターとして扱われる物理マシンや仮想マシンを使用できますが、通常は物理コンピューターを使用します。ネットワーク上に仮想マシンがある場合は、「VDI ホスト」の章 (p. 71) で説明するように、仮想マシンを VDI インフラストラクチャの一部として使用するとよいでしょう。ただし、バーチャルゲストのクローンを必要としない場合や、エンドユーザーがカスタマイズのための完全な管理者権限を要求する場合は、仮想マシンをリモート PC として使用できます。ユーザーがどのように使用するかを定めることができます。

次の手順に従って、リモート PC をファームに追加します。

- 1 RAS Console で、[ファーム] カテゴリーを選択して、ナビゲーションツリーの [リモート PC] ノードをクリックします。
- 2 [タスク] ドロップダウンメニューで [追加] をクリックして、セットアップウィザードを起動します。
- 3 リモート PC の IP アドレスまたは FQDN を指定します。[MAC アドレス取得] ボタンをクリックして、PC の MAC アドレスを取得します。
- 4 [次へ] をクリックします。
- 5 この手順で、Parallels Remote Application Server は RAS PC Agent が指定された PC にインストールされているかどうかを確認します。インストールされていない場合は、[インストール] をクリックして、PC にエージェントをプッシュインストールします。RAS PC Agent のプッシュインストールに失敗したら (SMB 共有を利用できない、ファイアウォールルールの

によりインストールを実行できないなど)、この後の「手動による RAS PC Agent のインストール」セクションを参照してください。

- 6 [追加] をクリックして、リモート PC を Parallels Remote Application Server のサーバーファームに追加します。

RAS PC Agent の手動インストール

自動のプッシュインストールを実行できない場合は、RAS PC Agent の手動インストールが必要になる場合があります。たとえば、SMB 共有を利用できない場合や、ファイアウォールルールによってプッシュインストールができない場合があります。

RAS PC Agent の手動インストール

- 1 管理者アカウントを使用して、RAS PC Agent のインストール先の PC にログインし、他のすべてのアプリケーションを閉じます。
- 2 Parallels Remote Application Server インストールファイル (RASInstaller.msi) を PC にコピーし、そのファイルをダブルクリックしてインストールを起動します。
- 3 プロンプトが表示されたら、[次へ] をクリックし、エンドユーザー使用許諾契約書に同意します。
- 4 RAS PC Agent のインストール先のパスを指定し、[次へ] をクリックします。
- 5 [カスタム] を選択し、[次へ] をクリックします。
- 6 [RAS PC Agent] をクリックし、ドロップダウンメニューから [このコンピューターのローカルディスクに全ての機能をインストールします] を選択します。
- 7 他のすべてのコンポーネントが選択解除されていることを確認し、[次へ] をクリックします。
- 8 [インストール] をクリックしてインストールを開始します。インストールが終了したら、[完了] をクリックします。

RAS PC Agent は構成を必要としません。エージェントをインストールしたら、Parallels Remote Application Server Console でリモート PC 名を選択し、[エージェントをチェック] をクリックします。エージェントが適切にインストールされている場合、ステータスは” エージェントをインストールしました” に変わります。

RAS リモート PC エージェントのアンインストール

RAS PC Agent をサーバーからアンインストールするには、次の手順を実行します。

- 1 スタートボタン > [コントロールパネル] > [プログラム] > [プログラムのアンインストール] に移動します。

- 2 インストールされているプログラムのリストから、[Parallels Remote Application Server] を見つけます。
- 3 サーバー上に保持する必要がある他の Parallels RAS コンポーネントがない場合、[Parallels Remote Application Server] を右クリックして [アンインストール] をクリックします。手順に従って、プログラムをアンインストールします。この指示の残りの部分は省略できます。
- 4 サーバー上に保持する必要がある他の RAS コンポーネントがある場合、[Parallels Remote Application Server] を右クリックして [変更] をクリックします。
- 5 [よろこぞ] ページで、[次へ] をクリックします。
- 6 [変更、修復、または削除] ページで [変更] を選択します。
- 7 次のページで [カスタム] を選択します。
- 8 [RAS PC Agent] を選択し、その前にあるドロップダウンメニューをクリックして、[すべての機能が利用できなくなります] をクリックします。
- 9 [次へ] をクリックして、ウィザードを完了します。

リモート PC の構成

リモート PC のプロパティにアクセスするには、ナビゲーションツリーでコンピューターを選択して、[タスク] > [プロパティ] をクリックします。[リモート PC のプロパティ] ダイアログボックスが開きます。

[プロパティ] タブページ

デフォルトでは、PC はファーム内で有効になっています。PC を無効にすると、公開済みのアプリケーションとバーチャルデスクトップを PC から提供できなくなります。ファーム内で PC を有効または無効にするには、[リモート PC 有効化] オプションをオンまたはオフします。

リモート PC の IP アドレスまたは MAC アドレスが変更された場合は、[リモート PC] 入力フィールドおよび [MAC アドレス] 入力フィールドを使用して、IP アドレスまたは MAC アドレスを変更します。

[ダイレクトアドレス変更] オプションでは、Parallels Client が PC に直接接続するために使用できる IP アドレスを指定できます。このアドレスはダイレクト接続モードでのみ使用されません。このアドレスには、内部 IP アドレスまたは外部 IP アドレスを使用できます。

注意: マシンの自動オンを可能にするには、BIOS の Wake on LAN オプションを有効にする必要があります。仮想マシンを使用している場合、オプションは通常、ハイパーバイザーによってネイティブにサポートされるか、サードパーティのソフトウェア経由でサポートされます。Wake On Lan オプシ

オンがオンになっているかどうかをテストするには、[リモート PC のプロパティ] ダイアログボックスを閉じて、[リモート PC] リストの下にある [WOL テスト] ボタンをクリックします。

[Agent 設定] タブページ

ファーム内の各リモート PC には RAS リモート PC Agent がインストールされています。これにより、Parallels Remote Application Server と PC 間の接続が提供されます。このエージェントは、[Agent 設定] タブページで構成できます。

[ポート] フィールドを使用して、さまざまなリモートデスクトップの接続ポート番号を指定します。

リモート PC の接続タイムアウトを増やすには、[接続タイムアウト] ドロップダウンリストから値を選択します。

ユーザーが公開済みのアプリケーションを閉じた後にバックグラウンドで各セッションの接続を維持する時間を変更するには、[公開セッションのタイムアウト] 入力フィールドに新しい値を指定します。このオプションを使用して、PC への不必要な再接続を回避します。

サーバーのリソースではなくクライアントコンピューターのローカルアプリケーションを使用して http リンクと mailto リンクを開くことができるようにするには、[クライアント URL/メールのリダイレクションを許可] オプションを有効にします。リダイレクトを禁じる URL のリストを構成するには、RAS Console で [ファーム] / <サイト名> / [設定] に移動して、[URL リダイレクト] タブをクリックします。

リモート PC の RDP 印刷の構成

[RDP プリンター] タブでは、リダイレクトされたプリンターの名前変更フォーマットを構成できます。フォーマットは、サーバーのどのバージョンと言語を使用しているかによって異なる場合があります。

[RDP プリンター名のフォーマット] ドロップダウンメニューから以下のいずれかのオプションを選択し、構成したサーバーに固有の RDP プリンター名のフォーマットを設定します。

- プリンター名 (コンピューター名から) 内のセッション番号
- セッション番号 (コンピューター名から) プリンター名
- プリント名 (リダイレクト セッション番号)

[RDP プリンター] タブで指定できるその他の RDP 印刷オプションは次のとおりです。

- プリンター名にセッション数を入れない
- プリンター名にクライアント名を入れない

リモート PC からの公開

リモート PC からのデスクトップの公開

ターミナルサーバーからデスクトップを公開するには、次の操作を実行します。

- 1 RAS Console で、[公開] カテゴリーを選択し、[公開済みのリソース] ツリーの下にある [追加] アイコンをクリックします。公開ウィザードが開きます。
- 2 ウィザードの最初のステップで、[デスクトップ] を選択し、[次へ] をクリックします。
- 3 [デスクトップの種類を選択] ページで、[リモートデスクトップ PC] を選択し、[次へ] をクリックします。[リモート PC のデスクトップ] ページが開きます。
- 4 名前と説明（オプション）を入力し、必要に応じてアイコンを変更します。
- 5 [リモート PC 選択] セクションの横にある [...] ボタンをクリックして、どのリモート PC からデスクトップを公開するかを指定します。開いたボックスで、PC をダブルクリックして選択します。
- 6 必要な [デスクトップサイズ] プロパティを選択します。
- 7 [完了] をクリックしてデスクトップを公開します。

リモート PC からのアプリケーションの公開

リモート PC からアプリケーションを公開するには、次の操作を実行します。

- 1 RAS Console で [公開] カテゴリーを選択し、[公開済みのリソース] ツリーの下にある [追加] アイコンをクリックします（または [公開済みのリソース] ボックス内を右クリックし、コンテキストメニューで [追加] をクリックします）。公開ウィザードが開きます。
- 2 [アイテムタイプの選択] ウィザードページで [アプリケーション] を選択し、[次へ] をクリックします。
- 3 [サーバータイプの選択] ページで、[リモート PC] を選択し、[次へ] をクリックします。
- 4 [アプリケーションタイプの選択] ページで [1 つのアプリケーション] を選択し、[次へ] をクリックします。[リモート PC のアプリケーション] ページが開きます。
- 5 名前と説明（オプション）を入力します。
- 6 [実行] ドロップダウンメニューで、アプリケーションを通常のウィンドウで実行するか、最大化するか、または最小化するかを指定します。
- 7 [ターゲット] フィールドで、公開するアプリケーションを指定します。[...] ボタンをクリックして、アプリケーションを参照することができます。

- 8 [開始] フィールドで、"start in"フォルダーを指定（または参照）します。パスを手動で入力する場合は、Windows 環境変数を使用します。
- 9 （オプション） [パラメーター] 入力フィールドで、アプリケーションの開始時にアプリケーションに渡すパラメーターを指定します。
- 10 [リモート PC の設定] セクションの [...] ボタンをクリックして、アプリケーションの公開元のリモート PC をリストから選択します。開いたボックスで、PC をダブルクリックして選択します。
- 11 [パーシスタント] オプションを選択すると、ユーザーの最初の接続時にパーシスタントゲストルールが作成されます。
- 12 以上の操作を実行して [完了] をクリックすると、アプリケーションが公開されます。

リモート PC からのウェブアプリケーションの公開

ウェブアプリケーションは、他のアプリケーションと同様、標準のアプリケーション公開機能を使用して公開できます。ただし、ウェブアプリケーションに対する URL リンクをそのまま公開する方法を簡素化するために、別の公開アイテムタイプを利用できます。これにより、最小限の手順数で公開タスクを実行できます。

ウェブアプリケーションを公開するには、次の操作を実行します。

- 1 RAS Console で [公開] カテゴリーを選択し、[公開済みのリソース] ツリーの下にある [追加] アイコンをクリックします（または [公開済みのリソース] ボックス内を右クリックし、コンテキストメニューで [追加] をクリックします）。公開ウィザードが開きます。
- 2 [アイテムタイプの選択] ウィザードページで、[ウェブアプリケーション] を選択し、[次へ] をクリックします。
- 3 [サーバータイプの選択] ページで、[リモート PC] を選択し、[次へ] をクリックします。
- 4 [リモート PC ウェブアプリケーション] ウィザードが開いたら、ウェブアプリケーション名、説明、ウィンドウ状態、および URL を指定します。必要に応じて、[Internet Explorer の使用を強制] オプションを選択します。特定のアプリケーションアイコンを参照するには、[アイコン変更] をクリックします。
- 5 リモート PC を選択するには、[リモート PC の設定] セクションで [...] を選択します。
- 6 [完了] をクリックしてアプリケーションを公開します。

リモート PC からのネットワークフォルダーの公開

UNC パスを使用してファイルシステムフォルダーを公開すると、そのフォルダーを Windows エクスプローラーで開くことができます。構成の手順数を最小限にするため、ゲストからネットワークフォルダーを公開できる特殊な公開アイテムを利用できます。

ネットワークフォルダーを公開するには、次の操作を実行します。

- 1 RAS Console で [公開] カテゴリーを選択し、[公開済みのリソース] ツリーの下にある [追加] アイコンをクリックします（または [公開済みのリソース] ボックス内を右クリックし、コンテキストメニューで [追加] をクリックします）。公開ウィザードが開きます。
- 2 [アイテムタイプの選択] ウィザードページで、[ファイルシステム上のフォルダー] を選択し、[次へ] をクリックします。
- 3 [サーバータイプの選択] ページで、[リモート PC] を選択し、[次へ] をクリックします。
- 4 [リモート PC の UNC フォルダ] ウィザードページで、通常のアプリケーションプロパティを指定します。
- 5 [UNC パス] フィールドに、公開するフォルダーの UNC パスを入力します。[...] ボタンをクリックしてフォルダーを参照します（[フォルダの参照] ダイアログが開くまでに時間がかかることがあります）。
- 6 [リモート PC の設定] セクションで [...] ボタンを選択し、リストからリモート PC を選択します。
- 7 [完了] をクリックすると、フォルダーが公開され、ウィザードが閉じます。

リモート PC からのドキュメントの公開

リモート PC クローンからドキュメントを公開するには、次の操作を実行します。

- 1 RAS Console で [公開] カテゴリーを選択し、[公開済みのリソース] ツリーの下にある [追加] アイコンをクリックします（または [公開済みのリソース] ボックス内を右クリックし、コンテキストメニューで [追加] をクリックします）。公開ウィザードが開きます。
- 2 [アイテムタイプの選択] ウィザードページで [ドキュメント] を選択し、[次へ] をクリックします。
- 3 [Remote PC] を選択し、[次へ] をクリックします。
- 4 公開するドキュメントのドキュメントタイプを指定します。事前に定義されたリストからドキュメントタイプを選択するか、[ドキュメントタイプ指定] 入力フィールドにカスタムドキュメントタイプを指定できます。
- 5 [次へ] をクリックします。

- 6 [リモート PC アプリケーション] ページで、名前、説明（オプション）、目的のウィンドウ状態を入力し、必要に応じてアイコンを変更します。
- 7 [ターゲット] 入力フィールドの横にある [...] ボタンを使用して、ドキュメントを参照します。他のすべてのフィールドのデータは自動的に読み込まれます。自動読み込みフィールドのいずれかを編集するには、該当のフィールドを選択し、必要な詳細情報を入力します。
- 8 （オプション） [パラメーター] 入力フィールドで、アプリケーションの開始時にアプリケーションに渡すパラメーターを指定します。
- 9 [リモート PC の設定] セクションの [...] ボタンをクリックして、ドキュメントの公開元のリモート PC を参照します。開いたボックスで、PC をダブルクリックして選択します。
- 10 [完了] をクリックしてドキュメントを公開します。

第 8 章

公開およびフィルタリング

公開は、Parallels Remote Application Server の基本的な使用法および機能の 1 つです。

Parallels Remote Application Server を使用すると、次のアイテムを公開できます。

- アプリケーション
- フォルダー
- デスクトップ
- ドキュメント
- ウェブアプリケーション
- ネットワークフォルダー

公開については、前述のとおりです。この章では、公開済みのリソースのプロパティを表示し、修正する方法について詳しく説明します。

この章の内容

公開済みのアプリケーションの管理.....	129
公開デスクトップの管理.....	134
公開ドキュメントの管理.....	136
公開フォルダーの管理.....	139
ユーザー、クライアント、IP、MAC、ゲートウェイによるルールのフィルタリング	139

公開済みのアプリケーションの管理

公開およびアプリケーション

このガイドの以下のセクションでは、さまざまなタイプのマシンからアプリケーションを公開する方法について説明します。

- ターミナルサーバーからのアプリケーションの公開 (p. 63)
- バーチャルゲストからのアプリケーションの公開 (p. 89)
- リモート PC からのアプリケーションの公開 (p. 125)

公開済みのアプリケーションの構成

ウィザードを使用してアプリケーションを公開する場合、名前、実行ファイルのパスなど、いくつかのアプリケーションパラメーターを指定します。これらのオプションは、アプリケーションの公開後に変更できます。

公開したアプリケーションを変更するには、次の操作を実行します。

- 1 RAS Console で、[公開] カテゴリーを選択し、[公開済みのリソース] ツリーでアプリケーションを選択します。
- 2 右ペインの各タブページを使用して、アプリケーションオプションを変更します（詳細は以下のサブセクションを参照）。

公開済みのアプリケーションにアクセスできるサイトの構成

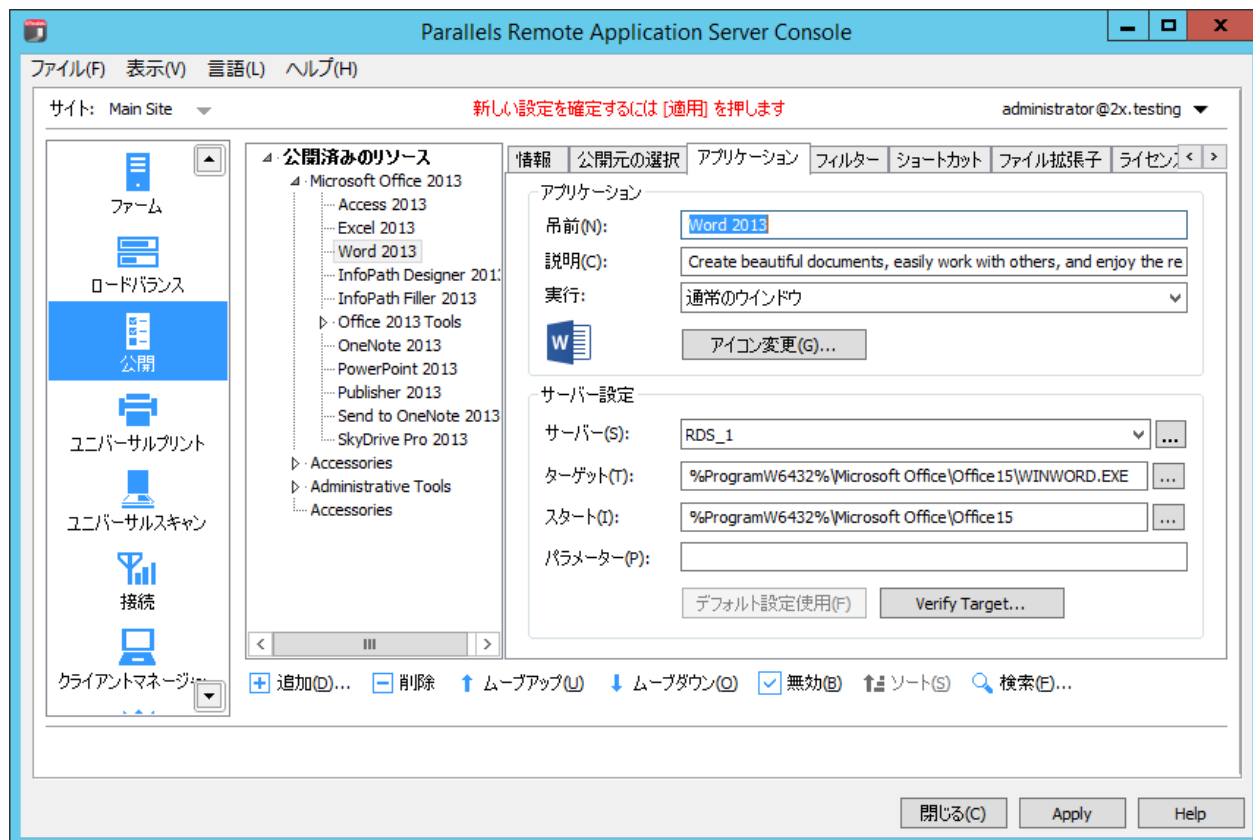
デフォルトで、公開済みのアプリケーションは、利用可能なすべてのサイトで利用できます。アクセスを特定のサイトまたはサイトグループに制限するには、[サイト] タブで対象のサイトを選択します。サイトが 1 つのみの場合、[サイト] タブは表示されません。

アプリケーションの公開元のサーバーの構成

[公開元の選択] タブページで、アプリケーションの公開元のターミナルサーバーを指定できます。

サーバー固有のアプリケーション設定の構成

[アプリケーション] タブページには、アプリケーション固有の設定が表示されます。これには、基本的なアプリケーション設定（名前、説明、ウィンドウの状態、アイコン）とサーバー設定が含まれます。サーバー設定には、アプリケーションの公開元のサーバー、サーバー上のアプリケーションのパスとファイル名、スタートフォルダー、パラメーター（ある場合）が含まれます。



複数のサーバーからアプリケーションが公開されている場合、[サーバー] ドロップダウンリストを使用して個々のサーバーを選択し、特定のサーバーの [ターゲット]、[開始]、[パラメーター] の各値を表示できます。デフォルトでは、アプリケーションを公開すると、これらの値はアプリケーションの公開元のすべてのサーバーに適用されます。一部のサーバーで、別のフォルダーにアプリケーションをインストールすることができます。この場合、指定したアプリケーションパスは無効になります。

指定した [ターゲット] および [開始] の値がすべてのサーバーで正しいことを確認するには、[ターゲットの確認] ボタンをクリックします。[ターゲット認証ツール] ダイアログが開き、サーバーのリストが表示され、[進行] 列に確認ステータスが表示されます。

いずれかのサーバーで、異なるパスにアプリケーションがインストールされている場合、[進行]列にエラーが示されます。この場合、[ターゲット認証ツール] ダイアログを閉じて、[サーバー] ドロップダウンリストでサーバーを選択します。該当のサーバーに固有の新しい値を [ターゲット]、[開始]、[パラメーター]（必要な場合）の各フィールドに入力します。[適用] をクリックして変更内容を保存します。

[ターゲット認証ツール] ダイアログを使用して、公開したすべてのアプリケーションのターゲットを即座に確認することもできます。これを行うには、[公開済みのリソース]（[公開済みのリソース] ツリーのルートノード）を右クリックし、コンテキストメニューで [ターゲットの確認] をクリックします。

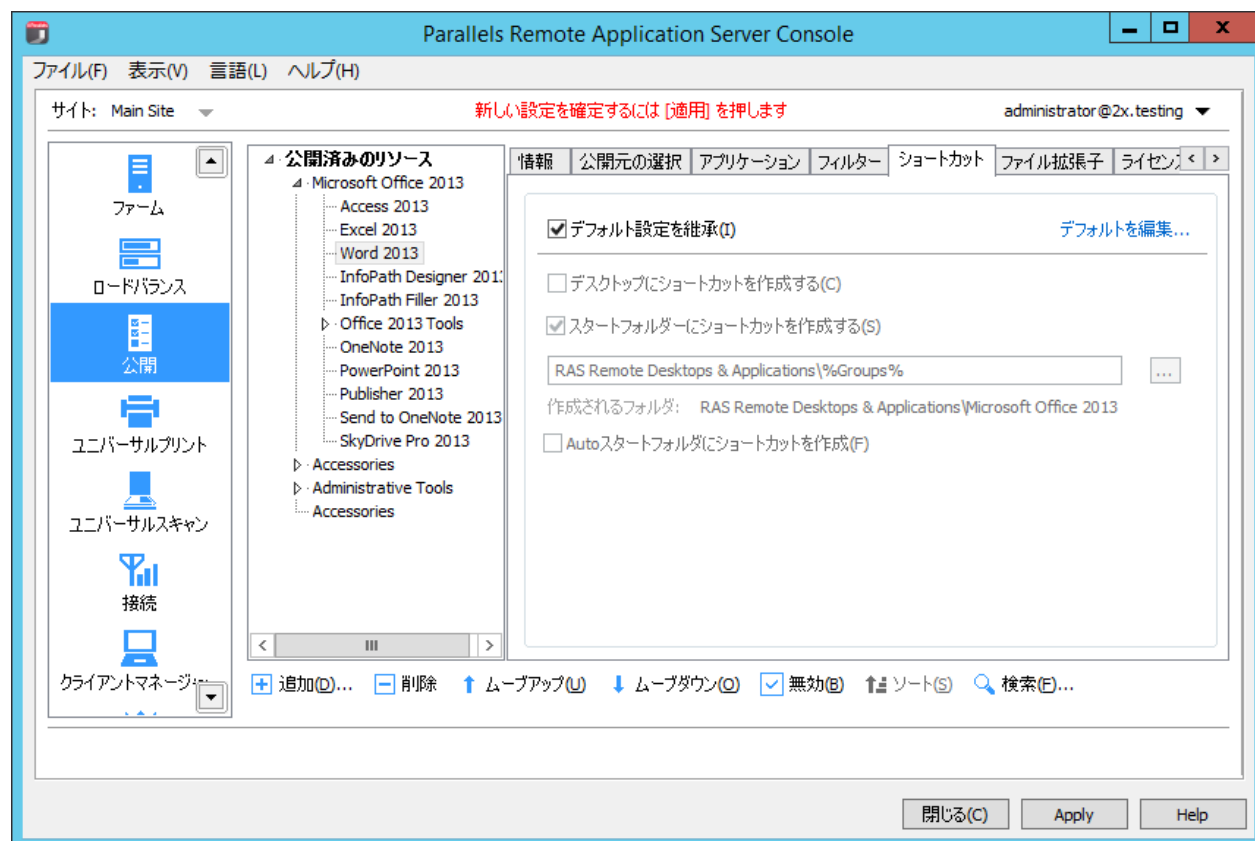
このとき、[ターゲット認証ツール] ダイアログには、公開したすべてのアプリケーションと、それらの確認ステータスが含まれます。

公開済みのアプリケーションのショートカットオプションの構成

注意: このオプションは、すべてのオペレーティング システムで利用できるとは限りません。

ユーザーのデスクトップ、スタートフォルダー、およびオートスタートフォルダーにショートカットを作成できるようにするには、[ショートカット] タブをクリックします。オートスタートのショートカットオプションを選択した場合、クライアントのオペレーティングシステムの開始時にアプリケーションが開始されます。

デフォルトの設定を使用するには、[デフォルト設定を継承] オプションを選択します。デフォルト設定を表示または変更するには、[デフォルトを編集] リンクをクリックします。



ファイル拡張子の関連付けの構成

特定の公開済みのアプリケーションに対するファイル拡張子の関連付けを変更するには、[ファイル拡張子] タブをクリックします。

アプリケーションが公開されると、標準で関連付けられたファイル拡張子のリストが自動的に生成されます。事前構成されたリストを変更し、既存のエントリの追加、削除、変更を行うには、[ファイル拡張子] オプションを選択します。新しい拡張子をリストに追加するには、[タスク] ドロップダウンメニューで [追加] をクリック（または [+] アイコンをクリック）して、目的の拡張子を指定します。

既存の関連付けを変更するには、拡張子を選択し、[タスク] ドロップダウンメニューで [プロパティ] をクリック（または [パラメーター] 列をダブルクリック）して、パラメーターを入力します。

公開済みのアプリケーションのライセンスオプションの構成

以下のライセンスオプションを構成するには、[ライセンス] タブをクリックします。

- セッションの共有を無効にする: このオプションを有効にすると、公開済みのアプリケーションを 1 つのセッションに分離することができます。したがって、同じアプリケーションを 2 回起動すると、アプリケーションの 2 つのインスタンスが、2 つの分離されたセッションで実行されます。
- ユーザーにアプリケーションの 1 インスタンスのみ開始を許可: このオプションを有効にすると、ユーザーは 1 つのアプリケーションインスタンスのみを起動できます。
- 同時使用ライセンス: このオプションを使用して、アプリケーションが実行できる同時インスタンスの最大数を指定します。たとえば、アプリケーションのライセンスによって、実行できるアプリケーションインスタンスの数が 10 個に限られている場合、[同時使用ライセンス] オプションを 10 に設定します。これにより、この制限に達した場合、他のユーザーが他のインスタンスを実行できなくなります。
- 制限を超えた場合: このドロップダウンメニューでは、構成された上記のライセンス制限のいずれかを超えた場合に Parallels Remote Application Server で実行するアクションを指定できます。

デフォルトの設定を使用するには、[デフォルト設定を継承] オプションを選択します。デフォルト設定を表示または変更するには、[デフォルトを編集] リンクをクリックします。

公開済みのアプリケーションの表示設定の構成

公開済みのアプリケーションの色濃度、解像度、幅、高さを構成するには、[ディスプレイ] タブをクリックします。デフォルトの設定を使用するには、[デフォルト設定を継承] オプションを選択します。デフォルト設定を表示または変更するには、[デフォルトを編集] リンクをクリックします。

フィルタリング

フィルターの詳細については、「ユーザー、クライアント、MAC、ゲートウェイによるルールのフィルタリング」セクション (p. 139) で説明されています。

公開デスクトップの管理

デスクトップの公開

このガイドの以下のセクションで、さまざまなタイプのマシンからデスクトップを公開する方法について説明します。

- ターミナル サーバーからのデスクトップの公開 (p. 61)
- ゲストからのバーチャル デスクトップの公開 (p. 88)
- リモート PC からのデスクトップの公開 (p. 125)

公開デスクトップの構成

ウィザードを使用してデスクトップを公開する場合、表示サイズなど、デスクトップ設定を指定する必要があります。このオプションは、デスクトップの公開後に変更できます。

公開デスクトップを変更するには、[公開] カテゴリーの [公開済みのリソース] ツリーで公開デスクトップを選択します。

公開デスクトップにアクセスできるサイトの構成

デフォルトでは、公開デスクトップは、利用可能なすべてのサイトで利用できます。アクセスを特定のサイトまたはサイトグループに制限するには、[公開済みのリソース] ツリーでデスクトップを選択し、右ペインで [サイト] タブをクリックします。どのサイトからデスクトップを利用できるようにするかを選択します。

注意: [サイト] タブを利用するには、ファーム内に複数のサイトが存在する必要があります。

デスクトップの公開元のターミナルサーバーの構成

ターミナルサーバーデスクトップを構成する場合、どのサーバーからターミナルサーバーデスクトップを公開するかを指定できます。これを行うには、[公開元の選択] タブをクリックし、目的のサーバーを選択します。

デスクトップの解像度および他のプロパティの構成

デスクトップの種類に応じて、[デスクトップ]、[リモート PC のデスクトップ]、または [バーチャルデスクトップ] タブをクリックし、デスクトップの名前、説明、アイコン、解像度、その他の設定を構成します。

公開デスクトップのショートカットオプションの構成

[ショートカット] タブをクリックすると、ユーザーのデスクトップ、および [開始] フォルダーや [オートスタート] フォルダーでのショートカットの作成を有効にするかどうかを指定できます。[オートスタート] ショートカットを有効にした場合、ユーザーのコンピューターの起動時にアプリケーションが開始されます。

注意: このオプションは、すべてのオペレーティング システムで利用できるとは限りません。

[フィルター] タブ

フィルターの詳細については、「ユーザー、クライアント、MAC、ゲートウェイによるルールのフィルタリング」セクション (p. 139) で説明されています。

公開ドキュメントの管理

ドキュメントの公開

このガイドの次のセクションでは、さまざまなタイプのマシンからドキュメントを公開する方法の詳細を説明します。

- ターミナル サーバーからのドキュメントの公開 (p. 69)
- リモート PC からのドキュメントの公開 (p. 127)
- ゲストからのドキュメントの公開 (p. 92)

公開ドキュメントの構成

ウィザードを使用してドキュメントを公開する場合は、ドキュメント設定を指定する必要があります。これらのオプションは、ドキュメントの公開後にも変更できます。

公開ドキュメントを変更するには、[公開] カテゴリーの [公開済みのリソース] ツリーでそのドキュメントを選択してから、右側のペインの各タブページを使用して、公開ドキュメントの設定を構成します。

公開ドキュメントを利用できるサイトの構成

デフォルトで、公開ドキュメントは利用できるすべてのサイトからアクセスできます。特定のサイトまたはサイトグループに対するアクセスを制限するには、右側のペインで [サイト] タブをクリックします。ドキュメントにアクセスできるサイトを選択します。

注意: [サイト] タブを使用できるようにするには、ファーム内に複数のサイトが必要です。

ドキュメントの公開元のサーバーの構成

[公開元の選択] タブをクリックし、ドキュメントの公開元のサーバーを選択します。ドキュメントの公開元のサーバーには、そのドキュメントタイプを開くことができるアプリケーションがインストールされている必要があります。

サーバー固有のドキュメント設定の構成

デフォルトで、[ターゲット] (アプリケーションのパス)、[開始]、[パラメーター] の各ワールドに構成した設定は、ドキュメントの公開元のすべてのサーバーに適用されます。あるドキュメントが、1つ以上のサーバー上で異なるフォルダーに存在する場合は、そのサーバー向けに上記の設定を個別に指定できます。

このためには、次の操作を実行します。

- 1 [アプリケーション] タブをクリックします。
- 2 [サーバー] リストでサーバーを選択します。
- 3 [ターゲット]、[開始]、[パラメーター] (オプション) の各プロパティを指定します。ここで指定した値は、選択されたサーバーにのみ適用されます。必要に応じて、他のサーバーにも上記の手順を繰り返します。
- 4 [ターゲットの確認] ボタンをクリックして、このアプリケーションの公開元となるすべてのサーバー上にあるドキュメントのパスを確認します。結果が [ターゲット認証ツール] ダイアログに表示されます。このダイアログで、各サーバーのターゲットが正しいかどうかを確認できます。

公開ドキュメントのショートカットオプションの構成

[ショートカット] タブをクリックすると、ユーザーのデスクトップ、および [開始] フォルダや [オートスタート] フォルダでのショートカットの作成を有効にするかどうかを指定できます。[オートスタート] ショートカットを有効にした場合、ユーザーのコンピューターの起動時にアプリケーションが開始されます。

注意: このオプションは、すべてのオペレーティング システムで利用できるとは限りません。

ファイル拡張子の関連付けの構成

特定の公開ドキュメントに対するファイル拡張子の関連付けを変更するには、[ファイル拡張子] タブをクリックします。

注意: ドキュメントが公開されると、標準で関連付けられたファイル拡張子のリストが自動的に生成されます。事前構成されたリストを変更するには、[ファイル拡張子] オプションをクリックします。

リストに新しい拡張子を追加するには、[タスク] > [追加] をクリックして、拡張子を指定します。

拡張子のパラメーターを変更するには、拡張子を選択して、[タスク] > [プロパティ] をクリックします。

公開ドキュメントのライセンスオプションの構成

以下のライセンスオプションを構成するには、[ライセンス] タブをクリックします。

[デフォルト設定を継承] オプションを選択すると、デフォルトが使用されます。独自の設定を指定するには、このオプションをオフにして、次の各オプションを設定します。

- セッションの共有を無効にする：このオプションを有効にすると、公開済みのアプリケーションを1つのセッションに分離することができます。したがって、同じアプリケーションを2回起動すると、アプリケーションの複数のインスタンスが、分離された同一セッションで実行されます。
- ユーザーにアプリケーションの1インスタンスのみ開始を許可：このオプションを有効にすると、ユーザーは1つのアプリケーションインスタンスのみを起動できます。
- 同時使用ライセンス：このオプションを使用して、アプリケーションが実行できる同時インスタンスの最大数を指定します。たとえば、アプリケーションのライセンスによって、実行できるアプリケーションインスタンスの数が10個に限られている場合、[同時使用ライセンス] オプションを10に設定します。これにより、この制限に達した場合、他のユーザーが他のインスタンスを実行できなくなります。
- 制限を超えた場合：このドロップダウンメニューでは、ライセンス設定に関する上記の制限のいずれかを超えた場合に Parallels Remote Application Server で実行するアクションを指定できます。

公開ドキュメントの表示設定の構成

公開ドキュメントの色濃度、解像度、幅、高さを構成するには、[ディスプレイ] タブをクリックします。これらのオプションをデフォルト値のままにすると、クライアント指定のオプションが引き継がれます。

また、アプリケーションをロードする前にユニバーサルプリンターのリダイレクトを待機するオプションを有効にすることもできます。このオプションを有効にすると、ユニバーサルプリンターのリダイレクトの最大待ち時間（秒単位）も構成できます。

フィルタリング

フィルタリングの詳細については、「ユーザー、クライアント、IP、MAC、ゲートウェイによるルールのフィルタリング」セクション（p. 139）で説明されています。

公開フォルダーの管理

フォルダーを使用して、公開済みのリソースを整理できます。また、フィルターオプションを利用することもできます。たとえば、特定のフォルダーに対してフィルターオプションを構成してから、公開済みのリソースを新しいフォルダーの下に移動すると、フィルター設定が継承されます。詳細については、「ユーザー、クライアント、IP、MAC、ゲートウェイによるルールのフィルタリング」(p. 139)を参照してください。

フォルダーを公開するには、次の操作を実行します。

- 1 RAS Console で、[公開] カテゴリーを選択してから、[公開済みのリソース] ツリーの下の [追加] アイコンをクリックします。公開ウィザードが開きます。
- 2 最初のページで、[フォルダ] を選択して、[次へ] をクリックします。
- 3 フォルダー名、説明（省略可）を指定し、必要に応じてアイコンを変更します。
- 4 [完了] をクリックしてフォルダーを公開します。

公開フォルダーの管理

既存の公開フォルダーを変更するには、[公開済みのリソース] ツリーでそのフォルダーを選択します。右側のペインのタブページで、以下のようにフォルダープロパティを指定します。

- [情報] タブページに、フォルダー情報（読み取り専用）が表示されます。
- [サイト] タブページには、公開フォルダーにアクセスできるサイトを指定します。
- [フォルダ] タブページには、フォルダー名と説明を指定します。
- [フィルター] タブページにはフィルターオプションを指定します。フィルターオプションは、そのフォルダー内にある他のすべての公開されたリソースによって継承されます。

フォルダーへの公開済みのリソースの追加

公開済みのリソースをフォルダーに追加するには、[公開済みのリソース] ツリーで公開済みのリソースを選択し、フォルダーにドラッグします。

ユーザー、クライアント、IP、MAC、ゲートウェイによるルールのフィルタリング

デフォルトでは、公開済みのリソースに対してフィルタールールは構成されていません。したがって、公開済みのリソースは、Parallels Remote Application Server に接続されたすべてのユ

ユーザーが利用できます。フィルターを使用すると、公開済みのリソースにどのユーザーがアクセスできるかを制御できます。次のいずれかのフィルターオプションに基づいて複数のフィルタールールを作成できます。

- ユーザー
- クライアント (管理されたクライアント)
- IP アドレス
- MAC アドレス
- ゲートウェイ

フィルタールールを指定したら、条件を満たすユーザー / コンピューターのみが、公開済みのリソースにアクセスできます。

フィルタールールを作成するには、[公開済みのリソース] ツリーで公開済みのリソースを選択し、[フィルター] タブをクリックします。以下の特定の条件に基づいてルールを定義します。

ユーザーによるフィルター

公開済みのリソースに 1 人のユーザー (または複数のユーザー) あるいはユーザーグループがアクセスできるようにするには、次の操作を実行します。

- 1 [フィルターのタイプを選択] ドロップダウンリストで [ユーザー] を選択します。
- 2 [次のユーザーを許可する] オプションを選択します。
- 3 [デフォルト対象] ドロップダウンリストで、このルールをユーザーまたはグループのどちらに適用するか、あるいはその両方に適用するかを選択します。
- 4 [ブラウジングモード] ドロップダウンリストで、Active Directory または Windows への接続に使用するブラウジングモードを選択します。

次のオプションがあります。

- WinNT:WinNT は LDAP よりも高速ですが、グループネスティングをサポートしません。後方互換性のためにのみ使用されます。
 - LDAP:LDAP はグループネスティングをサポートしますが、低速です。後方互換性のためにのみ使用されます。
 - セキュア識別子:これは推奨される最速の方法です。グループネスティングとリネームをサポートします。
- 5 [タスク] > [追加] をクリックし、[ユーザーの選択] ダイアログでユーザーまたはグループを指定します。[OK] をクリックし、ユーザー/グループを [フィルター] タブページのリストに追加します。

WinNT または LDAP を使用して指定したユーザーまたはグループを変換するには、エントリを選択し、[タスク] > [変換] をクリックします。

クライアントによるフィルター

公開済みのリソースに特定のクライアントまたは一連のクライアントがアクセスできるようにするには、次の操作を実行します。

- 1 [フィルターのタイプを選択] ドロップダウンリストで [クライアント] を選択します。
- 2 [次のクライアントを許可する] オプションを選択します。
- 3 [タスク] > [追加] をクリックし、[クライアント選択] ダイアログでクライアントを選択します。
- 4 [OK] をクリックし、クライアントをリストに追加します。

IP アドレスによるフィルター

公開済みのリソースに特定の IP アドレス（または複数の IP アドレス）あるいは IP アドレス範囲からアクセスできるようにするには、次の操作を実行します。

- 1 [フィルターのタイプを選択] ドロップダウンリストで [IP アドレス] を選択します。
- 2 [次の IP アドレスを許可] オプションを選択します。
- 3 IPv4 または IPv6 セクションで [タスク] > [追加] をクリックし、IP アドレスまたは IP アドレス範囲を指定して、[OK] をクリックします。

MAC アドレスによるフィルター

公開済みのリソースに MAC アドレスまたは特定の一連の MAC アドレスからアクセスできるようにするには、次の操作を実行します。

- 1 [フィルターのタイプを選択] ドロップダウンリストで [MAC] を選択します。
- 2 [以下の MAC を許可] オプションを選択します。
- 3 [タスク] > [追加] をクリックし、MAC アドレスを選択して、[OK] をクリックします。

ゲートウェイによるフィルター

公開済みのリソースにユーザーが特定のゲートウェイから接続できるようにするには、次の操作を実行します。

- 1 [ゲートウェイ] フィルタータイプを選択します。
- 2 [これらのゲートウェイ経由の接続を許可する] オプションを選択します。
- 3 [タスク] > [追加] をクリックし、ゲートウェイとその IP アドレス（複数の IP アドレスがある場合）を指定します。

複数のフィルタールールの構成

公開済みの特定のリソースに対して複数のフィルタールールを構成した場合、接続ユーザーはその「すべて」のルールを満たさない限り、公開済みのリソースにアクセスできません。

第 9 章

RAS Secure Client Gateway

この章の内容

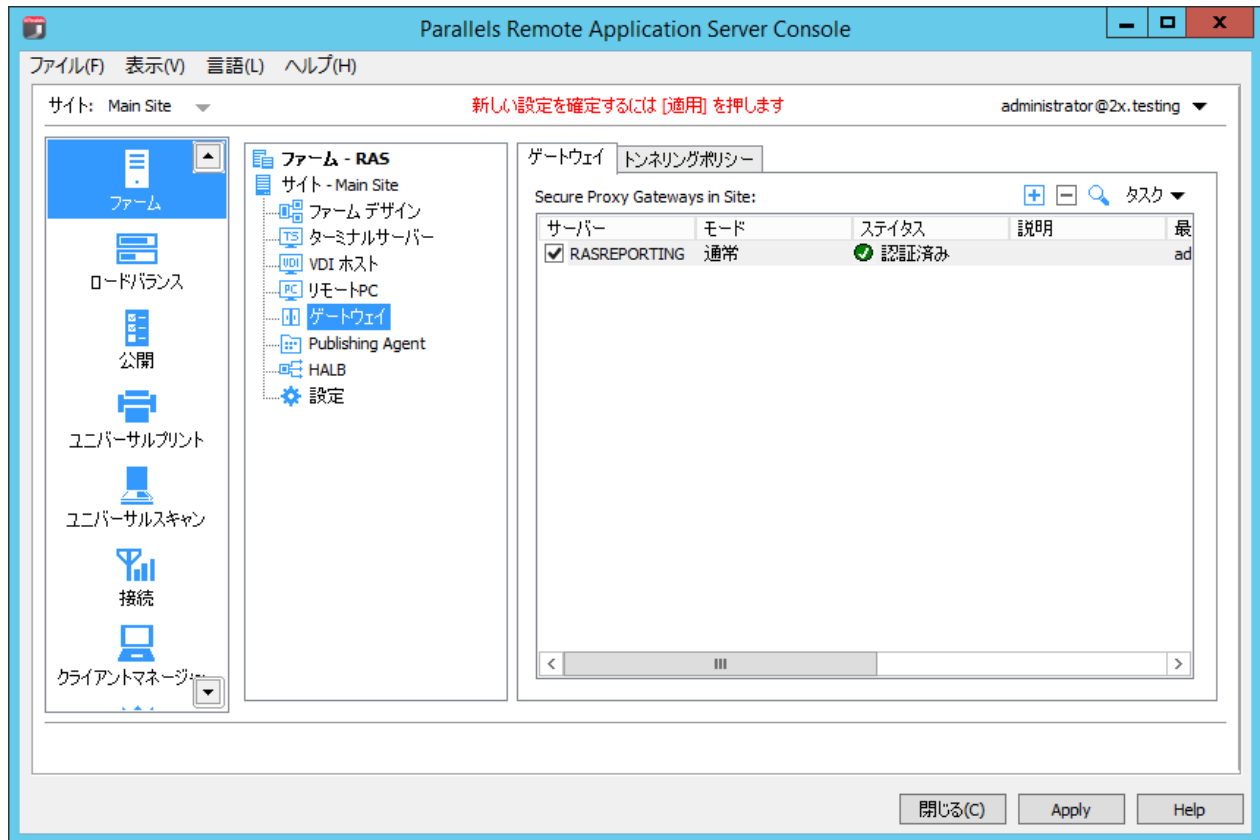
RAS Secure Client Gateway の概要.....	143
RAS Secure Client Gateway の追加.....	145
手動による RAS Secure Client Gateway の追加.....	146
RAS Secure Client Gateway のステータスの確認.....	147
RAS Secure Client Gateway の管理.....	148
ゲートウェイのトンネリングポリシー.....	157

RAS Secure Client Gateway の概要

RAS Secure Client Gateway は、すべての Parallels Remote Application Server データを 1 つのポート上でトンネリングします。また、RAS Secure Client Gateway は、セキュアな接続を提供し、Parallels Remote Application Server へのユーザー接続点となります。

デフォルトでは、RAS Secure Client Gateway は、Parallels Remote Application Server がインストールされているサーバーと同じサーバーにインストールされます。サイトに別の RAS Secure Client Gateways を追加することで、増加するユーザーやロードバランス接続に対応し、冗長性を備えることができます。

RAS Secure Client Gateways を管理するには、RAS Console で、[ファーム] / <サイト名> / [ゲートウェイ] に移動します。[ゲートウェイ] と [トンネリングポリシー] を管理するには、左ページのタブページを使用します。



RAS Secure Client Gateway の仕組み

ここでは、RAS Secure Client Gateway がユーザーの接続要求を処理する方法について説明します。

- 1 RAS Secure Client Gateway は、ユーザーの接続要求を受信します。
- 2 そして、ファーム内のすべての RAS Publishing Agent にリクエストを転送します。
- 3 RAS Publishing Agent は、ロードバランスチェックと Active Directory セキュリティ検索を実行し、セキュリティ権限を取得します。
- 4 公開済みのリソースをリクエストしたユーザーに許可が与えられると、RAS Publishing Agent はゲートウェイサービスに応答を返します。応答には、ユーザーがどのターミナルサーバーに接続できるかについての詳細が含まれます。
- 5 クライアントは、接続モードに応じて、ゲートウェイを介して RDS サーバーに接続するか、ゲートウェイを切断して RDS サーバーに直接接続します。

RAS Secure Client Gateway の動作モード

RAS Secure Client Gateway は、次のいずれかのモードで動作します。

- 通常モード: 通常モードの RAS Secure Client Gateway は、ユーザー接続リクエストを受け取った後、要求したユーザーにアクセス権があるかどうかを、Publishing Agent に確認します。通常のゲートウェイを使用すると、大量のリクエストに対応でき、冗長性を向上できません。
- 転送モード: 転送モードの RAS Secure Client Gateway は、すべてのユーザー接続リクエストを、事前に構成されたゲートウェイに転送します。ファイアウォールカスケードを使用する場合は、WAN 接続を LAN 接続から切り離すのに転送モードのゲートウェイが役立ちます。また、転送モードのゲートウェイを使用すると、問題発生時に LAN を中断することなく WAN セグメントを切断できます。

注意: ゲートウェイが転送モードを使用するように構成するには、複数の RAS Secure Client Gateway が必要です。

RAS Secure Client Gateway の追加

RAS Secure Client Gateway をサイトに追加するには、次の手順を実行します。

- 1 RAS Console で、[ファーム] / <サイト名> / [ゲートウェイ] に移動します。
- 2 右側のペインの [ゲートウェイ] タブが選択された状態で、[タスク] > [追加] をクリックして、[RAS Secure Client Gateway の追加] ウィザードを開始します。
- 3 サーバーの FQDN または IP を入力します（または [...] ボタンをクリックして、リストからサーバーを選択します）。
- 4 [モード] ドロップダウンメニューからゲートウェイモードを選択します。
- 5 上記の手順で [転送先] モードを選択した場合は、[転送先] ドロップダウンリストで転送先のゲートウェイを選択します。
- 6 [SSL 証明書の追加と HTML5 ゲートウェイの有効化] オプションを選択して、自己署名証明書の作成、SSL の有効化、および HTML5 サポートの有効化を自動で行います。詳細については、「ゲートウェイでの HTML5 サポートの有効化」(p. 153) を参照してください。
- 7 ゲートウェイをホストしているサーバー上のファイアウォールを自動的に構成するには、[ファイアウォールルールを追加] を選択します。
- 8 [次へ] をクリックします。
- 9 次のページで [インストール] をクリックして、RAS Secure Client Gateway のインストールを開始します。

10 インストールが終了したら、[完了] をクリックします。

手動による RAS Secure Client Gateway の追加

RAS Secure Client Gateway を手動でインストールしてファームに追加するには、次の手順を実行します。

- 1** RAS Secure Client Gateway をインストールするサーバーに管理者アカウントを使用してログインします。
- 2** Parallels Remote Application Server インストールファイル (RASInstaller.msi) をサーバーにコピーし、そのファイルをダブルクリックしてインストールウィザードを起動します。
- 3** プロンプトが表示されたら、[次へ] をクリックし、エンドユーザー使用許諾契約書に同意します。
- 4** RAS Secure Client Gateway のインストール先のパスを選択し、[次へ] をクリックします。
- 5** インストールタイプの画面から [カスタム] を選択し、[次へ] をクリックします。
- 6** 機能ツリーで [RAS SecureClientGateway] をクリックし、[このコンピューターのローカルディスクにすべての機能をインストールします] を選択します。
- 7** 選択ツリーで他のすべてのコンポーネントが選択解除されていることを確認し、[次へ] をクリックします。
- 8** [インストール] をクリックしてインストールを開始します。
- 9** インストールが完了したら、[完了] をクリックしてウィザードを閉じます。
- 10** インストールが完了した後、RAS Console を開いて、ゲートウェイを管理する RAS Publishing Agent を指定します。

RAS Secure Client Gateway のステータスの確認

RAS Secure Client Gateway のステータスを確認するには、RAS Secure Client Gateway を右クリックして、コンテキストメニューの [ステータスを確認する] をクリックします。[RAS Secure Client Gateway 情報] ダイアログボックスが開きます。



ダイアログボックスには、次のようなゲートウェイ情報が表示されています。

- ゲートウェイが配置されているサーバーの名前。
- 確認ステータス。
- バージョン番号。バージョン番号は、Parallels Remote Application Server のバージョン番号と一致している必要があります。
- ホストサーバーが実行されているオペレーティングシステムのタイプ。

[ステータス] フィールドには、現在の RAS Secure Client Gateway のステータスが表示されません。ステータスが問題を示している場合は（ゲートウェイが応答しない、ゲートウェイのバージョンが間違っているなど）、[インストール] ボタンをクリックして、サーバーにゲートウェイをプッシュインストールします。インストールが完了するのを待ち、再度ステータスを確認します。

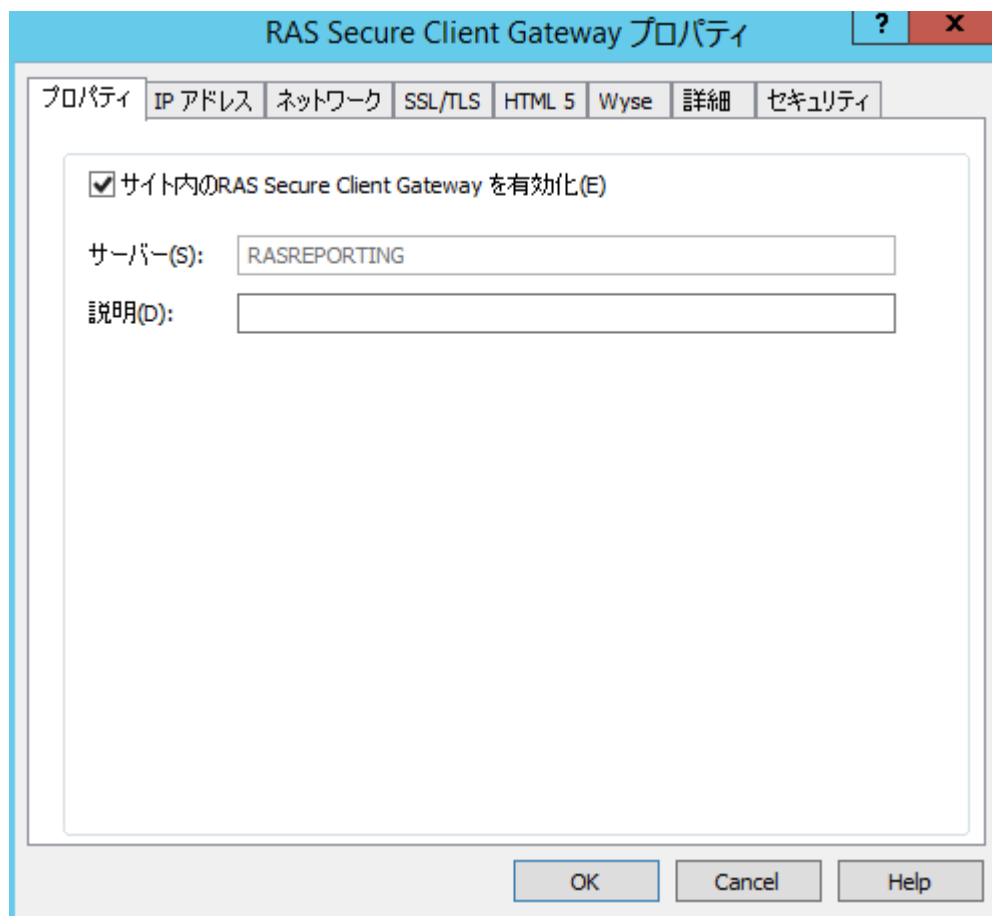
RAS Secure Client Gateway の管理

RAS Secure Client Gateway を構成するには、次の操作を実行します。

- 1 RAS Console で、[ファーム] / <サイト名> / [ゲートウェイ] に移動します。
- 2 右側のペインで、ゲートウェイを右クリックして、[プロパティ] をクリックします。
- 3 [RAS Secure Client Gateway プロパティ] ダイアログが開きます。

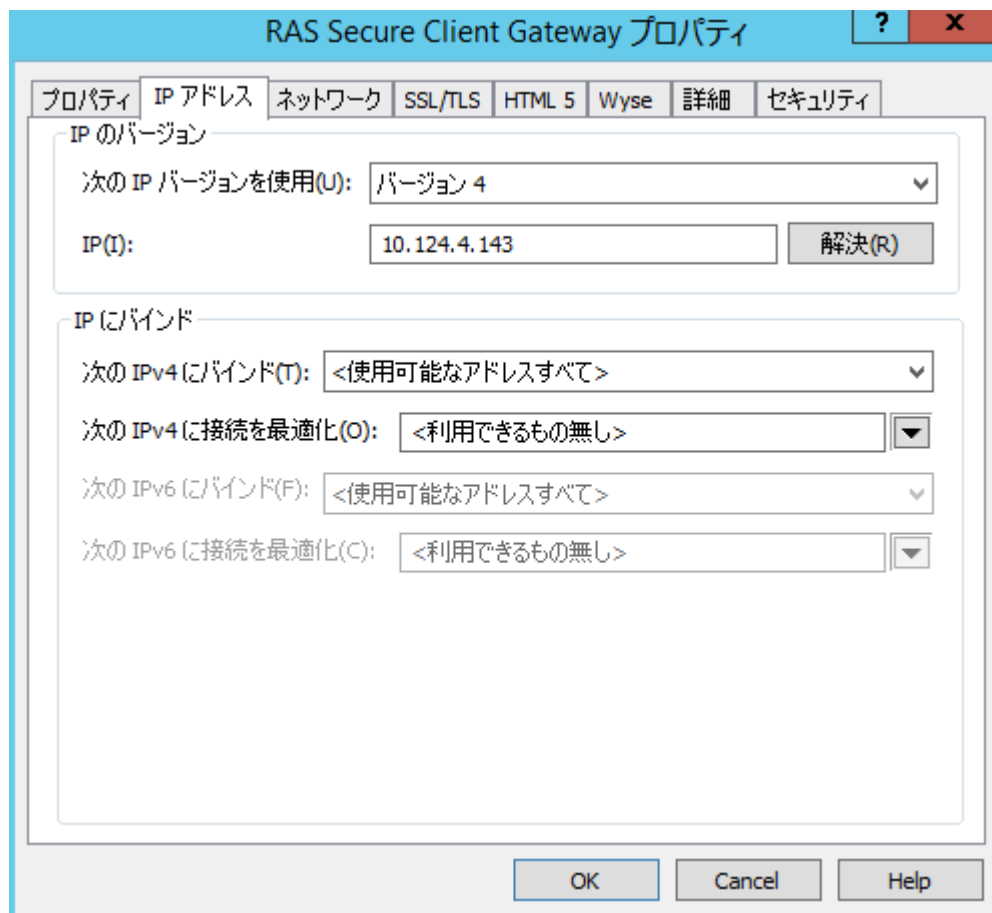
RAS Secure Client Gateway の有効化および無効化

サイトでは、デフォルトで RAS Secure Client Gateway が有効になっています。ゲートウェイを無効にするには、[サイト内の RAS Secure Client Gateway を有効化] オプションをクリアします。



受信接続用の IP アドレスの構成

[IP アドレス] タブページをクリックし、受信クライアント接続用の IP アドレスオプションを設定します。



RAS Secure Client Gateway は IPv4 と IPv6 の両方を認識します。デフォルトでは、IPv4 が有効になっています。ゲートウェイに IPv6 と IPv4 が構成されている場合、クライアントは接続に IPv4 と IPv6 のどちらを使用するか、あるいはその両方を使用するかを指定できます。

[次の IP バージョンを使用] ドロップダウンリストで、使用する IP バージョンを選択し、選択したバージョン (IPv4 と IPv6 を選択した場合は両方のバージョン) に対応するプロパティを指定します。

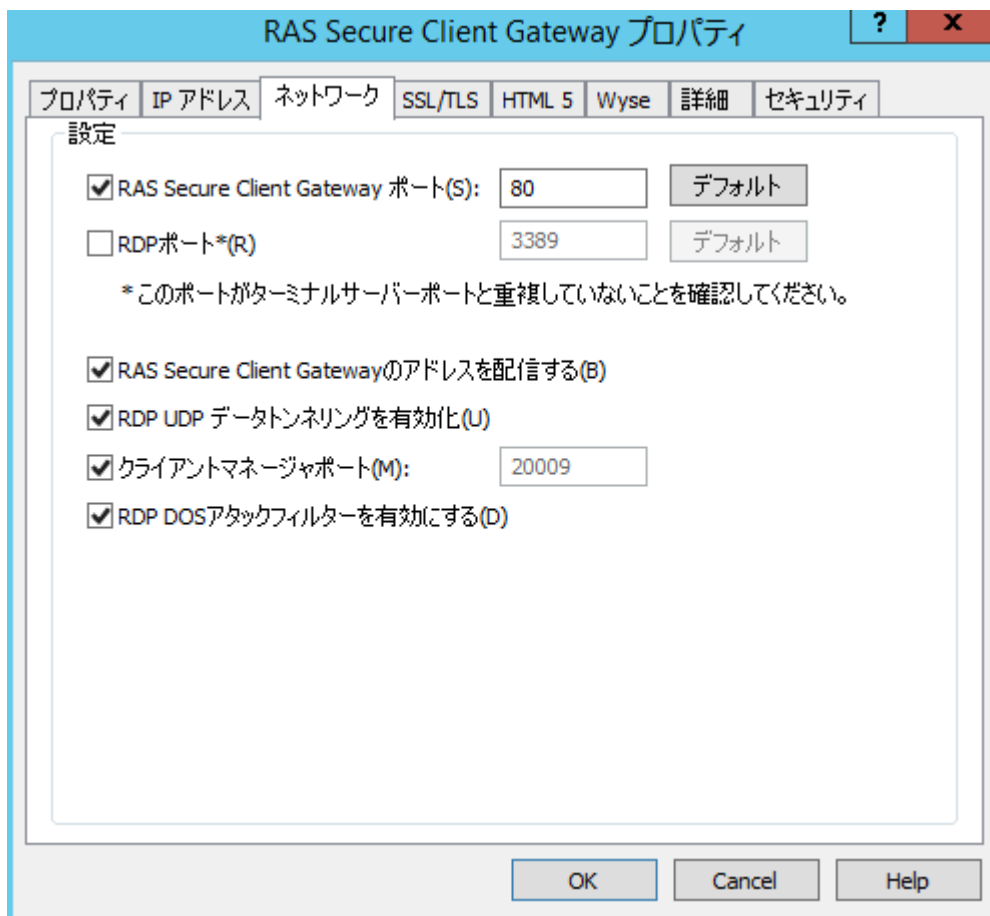
[解決] ボタンをクリックすると、選択した IP バージョンに応じて RAS Secure Client Gateway の IP アドレスが解決します。

[次の IPv4/ IPv6 にバインド] プロパティでは、RAS Secure Client Gateway がどの IP アドレスで受信接続を待機するかを定義します。特定のアドレスまたは利用可能なすべてのアドレスを定義できます。

[次の IPv4/ IPv6 に接続を最適化] プロパティを使用すると、このゲートウェイと Parallels Client 間の接続で高遅延が発生した場合（インターネットなど）に、トラフィックが最適化され、Parallels Client クライアントのパフォーマンスが向上します。特定のアドレスまたは利用可能なすべてのアドレスを選択できます。また、[なし] を選択するとこのオプションは無効になります。

RAS Secure Client Gateway ネットワークオプションの構成

[ネットワーク] タブページでは、RAS Secure Client Gateway のネットワークオプションを構成できます。



デフォルトでは、RAS Secure Client Gateway は、TCP ポート 80 と 443 上で待機して、すべての Parallels Remote Application Server トラフィックをトンネリングします。ポートを変更するには、[RAS Secure Client Gateway ポート] 入力フィールドで新しいポートを指定します。

負荷分散された基本的なデスクトップセッションを必要とするクライアントでは、TCP ポート 3389 が使用されます。このポート上の接続では、公開したアイテムはサポートされません。ゲートウェイの RDP ポートを変更するには、[RDP ポート] オプションを選択して、新しいポートを指定します。

注意: RDP ポートを変更した場合、ユーザーはリモートデスクトップクライアント内の接続文字列にポート番号を追加する必要があります (例: [IP アドレス]:[ポート])。

Windows デバイスで UDP トンネルを有効にするには、[RDP UDP データトンネリングを有効化] オプション (デフォルト) を選択します。UDP トンネルを無効にするには、このオプションをオフにします。

Windows デバイスを [クライアントマネージャー] カテゴリから管理するには、[クライアントマネージャーポート] オプションを選択します。このオプションは、デフォルトで有効になっています。

[RDP DOS アタックフィルターを有効にする] オプションを有効にすると、同一 IP アドレスからの一連の未完了セッションが拒否されます。たとえば、Parallels Client が、間違った資格情報を使用して Parallels RAS への接続を複数回試みた場合、Parallels RAS はそれ以降の接続の試みを拒否します。このオプションは、デフォルトで有効になっています。

[RAS Secure Client Gateway のアドレスを配信する] オプションを使用して、ゲートウェイアドレスのブロードキャストを有効にすることができます。これにより、Parallels Client でプライマリゲートウェイを自動的に見つけることができます。このオプションは、デフォルトで有効になっています。

RAS Secure Client Gateway での SSL 暗号化の有効化

ユーザーと RAS Secure Client Gateway 間のトラフィックは常に暗号化されます。[SSL/TLS] タブページでは、暗号化オプションを構成できます。デフォルトでは、RAS Secure Client Gateway のインストール時に自己署名証明書がインストールされ、TLS v1.0、v1.1、または v1.2 が使用されます。

新しい自己署名証明書を発行するには、次の操作を実行します。

- 1 [SSL 有効化] オプションを選択し、ポート番号を指定します (デフォルトは 443)。

- 2 (オプション) RAS Secure Client Gateway で許可される SSL バージョンを [許可される SSL バージョン] ドロップダウンリストから選択します (デフォルトは [TLS v1 - TLS v1.2])。次のオプションを利用できます。
 - TLSv1.2 のみ (強)
 - TLSv1.1 - TLSv1.2
 - TLSv1 - TLSv1.2
 - SSL v3 - TLS v1.2
 - SSL v2 - TLS v1.2 (弱)
- 3 (オプション) 証明書の暗号化アルゴリズムの強度として、必要な [暗号強度] を選択します。
- 4 [新しい証明書発行] ボタンをクリックし、必要な詳細情報を入力します。

注意:信頼された機関からの証明書を使用して SSL を有効にするには、次の操作を実行します。
- 5 [保存] をクリックし、すべての詳細情報を保存し、新しい自己署名証明書を生成します。[キーファイル] と [証明ファイル] のデータは自動的に読み込まれます。
- 6 [OK] をクリックしてオプションを保存します。

カスタム暗号化の使用

[暗号] フィールドを使用して、任意のカスタム暗号化文字列を openssl 標準に従って入力します。Parallels Remote Application Server で使用する暗号化文字列を以下に示します。

低: ALL:!aNULL:!eNULL

中: ALL:!aNULL:!ADH:!eNULL:!LOW:!EXP:RC4+RSA:+HIGH:+MEDIUM

高:

- 最小 SSLv2 - ALL:!aNULL:!ADH:!eNULL:!LOW:!MEDIUM:!EXP:+HIGH
- 最小 SSLv3 - ALL:!SSLv2:!aNULL:!ADH:!eNULL:!LOW:!MEDIUM:!EXP:+HIGH
- 最小 TLSv1 - ALL:!SSLv2:!SSLv3:!aNULL:!ADH:!eNULL:!LOW:!MEDIUM:!EXP:+HIGH
- 最小 TLSv1_1 - ALL:!SSLv2:!SSLv3:!TLSv1:!aNULL:!ADH:!eNULL:!LOW:!MEDIUM:!EXP:+HIGH
- 最小 TLSv1_2 - ALL:!SSLv2:!SSLv3:!TLSv1:!TLSv1.1:!aNULL:!ADH:!eNULL:!LOW:!MEDIUM:!EXP:+HIGH

注意:デフォルトでは、ゲートウェイとサーバー間の接続のみが暗号化されます。ユーザーとゲートウェイ間の接続も暗号化するには、すべての Parallels Client で、接続プロパティの接続モードを [Gateway SSL モード] に変更します。

信頼された機関からの証明書を SSL で使用する

信頼された機関から取得した証明書を使用して RAS Secure Client Gateway の SSL を有効にするには、次の操作を実行します。

- 1 [証明書要求の作成] ボタンをクリックします。[新しい証明書発行] ダイアログが開きます。
- 2 必要な詳細情報を入力し、[保存] をクリックします。
- 3 証明書の準備ができると、ポップアップウィンドウに証明書要求情報が表示されます。
- 4 [コピー] をクリックして要求をコピーします。後で、これを認証局に送信することができます。
- 5 認証局から SSL 証明書を受け取ったら、[SSL/TLS] タブページで [パブリックキーのインポート] ボタンをクリックします。
- 6 パブリックキーが含まれる証明書ファイルを参照し、[開く] をクリックします。
- 7 [OK] をクリックして設定を保存します。

RDP-UDP 接続の保護

通常、Parallels Client は RAS Secure Client Gateway と TCP 接続経由で通信します。最近の Windows クライアントでも、UDP 接続を使用して WAN のパフォーマンスを向上することができます。UDP 接続を SSL で保護するには、DTLS を使用する必要があります。

RAS Secure Client Gateway で DTLS を使用するには、次の操作を実行します。

- 1 [SSL/TLS] タブページで [SSL 有効化] オプションが選択されている (デフォルト) ことを確認します。
- 2 [ネットワーク] タブページで (p. 150) [RDP UDP データトンネリングを有効化] オプションが選択されている (デフォルト) ことを確認します。

[Gateway SSL モード] を使用するように Parallels Client を構成する必要があります。このオプションは、クライアント側の [接続設定] > [接続モード] ドロップダウンリストで設定できます。

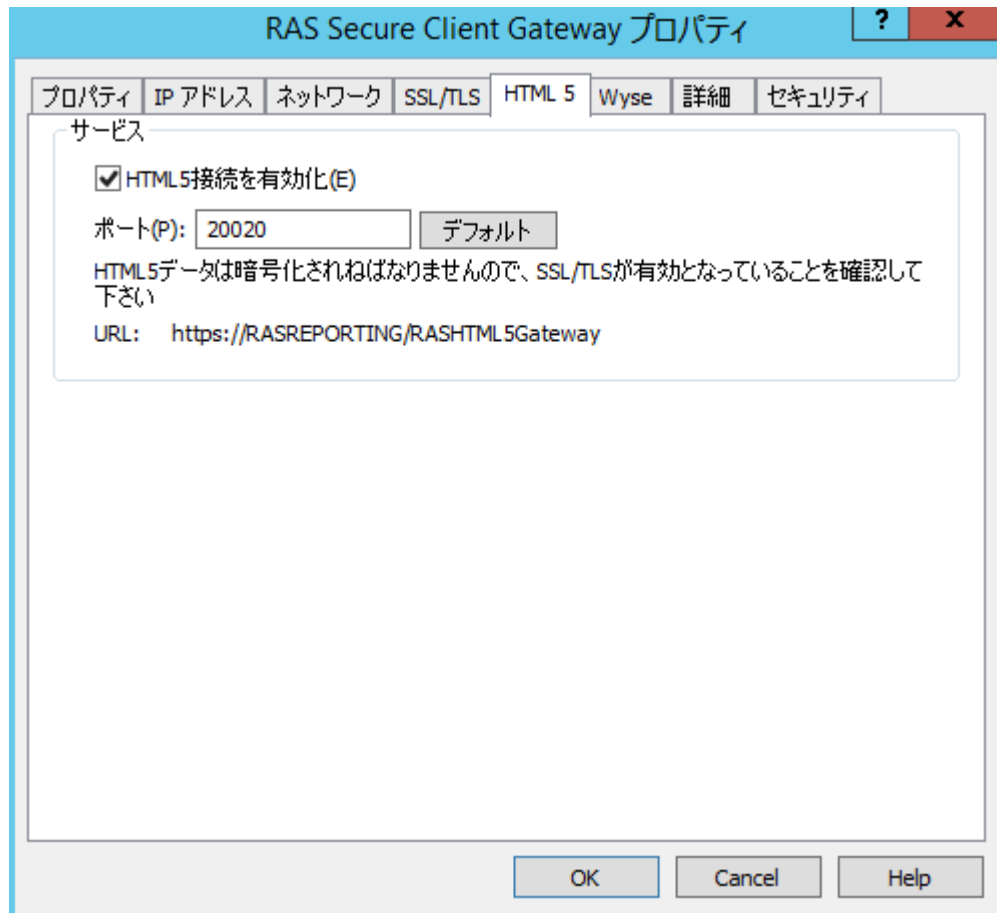
上記オプションが適切に設定されると、TCP および UDP 接続が SSL 上でトンネリングされます。

ゲートウェイでの HTML5 サポートの有効化

注意: ゲートウェイで HTML5 サポートを有効にするには、SSL/TLS を有効にして構成する必要があります。

HTML5 サポートが RAS Secure Client Gateway で有効になっている場合（デフォルトで有効になっています）、ユーザーは、HTML5 対応のウェブブラウザで公開済みのアプリケーションを起動して操作できます（RAS クライアントソフトウェアは不要です）。

ゲートウェイで HTML5 サポートを有効または無効にするには、[HTML5] タブの [HTML5 接続を有効化] オプションを選択します。HTML 5 モジュールに接続するためにゲートウェイで使用する [ポート] を指定することもできます。

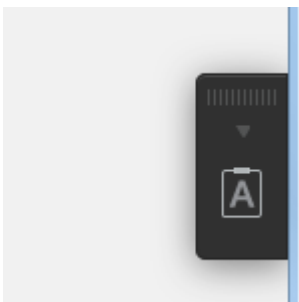


HTML5 インターフェイスへのアクセス

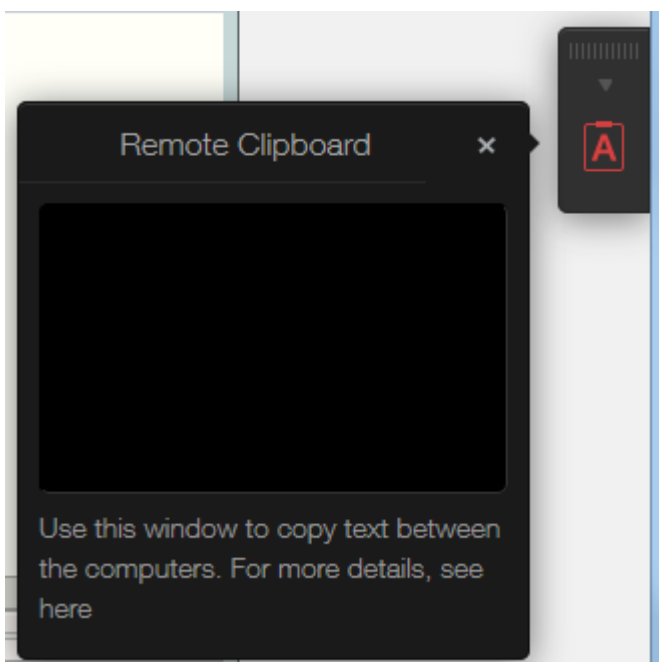
ゲートウェイの HTML5 インターフェイスに接続し、公開済みのリソースにアクセスするには、次の操作を実行します。

- 1 HTML5 対応のウェブブラウザで、次の URL を開きます。
`https://[ホスト名]/RASHTML5Gateway`
- 2 ログインページで、ユーザー名とパスワードを指定して、[ログイン] をクリックします。
- 3 公開済みのリソースが、ブラウザのバーチャルデスクトップに表示されます。

- 4 アプリケーションを起動するには、アプリケーションのアイコンをダブルクリックします。アプリケーションはブラウザ内で実行され、RDP 環境やローカルで実行されている場合と見た目は変わりません。
- 5 リモートアプリケーションとローカルコンピューターとの間で、テキストのコピーと貼り付けができます。このためには、次の操作を実行します。
 - a ブラウザーウィンドウの右側のツールバーをクリックします。



- b これにより、[リモートクリップボード] ウィンドウが開きます。



- c テキストをローカルコンピューターからリモートアプリケーションにコピーするには、テキストをリモートクリップボードに入力します（または貼り付けます）。入力された（貼り付けられた）テキストは、自動的にリモートコンピューターのクリップボードに保存されるため、標準の貼り付けコマンド（Ctrl+V など）を使用して、テキストをリモートアプリケーションに貼り付けることができます。

- d テキストをリモートアプリケーションからリモートクリップボードにコピーするには、テキストを選択して、標準のコピーコマンド (Ctrl+C など) を使用します。テキストはリモートクリップボードに表示され、そこからアプリケーションにローカルにコピーできます。
- 6 RAS HTML5 インターフェイスのメインメニューには、次のメニュー項目があります。
- 設定 : サウンド、リダイレクション、およびキーボードの互換設定を変更できます。
 - パスワードの変更 : パスワードを変更できます。
 - 矢印のついたドアアイコンをクリックすると、HTML5 ゲートウェイから切断されます。

ゲートウェイモードと転送設定の変更

ゲートウェイモードを通常モードから転送モード (またはその逆) に変更して、関連する設定を構成するには、[RAS Secure Client Gateway プロパティ] ダイアログボックスの [詳細] タブをクリックします。

通常モード

ゲートウェイを通常モードに設定するには、[RAS Publishing Agent と HTTP サーバーにリクエストを転送] を選択します。

このタブでは、[HTTP サーバー] ドロップダウンメニューで、ゲートウェイがリクエストを転送する HTTP サーバーを構成することもできます。IPv6 サーバーを使用して HTTP サーバーエントリをセットアップできます。リクエスト元のブラウザの IP バージョンと同じ IP バージョンが HTTP サーバーでサポートされる必要があります。

転送モード

ゲートウェイを転送モードに設定するには、[次の RAS Secure Client Gateway にリクエストを送信する。 (カスケードファイアウォール)] を選択します。

[RAS Secure Client Gateway の転送] ドロップダウンメニューから転送ゲートウェイを選択します。

注意: 転送モードで動作するようにゲートウェイを設定すると、IPv6 で待機している別のゲートウェイにデータが転送される可能性があります。ゲートウェイを転送モードで構成する場合、同じ IP バージョンのゲートウェイにデータを転送するようにゲートウェイを設定することをお勧めします。

ゲートウェイの複数の IP アドレスの管理

RAS Secure Client Gateway を実行しているサーバーに複数の IP アドレスがある場合、ゲートウェイは、デフォルトで、すべての IP アドレス上で待機します。特定の IP アドレス上でのみ

ゲートウェイが待機するように構成するには、[次の IP アドレスにゲートウェイをバインドする] ドロップダウンリストから IP アドレスを選択します。

Wyse シンククライアント OS のサポート

Wyse シンククライアント OS を使用してアプリケーションを Parallels Remote Application Server からシンククライアントに公開するには、[Wyse] タブページで [Wyse ThinOS を有効化する] オプションを選択します。

このオプションを有効にすると、RAS Secure Client Gateway が Wyse Broker として機能します。タブページで説明されているとおりに DHCP サーバーを構成したら、[テスト] ボタンをクリックして、DHCP サーバーの設定を確認します。

RAS Secure Client Gateway へのアクセスのフィルター

ゲートウェイへのユーザーアクセスを MAC アドレスに基づいて許可または拒否できます。

許可または拒否する MAC アドレスのリストを構成するには、[セキュリティ] タブで次のいずれかのオプションを選択します。

- 以外を許可: このリストに含まれる MAC アドレスを除き、ネットワーク上のすべてのデバイスがゲートウェイへの接続を許可されます。[タスク] > [追加] をクリックし、デバイスを選択するか、MAC アドレスを指定します。
- のみを許可する: リストに含まれる MAC アドレスを持つデバイスのみがゲートウェイへの接続を許可されます。[タスク] > [追加] をクリックし、デバイスを選択するか、MAC アドレスを指定します。

ゲートウェイのトンネリングポリシー

トンネリングポリシーを使用して、ターミナルサーバーのグループを特定の RAS Secure Client Gateway または RAS Secure Client Gateway IP アドレスに割り当てることで、接続を負荷分散することができます。

トンネリングポリシーを構成するには、[ファーム] / <サイト名> / [ゲートウェイ] に移動し、右ペインの [トンネリングポリシー] タブをクリックします。

トンネリングポリシーの構成

<デフォルト> ポリシーは、事前に構成されたルールであり、常に最後のルールになります。これにより、未構成のすべてのゲートウェイ IP アドレスが検出され、ファーム内のすべてのサーバー間でセッションが負荷分散されます。<デフォルト> ポリシーを構成するには、<デフォルト> ポリシーを右クリックし、コンテキストメニューで [プロパティ] をクリックします。

新しいトンネリングポリシーの追加

新しいポリシーを追加するには、次の手順を実行します。

- 1 [タスク] > [追加] をクリックします。
- 2 ゲートウェイの IP アドレスを選択します。
- 3 この特定のゲートウェイに接続しているユーザーをどのターミナルサーバー（複数可）に転送するかを指定します。

トンネリングポリシーの管理

既存のトンネリングポリシーを変更するには、そのトンネリングポリシーを右クリックし、コンテキストメニューで [プロパティ] を選択します。

第 10 章

RAS Web Portal

この章の内容

RAS Web Portal:前提条件およびインストール.....	159
管理ページへのログイン.....	162
ファーム設定.....	163
一般設定.....	166

RAS Web Portal:前提条件およびインストール

RAS Web Portal を使用すると、ユーザーは公開したアプリケーションおよびデスクトップをさまざまなファームから起動できます。

要件

- Windows Server 2003 SP1、2008、2012、2012 R2
- Microsoft .NET Framework 2.0、3.0
- ASP.NET ロール
- IIS6 または IIS7
- Parallels Remote Application Server

サポートされるクライアントオペレーティングシステムとブラウザ

	IE9	IE10	IE11	MS Edge	Chrome	Firefox	Safari
Windows Vista	●				●	●	●
Windows 7	●	●	●		●	●	●
Windows 8		●			●	●	●
Windows 8.1			●		●	●	●
Windows 10			●	●	●	●	●

Linux					●	●	●
OS X					●	●	●
iOS					●	●	●
Android					●	●	

クライアントの自動検出およびインストール

	IE9	IE10	IE11	MS Edge	Chrome	Firefox	Safari
Windows Vista	●				●	●	●
Windows 7	●	●	●		●	●	●
Windows 8		●			●	●	●
Windows 8.1			●		●	●	●
Windows 10			●	●	●	●	●
Linux					●	●	●
OS X					●	●	●
iOS					●	●	●
Android					●	●	

インストール

RAS Web Portal を Active Directory マシンにインストールしないことをお勧めします。

公開したアプリケーションへのアクセスポイントとして使用する IIS マシンで RASWebPortal.msi または RASWebPortal-x64.msi ファイルをダブルクリックし、RAS Web Portal のセットアッププログラムを実行します。

RAS Web Portal をインストールするには、次の操作を実行します。

- 1 公開済みのアプリケーションへのアクセスポイントとして使用する IIS マシンで、RASWebPortal.msi または RASWebPortal-x64.msi ファイルを実行します。
- 2 [RAS Web Portal の設定] ウィザードが開きます。
- 3 [よろこ] ページの情報を読み、[次へ] をクリックします。

- 4 次のページで、エンドユーザー使用許諾契約書を読みます。同意する場合は、[使用許諾契約書に同意します] オプションを選択して [次へ] をクリックします。
- 5 [RAS Web Server のポート] ページで、ポート番号を指定します。RAS Secure Client Gateway は、デフォルトでポート 80 にインストールされ、HTTP リクエストをポート 81 でローカルホストに転送するように構成されます。したがって、クライアントは、依然としてポート 80 から RAS Web Portal にアクセスできます。RAS Web Portal をその他のポートにインストールすることもできます。また、他のウェブサイトで使用されている既存のポートを使用することもできます。
- 6 [次へ] をクリックし、[インストール] をクリックします。
- 7 [完了] をクリックすると、インストールが完了します。

IIS7 は動的コンテンツと静的コンテンツをキャッシュします。RAS Web Portal ディレクトリの .aspx、.asmx、および .ashx ページとセッション状態に依存する asp.net ページのキャッシュを無効にするには、「RAS Web Server」、「2X ウェブポータル」、および「2X ウェブサービス」で次の手順を実行します。

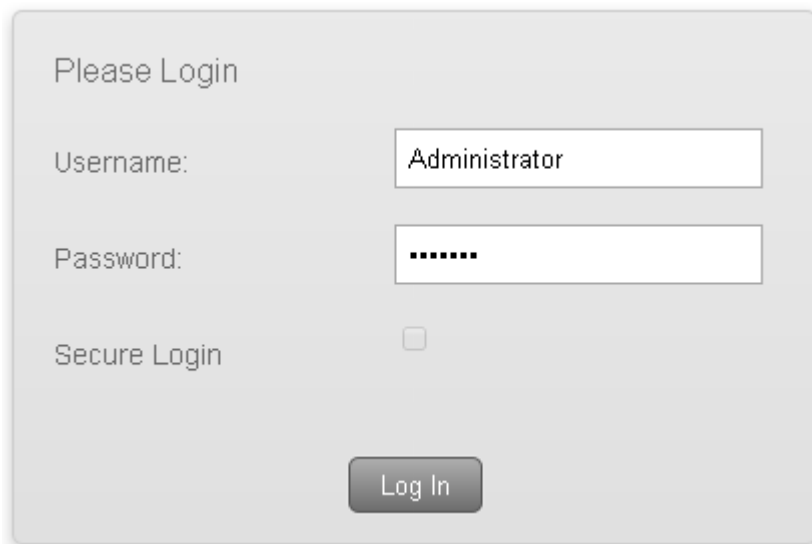
.aspx、.asmx、および .ashx で構成されるフォルダーのキャッシュの無効化

- 1 サーバー管理コンソールを実行します。
- 2 [役割] > [ウェブサーバー (IIS)] > [Internet Information Services] の順に移動します。
- 3 次のサイトで、ステップ 4 からステップ 12 を繰り返します。RAS Web Server、2X ウェブポータル、および 2X ウェブサービス
- 4 キャッシュを無効にする .aspx、.asmx、.ashx ページを含んでいるフォルダーを選択します。
- 5 [機能ビュー] で、[出力キャッシュ] をダブルクリックします。
- 6 .aspx 拡張子のルールがすでに存在する場合、それをダブルクリックしてステップ 8 から手順を続行します。それ以外の場合は、右クリックして、[追加] を選択します。
- 7 [ファイル名拡張子] として「.aspx」と入力します。
- 8 [ユーザーモードキャッシュ] を確認します。
- 9 [すべてのキャッシュの禁止] を選択します。
- 10 [カーネルモードキャッシュ] を確認します。
- 11 [すべてのキャッシュの禁止] を選択します。
- 12 [OK] をクリックします。
- 13 サーバー管理コンソールを閉じます。

管理ページへのログイン

RAS Web Portal をインストールした後、ブラウザで次の URL を開きます。

<http://localhost/2XWebPortal/Admin.aspx>



Please Login

Username: Administrator

Password: *****

Secure Login

Log In

管理権限を持つユーザーのユーザー名とパスワードを入力し、[ログイン] をクリックして、RAS Web Portal にログインします。

ファーム設定

[ファーム設定] ページで、管理者は複数のファームを追加できます。これにより、ユーザーは公開済みのアプリケーションとデスクトップを [ユーザーログオン] ページから起動できます。

User Logon Page Welcome Administrator | Logout

Parallels RAS Web Portal

RAS Web Portal - Console **Online Manual** **Farm Settings** General Settings

List of Farms Apply Settings

Farms

jb-w2k8r2-srv3...

Farm Name

Add Farm

RAS Web Portal allows users to launch published applications and desktops from multiple farms.

User with administrative rights on the Web Service machine are allowed to add farms from this interface. To add a new farm enter the IP or hostname of the RAS Secure Client Gateway and click "Add Farm". Further farm details can be configured once the farm has been added.

New settings will get activated once the Apply button has been pressed.

ファームを追加するには、RAS Secure Client Gateway の IP アドレスまたはホスト名を入力し、[ファーム追加] をクリックします。左ペインの [ファーム一覧] ツリーの下にファームが追加されます。

ファームの詳細

[ファームディテールズ] ページでは、管理者は各種プロパティを構成できます。以下の図は、選択したファームの詳細を示しています。RAS Web サービスと Parallels Client は、これらの設定を使用して RAS Secure Client Gateway に接続します。

Farm Details

These settings are used from the RAS Web Service and Parallels Client to connect with the RAS Secure Client Gateway of the selected farm.

RAS Secure Client Gateway Details:

Server Alias:

Primary Hostname / IP:

Secondary Hostname / IP:

Connection type:

Port:

サーバーエイリアス : 追加したファームを適切に説明するエイリアス名を入力します。「エイリアス」名によって接続の表示名をわかりやすいものにします。

プライマリホスト名 / IP: この設定はファームの追加時に自動的に追加されます。これは、RAS Secure Client Gateway の IP / ホスト名になります。

セカンダリホスト名 / IP: 別の RAS Secure Client Gateway に対してセカンダリホスト名または IP を追加できます。「プライマリホスト名」が失敗した場合、セカンダリの RAS Secure Client Gateway が、公開済みのアプリケーションとデスクトップをユーザーに提供します。

接続タイプ : これは、ファームの追加時に [ダイレクトモード] に自動的に設定されます。RAS Web サービスは、この接続モードの方法を使用して RAS Secure Client Gateway に接続します。接続モードを [SSL モード] に設定すると、RAS Web サービスと RAS Secure Client Gateway 間 がセキュアにトンネリング接続されます。

ポート : デフォルトポート番号はポート 80 に設定されます。このポートは、RAS Secure Client Gateway 上に設定されたポートと同じである必要があります。

詳細設定

[詳細設定] ページを使用して、Parallels Client のファーム設定を上書きします。これにより、Parallels Client 内の設定が変更されるため、ユーザーが設定を変更する必要はありません。

次のように詳細設定を行います。

RAS Secure Client Gateway IP/Host の上書き : [RAS Secure Client Gateway IP/Host の上書き] を選択し、ファームの [プライマリホスト名/IP] を上書きします。オプションで、[セカンダリホスト名/IP] プロパティを指定することもできます。

ゲートウェイポートの上書き : この設定を選択して、「ゲートウェイ」のポートをデフォルトポート 80 以外に上書きします。

SSL ゲートウェイポートの上書き : この設定を選択して、「ゲートウェイ SSL」のポートをデフォルトポート 443 以外に上書きします。

デフォルト接続モード : ファームの接続モードを次のいずれかに上書きできます。

- [自動] - ファームで構成された接続設定に応じて、「接続モード」が自動的に設定されます。
- [ゲートウェイモード] - クライアントは RAS Secure Client Gateway に接続し、セッション接続は最初に利用可能な接続を介してトンネリングされます。ゲートウェイを介してのみサーバーにアクセスできるようにする場合は、このモデルをお勧めします。このモデルは、高レベルのセキュリティを必要としません。
- [ダイレクトモード] - クライアントは最初に RAS Secure Client Gateway に接続され、利用可能な最適なサーバーにアクセスします。その後、クライアントはこの特定のサーバーに直接接続されます。クライアントとサーバーが同一ネットワーク上に存在する場合、これが最も適しています。
- [Gateway SSL Mode] - クライアントはセキュアモードで RAS Secure Client Gateway に接続されます。トンネリングされるデータが暗号化され、セキュアな接続が維持されます。
- [ダイレクト SSL モード] - クライアントは最初に SSL を使用して RAS Secure Client Gateway に接続され、利用可能な最適なサーバーにアクセスします。その後、クライアントはこの特定のサーバーに直接接続されます。クライアントとサーバーが同一ネットワーク上に存在し、高レベルのセキュリティ保護が必要な場合、これが最も適しています。

設定の適用

ファームの設定を構成したら、[適用] ボタンをクリックして設定を適用できます。

ファームの削除

ファームを削除するには、リストでファームを選択し、[ファームの削除] をクリックします。

一般設定

管理者は、[一般設定] ページで、ログ、セッションタイムアウト、および他のセキュリティ設定を構成し、Parallels RAS Web Portal の外観をカスタマイズできます。Parallels RAS Web Portal の設定は、バックアップを目的として他のサーバーに複製できます。また、管理者は利用可能な Parallels RAS Web Portal のアップデートがないかどうか確認できます。

ログ

管理者は Parallels RAS Web Portal のログを有効にできます。これにより、サービス上で実行された変更を追跡できます。

[ログファイルをとる] を選択すると、Parallels RAS Web Portal でログが開始され、実行されたあらゆるアクティビティが記録されます。

[最新の情報に更新] ボタンをクリックすることで、ログ表示を更新できます。

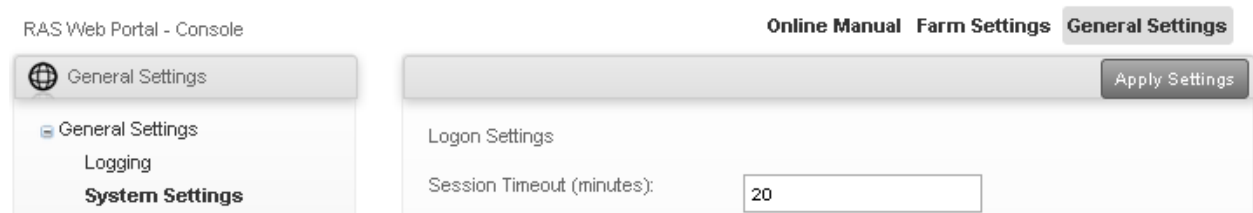
ログエントリをクリアするには、[ログクリア] をクリックします。これにより、以前のログがログ表示から削除されます。

[リポジトリをダウンロード] をクリックすることで、現在のログのコピーを Parallels RAS Web Portal からダウンロードできます。デフォルトでは、圧縮されたログファイルが週単位でバックアップされます。管理者は任意のログを必要に応じて追跡できます。

システム設定

[システム設定] は 2 つのセクションに分割されます。[ログオン設定] と [セキュリティ設定] の 2 つのセクションです。

[ログオン設定] セクションでは、[セッションタイムアウト] オプションを指定します。これは、操作がない場合に Parallels RAS Web Portal のログオンページと管理ページをアイドル状態のまま残しておくことができる時間です。この時間を過ぎると、ユーザーにメッセージが表示され、セッションがタイムアウトしたことで、Parallels RAS Web Portal からユーザーが自動的にログオフされることが示されます。セッションタイムアウト値は 20 分に設定されます。



[セキュリティ設定] では、Parallels RAS Web Portal へのログイン時と RAS Secure Client Gateway への接続時のセキュリティを強化します。

Security Settings

- Private Logon (User Data will be kept on the computer)
- Public Logon (No User Data will be kept on the computer)
- Show Public / Private Logon Options

Enforce Security (HTTPS / SSL)

Show Connection Mode Option

Enable Favourites

Enforce Advanced Client Security
When this option is enabled, no session settings are stored on the client. This option requires client version 10.1 or higher.

Show Change Password option

Enable Admin Page Security

localhost
172.22.2.1

Delete IP Address

Add IP Address

設定可能なセキュリティ設定を以下に示します。

プライベートログオン：このオプションを選択すると、ユーザーデータをローカルコンピューター上に保存できます。データはブラウザのキャッシュに保持され、ユーザーがセッションをログオフしてもデータはクリアされません。

公共ログオン：このオプションを選択すると、ユーザーデータをローカルコンピューター上に保存できません。データの永続性がなくなり、ユーザーがセッションをログオフするとデータはクリアされます。

Public / Private ログオンのオプションを表示：このオプションを有効にすると、ユーザーは「パブリック」または「プライベート」のどちらとして接続するかを選択できます。このオプションは、Parallels RAS Web Portal のユーザー ログオン ページに表示されます。

セキュリティの実行 (HTTPS / SSL)：このオプションを有効にすると、ユーザーは Parallels RAS Web Portal に SSL (HTTPS) モードで強制的に接続されます。RAS Console で SSL が有効にされていない場合、ユーザーは「ファーム」に接続できません。

お気に入りをお気に入りにする：このオプションを有効にすると、ユーザーログオンページに [お気に入り] が表示されます。

Advanced Client Security の実行：このオプションを有効にすると、ユーザーが Parallels RAS Web Portal にログオンするときに、.2xa ファイルのみが開きます。Parallels RAS Web Portal のセッションがタイムアウトになると、ユーザーは .2xa ファイルを開くことができません。

[パスワードを変更する] オプションを表示する：このオプションを有効にすると、ユーザーログオンページに [パスワード変更] オプションが表示されます。

Admin ページのセキュリティを有効にする：このオプションを有効にすると、管理者は、指定されたリスト内の IP アドレスと一致するマシンからのみ管理ページにログインできます。IP アドレスを追加するには、提供されているフィールドに IP アドレスを入力し、[IP アドレスの追加] をクリックします。

システム設定を構成したら、[適用] を選択して設定を保存します。

Parallels Client

公開済みのアプリケーションとデスクトップを起動するには、クライアントに Parallels Client をインストールする必要があります。Parallels Client を自動的に検出するように Parallels RAS Web Portal を構成できます。

Parallels Client インストールを検出するには、[クライアント検出] オプションを選択します。

Parallels Client の検出に失敗した場合、[クライアント検出失敗時のオプション] を使用してユーザーに通知できます。管理者は以下のオプションを選択できます。

- エラーメッセージを表示し、再テストする：このオプションを選択すると、エラーメッセージが表示されるほか、ユーザーは Parallels Client の検出を再テストできます。このオプションでは、Parallels Client をインストールするためのオプションは提供されません。
- エラーメッセージを表示し、インストールまたは再テストを許可する：このオプションを選択すると、エラーメッセージが表示され、Parallels Client をインストールするためのオプションが提供されます。ユーザーは、Parallels Client の検出の再テストを選択することもできます。

- エラーメッセージを表示し、インストールを許可する：このオプションを選択すると、エラーメッセージが表示され、Parallels Client をインストールするためのオプションが提供されます。このオプションでは、Parallels Client の検出を再テストするためのオプションは提供されません。
- エラーメッセージのみを表示する：このオプションを選択すると、エラーメッセージが表示されますが、Parallels Client のインストールまたは再テストのオプションは提供されません。

さまざまな OS プラットフォームに応じて Parallels Client をダウンロードできます。以下の表に、Parallels Client でサポートされるプラットフォームと、各 OS のダウンロード可能なインストールパッケージのタイプを示します。

OS	インストールタイプ	説明
Windows	フルクライアントインストール	すべてのリソースをインストールする Parallels Client インストールを実行します。
	基本クライアントインストール	最小限のリソースを使用する Parallels Client インストールを実行します。
Linux	.deb パッケージ	Debian パッケージを Parallels ウェブサイトからダウンロードします。
	.rpm パッケージ	RPM パッケージマネージャーを Parallels ウェブサイトからダウンロードします。
	.tar.bz2	Linux 用の Parallels Client を圧縮ファイルとして Parallels ウェブサイトからダウンロードします。
Mac	.pkg	Parallels Client を Mac ストアからダウンロードして OS X デスクトップにインストールします。
Android	.apk	Parallels Client を Google Play からダウンロードして Android デバイスにインストールします。

iOS		Parallels Client を App Store からダウンロードして iOS デバイスにインストールします。
-----	--	---

表示のカスタマイズ

[表示のカスタマイズ] では、管理者は Parallels RAS Web Portal の外観をカスタマイズできます。管理者は、異なる会社名の表示、カスタムバナーの追加、カラーテーマの変更などを行って、Parallels RAS Web Portal をカスタマイズできます。

Parallels RAS Web Portal の外観をカスタマイズするための設定を追加するには、わかりやすい設定名を入力テキストフィールドに入力します。[設定の追加] をクリックするか、Enter キーを押して、外観設定のカスタマイズを開始します。

The screenshot shows the 'General Settings' tab in the 'Online Manual Farm Settings' interface. The 'Customised Appearance' section is active. It contains a 'Delete' button and an 'Apply Settings' button. The text explains that administrators can add customisation details for multiple logon screens. It notes that users with administrative rights can add settings by entering a name and clicking 'Add Setting', which prompts for company name, logo, and message. It states that new settings are activated after pressing 'Apply'. Below this, there are three input fields: 'Company ID' (set to 'Personalised'), 'Display Company Name' (set to 'Personalised'), and 'Banner'. The banner field shows a preview of the Parallels RAS Web Portal logo. A note specifies that the banner image should be in GIF format and scaled to 300 x 40 pixels, with larger images being resized. At the bottom, there is a 'Choose File' button and the text 'No file chosen'.

以下のように設定をカスタマイズできます。

会社 ID: デフォルトでこの設定項目に設定される名前は、Parallels RAS Web Portal の外観をカスタマイズするための設定を作成したときの名前と同じです。

会社名の表示: 外観をカスタマイズするための設定を作成したときに設定したデフォルト設定以外の名前を会社名として表示する場合は、その名前を入力します。

バナー: カスタムバナーを Parallels RAS Web Portal に追加できます。バナーには GIF 形式のイメージを使用し、バナーのサイズを 300 x 40 ピクセル以内とする必要があります。

バナーをアップロードするには、[参照] ボタンをクリックし、バナーを選択します。[アップロード] をクリックすると、バナーが RAS Web Service マシンにアップロードされます。

メッセージ: [ユーザーログオンページ] から Parallels RAS Web Portal へのログイン時にログオンセクションの下にメッセージを表示するには、入力テキストフィールドにそのメッセージを入力します。これを使用して、カスタマイズした Parallels RAS Web Portal の説明を表示することができます。

URL: カスタマイズした Parallels RAS Web Portal にユーザーが接続できるように URL でリンクを明示します。この URL は、カスタマイズした新しい設定を作成するときに自動的に生成されます。

注意: ユーザーが [ユーザーログオン] ページにアクセスできるように、Parallels RAS Web Portal のインストールが含まれるサーバーを一般に公開する必要があります。

既定のドメイン: 既定のドメインを入力します。これにより、ユーザーは [ユーザーログオンページ] にログインするときに、既定のドメインに自動的にログインします。

カラーの変更: このセクションでは、管理者はカスタマイズした外観ごとに配色を構成できます。色を構成するには、カラーピッカーやカラーのテーマを使用できます (以下の図を参照)。追加のカラーのテーマを作成するには、カラーピッカーから他の色を選択します。[カラーのテーマ] をデフォルトにリセットするには、[リセット] ボタンをクリックします。

第 11 章

バックアップの Publishing Agent

この章の内容

バックアップ Publishing Agent の追加.....	172
バックアップの Publishing Agent 管理.....	173

バックアップ Publishing Agent の追加

プライマリの RAS Publishing Agent に障害が発生してもサービスが中断しないようにするには、Parallels Remote Application Server ファームのサイトごとにバックアップ Publishing Agent サーバーを構成します。

バックアップ RAS Publishing Agent をサイトに追加するには、次の操作を実行します。

- 1 RAS Console で、[ファーム] / <サイト名> / [Publishing Agents] に移動します。
- 2 [タスク] ドロップダウンメニューで、[追加] をクリックして、[RAS Publishing Agent を追加] ウィザードを起動します。
- 3 新しいバックアップ Publishing Agent をホストするサーバーの FQDN または IP アドレスを指定します。
- 4 指定したサーバーに RAS Secure Client Gateway もインストールする場合は、[Publishing Agent を使ってゲートウェイをインストール] オプションを選択します。このオプションを選択すると、[SSL 証明書を追加して HTML5 ゲートウェイを有効化] オプションを選択することもできます（詳細については、「ゲートウェイでの HTML5 サポートの有効化」）（p. 153）を参照してください。
- 5 サーバー上のファイアウォールを自動的に構成するには、[ファイアウォールルールを追加] オプションを選択します。
- 6 [次へ] をクリックします。
- 7 次のページで [インストール] をクリックして、RAS Publishing Agent をサーバーにインストールします。[RAS Terminal Server Agent のインストール] ダイアログボックスが開きます。
- 8 RAS Publishing Agent がインストールされるサーバーを選択して、[インストール] をクリックします。

- 9 [完了] をクリックします。
- 10 [OK] をクリックして、サーバーをファームに追加します。

バックアップの Publishing Agent 管理

バックアップの Publishing Agent の有効化または無効化

サイトでバックアップの Publishing Agent を有効または無効にするには、対象の Publishing Agent を [Publishing Agents] リストで選択し、行の先頭にあるチェックボックスを選択またはクリアします。

バックアップの Publishing Agent の優先順位の変更

リスト内の各 RAS Publishing Agent には優先順位が与えられます。デフォルトでは、ローカルの RAS Publishing Agent にマスター優先順位が与えられます。この優先順位を変更することはできません。ファーム内の他の Publishing Agent の優先順位を変更するには、Publishing Agent を選択し、[ムーブアップ] と [ムーブダウン] ボタンを使用して、リスト内の適切な場所に移動します。リスト内の位置が高いほど、優先順位が高くなります。

バックアップの Publishing Agent から、マスターの Publishing Agent への昇格
プライマリの Publishing Agent を復元できない場合、次の手順に従って、バックアップの Publishing Agent をマスターに昇格できます。

- 1 昇格の対象とするサーバーで Parallels Remote Application Server Console を開きます（サーバーがバックアップの Publishing Agent サーバーとして追加されたときにすべての必要なファイルが自動的にインストールされています）。
- 2 [ファーム] カテゴリを選択し、[Publishing Agents] ノードに移動します。
- 3 [RAS Publishing Agent] を選択し、[タスク] ドロップダウンメニューで [バックアップをマスターへ昇格する] をクリックします。
- 4 プロセスが完了したら、[OK] をクリックします。

バックアップの Publishing Agent の削除

バックアップの Publishing Agent を削除するには、対象の Publishing Agent をリストで選択し、[タスク] ドロップダウンメニューで [削除] を選択します。

第 12 章

ロードバランス

この章の内容

リソース ベースのロード バランスおよびラウンド ロビンのロード バランス	174
ロード バランスの詳細設定	176
高可用性ロード バランス	177

リソースベースのロードバランスおよびラウンドロビンのロードバランス

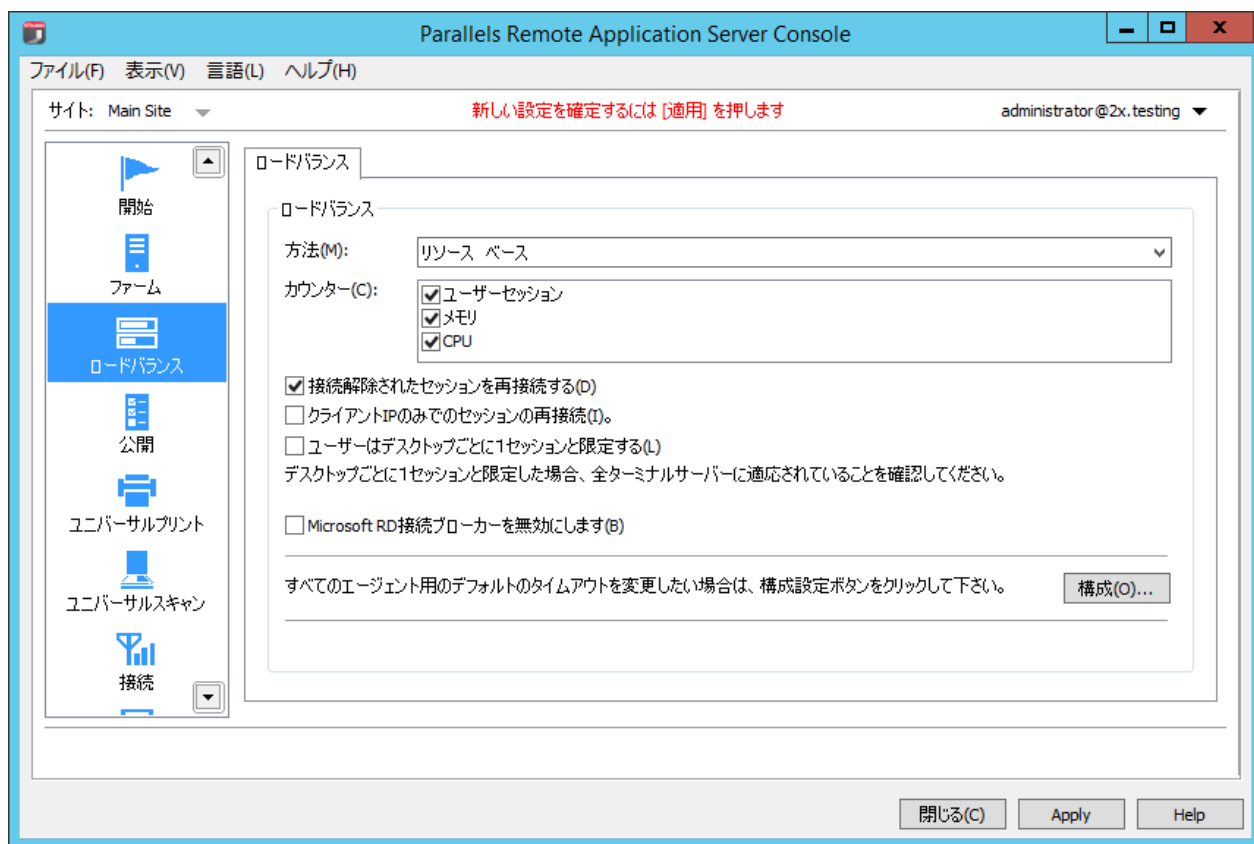
ロードバランサーは、Parallels Clients からの RDS 接続および VDI ホスト接続を適切に負荷分散することを目的として設計されています。

次の種類のロードバランスを使用できます。

- リソースベース: 各サーバーのビジー状態に応じて、セッションが各サーバーに分配されます。つまり、新しい受信セッションは、ビジー状態の程度が最も低いサーバーに常にリダイレクトされます。
- ラウンドロビン: セッションが順番にリダイレクトされます。たとえば、最初のセッションがサーバー 1 にリダイレクトされ、2 番目のセッションがサーバー 2 にリダイレクトされます。ファームに存在するターミナルサーバーが 2 の場合、3 番目のセッションは再度サーバー 1 にリダイレクトされます。

続くサブセクションでは、この 2 つの方法について説明します。

ロードバランスのオプションは、RAS Console の [ロードバランス] カテゴリで設定できます。



リソースベースのロードバランスの有効化

サイト内に利用できるサーバーが複数ある場合、ロードバランスはデフォルトで有効になっています。デフォルトのロードバランス方法はリソースベースのロードバランスです。

ラウンドロビンのロードバランスをリソースベースに戻すには、[方法] ドロップダウンメニューから [リソースベース] を選択します。

リソースカウンターの構成

リソースベースのロードバランスでは、次のカウンターを使用して、各サーバーのビジー状態が比較されます。

- ユーザーセッション: セッション数の最も少ないサーバーにユーザーをリダイレクトします。
- メモリ: RAM の空き/使用中の比率が最も高いサーバーにユーザーをリダイレクトします。
- CPU: CPU 時間の「空き/使用中」比率が最も高いサーバーにユーザーをリダイレクトします。

すべてのカウンターが有効になっている場合、RAS LoadBalancer は各カウンターの比率を合計し、最も適切な合算比率のサーバーにセッションをリダイレクトします。

等式からカウンターを削除するには、[カウンター] セクションでカウンター名の横にあるチェックボックスをオフにします。

ラウンドロビンのロードバランス

ラウンドロビンのロードバランスでは、セッションが順番にリダイレクトされます。たとえば、ファームに 2 個の RDS サーバーがある場合、最初のセッションはサーバー 1 にリダイレクトされ、2 番目のセッションはサーバー 2 にリダイレクトされ、3 番目のセッションは再度サーバー 1 にリダイレクトされます。

ラウンドロビンのロードバランスの有効化

ラウンドロビンのロードバランスを有効にするには、[方法] ドロップダウンリストから [ラウンドロビン] を選択します。

セッションのオプション

切断されたセッションへの再接続: このオプションを有効にすると、受信ユーザーセッションは、すでに切断されたセッションのうち同じユーザーが所有していたセッションにリダイレクトされます。

クライアント IP のみでのセッションの再接続: 切断されたセッションに再接続するときに、Parallels Remote Application Server は、再接続を要求するユーザー名と、切断されたセッションのユーザー名を照合し、セッションを一致させます。このオプションを有効にした場合、Parallels Remote Application Server は、ソース IP を照合し、切断されたどのセッションにセッションを再接続するかを決定します。

ユーザーのセッション数の制限: このオプションを有効にすると、同一ユーザーが複数のセッションを開くことができなくなります。

ロードバランスの詳細設定

CPU カウンターからのプロセスの除外

サーバーの CPU 時間の「空き/使用中」比率に影響しないようにプロセスを除外するには、次の手順を実行します。

- [ロードバランス] オプションの下部にある [構成] ボタンをクリックします。

- [CPU ロードバランサーを有効にする] オプションを選択し、[除外リスト] をクリックします。
- [追加] をクリックし、実行しているプロセスのリストでプロセスを選択します。または、ダイアログの下部にある [プロセス名を入力してください] 入力フィールドでプロセス名を指定することもできます。
- [OK] をクリックして [除外プロセスリスト] ダイアログを閉じるか、[追加] をクリックして他のプロセスを追加します。

除外プロセスリストからプロセスを削除するには、プロセスを選択し、[削除] をクリックします。

高可用性ロード バランス

高可用性ロードバランス (HALB) は、ユーザーと Port Reference 間に置かれるソフトウェアレイヤーです。複数の HALB アプライアンスを同時に実行できます。1 つがマスターとして機能し、その他がスレーブとして機能します。利用できる HALB アプライアンスの数が多いほど、ダウンタイムの可能性が低くなります。マスターとスレーブのアプライアンスは、共通 IP アドレスまたは仮想 IP アドレス (VIP または VIPA と呼ばれる) を共有します。マスターの HALB アプライアンスに障害が発生した場合、スレーブがマスターになるように要求され、マスターの地位をシームレスに引き継ぎます。エンドユーザーの接続に影響することはありません。

HALB はサイトごとにセットアップします。つまり、サイトごとに 1 つ以上の HALB が必要です。HALB はクライアントソフトウェアの単一の接触点であるため、サイトごとに 2 つ以上の HALB アプライアンスを用意して冗長性を確保することをお勧めします。

高可用性ロードバランスのセットアップは次の 2 段階で実行します。

- 1 HALB アプライアンスのインストール。
- 2 RAS Console での HALB アプライアンスの構成。

ハイパーバイザの前提条件

RAS Console で HALB を構成する前に、まず、HALB アプライアンスを Microsoft Hyper-V、Virtual Box、または VMware のいずれかのハイパーバイザプラットフォームにインポートします。アプライアンスは、事前に構成された仮想マシンです (オペレーティングシステムと他の関連設定が含まれます)。

Virtualbox/VMware

Virtual Box または VMware の場合、次の場所から取得した OVA アプライアンスファイルまたは zip 形式の VMDK アプライアンスファイルを使用して、このアプライアンスをインポートする必要があります。

- VMDK:http://download.parallels.com/ras/v15/RAS_VDI_Appliance.vmdk.zip
- OVA:http://download.parallels.com/ras/v15/RAS_VDI_Appliance.ova

OVA ファイルを使用して展開する場合、構成済みのマシン仕様とともに VM が適用されます。また、VMDK ファイルを使用する展開では、事前構成された仕様なしで VM が展開されます。この VM の最小仕様を以下に示します。

- 1 1 x CPU
- 2 256 MB RAM
- 3 1 x ネットワーク カード

Microsoft Hyper-V

Microsoft Hyper-V の場合、次の場所から取得した VHD ファイルを使用して、このアプライアンスをインポートする必要があります。

http://download.parallels.com/ras/v15/RAS_HALB_Appliance.vhd.zip

HALB アプライアンスのインストール

HALB アプライアンスは、Parallels RAS と同じローカルネットワークに接続されている独立したマシン上で動作しているハイパーバイザにインポートする必要があります。以下の手順に従って、サポートされるハイパーバイザに HALB アプライアンスをインポートします。

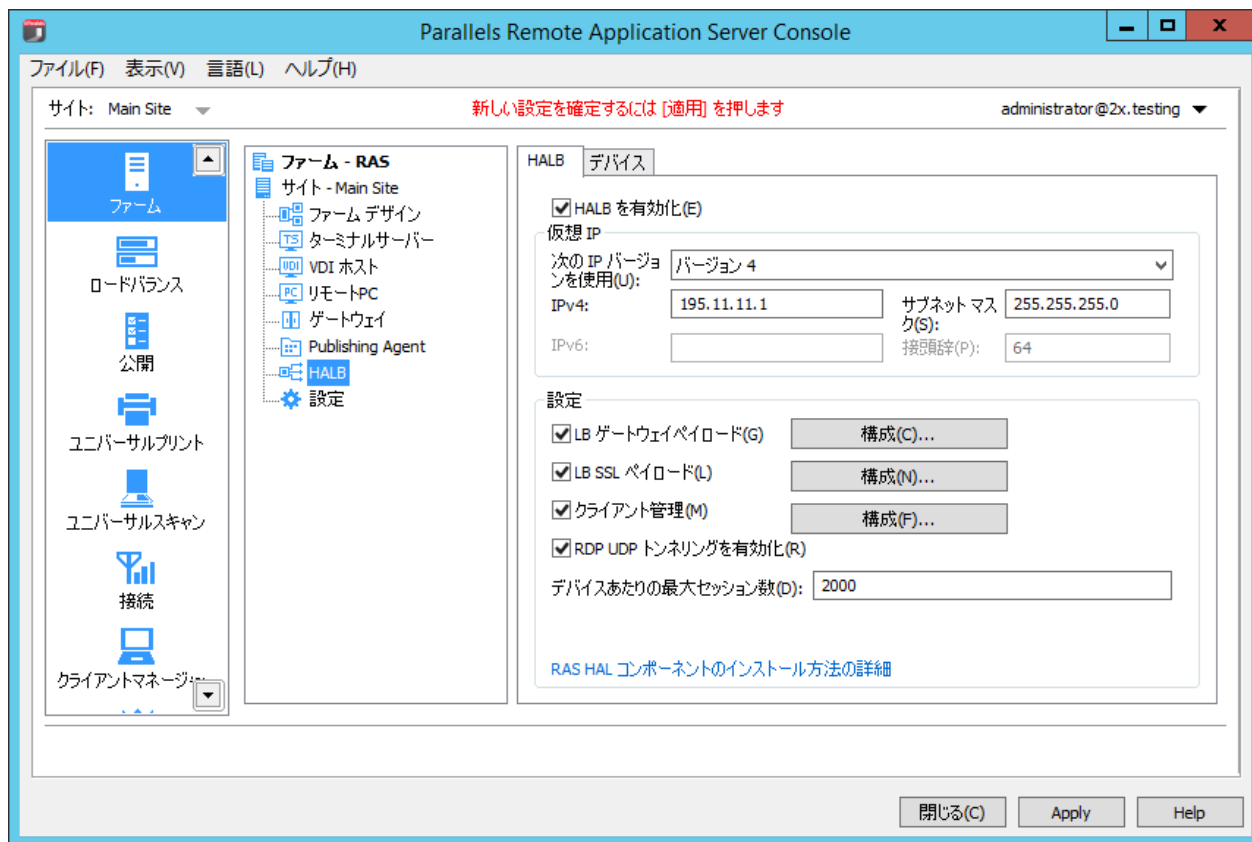
- 1 仮想化プラットフォームの管理コンソールから HALB アプライアンス ファイルをインポートします。
- 2 新しいアプライアンスの電源をオンにして（起動して）、[HALB - 初回起動構成] 画面を表示します。
- 3 ネットワーク設定を（必要に応じて）調整し、[適用] をクリックして続行します。
- 4 構成コンソールが表示されます。これで HALB アプライアンスを RAS ファームにいつでも追加できます。

注意:複数の HALB アプライアンスを作成するには、上のプロセスを繰り返します。

RAS Console での HALB アプライアンスの構成

HALB アプライアンスをインストールしたら、次のように、RAS Console で HALB アプライアンスを構成する必要があります。

RAS Console で、[ファーム] / <サイト名> / [HALB] に移動します。



[HALB] タブページ

高可用性ロードバランスを有効にするには、[HALB を有効化] を選択します。

次のように [仮想 IP] アドレスオプションを設定します。

- 使用する IP バージョン (IPv4 または IPv6、あるいはその両方) を選択します。
- IP アドレス (両方のバージョンが選択されている場合は複数の IP アドレス) を指定して、対応するプロパティ (サブネットマスク、プレフィックス) を指定します。これは、クライアントの接続先の IP アドレスです。この HALB アプライアンスおよび他の HALB アプライアンスで使用されているフローティング IP アドレスを使用することもできます。

[LB ゲートウェイペイロード] オプションを選択して、通常のゲートウェイ接続を負荷分散してから、[構成] をクリックします。

- 1 [HALB 構成] ダイアログボックスで、トラフィックをゲートウェイに転送するために HALB アプライアンスが使用するポート番号を指定します (ゲートウェイ上に構成されたポート)。
- 2 HALB アプライアンスが負荷分散するゲートウェイを選択します。

- 3 [OK] をクリックして [HALB 構成] ダイアログボックスを閉じ、[HALB] タブページに戻ります。

必要に応じて、[LB SSL ペイロード] オプションを選択して、SSL 接続を負荷分散してから、[構成] をクリックします。

- 1 [HALB 構成] ダイアログボックスで、トラフィックをゲートウェイに転送するために HALB アプライアンスが使用するポート番号を指定します (デフォルトでは 443)。
- 2 [モード] ドロップダウンリストで [パススルー] または [SSL オフローディング] を選択し、SSL 暗号化解除プロセスが実行される場所を指定します。デフォルトでは、SSL 接続はゲートウェイに直接トンネリングされ (パススルーとも呼ぶ) 、そこで SSL 暗号化解除プロセスが実行されます。

[SSL オフローディング] モードを選択したら、[構成] をクリックします。[SSL] ダイアログボックスが開きます。

[SSL オフローディング] モードでは、SSL 認証情報が HALB アプライアンスにインストールされている必要があります。[SSL] ダイアログボックスで次のオプションを指定して、新しい認証情報を生成します。

- 許可される SSL バージョン: SSL バージョンを選択します。
- 暗号強度: 必要な暗号強度を選択します。カスタムの暗号を指定するには、[カスタム] を選択して、[暗号] フィールドで暗号を指定します。

[新しい証明書発行] をクリックし、必要な詳細情報を入力します。[キーファイル] と [証明ファイル] オプションのデータは自動的に読み込まれます。

または、[証明書要求の作成] をクリックし、詳細情報を入力して、[保存] をクリックすると、証明書要求ウィンドウが表示されます。[コピー] をクリックして要求をコピーします。この証明書要求を認証局に送信する必要があります。認証局から SSL 証明書を受け取ったら、[パブリックキーのインポート] ボタンをクリックし、パブリックキーが含まれる証明書ファイルを選択します。

- 3 [HALB 構成] ダイアログボックスで、HALB アプライアンスが負荷分散するゲートウェイを選択し、[OK] をクリックしてダイアログボックスを閉じます。

[HALB] タブページで残りのプロパティを構成します。

- 1 HALB 経由で接続されている Windows デバイスの管理を有効にするには、[クライアント管理] オプションを選択します。
- 2 Windows デバイスで UDP トンネリングを有効にするには、[RDP UDP データトンネリングを有効化] オプションを選択します。
- 3 [デバイスあたりの最大セッション数] プロパティでは、同時に接続できる最大数を指定します。デフォルト値を使用するか、任意の値を指定します。

[デバイス] タブページ

- 1 [デバイス] タブをクリックして、このファームで管理する HALB アプライアンスを追加します。
- 2 アプライアンスを追加するには、次の操作を実行します。
- 3 [タスク] > [追加] (または + アイコン) をクリックして、[HALB デバイスの追加] ダイアログボックスを開きます。

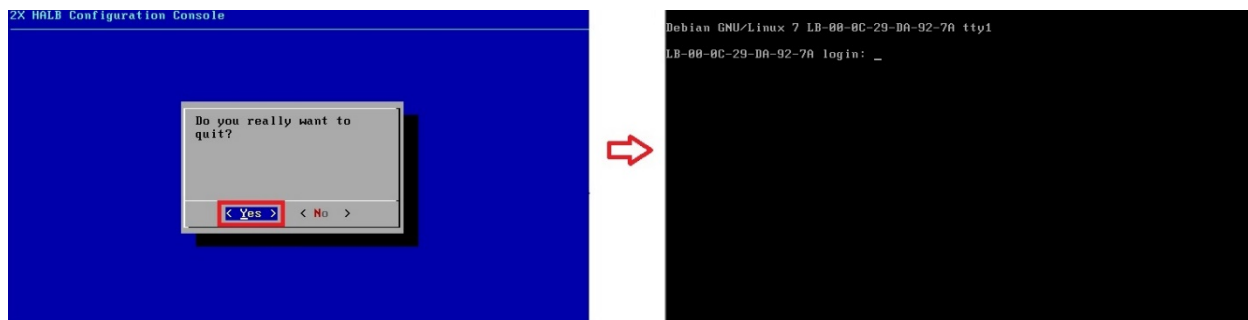
Parallels RAS は、ネットワーク上の HALB アプライアンスを検出し、それらをリストとして表示できます。検出された HALB アプライアンスをこのリストから選択することで、新しいアプライアンスを追加することをお勧めします。何らかの理由でアプライアンスを検出できない場合は、アプライアンスの IP アドレスを [IP アドレス] フィールドに指定することでアプライアンスを手動で追加できます。

- 4 [OK] をクリックして、[HALB デバイスの追加] ダイアログボックスを閉じます。アプライアンスは初期化され、[デバイス] タブページのリストに追加されます。
- 5 最後に、新しい HALB 構成で [適用] をクリックし、追加したすべての HALB アプライアンスに構成を適用します。

詳細については、次のナレッジベースの記事 (英語) を参照してください。

<http://kb.parallels.com/en/123082>

HALB アプライアンスのパスワードの変更



上記に表示されている HALB 構成コンソールを終了すると、再びログインするためにログイン資格情報が要求されます。以下の手順に従って、HALB デバイスのログイン資格情報を設定します。

- 1 アプライアンスを起動します。

- 2 <ALT> キーと <F1> キーを同時に押します。ログインプロンプトが表示されます。

```
Debian GNU/Linux 7 LB-00-0C-29-DA-92-7A tty1
LB-00-0C-29-DA-92-7A login: root
Password: _
```

- 3 次の資格情報を入力します。

- login - root
- password - 2xPassw0rd (0 はゼロで、文字の” 0” ではありません)。

```
Debian GNU/Linux 7 LB-00-0C-29-DA-92-7A tty1
LB-00-0C-29-DA-92-7A login: root
Password:
Linux LB-00-0C-29-DA-92-7A 3.2.0-4-686-pae #1 SMP Debian 3.2.51-1 i686
Welcome to Lb-00-0c-29-da-92-7a, 2X HALB / Debian 7.2 Wheezy

System information (as of Fri Apr 17 09:47:25 2015)

System load:  0.03           Memory usage:  13%
Processes:    63            Swap usage:    0%
Usage of /:   71.5% of 494MB IP address for eth0: 10.124.4.119

root@LB-00-0C-29-DA-92-7A ~# passwd_
```

- 4 ログインしたら、passwd と入力して、パスワード変更コマンドを実行します。

```
root@LB-00-0C-29-DA-92-7A ~# passwd
Enter new UNIX password: _
```

- 5 新しいパスワードを入力して確認します。

完了したら、HALB 構成コンソールの終了後に設定した新しいパスワードを使用して、HALB デバイスにログインできます。

第 13 章

ユニバーサルプリント

この章の内容

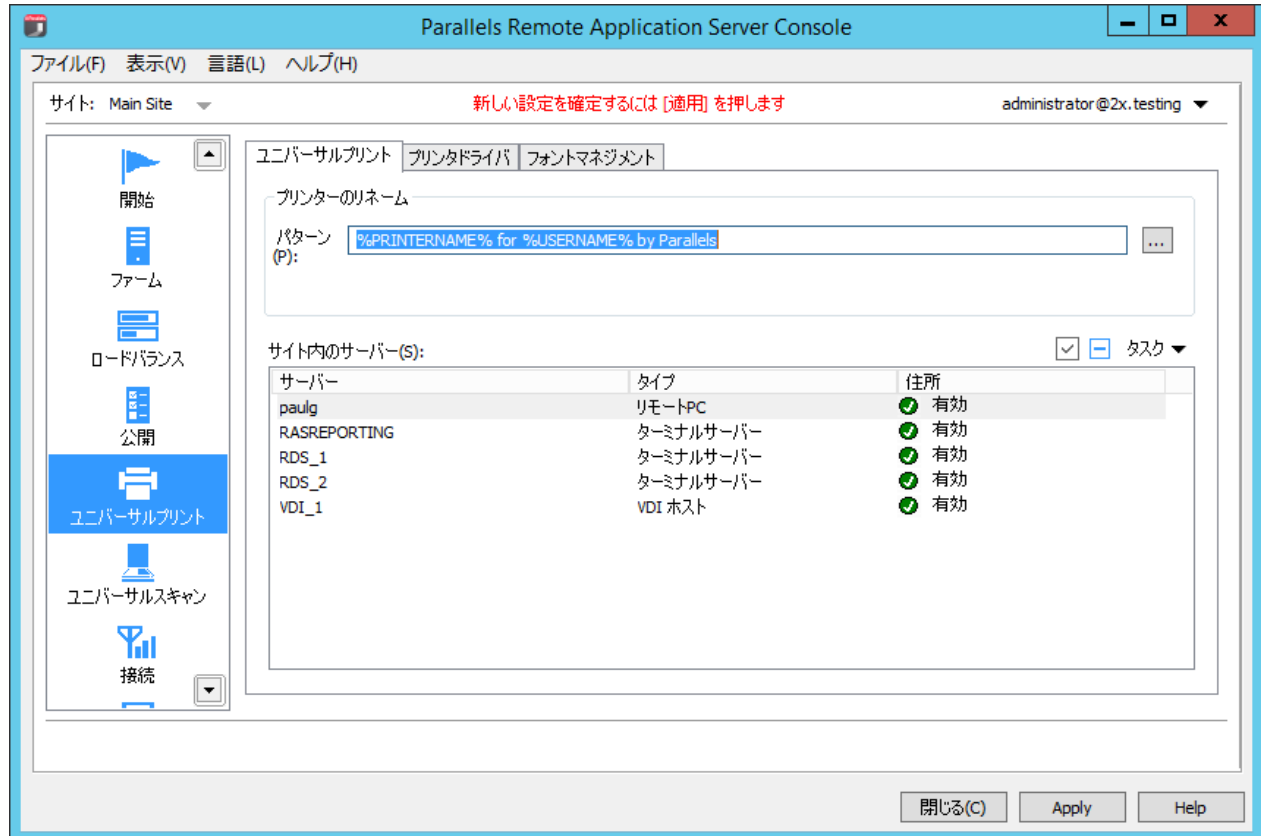
ユニバーサルプリントサーバーの管理.....	183
ユニバーサルプリントのフィルタリング.....	185
フォント マネジメント.....	186

ユニバーサルプリントサーバーの管理

プリンターのリダイレクトによって、リモートデスクトップに接続しているユーザーや公開済みのアプリケーションにアクセスしているユーザーは、ローカルのプリンターで印刷を行うことができます。ローカルのプリンターとして認識されるのは、ユーザーのコンピューターに物理的に接続されているプリンター、または IP アドレス経由で接続されているネットワークプリンターです。

ユニバーサルプリントでは、ローカルに設置されたプリンターのプリンタードライバーをサーバーにインストールする必要がないため、印刷プロセスが簡素化され、プリンタードライバーのほとんどの問題が解決します。したがって、ユーザーは、マシンに設置されているプリンターのタイプやメーカーに関係なく、いつでも印刷を行うことができます。また、管理者は、ネットワーク上のプリンターごとにプリンタードライバーをインストールする必要がありません。

ユニバーサルプリントの構成にアクセスするには、RAS Console の [ユニバーサルプリント] カテゴリーを選択します。



デフォルトで、ユニバーサルプリントドライバーは、ターミナルサーバー、VDI ゲスト、リモート PC エージェントとともに自動的にインストールされます。そのため、サーバーをファームに追加すると、ユニバーサルプリントがインストールされます。ユニバーサルプリントドライバーには、32 ビット版と 64 ビット版が用意されています。

ユニバーサルプリントサポートの有効化および無効化

特定のサーバーでユニバーサルプリントサポートを有効または無効にするには、[サイト内のサーバー] リストでそのサーバーを右クリックして、コンテキストメニューで [有効] または [無効] をクリックします。

プリンター名の変更パターンの構成

Parallels Remote Application Server では、デフォルトで、%PRINTERNAME% for %USERNAME% by RAS というパターンを使用してプリンター名が変更されます。たとえば、ローカルで PRINTER1 を設置しているユーザーである Alice が、リモートデスクトップまたは公開済みのアプリケーション

ョンに接続した場合、このユーザーのプリンター名は“PRINTER1 for Alice by RAS”に変更されます。

プリンターの名前変更パターンを変更するには、[プリンター名の変更] / [パターン] 入力フィールドで新しいパターンを指定します。プリンター名の変更で使用できる変数は次のとおりです。

- %PRINTERNAME% - クライアント側のプリンター名
- %USERNAME% - サーバーに接続しているユーザーのユーザー名
- %SESSIONID% - アクションセッションのセッション ID
- <2X ユニバーサルプリンター> Legacy mode - これはターミナル (RDP) セッションにプリンターオブジェクトが 1 つだけ作成されるという意味です。

サーバープロパティから、サーバーごとに異なるプリンター名変更パターンを構成することもできます。

注意: リダイレクトされたプリンターにアクセスできるのは、管理者と、プリンターをリダイレクトしたユーザーのみです。

ユニバーサルプリントのフィルタリング

システム管理者は、クライアント側のプリンタードライバのリストを管理できます。プリンタードライバに対して、ユニバーサルプリントのリダイレクト権限を許可または拒否することができます。

この機能を使用すると、次のことが可能になります。

- 不要なプリンターリダイレクトによるサーバーリソースのオーバーロードを回避します。ユーザーの大半はすべてのローカルプリンターをリダイレクトするため(デフォルトの設定)、多数のリダイレクトされたデバイスを実際には使用していないサーバー上に作成します。これは主に、PDFCreator、Microsoft XPS Writer、または各種の FAX デバイスのようなさまざまなペーパーレスのプリンターが関係します。
- 特定のプリンターが原因でサーバーが不安定になることを回避します。プリンターによってはサーバーが不安定になることがあるため(スプーラーサービスコンポーネント)、その結果、概してすべての接続ユーザーがプリントサービスを使用できなくなる場合があります。プリントサービスの継続して使用するために、管理者がそのようなドライバーの”拒否”リストを作成できることは重要です。

プリンターのフィルタリングを指定するには、次の操作を実行します。

- 1 Parallels Remote Application Server Console で、[ユニバーサルプリント] / [プリンタードライバ] に移動します。

- 2 [モード] ドロップダウンリストで、リダイレクトを許可するプリンターを次のオプションで選択します。
 - 任意のドライバを使用するプリンタのリダイレクトを許可（デフォルト）：このオプションは、リダイレクト権限を使用するためにプリンターが使用しているドライバーの種類を制限しません。
 - 次のいずれかのドライバを使用するプリンタのリダイレクトを許可：[モード] フィールドの下のボックスに一覧表示されているドライバーを使用しているプリンターのみにリダイレクトを許可します。リストにドライバーを追加するには、[タスク] > [追加]（または + アイコン）をクリックして、表示される編集フィールドにプリンタードライバーの名前を入力します。
 - 次のドライバを使用しないプリンタのリダイレクトを許可：恐らくこれが、この機能において最も便利なオプションです。リストに指定されているドライバーを使用するプリンターのリダイレクト権限を拒否します。その他のすべてのプリンターについてリダイレクトの使用を許可します。リストにドライバーを追加するには、[タスク] > [追加]（または + アイコン）をクリックして、表示される編集フィールドにプリンタードライバーの名前を入力します。
- 3 リストからドライバーを削除するには、[タスク] > [削除] をクリックするか、マイナス記号のアイコンをクリックします。
- 4 変更が完了したら、[適用] ボタンをクリックして、変更を保存します。
- 5 注記：
 - プリンタードライバーをリストに追加するときは、プリンター名ではなく、ドライバー名を入力してください。
 - ドライバー名は、大文字と小文字を区別し、完全一致する必要があります（名前の一部や、ワイルドカードは使用できません）。
 - このタブページで指定した設定は、個々のサーバーだけではなく、サイト全体に影響します。

フォントマネジメント

フォントを埋め込む必要があります。ユニバーサルプリントを使用してドキュメントを印刷する場合、ドキュメントがクライアントマシンのローカルスプーラーにコピーされ印刷されます。クライアントマシンにフォントが存在しない場合、印刷が正しく出力されません。

印刷ジョブ内でフォントの埋め込みを制御するには、[フォントマネジメント] タブページを使用して、[フォントを Embed する] オプションをオンまたはオフにします。

フォントの埋め込みの除外

特定のフォントタイプを埋め込まないようにするには、[以下のフォントの Embed を除外する] セクションの [タスク] > [追加] をクリックし、リストからフォントを選択します。

サーバーとクライアントへのフォントの自動インストール

サーバーとクライアントに特定のフォントタイプを自動的にインストールするには、[自動的にインストールされるフォント] セクションで [タスク] > [追加] をクリックし、リストからフォントを選択します。

注意: デフォルトでは、自動インストールリストに追加されているフォントは埋め込みリストから除外されません。そのようなフォントは Windows クライアントにインストールされているため、埋め込む必要はありません。[フォントの選択] ダイアログで [自動的にフォントを除外する] オプションをクリアすると、フォントは埋め込みリストから除外されません。

除外するフォントのリストをデフォルトにリセット

除外するフォントのリストをデフォルトにリセットするには、[タスク] > [デフォルトにリセット] をクリックします。

第 14 章

ユニバーサルスキャン

この章の内容

ユニバーサルスキャンの管理.....	188
スキャン アプリケーションの管理.....	190

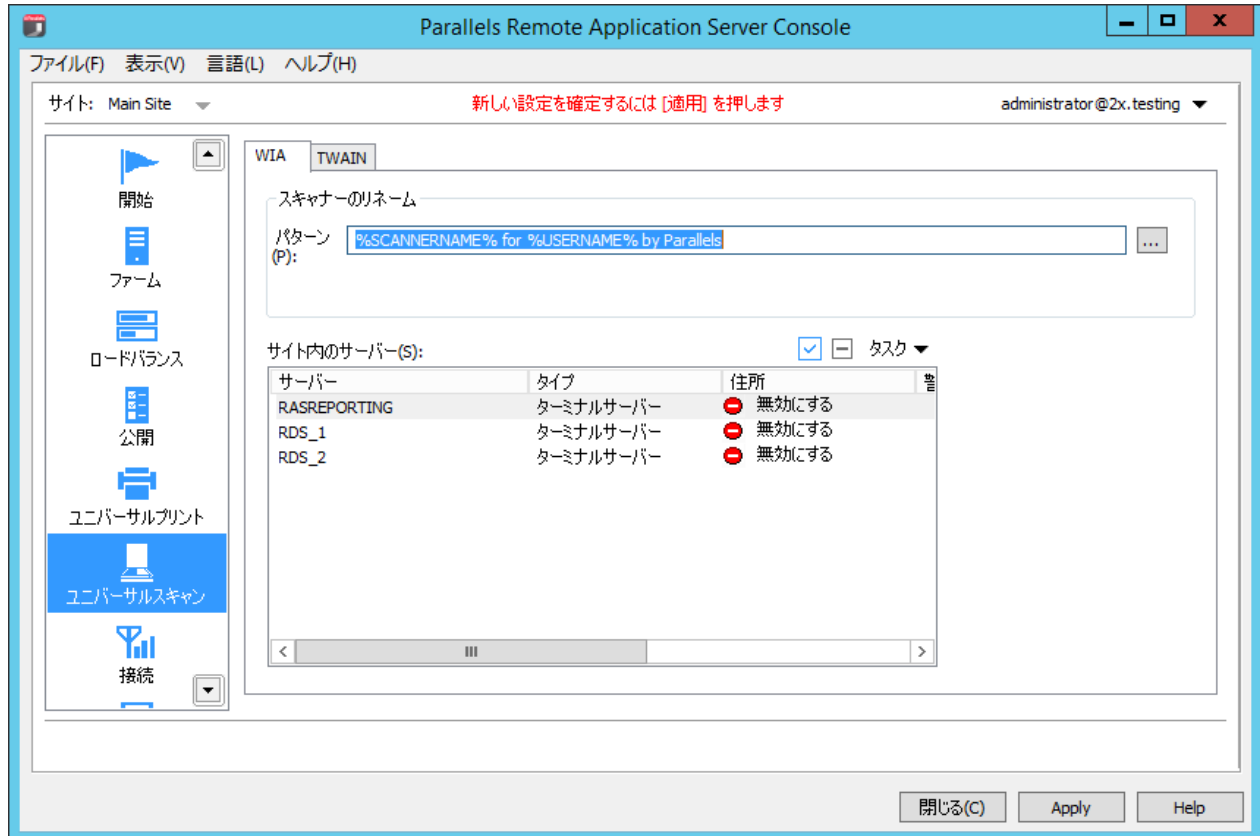
ユニバーサルスキャンの管理

スキャナーのリダイレクトによって、リモートデスクトップに接続しているユーザーや公開済みのアプリケーションにアクセスしているユーザーは、クライアントマシンに接続されたスキャナーを使用してスキャンを行うことができます。

ユニバーサルスキャンでは、TWAIN および WIA リダイレクトが使用されます。これにより、このどちらかのテクノロジーを備えたハードウェアを使用する任意のアプリケーションをクライアントデバイスに接続し、スキャンを行うことができます。ユニバーサルスキャンでは、サーバーにスキャナードライバーをインストールする必要がありません。ターミナル サーバーで現在使用されているユーザーやセッションの数に関係なく、1つのスキャナーのみがサーバー上で示されます。

注意: ターミナルサーバーで WIA と TWAIN の両方のスキャンを有効にするには、「デスクトップエクスペリエンス」というサーバー機能が必要です。

ユニバーサルスキャンの構成にアクセスするには、RAS Console で [ユニバーサルスキャン] カテゴリーを選択します。



デフォルトでは、ユニバーサルスキャンドライバは、ターミナルサーバー、VDI ゲスト、リモート PC エージェントとともに自動的にインストールされます。そのため、サーバーをファームに追加すると、ユニバーサルスキャンがインストールされます。

注意: ユニバーサルスキャンドライバには、32 ビット版と 64 ビット版が用意されています。現在、32 ビットアプリケーションのみがサポートされています。

スキャナー名の変更パターンの構成

Parallels Remote Application Server では、デフォルトで、%SCANNERNAME% for %USERNAME% by RAS というパターンを使用してスキャナー名が変更されます。たとえば、ローカルで SCANNER1 を設置しているユーザーである Lois が、リモートデスクトップまたは公開済みのアプリケーションに接続した場合、このユーザーのスキャナー名は "SCANNER1 for Lois by RAS" に変更されます。

スキャナーの名前変更パターンを変更するには、[スキャナー名の変更パターン] 入力フィールドに新しいパターンを指定します。スキャナー名の変更で使用できる変数は次のとおりです。

- %SCANNERNAME% - クライアント側のスキャナー名
- %USERNAME% - サーバーに接続しているユーザーのユーザー名
- %SESSIONID% - アクションセッションのセッション ID

サーバープロパティから、サーバーごとに異なるスキャナー名変更パターンを構成することもできます。

注意: リダイレクトされたスキャナーにアクセスできるのは、管理者と、スキャナーをリダイレクトしたユーザーのみです。

ユニバーサルスキャンサポートの有効化および無効化

特定のサーバーについて、WIA または TWAIN のユニバーサルスキャンサポートを有効または無効にするには、[WIA] タブまたは [TWAIN] タブをクリックしてから、サーバーを右クリックし、コンテキストメニューで [有効] または [無効] をクリックします。

スキャン アプリケーションの管理

スキャンアプリケーションの追加

ユニバーサルスキャン機能を使用する TWAIN アプリケーションを、[TWAIN] タブから [TWAIN アプリケーション] ボタンを選択して追加する必要があります。これにより、TWAIN アプリケーションで Twain ドライバーを使用できるようになるため、管理者は TWAIN アプリケーションを容易にセットアップできます。

アプリケーションをスキャンアプリケーションのリストに追加するには、以下の操作を実行します。

- 1 RAS Console で [ユニバーサルスキャン] カテゴリが選択された状態で、[TWAIN] タブをクリックします。
- 2 ([サイト内のサーバー] リストの下にある) [TWAIN アプリケーション] ボタンをクリックしてから、[追加] をクリックします。
- 3 [TWAIN アプリケーション] ダイアログで、[タスク] > [追加] をクリックし、アプリケーションの実行ファイルを参照します。実行ファイルを選択し、[開く] をクリックします。

注意: アプリケーションによっては、異なるまたは複数の実行ファイルが使用される場合があります。必要なすべての実行ファイルがスキャンアプリケーションのリストに追加されていることを確認してください。

スキャンアプリケーションの削除

リストからスキャンアプリケーションを削除するには、削除するアプリケーションを選択して、[タスク] > [削除] をクリックします。

注意: スキャンアプリケーションのリストからアプリケーションを削除しても、アプリケーションのインストールは影響を受けません。

第 15 章

デバイスの管理

この章の内容

デバイスを接続するようユーザーを招待.....	192
デバイスのモニタリング.....	194
Windows デバイスの管理.....	195
Windows デバイスグループ.....	202
Windows デバイスおよびグループの電源サイクルのスケジューリング.....	203
Parallels Client 設定の管理.....	205

デバイスを接続するようユーザーを招待

Parallels Remote Application Server は、デスクトップ PC や MAC からモバイルデバイスや ChromeApps にいたるまで、多くのプラットフォームをサポートします。招待メール機能は、インストールやクライアントのロールアウト プロセスに伴う複雑さを軽減することを目的として設計されています。この機能により、管理者はクライアントのインストール手順および自動構成手順をエンドユーザーに RAS Console から直接送信することができます。

ユーザーへの招待メールの迅速な送信

RAS Console の [開始] カテゴリから招待メールをユーザーにすばやく送信することができます。[ユーザーを招待ウィザード] では、プロセスを効率的に進めることができ、ユーザーの操作が最小限で済みます。このプロセスについては、「簡単な RAS 環境のセットアップ」セクション (p. 28) を参照してください。

このセクションの残りでは、[管理] カテゴリからユーザーを招待する方法について説明します。このプロセスは多くの手順から構成されていますが、利用可能なオプションを詳細に管理できるようになっています。

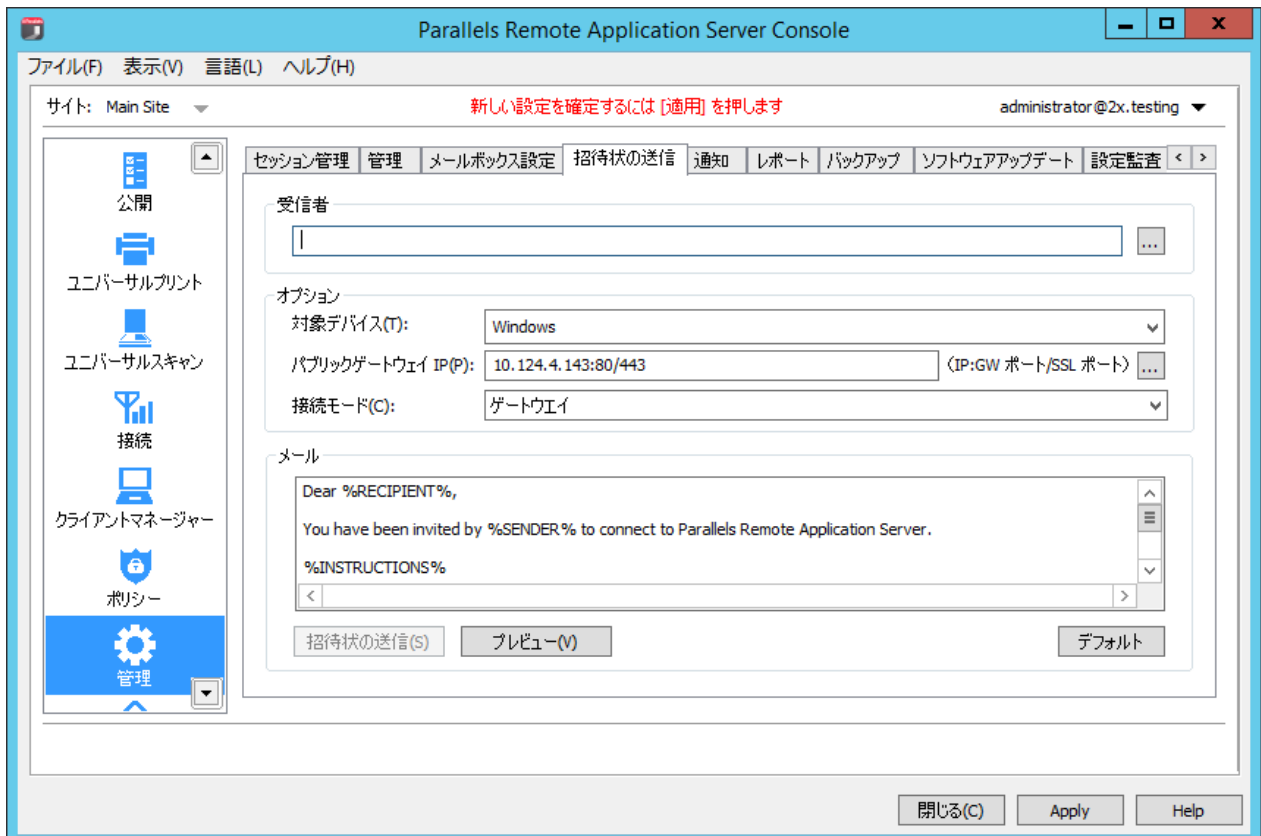
ユーザーへの招待メールの送信

招待メールを送信するための推奨 (かつ便利な) 方法は、[開始] カテゴリから送信する方法です (「簡単な RAS 環境のセットアップ」セクション (p. 28) を参照)。以下で説明する機能は、これとは別の方法です。ユーザーにとって最適な方法を選択してください。

続行する前に、まずメールボックスを適切に構成していることを確認します（「メールを介してシステム通知を行うように SMTP サーバー接続を構成する」（p. 245）を参照）。

招待メールを送信するには、次の手順を実行します。

- 1 RAS Console で、[管理] カテゴリーを選択し、右ペインの [招待状の送信] タブをクリックします。



- 2 [受信者] セクションで受信者を選択します。Active Directory を参照して、ユーザーまたはグループを選択できます。
- 3 [対象デバイス] ドロップダウンリストで、受信者が実行しているプラットフォームを選択します。サポートされるプラットフォームは次のとおりです。
 - Windows (XP~8.1)
 - Mac (OS X)
 - HTML5 (HTML5 対応ブラウザ)
 - iOS
 - Android
 - ChromApp

- Linux
- 4 [パブリックゲートウェイ IP] フィールドで、ゲートウェイのドメイン名または IP アドレスを指定します。リモートユーザーがシステムにアクセスできるように、これをパブリック IP アドレスとすることができます。
 - 5 [ゲートウェイモード] ドロップダウンリストで、ゲートウェイの接続モードを選択します。SSL モードでは、ゲートウェイで SSL を構成する必要があります。
 - 6 [メール] セクションには、メッセージを作成するために使用するメッセージテンプレートが表示されます。必要に応じて、テンプレートを変更できます。テンプレートでは次の変数を使用できます。
 - %RECIPIENT% - 受信者のユーザー名
 - %SENDER% - メールを送信元の管理者アカウント
 - %INSTRUCTIONS% - 自動構成プロセスが含まれます
 - %MANUALINSTRUCTIONS% - 手動構成プロセスが含まれます
 - 7 完了したら、[プレビュー] ボタンを押してメールメッセージを確認します。確認したら、[招待状の送信] をクリックして、指定した受信者にメールを送信します。

デバイスのモニタリング

デバイスのモニタリングでは、システムに接続されている Windows デバイスの表示、管理対象の Windows デバイス上にある Parallels Remote Application Server コンポーネントの展開と管理、Windows デバイスにインストールされている Parallels Client の構成、その他のモニタリングタスクを実行できます。

Windows デバイスを監視するには、RAS Console で [クライアントマネージャー] カテゴリを選択します。

デバイスの状態

Parallels Remote Application Server に接続されたデバイスの状態は次のいずれかになっています。

- オフ : デバイスはオフになっています。
- 起動中 : デバイスは起動中です。
- インストール中 : デバイスはインストール中です。
- 接続済み : デバイスは接続されています。
- ログオン済み : デバイスはシステムにログオン済みです。
- 再起動中 : デバイスは再起動中です。

- スタンドアロン: デバイスは Parallels Remote Application Server に接続済みですが、Parallels Client が使用されていないため、このデバイスを管理できません。
- 許可が必要です: デバイスを Parallels Remote Application Server に接続するには許可が必要です。
- 不許可: デバイスは Parallels Remote Application Server へのアクセスを拒否されました。
- サポートされていません: デバイスは Parallels Remote Application Server でサポートされていません。
- エラー: デバイ스에서エラーが発生しています。
- 外部管理: ファームに接続していますが、別のファームによって管理されています。
- 管理できません: クライアントバージョンに対応していないか、インストールされていないコンポーネントがあるため、クライアントを管理できません。

Windows デバイスの管理

クライアントマネージャー機能を使用すると、管理者は、Windows XP から Windows 10 までを実行する Windows デバイスをシンククライアントのような OS に変換できます。これを行う際、管理者は、まず、ファームに接続されたデバイスの管理するように選択する必要があります。Windows デバイスを管理対象にするには、Windows 用 Parallels Client の最新バージョンが Windows デバイ스에서実行されている必要があります。

Windows 用 Parallels Client を RAS ファームに接続し、デバイスを登録および管理するために必要な手順を以下に示します。

Parallels Client を Windows コンピューターにインストールする

Windows 用 Parallels Client をインストールおよび構成するには、以下の手順を実行します。Parallels Client のインストールおよび構成方法に関する詳細については、「Windows 用 Parallels Client ユーザーガイド」も参照してください。このガイドでは特に、招待メールを使用して Parallels Client をインストールする方法について説明しています。

- 1 次のどちらかの場所から Windows 用 Parallels Client をダウンロードします。
 - 32 ビット: <http://download.parallels.com/ras/v15/RASClient.msi>
 - 64 ビット: <http://download.parallels.com/ras/v15/RASClient-x64.msi>
- 2 RASClient.msi または RASClient-x64.msi をダブルクリックし、画面に表示される手順に従ってインストールウィザードを実行します。
- 3 [ファイル] > [新しい接続を追加] をクリックして、新規 RAS 接続を作成します。
- 4 [Parallels Remote Application Server] を選択して [OK] をクリックします。

5 次に、以下の接続プロパティを構成します。

- プライマリ接続 - Parallels Remote Application Server の FQDN または IP アドレスを指定します。
- ユーザー資格情報 - ユーザー名、パスワード、ドメインを入力します。

6 [OK] をクリックすると接続が作成され、その接続をダブルクリックすると Parallels Remote Application Server に接続されます。

完了すると、Windows デバイスが RAS Console ([クライアントマネージャー] / [デバイス] / [デバイス] リスト) に表示され、公開リソースにアクセスできるようになります。

Windows デバイスの登録

電源オフ、再起動、シャドーなどの機能を使用するには、Windows デバイスが管理されている必要があります。Windows デバイスは、ファームによって自動的に管理されるように設定したり、管理対象にするために管理者による承認を必要とするように設定したりできます。

Parallels Remote Application Server での管理対象としてデバイスを承認するには、次の操作を実行します。

- 1 RAS Console で、[クライアントマネージャー] / [デバイス] に移動します。
- 2 [デバイス] タブページでデバイスを選択します。
- 3 [タスク] > [デバイスの管理] をクリックします。

デバイスが再接続されるまでデバイスの状態が [ペアを保留中] に変わります。[クライアントマネージャーポート] オプションが、ゲートウェイで有効になっていることを確認します。有効になっていることを確認するには、次の操作を実行します。

- 1 [ファーム] / <サイト名> / [ゲートウェイ] に移動します。
- 2 ゲートウェイを選択し、[タスク] > [プロパティ] をクリックします。
- 3 [ネットワーク] タブをクリックして、[クライアントマネージャーポート] オプションが選択されていることを確認します。

Parallels Client が再接続されると、登録プロセスが完了し、デバイスの状態が [ログオン済み] にアップデートされます。これは、デバイスが Parallels Remote Application Server の管理対象になったことを示します。

または、Windows デバイスを自動管理するように Parallels Remote Application Server を設定することもできます。このためには、次の操作を実行します。

- 1 RAS Console で、[クライアントマネージャー] カテゴリを選択します。
- 2 [オプション] タブをクリックします。
- 3 [Windows デバイスを自動的に管理する] を有効にします。

これで、管理者はデバイスの状態を確認し、電源オン、電源オフ、再起動、ログオフなどの電源制御操作を実行できるようになります。

注意: 古いバージョンの Parallels Client を実行しているデバイスを管理することはできません。そのようなデバイスには”サポートされていません”と表示されます。

Windows デバイスをシャドーする

Windows デバイスをシャドーすることで、デバイスの Windows デスクトップに対するフルアクセスの取得、デバイスでローカルに実行されているアプリケーションの制御、および Parallels Remote Application Server から公開されたリモートアプリケーションの制御が可能になります。

Windows デバイスをシャドーするには、次の操作を実行します。

- 1 RAS Console で、[クライアントマネージャー] / [デバイス] に移動します。
- 2 デバイスを選択して、デバイスリストの下にある [シャドー] アイコンをクリックします。

注意: Windows ユーザーは、管理者から制御されること、および管理者からアクセスを拒否される可能性があることを許可するように要求されます。管理者は、[クライアントマネージャー] / [デバイス] / <Windows デバイスを選択> / [タスク] > [プロパティ] > [シャドーイング] を選択して、[承認要請] プロンプトを無効にすることができます。

デスクトップの置換

[デスクトップを置換] オプションを有効にすると、ユーザーはシステム設定の変更や新しいアプリケーションのインストールを制限されます。Windows デスクトップを Parallels Client で置換すると、Windows オペレーティングシステムが置換されるわけではありませんが、シンクライアントのような OS に変換されます。この方法では、ユーザーはアプリケーションを Parallels Client 以外から展開することができません。したがって、管理者は、接続されたデバイスを高いレベルで制御できます。また、キオスクモードでは、有効にした場合にのみユーザーによる電源の再投入が制限されます。

[デスクトップを置換] 機能を有効にするには、次の操作を実行します。

- 1 Windows デバイスを選択し、[タスク] > [プロパティ] をクリックします。
- 2 [OS 設定] をクリックします。
- 3 [デスクトップを置換] オプションを選択します。
- 4 [OK] をクリックします。

注意: この機能を使用するには、Windows デバイスでユーザー モードから管理者モードに切り替えるための管理パスワードを設定する必要があります。[ユーザーグループの設定] を有効にした場合、デバイスの所属先のグループから設定が継承されます。

管理者モードへの切り替え

ユーザーモードでは、ユーザーが使用するアプリケーションは、管理者が提供するアプリケーションのみに制限されます。システム設定を変更するには、デバイスを管理モードに切り替えます。

管理者モードに変更するには、システムトレイアイコンを右クリックし、[管理者モードに切り替え] を選択して、構成済みのパスワードを入力します。

次の表は管理者モードとユーザーモードで利用できる機能を示しています。

機能	ユーザーモード	管理者モード
Parallels Client グローバルオプション		○
Parallels Client ファーム接続プロパティ		○
ローカルアプリケーションの構成		○
新しい Parallels Remote Application Server の追加		○
接続		
新しい標準 RDP 接続の追加		○
標準 RDP 接続とフォルダーの管理		○
ディスプレイの設定	○	○
マウスの設定	○	○
プリンターの設定		○
タスクマネージャー		○
コントロールパネル		○
コマンドプロンプト		○

Windows エクスプローラー		○
設定のインポート/エクスポート		○

Parallels Client の代替デスクトップを使用する場合のローカルアプリケーションの構成

管理者は、リモートアプリケーションまたはリモートデスクトップを展開し、ネイティブの OS を使用してリモート接続に必要なソフトウェアを展開する目的の場合に限り、[デスクトップを置換] オプションを有効にしてください。ただし、場合によってはローカルアプリケーションが必要になることもあります。管理者は Parallels Client の代替デスクトップ内にローカルアプリケーションを表示するように構成することもできますが、その前に管理者モードに切り替える必要があります。

ローカルアプリケーションを公開するには、次の手順を実行します。

- 1 ユーザーのセッションをシャドーするか、ユーザーデバイスステーションを直接使用します。
- 2 Parallels Client 代替デスクトップを管理者モードに切り替えます。
- 3 [ファイル] > [新しいアプリケーションを追加] をクリックします。
- 4 アプリケーションの情報を入力します。
- 5 追加されたアプリケーションはアプリケーションランチャーに表示されます。
- 6 必要なすべてのアプリケーションを構成したら、ユーザー モードに戻ります。

Windows デスクトップの置換

このセクションでは、[デスクトップを置換] オプションが有効な場合の動作と、このオプションが管理者にとって役に立つ理由を説明します。

有効な場合、デスクトップを置換する機能により、管理者はオペレーティングシステムを置換することなく、標準デスクトップをシンクライアントのような制限のあるデバイスに変換できます。

エンドユーザーには、通常は新しいアプリケーションのインストールやシステム設定の変更を可能にする Windows エクスプローラー、タスクバー、またはその他のコンポーネントへのアクセス権がありません。ユーザーは、Parallels Client 内で構成されたアプリケーションの展開しか実行できません。アプリケーションは、リモートアプリケーションまたはリモートデスクトップ、およびローカルで構成されたアプリケーションです。ローカルアプリケーションが許可されているため、特定のアプリケーション（たとえば、特定の周辺機器と通信するソフトウェア）が必要な場合にそれらがリモートで使用できないときに、ユーザーはローカルアプリケーションを展開できます。[デスクトップを置換] オプションが適用されている場合、管理コンポーネントは次のことを実行できます。

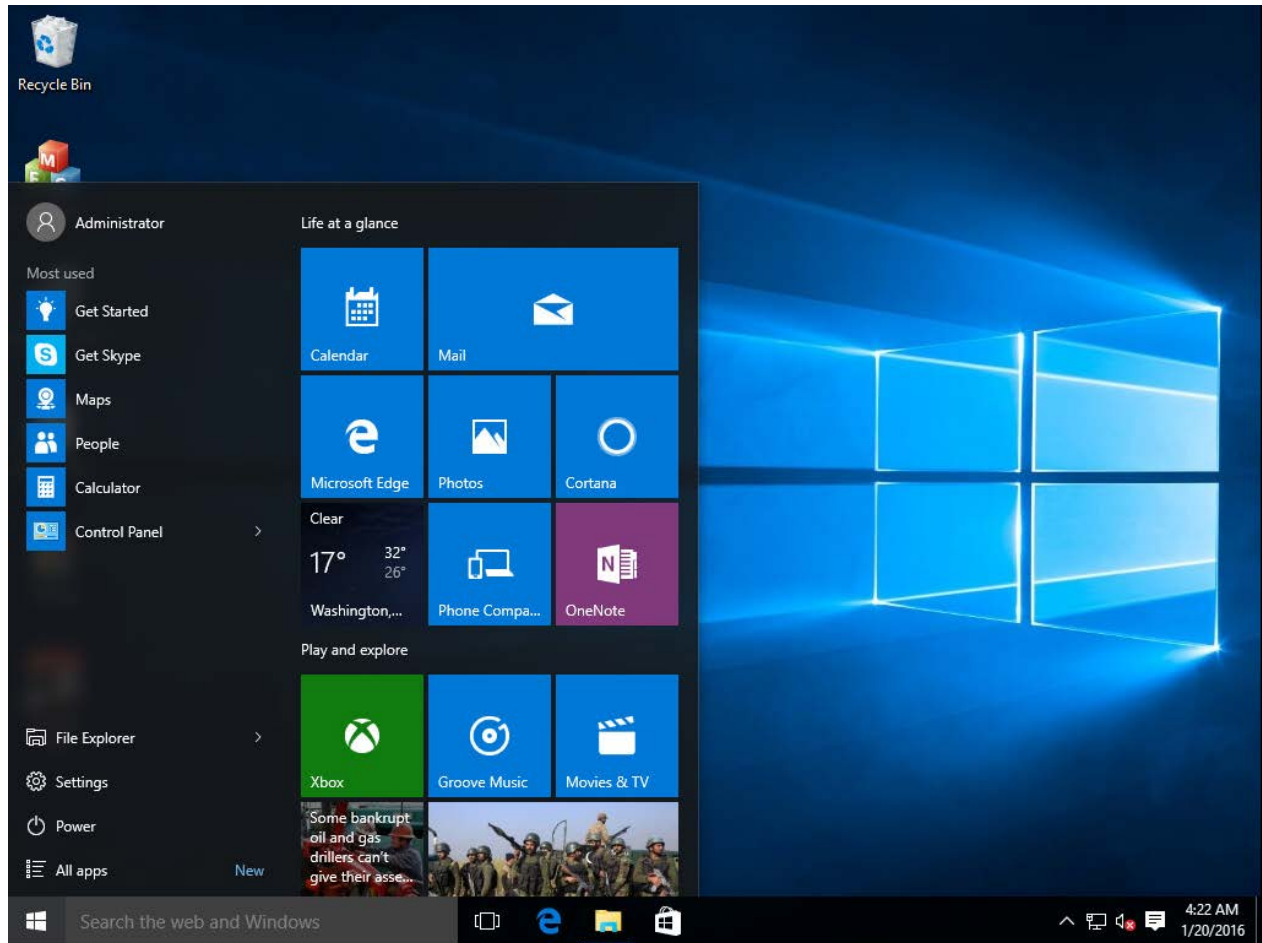
機能	XP	Vista	7	8	8.1	10
デスクトップを Parallels Client で置換	○	○	○	○	○	○
スタートボタンの無効化	○	○	○	○	○	○
コントロールパネルへのアクセスを制限	○	○	○	○	○	○
Windows キーの無効化	○	○	○	○	○	○
タスクマネージャーの無効化	○	○	○	○	○	○
クイックアクセスツールバーの無効化	○	○	なし	なし	なし	なし
セキュリティマネージャー/アクションセンターの通知の無効化	○	○	○	○	○	○
タスクバーのロック	○	○	○	○	○	○
ピン留めされたアプリケーションの削除	なし	なし	○	○	○	○
メトロ画面の無効化（ユーザーは直接デスクトップ画面へ）	なし	なし	なし	○	○	○
ホットコーナーの無効化	なし	なし	なし	○	○	○
チャームヒントの無効化	なし	なし	なし	○	○	○
ヘルプの無効化	なし	なし	なし	○	○	○
Windows サイドバーの無効化	なし	○	○	なし	なし	なし

このモードでは、ユーザーはマウスと画面のコントロールパネルのアプレットにアクセスすることもできます。ユーザーは、Parallels Client のグローバルオプションおよび、クライアントファーム接続オプションを変更することができません。デバイスを管理モードに切り替えると、詳細管理機能が有効になります。

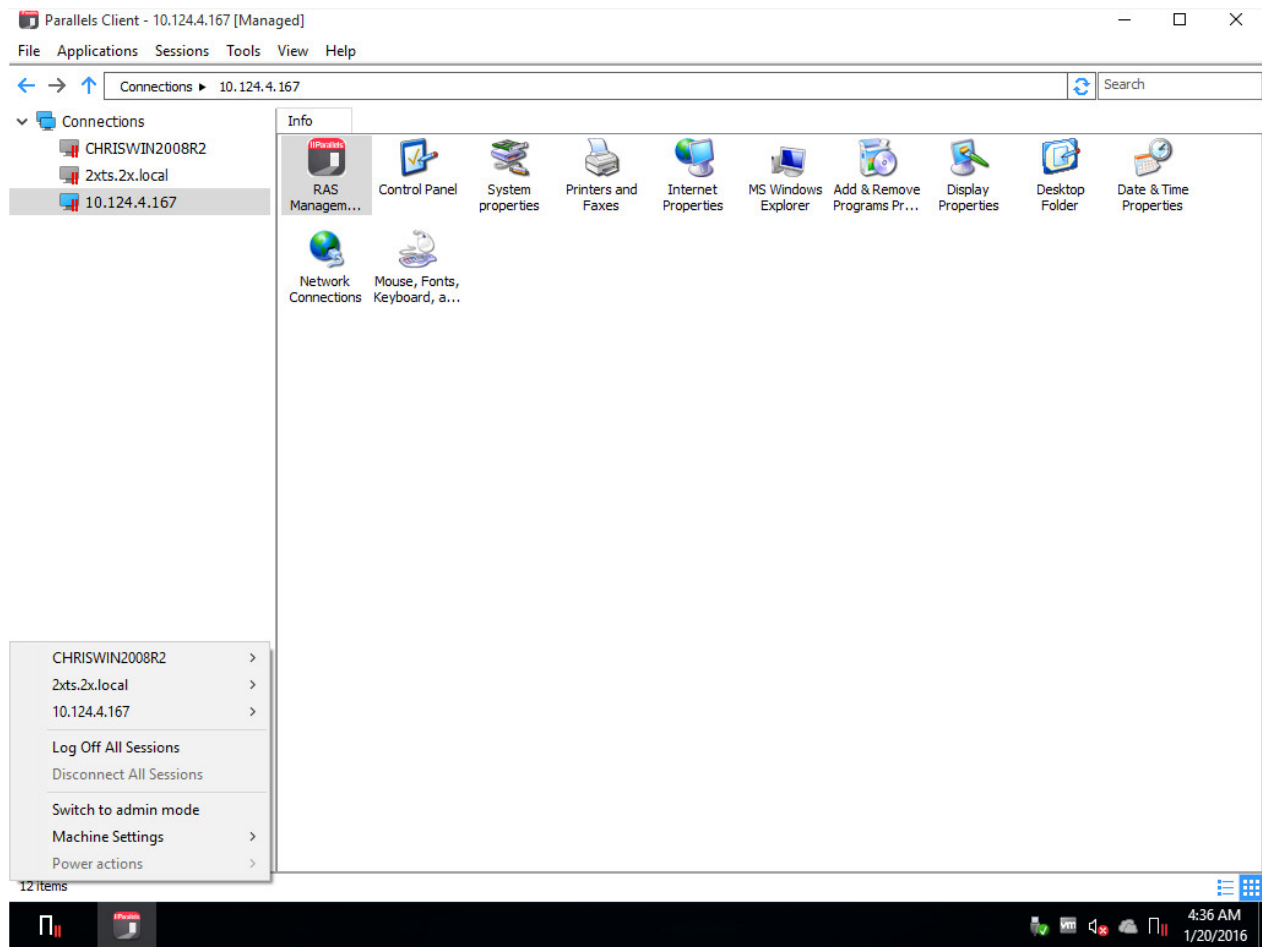
Windows デスクトップの置換機能がオフの場合、すべての制限が解除され、ユーザーは標準のデスクトップを使用できます。

以下のスクリーンショットは、[デスクトップを置換] オプションを有効にする前と後の Windows 10 デスクトップを示しています。

前



後



Windows デバイスグループ

Windows デバイスグループを使用すると、管理された Windows デバイスをグループ化し、それらをまとめて管理できます。Windows デバイスが管理対象になると、そのデバイスはデフォルトグループから設定を自動的に継承します。

注意: グループから継承された設定を上書きするようにグループ内の特定のデバイスを構成できます。

Windows デバイス グループの構成

Windows デバイスグループを構成するには、次の操作を実行します。

- 1 [クライアントマネージャー] カテゴリの [Windows デバイスグループ] タブに移動し、[タスク] > [追加] をクリックします。
- 2 [メイン] タブページで、[グループ名] と [説明] (オプション) を指定します。
- 3 [OS 設定] タブページで、次の操作を実行します。
 - このグループデバイスのインターフェイスを制限するには、[デスクトップを置換] オプションを選択します。デバイスをユーザーモードから管理者モードに切り替える際に必要となる [管理者モードパスワード] を指定します。
 - 受信ポートを追加するには、[ファイアウォールを有効にする] オプションを選択します。[タスク] > [追加] をクリックして、受信ポートを追加します。
- 4 Windows デバイスユーザーのデスクトップをリモートで制御する前にそのユーザーにプロンプトを表示するために、[シャドーイング] タブで [承認要請] オプションを選択します。有効にした場合、ユーザーは接続を拒否することができます。

グループへの Windows デバイスの追加

Windows デバイスをグループへ追加するには、次の操作を実行します。

- 1 [クライアントマネージャー] / [デバイス] タブページに移動します。
- 2 管理対象の Windows デバイスを右クリックし、コンテキストメニューで [プロパティ] をクリックします。
- 3 [メイン] タブページで、[グループのメンバー] ドロップダウンリストをクリックして、グループを選択します。
- 4 [OK] をクリックします。

これで、管理者は、デバイスのグループに対して、電源オン、電源オフ、再起動、ログオフなど、電源制御の各操作を実行できます。

Windows デバイスおよびグループの電源サイクルのスケジューリング

[クライアントマネージャー] カテゴリの [スケジューラー] タブページで、デバイスに対する自動電源操作をスケジュールすることができます。

新しいスケジュールタスクの追加

タスクをスケジュールするには、次の操作を実行します。

- 1 [スケジューラー] タブページで、[タスク] > [追加] をクリックして、[デバイススケジューラーのプロパティ] ダイアログを開きます。
- 2 [このスケジュールエントリを有効にする] オプションを選択します。
- 3 [動作] ドロップダウンメニューでアクションを選択します。使用できるアクションは次のとおりです。
 - デバイスのオン
 - デバイスのログオフ
 - デバイスのオフ
 - デバイスのリブート
 - デバイスグループのオン
 - デバイスグループのログオフ
 - デバイスグループのオフ
 - デバイスグループのリブート
- 4 選択したアクションタイプに基づいて、管理されたデバイスまたはグループを [ターゲット] ドロップダウンリストから選択します。
- 5 タスクの開始日と開始時刻を指定します。
- 6 次の選択肢の中から、[リピート] オプションを選択します。
 - [使用しない] (タスクは、[開始] および [時刻] フィールドで指定された日時に 1 回だけ実行されます)
 - 毎日
 - 毎週
 - 2 週間毎
 - 毎月
 - 毎年
- 7 タスクについてのわかりやすい説明を [説明] フィールドに入力します。
- 8 [OK] をクリックしてタスクを作成します。

スケジュール済みタスクの管理

既存のタスクを修正するには、[スケジュールリスト] でタスクを右クリックし、コンテキストメニューで [プロパティ] をクリックします。

イベントを有効または無効にするには、イベントを右クリックして、[プロパティ] をクリックした後、[このスケジュールエントリを有効にする] オプションをオンまたはオフにします。

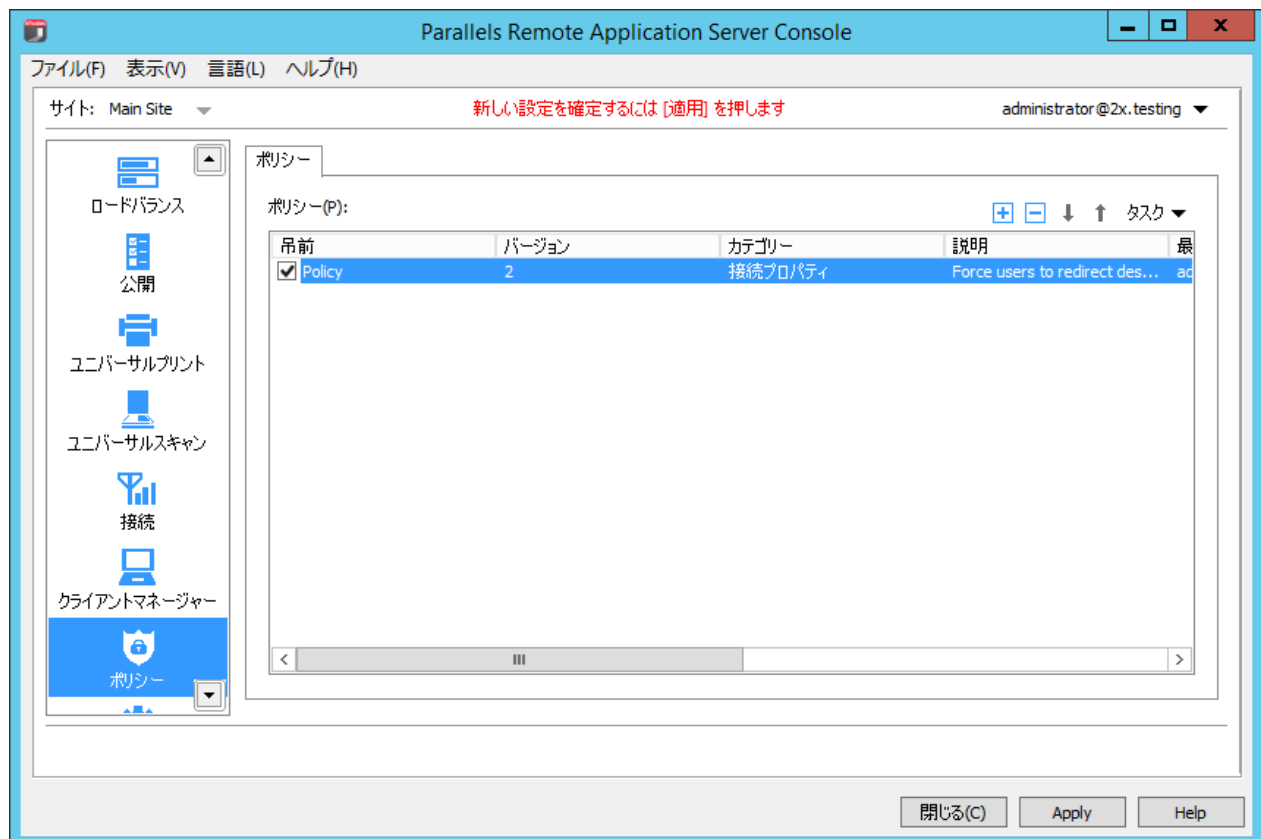
スケジュール済みタスクをすぐに実行するには、タスクを右クリックし、コンテキストメニューから [実行してください] をクリックします。

タスクを削除するには、タスクを右クリックし、[削除] をクリックします。

Parallels Client 設定の管理

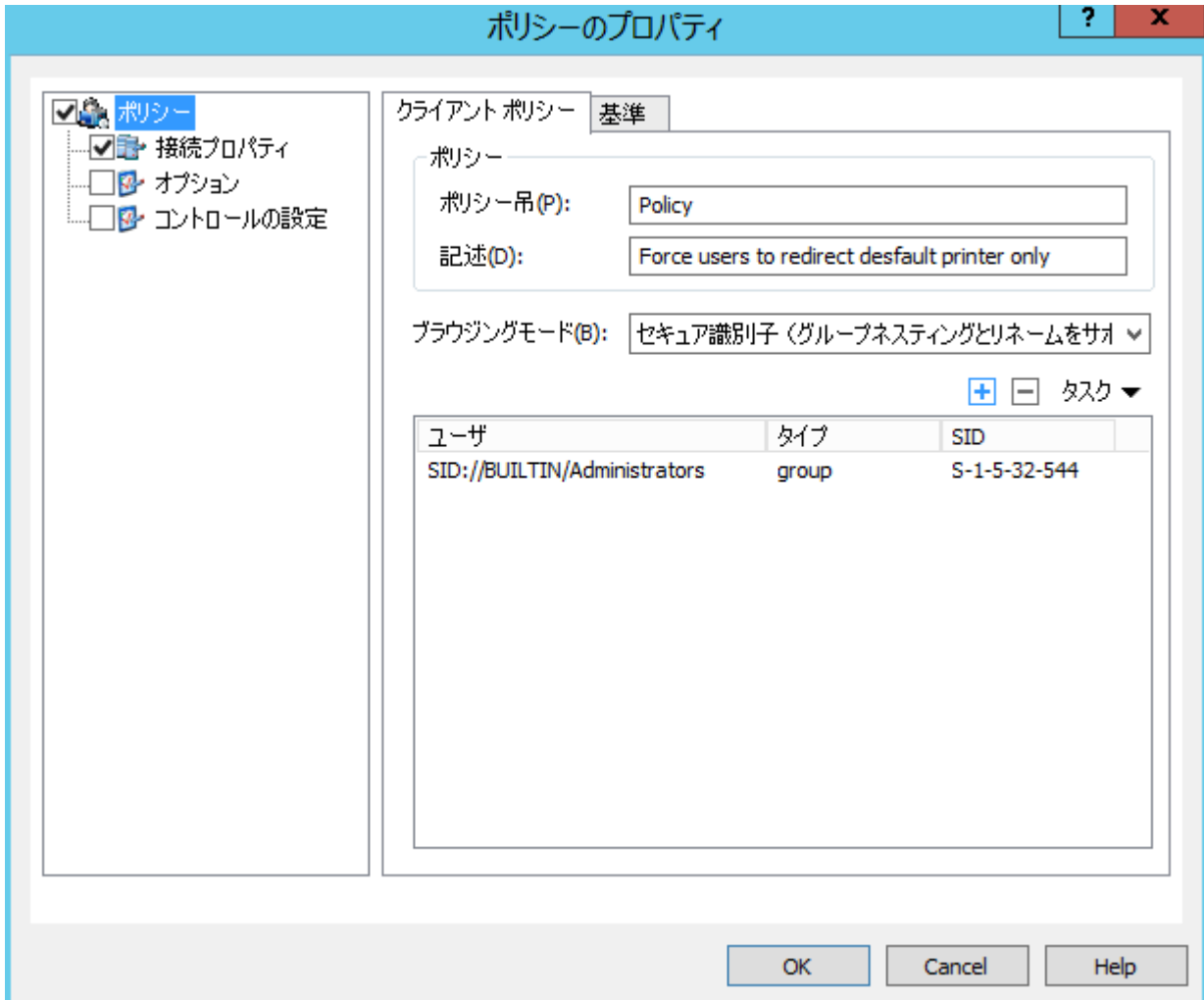
[ポリシー] カテゴリでは、ファーム内のサーバーに接続している、ネットワーク上のすべてのユーザーを対象とする Parallels Client ポリシーを管理できます。クライアントポリシーを追加することで、ユーザーをグループ化し、ユーザーのデバイスに異なる Parallels Client 設定をプッシュできます。すべてのデスクトップクライアント (Windows、Linux、OS X) がサポートされます。

Parallels Client ポリシーの表示、追加、変更を行うには、RAS Console で [ポリシー] カテゴリを選択します。



新しい Parallels Client ポリシーを追加するには、次の手順を実行します。

- 1 [タスク] ドロップダウンメニューをクリックし、[追加] をクリックします（または + アイコンをクリックします）。[ポリシーのプロパティ] ダイアログが開きます。



- 2 左ペインに含まれるナビゲーションツリーを使用して、構成するオプションのグループを選択できます。
- 3 [ポリシー] ノードが選択されていることを確認し、ポリシー名と説明（オプション）を指定します。
- 4 [ブラウジングモード] ドロップダウンリストで、ユーザーとグループの参照方法を選択します。推奨モードは [セキュア識別子]（デフォルト）です。他のオプションは後方互換性のために存在します。
- 5 [タスク] ドロップダウンメニューで [追加] をクリックします（またはプラス記号のアイコンをクリックします）。
- 6 [ユーザーとグループの選択] ダイアログで、対象のユーザーまたはグループを指定します。

(オプション) クライアントポリシーの基準の構成

デフォルトでは、どのような場合も、構成されたユーザーとグループにクライアントポリシーが適用されます。基準と一致する場合にのみポリシーを適用するように、基準を定義することができます。この機能を使用すると、同じユーザーに対して複数のポリシーを作成し、ユーザーがどの場所およびどのデバイスから接続しているかに応じてポリシーを適用できます。

新しい基準を作成するには、次の操作を実行します。

- 1 [ポリシーのプロパティ] ダイアログの左ペインで [ポリシー] を選択し、右ペインで [基準] タブを選択します。
- 2 [ゲートウェイ] セクションの最初のドロップダウンリストで基準タイプを選択し、2 番目のドロップダウンリストで値 (該当する場合) を指定します。
- 3 [MAC アドレス] セクションの最初のドロップダウンリストで基準タイプを選択し、2 番目のドロップダウンリストで値 (該当する場合) を指定します。

接続プロパティおよびオプションの構成

接続プロパティおよびオプションを構成するには、次の操作を実行します。

- 1 左ペインで [接続プロパティ] ノードを選択し、このポリシーを適用する接続プロパティを選択します。
- 2 左ペインで [オプション] ノードを選択し、制限または適用するオプションを指定します。

コントロールの設定の構成

[コントロールの設定] オプションを使用すると、クライアント側でのさまざまなアクションを制御できます。これらのオプションは以下の Parallels Client に影響します。

- Windows
- Linux
- Mac
- Android
- iOS
- Windows Phone

コントロールの設定を構成するには、次の操作を実行します。

- 1 左ペインで [コントロールの設定] ノードを選択します。
- 2 [接続] タブページで、以下のオプションを選択 (またはクリア) します。

- RAS 接続を追加しないでください : ユーザーが [接続の追加] ボタンを押すと、RDP 接続が直ちに作成されます。
 - 標準の RDP 接続を追加しないでください : ユーザーが [接続の追加] ボタンを押すと、RAS 接続が直ちに作成されます。
- 3** [パスワード] タブページで、以下のオプションを指定します。
- パスワードを保存しないでください : この特定の接続用のユーザーには、パスワードを保存するためのオプションが表示されません。パスワードはディスクに一切保存されませんが、ユーザーがアプリケーションを閉じるまでメモリに保持されます。
 - パスワードを変更しないでください : この特定の接続用のコンテキストメニューには、パスワードを変更するためのオプションが表示されません。
- 4** [インポートとエクスポート] タブページでは、以下のオプションを指定します。
- 設定をインポート/エクスポートしないでください : ユーザーには、[インポート] および [エクスポート] ボタンが表示されません。

クライアントポリシーの構成作業が完了したら、[OK] をクリックして変更内容を保存し、[ポリシーのプロパティ] ダイアログを閉じます。

既存のクライアントポリシーを変更するには、クライアントポリシーを右クリックし、コンテキストメニューで [プロパティ] を選択します。

第 16 章

レポート作成

この章の内容

RAS レポートの展開および構成.....	209
RAS レポート.....	211

RAS レポートの展開および構成

レポート機能を使用するには、MS SQL Server と RAS Reporting Service をインストールして構成する必要があります。これを行う前に、サーバーが以下の前提条件に適合しているかどうかを確認します。確認が終了したら、インストールおよび構成プロセスに進みます。

環境要件

- 1 Windows Server 2008、Windows Server 2008 R2、Windows Server 2012、または Windows Server 2012 R2 を実行しているマシン
- 2 RAS レポートを表示するためのデフォルトの AD ユーザーアカウントが RAS レポートのインストールプロセスで作成されます。そのアカウント名は RASREPORTINGVIEW です。
- 3 Microsoft SQL Server 2008 SP1、Microsoft SQL Server 2008 R2 SP1、または Microsoft SQL Server 2012。Parallels Remote Application Server を実行しているマシンと同じマシン、またはネットワーク内で実行されている異なるマシンにデータベースインスタンスがインストールされている必要があります。

SQL Server 構成要件

- 1 インストール済みの MS SQL Server 機能:データベースエンジンサービス、レポートサービス (ネイティブ)、管理ツール。
- 2 MS SQL の名前付きインスタンス:RASREPORTING、インスタンス ID : RASREPORTING
- 3 SQL Server 管理者: システム管理者 (SA)、AD 管理者、システムユーザー。
- 4 8085 に設定された SQL Server Reporting Services (SSRS) ポート。

MS SQL のインストールおよび構成に関する推奨の詳細手順については、KB 記事 (<http://kb.parallels.com/en/123083>) を参照してください。

注意:複数サーバーのファーム環境で実行するインストールの場合は、MS SQL Server を専用マシンにインストールすることをお勧めします。

RAS レポートのインストール

管理権限を持つアカウント（AD）を使用して、MS SQL Server を実行しているマシンにログインします。

- 1 RAS レポートセットアップの最新バージョン
を <http://download.parallels.com/ras/v15/RASReporting.msi> からダウンロードします。
- 2 RASReporting.msi をダブルクリックしてインストールウィザードを実行します。
- 3 プロンプトが表示されたら [次へ] をクリックします。
- 4 エンドユーザー使用許諾契約書を確認および承認して、[次へ] をクリックします。
- 5 インストール先のフォルダーを指定して、[次へ] をクリックします。
- 6 [インストール] をクリックして構成を確定し、インストールを開始します。
- 7 [完了] をクリックします。

RAS Console でのレポートの構成

RAS レポートを構成するには、次の操作を実行します。

- 1 RAS Console の [管理] カテゴリーを選択し、右ペインの [報告] タブをクリックします。
- 2 [報告] タブページで、以下のオプションを指定します。
 - [RAS レポート作成機能を有効化] オプションを選択すると、RAS レポート作成機能が有効になります。
 - サーバー:Reporting Service のインストール先である SQL Server データベースをホストするサーバーの IP アドレスを指定します。Mobile Device Management のインストール先と同じマシンにデータベースが配置されている場合、ローカルホストを使用できます。
 - ポート:レポート作成機能サービスとの通信で使用するポートを指定します。
 - ユーザーにログイン情報の入力を求める:レポートの生成時に AD 資格情報をユーザーに要求します。
 - 次の資格情報を使用:レポートを生成するたびに使用する AD ユーザー名とパスワードを指定します。
- 3 完了したら、[テスト接続] ボタンをクリックして構成をテストします。
- 4 [適用] をクリックして構成を確定します。

注意:インストールプロセス中にデフォルトユーザー RASREPORTINGVIEW が作成されます。ブラウザー権限を使用して、SSRS で代替ユーザーを構成する必要があります。

詳細設定

詳細設定では、管理者は、レポートサービスで収集したデータを詳細に調整したり、ページまでのデータの保持期間を定義したりできます。

レポートの詳細オプションにアクセスするには、次の操作を実行します。

RAS Console で [管理] / [報告] に移動します。[報告] タブページで、[追跡設定] ボタンをクリックします。[詳細設定] ダイアログボックスが開きます。

[セッション情報] セクションで、次のオプションを構成します。

- 追跡を有効化：セッションデータを記録します（「サーバーレポート」以外のすべてのレポートに影響します）。
- 情報を次の期間保持：ページまでのセッション情報の保持期間を指定します。

[サーバーカウンター情報] セクションで、次のオプションを構成します。

- 追跡を有効化：サーバーカウンターデータを記録します（「サーバーレポート」のみに影響します）。
- 情報を次の期間保持：ページまでのサーバーカウンター情報の保持期間を指定します。
- 変更が次の数字よりも多い場合に CPU/メモリカウンターを追跡：データの記録に必要な CPU/メモリリソースの最小使用量を設定します。

RAS レポート

RAS のレポート機能には、14 の定義済みのレポートがあり、5 つのグループに分けられます。

- 1 ユーザーレポート：このグループでは、エンドユーザーが Parallels RAS をどのように使用しているかを把握するための情報が提供されます。次のレポートが含まれます。
 - ユーザーアクティビティ - システム内のすべてのユーザーが生成したすべてのセッションが示されます。レポートには各セッションの情報（アクティブ時間、アイドル時間、非接続時間など）が含まれます。
 - ユーザーセッションアクティビティ - 1 つのユーザーが生成したすべてのセッションが示されます。レポートには各セッションの情報（アクティブ時間、アイドル時間、非接続時間など）が含まれます。
 - 使用したデバイス（ユーザー別） - ユーザーが使用しているデバイスの情報が示されます。レポートには、デバイスベンダー、デバイスモデル、合計使用時間などの情報が含まれます。

- 使用したクライアントオペレーティングシステム（ユーザー別） 特定のユーザーが使用しているオペレーティングシステム（オペレーティングシステム、合計使用時間など）が示されます。
- 2 グループレポート:** このグループでは、ユーザーグループが Parallels RAS をどのように使用しているかを把握するための情報が提供されます。次のレポートが含まれます。
- グループアクティビティ - システム内のすべてのグループが生成したすべてのセッションが示されます。レポートには、アクティブ時間、アイドル時間、非接続時間などの情報が含まれます。
 - グループセッションアクティビティ - システム内の 1 つのグループが生成したすべてのセッションが示されます。レポートには、グループ内の各ユーザーが生成した各セッションの情報（開始時間、終了時間、アクティブ時間、アイドル時間、非接続時間、合計時間など）が含まれます。
 - 使用したデバイス（グループ別） - 特定のグループのメンバーであるユーザーが使用しているデバイスの情報が示されます。レポートには、デバイスベンダー、デバイスモデル、合計使用時間などの情報が含まれます。
 - 使用したクライアントオペレーティングシステム（グループ別） 特定のグループのメンバーが使用しているオペレーティングシステム（オペレーティングシステム、合計使用時間など）が示されます。
- 3 デバイスレポート:** このグループでは、Parallels RAS に接続しているデバイスに関する情報が提供されます。次のレポートが含まれます。
- 使用したデバイス - システムを使用しているすべてのデバイスが示されます。レポートには、製造元、モデル、デバイスで開かれたセッション数などの情報が含まれます。
 - 使用したクライアントオペレーティングシステム - システムを使用しているデバイスと、対応するオペレーティングシステムが示されます。レポートには、デバイス モデル、オペレーティング システム、デバイス数などの情報が含まれます。
 - 使用した RDP バージョン - Parallels Client のバージョン、そのバージョンを使用しているデバイス、そのデバイスが使用されている数が示されます。
- 4 サーバーレポート:** このグループでは、Parallels RAS サーバーコンポーネントのアクティビティに関する情報が提供されます。次のレポートが含まれます。
- サーバー上のセッションアクティビティ - 特定のサーバーにおけるユーザーのセッションアクティビティが示されます。レポートには、開始時間、終了時間、アクティブ時間、アイドル時間、非接続時間などの情報が含まれます。
 - サーバーヘルス（サーバー別） - 特定のサーバーの CPU および RAM の使用状況がグラフで示されます。

- 5 アプリケーションレポート：このグループでは、Parallels RAS とともに使用されたアプリケーションに関する情報が提供されます。次のレポートが含まれます。
- アプリケーション使用率 - システム内で使用されたアプリケーションに関する情報が提供されます。レポートには、アプリケーション名、使用回数、アプリケーションの合計使用時間などの情報が含まれます。

注意： レポートを最初に表示するときに、信頼できるウェブサイトとして http://<サーバーのドメイン/ IP> を追加するように要求される場合があります。これは、Parallels RAS マシンの [Internet Explorer セキュリティ強化の構成] に基づいて表示されます。

RAS のレポート機能を使用するには、RAS Console で [報告] カテゴリーを選択します。

The screenshot displays the RAS Console Reports interface. On the left, a tree view (1) shows various report categories. The top navigation bar (2) contains tabs for different reports. A search and filter area (3) is located in the top right. The main configuration area (4) allows users to select a date range (From: 1/23/2016 6:45:01 PM, To: 1/30/2016 6:45:01 PM), a group (Administrators), a chart type (Bar Graph), and sorting options (Sort By: Username, Sort Order: Ascending). A toolbar (5, 6, 7) provides navigation and print options. The main content area (8) displays the 'Group Sessions Activity' report for the 'Administrators' group, featuring a bar chart showing 'Time (Hours)' and a data table (9) with columns for Username, Start Time, End Time, Active Time, Idle Time, Disconnect Time, and Total Time.

レポートインターフェイスは便利なツールで構成されており、いくつかのセクションに分割されています。詳細について、以下で説明します。

- 1 グループノードを取り除き、下にあるレポートリストを更新します。
- 2 生成されたレポートはこのセクションのタブとして保持されます。タブをクリックすると、生成されたレポートが表示されます。タブをキャンセルして、レポートを閉じることもできます。
- 3 青のボタンを押すと、レポートインターフェイスがフルスクリーンで表示されます。また、[タスク] ドロップダウンメニューを使用して、レポートに対して次のアクションを適用できます。

す。[複製する]、[フルスクリーンに切り替える]、[レポートを閉じる]、[その他のレポートを閉じる]、[右側のレポートを閉じる]、[すべてのレポートを閉じる]。

- 4 このセクションには、レポートの対象となる時間枠、チャートタイプなど、レポートに制約を適用するために使用できる引数が表示されます。これらは、選択したレポートによって異なります。
- 5 [レポートを表示] ボタンを押すと、セクション 4 で設定した、レポートを生成するうえでの制約が適用されます。
- 6 この矢印をクリックすると、セクション 4 と 5 が縮小されます。
- 7 このセクションでは、レポートの更新、レポートの印刷、データフィールドへのデータのエクスポート、レポートの保存 (XML、CSV、PDF MHTML、TIFF、Word のいずれかの形式) ができます。
- 8 この矢印をクリックすると、レポートリストが縮小されます。
- 9 このセクションには、新しいレポートのダイアログや、セクション 2 で選択した古いレポートが表示されます。

注意: 注意: Parallels RAS レポートを使用するには、MS SQL Server とレポートサービスがインストールされて構成されている必要があります。

第 17 章

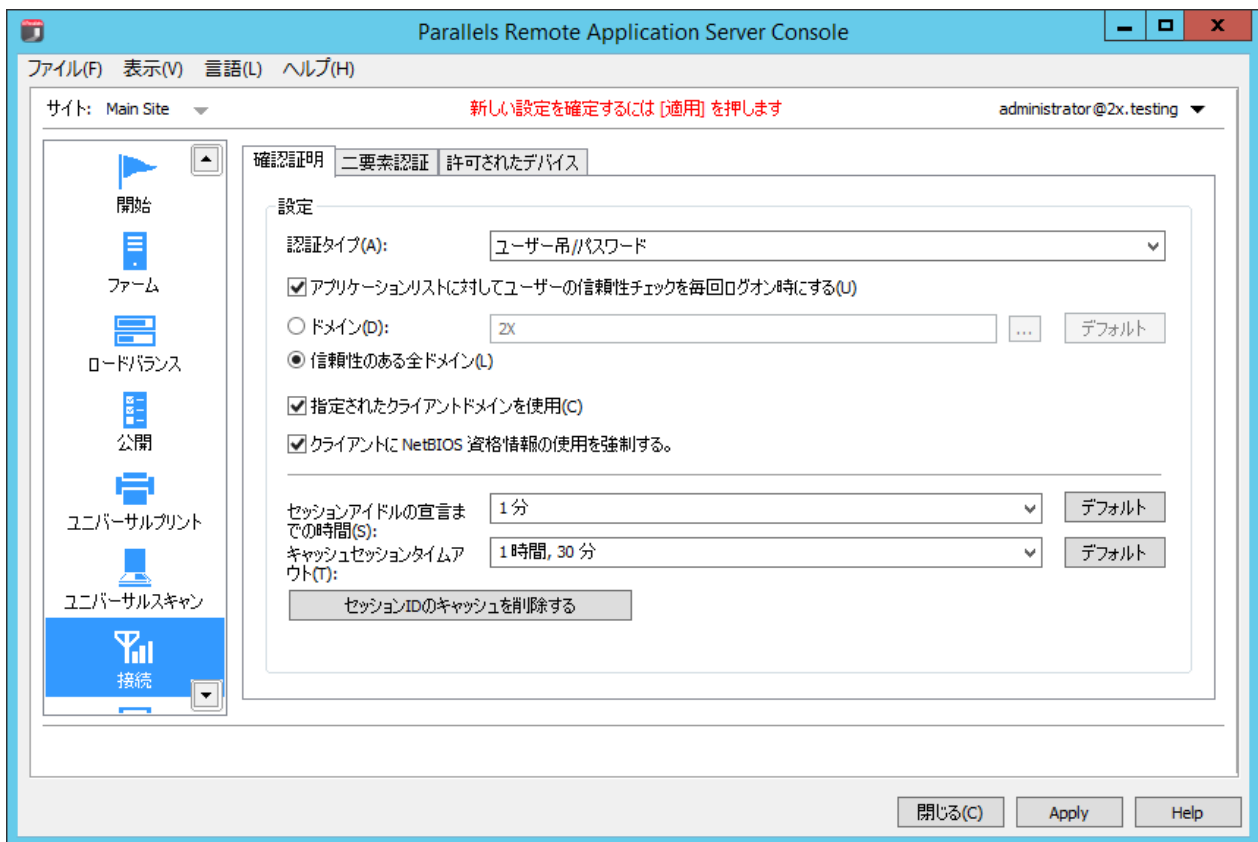
接続および認証の設定

この章の内容

RAS Publishing Agent の接続設定.....	215
Parallels Client の種類とビルド番号によるアクセスの制限.....	217
二要素認証.....	218

RAS Publishing Agent の接続設定

RAS Publishing Agent の接続設定には、システムメニューにある [接続] カテゴリからアクセスします。



RAS Publishing Agent の接続設定を構成するには、以下の手順に従ってください。

認証タイプの選択

[認証タイプ] ドロップダウンリストで、次のオプションのいずれかを選択します。

- ユーザー名/パスワード: ユーザー資格情報は RAS が実行されている Windows システムによって認証されます。Windows の認証に使用される資格情報も、RDP セッションにログインするために使用されます。
- スマートカード: スマートカード認証を使用します。Windows 認証と同様に、スマートカードの資格情報は、RAS と RDP 間で共有されます。そのため、スマートカードの資格情報を入力する必要があるのは 1 回だけです。Windows 認証と異なり、ユーザーに必要な情報はスマートカードの PIN のみです。ユーザー名はスマートカードから自動的に取得されるため、ユーザーはこれを提供する必要がありません。
- ユーザー名/パスワードまたはスマートカード: Windows とスマートカードの認証情報の両方を使用します。

スマートカードの認証情報が無効の場合、RAS Publishing Agent は Local Security Authority Subsystem Service (LSASS) を組み込みません。

スマートカードは、Windows Server 2008、2008 R2、2012、2012 R2 でサポートされています。スマートカード認証は、Windows 用 Parallels Client および Linux 用 Parallels Client で使用できます。

認証の適用

デフォルトでは、ユーザーは、利用可能な公開済みアプリケーションやデスクトップのリストを表示する前に、Parallels Remote Application Server に対して接続の認証をする必要があります。[確認証明] タブの [アプリケーションリストに対してユーザーの信頼性チェックを毎回ログオン時にする] を無効にすると、ユーザーは認証なしで公開済みリソースのリストを表示できるようになります。結果として、ユーザーはリストを表示することができますが、アプリケーションまたはデスクトップを開こうとした場合は、サーバーから資格情報を要求されます。

認証の構成

認証を構成したら、特定のドメインに対してユーザーを認証するように Parallels Remote Application Server を構成することができます。そのためには、ドメイン名を [ドメイン] 入力フィールドに入力します。

注意: [指定されたクライアントドメインを使用] オプションを無効にすると、管理者が指定したドメイン名が Parallels Client に自動的に読み込まれます。

推奨: ドメイン名の変更や、その他の認証関連の変更を行った後は、[セッション ID のキャッシュを削除する] ボタンをクリックしてください。

- クライアントに NetBIOS 資格情報の使用を強制する: このオプションを有効にすると、Parallels Client はユーザー名を NetBIOS ユーザー名で置き換えます。
- セッションアイドルの宣言までの時間: このオプションはレポート統計に影響します。これにより、指定した時間アクティビティがない場合、セッションはアイドル状態として宣言されます。
- キャッシュセッションタイムアウト: セッションをキャッシュしている時間を指定します (時間が長いほど AD トランザクションが少なくなります)。
- 複数のドメインに対する認証: Parallels Remote Application Server に接続するユーザーがフォレスト内の異なるドメインに保存されている場合、[信頼性のある全ドメイン] オプションを選択します。

ドメインユーザー以外に対する認証:

スタンドアロンマシンで指定されたユーザーに対してユーザーセッションを認証するには、ドメイン名の代わりに [ワークグループ名] / [マシン名] を入力する必要があります。ワークグループ WORKGROUP のメンバーである SERVER1 と呼ばれるマシン上のローカルユーザーのリストに対してユーザーを認証する場合、ドメインフィールドには次のように入力します。

WORKGROUP/SERVER1

Parallels Client の種類とビルド番号によるアクセスの制限

Parallels Client によるシステムへのアクセスを可能にするため、Parallels Client の種類とバージョン番号に関して最低要件を指定することができます。その種類が除外されているか、バージョンが最低要件よりも低い Parallels Client の場合、その Parallels Client をインストールしているデバイスはアクセスが拒否されます。

Parallels Client のバージョン要件を指定するには、次の操作を実行します。

- 1 RAS Console で、[接続] カテゴリーを選択し、[許可されたデバイス] タブを選択します。
- 2 [モード] ドロップダウンリストで、次のオプションを選択します。
 - すべてのクライアントにシステムへの接続を許可: 制限はありません。Parallels Client のすべての種類とバージョンにアクセスが許可されます。
 - 選択したクライアントのみにシステムへの接続を許可: このオプションを選択したら、[クライアント] リストで、希望する Parallels Client の種類を選択します。[最小ビルド

番号] の値を設定するには、クライアントタイプを右クリックして、コンテキストメニューで [プロパティ] を選択します。

- 選択したクライアントのみに公開した項目の一覧表示を許可: このオプションを選択したら、[クライアント] リストで、希望する Parallels Client の種類を選択します。[最小ビルド番号] の値を設定するには、クライアントタイプを右クリックして、コンテキストメニューで [プロパティ] を選択します。

システムに接続しようとする Parallels Client が要件を満たしていない場合、デバイスのユーザーはエラーを受信し、システム管理者に問い合わせるよう勧められます。

二要素認証

二要素認証を構成することで、セキュリティを強化できます。

メカニズム

ユーザーはアプリケーションリストを取得するのに連続する 2 つのステージを経て認証する必要があります。第 1 レベルの認証はネイティブ認証 (Active Directory/LDAP) を使用しますが、第 2 レベルの認証では、次のいずれかを使用できます。

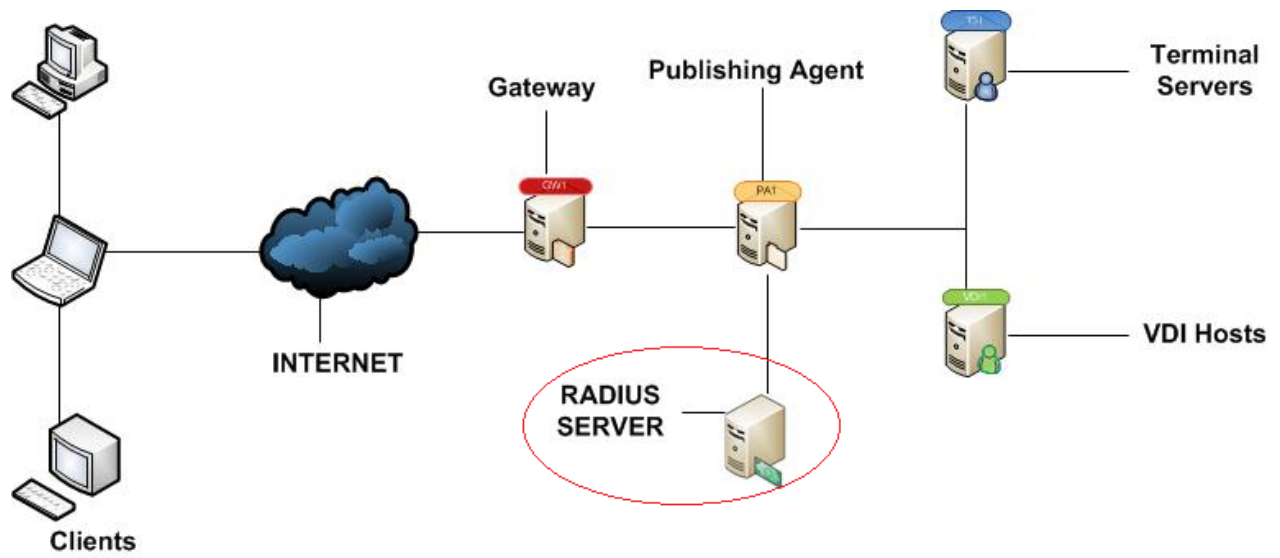
- Dualshield 認証プラットフォーム
- Safenet サーバー
- Radius サーバー

第 2 レベルの認証は第 1 レベルの認証と比べてより強固なセキュリティを提供します。第 2 レベルの認証では、標準のユーザー名とパスワードを使用する代わりに、静的ユーザー名と、トークンによって生成された一時パスワードを使用します。

二要素認証は、[接続] カテゴリの [二要素認証] タブで構成できます。

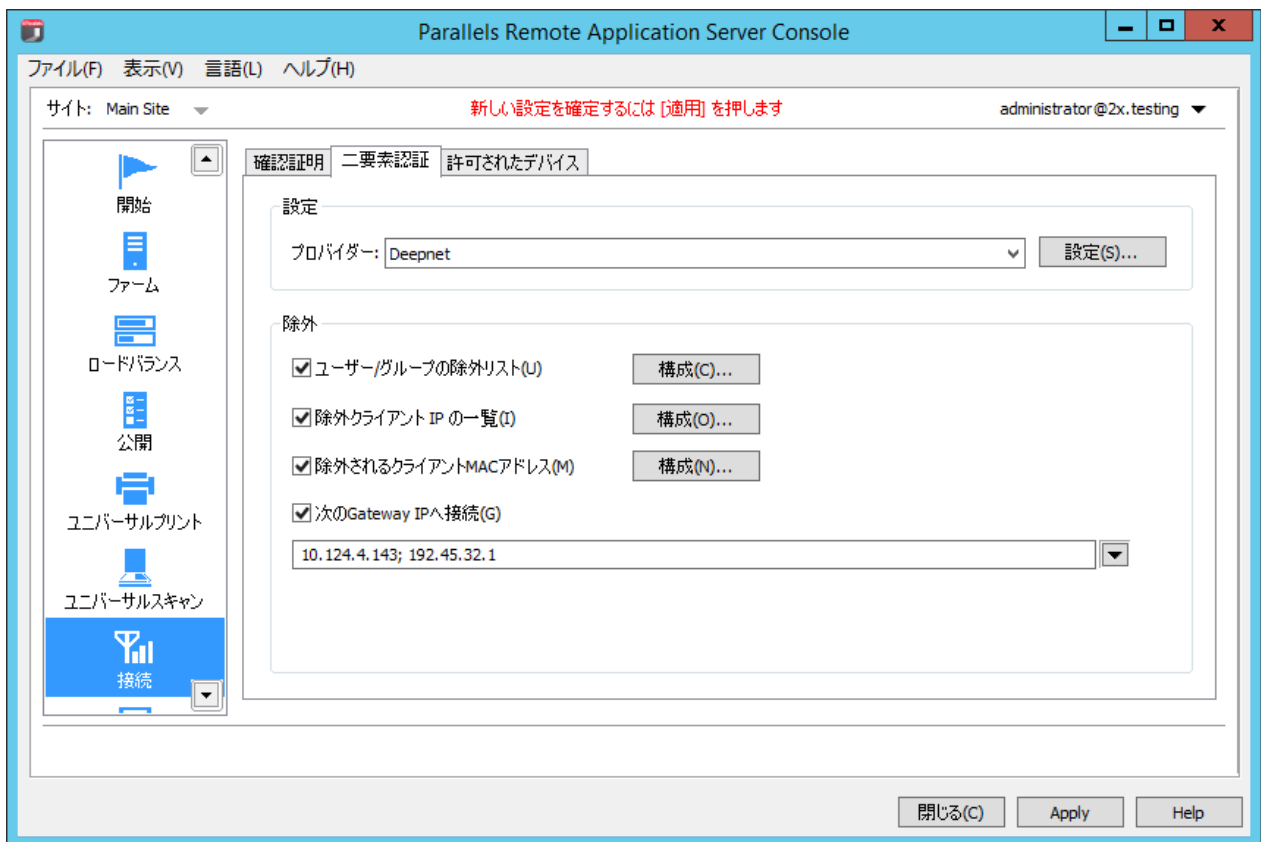
Parallels Remote Application Server の構成

次の図は、Parallels Publishing エージェントが Radius サーバーに接続されている、Parallels Remote Application Server の標準的なシナリオを示しています。



Radius のプロパティを構成するには、次の手順を実行します。

- 1 Parallels RAS Console で、[接続] > [二要素認証] タブに移動します。



- 2 [プロバイダー] ドロップダウンリストで [Radius] を選択します。

- 3 [設定] ボタンをクリックします。[Radius のプロパティ] ダイアログが開きます。

- 4 [サーバー] フィールドに Radius サーバーのホスト名または IP アドレスを入力します。
- 5 [ポート] フィールドに Radius サーバーのポート番号を入力します。
- 6 [タイムアウト] フィールドにパケットタイムアウトを秒単位で指定します。
- 7 [再試行] フィールドに、接続の確立を試みる場合の再試行回数を指定します。
- 8 [秘密鍵] を入力します。[パスワードのエンコード] には、Radius サーバーで指定した設定に従って [PAP] (パスワード認証プロトコル) または [CHAP] (チャレンジハンドシェイク認証プロトコル) を指定します。
- 9 完了したら [OK] をクリックします。
- 10 [接続の確認] ボタンをクリックして、接続を検証します。接続が適切に構成されている場合、確認メッセージが表示されます。
- 11 Radius ベンダーから特別な属性が要求されている場合は、[属性] タブをクリックして [追加] を選択します。
- 12 [ベンダー] ドロップダウンリストでベンダーを選択します。
- 13 [属性] リストでベンダー属性を選択します。
- 14 [値] フィールドに、選択した属性タイプ (数値、文字列、IP アドレス、日付など) に応じた値を入力します。

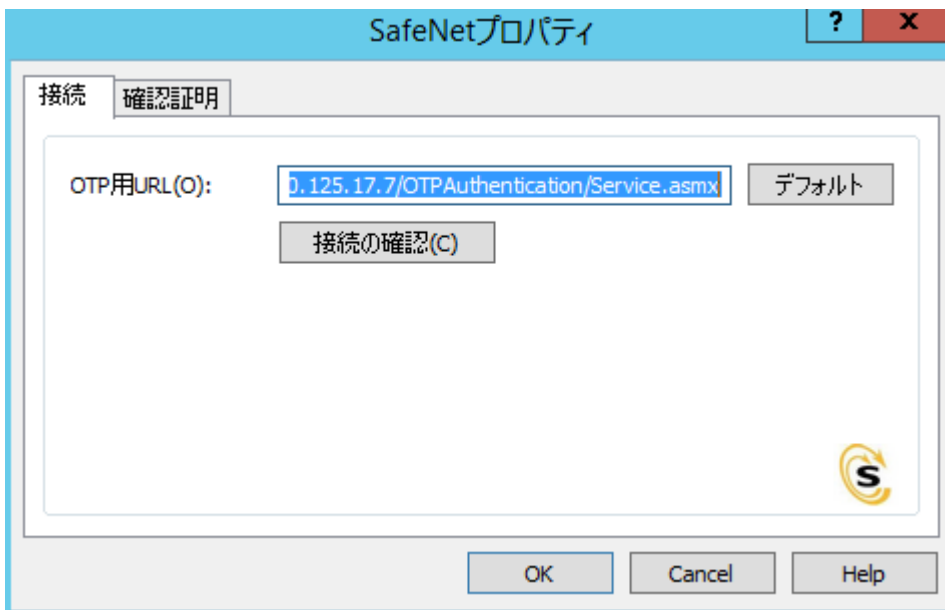
Safenet での作業

SafeNet の構成

SafeNet トークン管理システム製品は、セキュアトークンを使用して高価値の保護を提供します。これにより、SafeNet トークン管理システム製品は、Parallels Remote Application Server での二要素認証用の完璧なツールとして機能します。

SafeNet を構成するには、次の手順を実行します。

- 1 Parallels Remote Application Server Console で、[接続] > [二要素認証] タブに移動します。
- 2 [プロバイダー] ドロップダウンリストで [SafeNet] を選択します。
- 3 [設定] ボタンをクリックします。[SafeNet プロパティ] ダイアログが開きます。



- 4 [接続] タブページで、有効な URL を [OTP 用 URL] フィールドに入力します。OTP サービスとの接続を確立できることを確認するには、[接続の確認] ボタンをクリックします。

注意:RAS Publishing Agent は SafeNet トークン管理システムサーバーと通信します。セキュリティ上の理由から、認証サーバーをファイアウォールの内側に配置することを強くお勧めします。

- 5 [確認証明] タブをクリックします。
- 6 [モード] ドロップダウンリストで、ユーザーをどのような方法で認証するかを選択します。すべてのユーザーに必須ですシステムを使用するすべてのユーザーが二要素認証を使用してログインする必要があります。

次のモードを利用できます。

- ドメイン認証されたユーザーのトークンを作成：ドメイン認証されたユーザーのソフトウェアトークンを Parallels Remote Application Server で自動作成することができます。ドロップダウンリストからトークンのタイプを選択します。このオプションは、ソフトウェアトークンでのみ機能します。
- Safenet が付いているアカウントのみ利用できます：SafeNet アカウントを持たないユーザーは二要素認証を使用してログインしなくてもシステムを使用できます。

7 [TMS Web API URL] フィールドに SafeNet API URL の場所を入力します。

8 [ユーザーリポジトリ] フィールドにユーザーリポジトリの宛先を入力します。

9 [OK] をクリックして値を保存し、[SafeNet プロパティ] ダイアログを閉じます。

除外ルールを構成する

[二要素認証] タブページの [除外] セクションで除外ルールを指定します。

ユーザーまたはグループを二要素認証から除外するには、次の手順を実行します。

- 1** [ユーザー / グループ除外のリスト] オプションを選択し、[構成] をクリックします。
- 2** [追加] ボタンをクリックし、二要素認証から除外するユーザーとグループを選択します。

二要素認証からクライアントの IP アドレスまたは IP アドレス範囲を除外するには、次の手順を実行します。

- 1** [除外クライアント IP の一覧] オプションを選択し、[構成] をクリックします。
- 2** [追加] ボタンをクリックし、1 つの IP アドレスまたは IP アドレス範囲を指定します。
- 3** [OK] をクリックした後、[OK] を再度クリックし、変更内容を保存してダイアログを閉じます。

クライアント MAC アドレスを除外するには、次の手順を実行します。

- 1** [除外されるクライアント MAC アドレス] オプションを選択し、[構成] をクリックします。
- 2** [追加] ボタンをクリックし、リストからクライアント MAC アドレスを選択します。

ゲートウェイ IP アドレスを除外するには、次の手順を実行します。

- 1** [次の Gateway IP へ接続] オプションを選択します。
- 2** ゲートウェイ IP アドレスを入力するか、ドロップダウンリストを展開してリストから 1 つ以上の IP アドレスを選択します。プラス記号のアイコンをクリックし、使用可能なゲートウェイをリストに追加します。
- 3** [OK] をクリックし、選択したオプションを保存してダイアログを閉じます。IP アドレスが [次の Gateway IP へ接続] 編集ボックスに表示されます。

Parallels Client

Parallels Client の [新しいアカウント情報] ダイアログで、次の手順を実行します。

- 1 [OTP PIN] 数字フィールドに任意の 4 桁の数字を入力します（これらの数字はプロセスの後に必要になります）。
- 2 メールアドレスを入力し、[OK] をクリックします。
- 3 メールアカウントにログインして、SafeNet 認証をアクティベートするために必要な情報が記載されている電子メールを取得します。この電子メールの例を以下に示します。

アクティベーションキー: YZQHoczZWw3cBCNo

トークンシリアル番号: 4F214C507612A26A

MobilePASS クライアントを

<http://localhost:80/TMSService/ClientDownload/MobilePASSWin.exe> からダウンロードします。

*ドメイン資格情報でログインします。

*MobilePASS クライアントと同じフォルダーに添付のシードファイルを保存してください。

ワンタイムパスワードを入力して、ターミナルサーバー接続にログインします。

アプリケーション PIN: 4089

- 4 電子メールに記載されている URL から MobilePASS クライアントをダウンロードします。
- 5 SafeNet の電子メールに記載されているアクティベーションキーを入力します。
- 6 次に、電子メールに記載されているアプリケーション PIN を [MobilePASS PIN] フィールドに入力します。
- 7 [このゲスト OS の] をクリックして eToken 番号を生成し、[コピー] をクリックします。
- 8 OTP PIN と eToken を次の順番で組み合わせます。OTP + eToken
- 9 この値を Parallels Client に入力し、[OK] をクリックしてログインします。

Parallels RAS Web Portal

Safenet 二要素認証が有効になっている場合は、Parallels RAS Web Portal にログインする際にも二要素認証が要求されます。

- 1 [OTP Pin] 数字フィールドに任意の 4 桁の数字を入力します（これらの数字はプロセスの後に必要になります）。
- 2 電子メールアドレスを入力して、[OTP を送る] ボタンをクリックします。
- 3 メールアカウントにログインして、SafeNet 認証をアクティベートするために必要な情報が記載されている電子メールを取得します。この電子メールの例を以下に示します。

アクティベーションキー: YZQHoczZWw3cBCNo

トークンシリアル番号: 4F214C507612A26A

MobilePASS クライアントを

<http://localhost:80/TMSService/ClientDownload/MobilePASSWin.exe> からダウンロードします。

*ドメイン資格情報でログインします。

*MobilePASS クライアントと同じフォルダーに添付のシードファイルを保存してください。
ワンタイムパスワードを入力して、ターミナルサーバー接続にログインします。

アプリケーション PIN: 4089

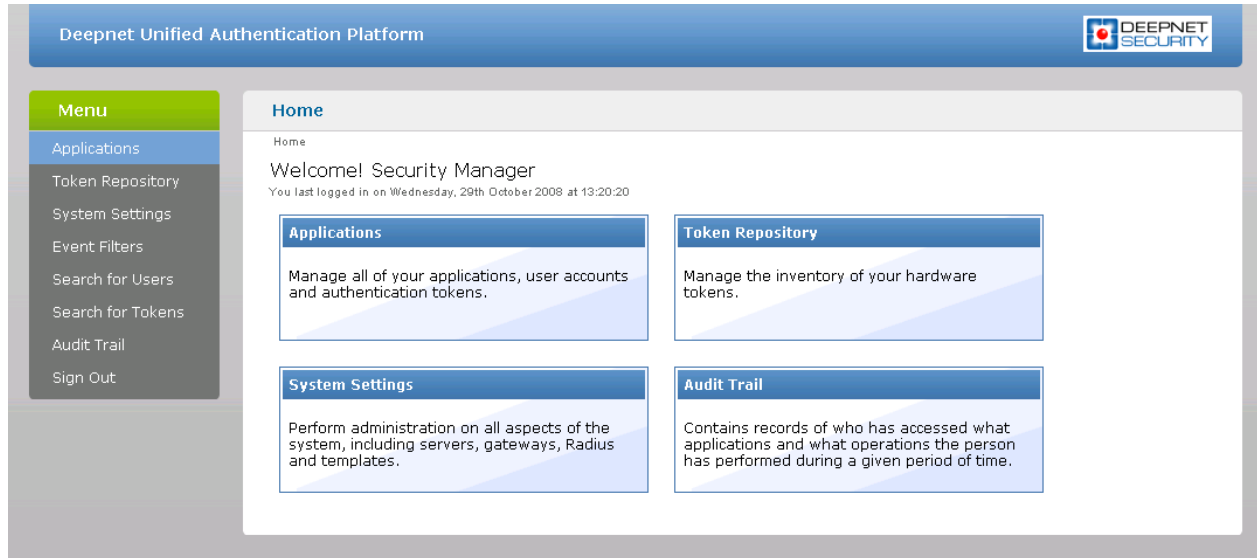
- 4 電子メールに記載されている URL から MobilePASS クライアントをダウンロードします。
- 5 SafeNet の電子メールに記載されているアクティベーションキーを入力します。
- 6 次に、電子メールに記載されているアプリケーション PIN を [MobilePASS PIN] フィールドに入力します。
- 7 [eToken 番号の生成] をクリックし、続いて [コピー] をクリックします。
- 8 OTP PIN と eToken を次の順番で組み合わせます。OTP + eToken
- 9 組み合わせた値を Parallels RAS Web Portal に入力し、[OK] をクリックしてログインします。

Deepnet での作業

Deepnet の構成

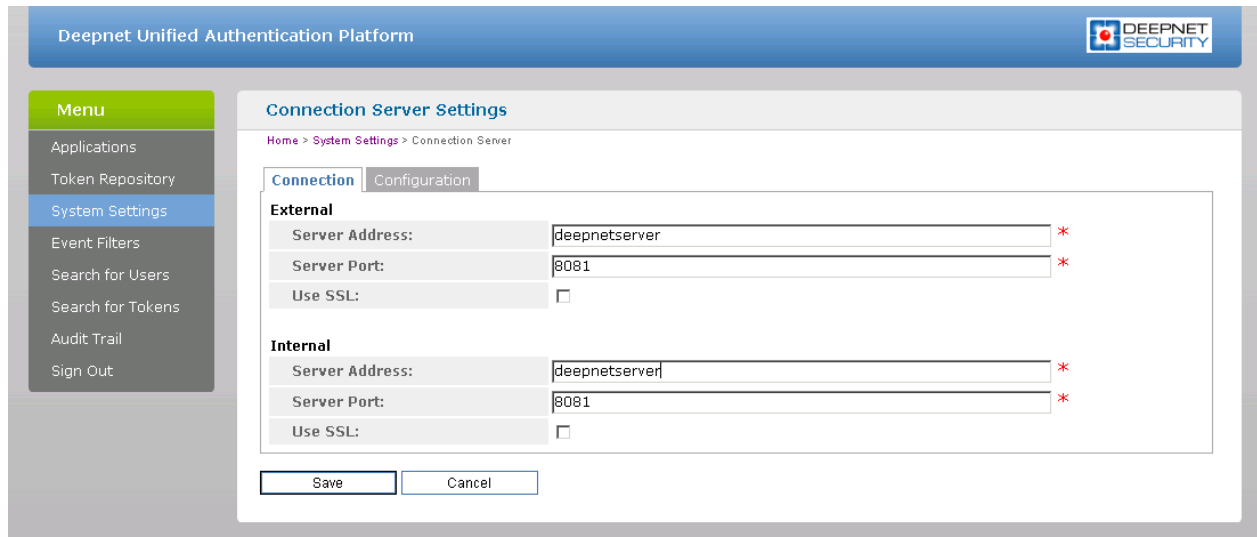
最初に Deepnet Unified Authentication がインストールされているマシンにログインして、インターネットブラウザを開きます。Deepnet はローカルにインストールされているため、'localhost' を URL として使用し、その後に、Deepnet サーバーがアプリケーションとの通信に使用するポート番号を追加します（例: <http://localhost:8080/>）。

次に、インストール中に設定した資格情報を使用して、Deepnet の管理コンソールにログインする必要があります。



サーバー

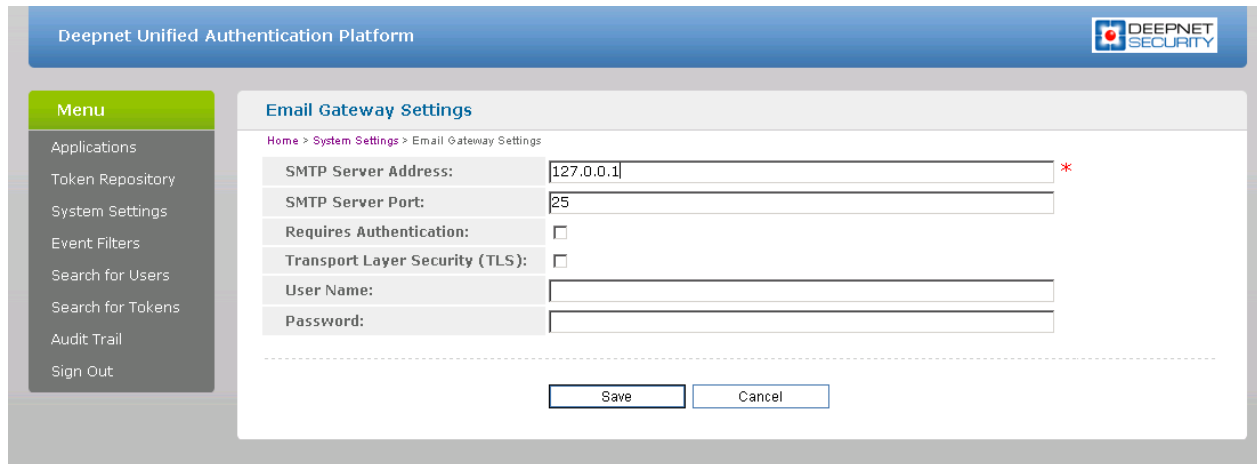
通信サーバー、接続サーバー、および認証サーバーが適切に構成されていることを確認します。詳細については、「Deepnet Unified Authentication Platform 管理ガイド」を参照してください。



RAS Publishing Agent は、認証サーバーと通信します。セキュリティ上の理由から、認証サーバーをファイアウォールの内側に配置することを強くお勧めします。[サーバーアドレス] と [サーバーポート] が正しいことを確認します。

ゲートウェイ

Deepnet サーバーが有効化コードなどの情報をユーザーに送信できるように、電子メールゲートウェイまたは SMS ゲートウェイを正確に構成する必要があります。



The screenshot displays the 'Email Gateway Settings' configuration page within the Deepnet Unified Authentication Platform. The interface includes a top navigation bar with the platform name and logo, and a left-hand menu. The main content area contains a form with the following fields and values:

Field	Value
SMTP Server Address:	127.0.0.1
SMTP Server Port:	25
Requires Authentication:	<input type="checkbox"/>
Transport Layer Security (TLS):	<input type="checkbox"/>
User Name:	
Password:	

At the bottom of the form, there are 'Save' and 'Cancel' buttons. A red asterisk is visible next to the SMTP Server Address field, indicating a required field.

メッセージをユーザーに送信できるように、電子メールゲートウェイや SMS ゲートウェイを構成する必要があります。Deepnet Unified Authentication が電子メールの送信に使用するサーバーの [SMTP サーバーアドレス] と [SMTP サーバーポート] を入力します。SMTP サーバーで使用するユーザー名またはパスワードを必ず入力してください。

テンプレート

テンプレートは、サーバーによって送信される電子メールおよび SMS メッセージの構造を設定するために使用されます。SMS テンプレートを使用すると、[送信者] フィールド、メッセージの内容、および件名（任意）のテキストを設定できます。ワンタイムパスワード（[[OTP]]）などの固有情報を送信するには、必ず事前設定のワイルドカードを使用してください。

Deepnet Unified Authentication Platform

DEEPNET SECURITY

Menu

- Applications
- Token Repository
- System Settings
- Event Filters
- Search for Users
- Search for Tokens
- Audit Trail
- Sign Out

Send One-time Password Templates

Home > System Settings > OTP Template

SMS Template | SMTP Template

From: admin@company.com *

Subject: One-Time Password *

Body:

(for One-Way OTP)

Your one-time password: [[OTP]] *

(for Two-Way OTP)

Your one-time password: [[OTP]] *

Server one-time password: [[SOTP]] *

Format: HTML Plain Text

Priority: Low Mid High

Note: Use the following wildcards:

- [[OTP]] : User's One-Time Password
- [[SOTP]] : Server's One-Time Password

Save Cancel

電子メールテンプレートを使用すると、ユーザーが返信できる電子メールアドレスを設定できます。これは、管理者の電子メールに設定する必要があります。電子メールの [題名]、[プライオリティ]、および [フォーマット] を設定することもできます。[本文] には、電子メールの実際の内容が表示され、固有情報用の事前設定されたワイルドカードとメッセージが含まれているはずです。

アプリケーション

Deepnet Unified Authentication Platform

DEEPNET SECURITY

Menu

- Applications
- Token Repository
- System Settings
- Event Filters
- Search for Users
- Search for Tokens
- Audit Trail
- Sign Out

New Application

Home > Application > New

Icon	<input type="text"/>	Browse...
Name	VirtualDesktopServer	*
Description	<input type="text"/>	
ID	001	*
Service URL	http://deepnet:8081/dcs/service	
Application URL	<input type="text"/>	
Primary	<input type="checkbox"/>	
Connect to LDAP	<input type="checkbox"/>	

Save Cancel

[新規] をクリックして、新しいアプリケーションを追加します。ロードされる新規フォームでは、[名前] と [ID] のみを設定する必要があります。完了したら、[保存] をクリックして設定を保存します。

トークンリポジトリ

SafeID などのハードウェアトークンを使用する場合は、提供された XML ファイルを使用して、最初にトークン情報をインポートする必要があります。[インポート] をクリックして、提供された XML ファイルを参照します。XML ファイルがインポートされたら、各ハードウェアトークンをユーザーに割り当てる必要があります。

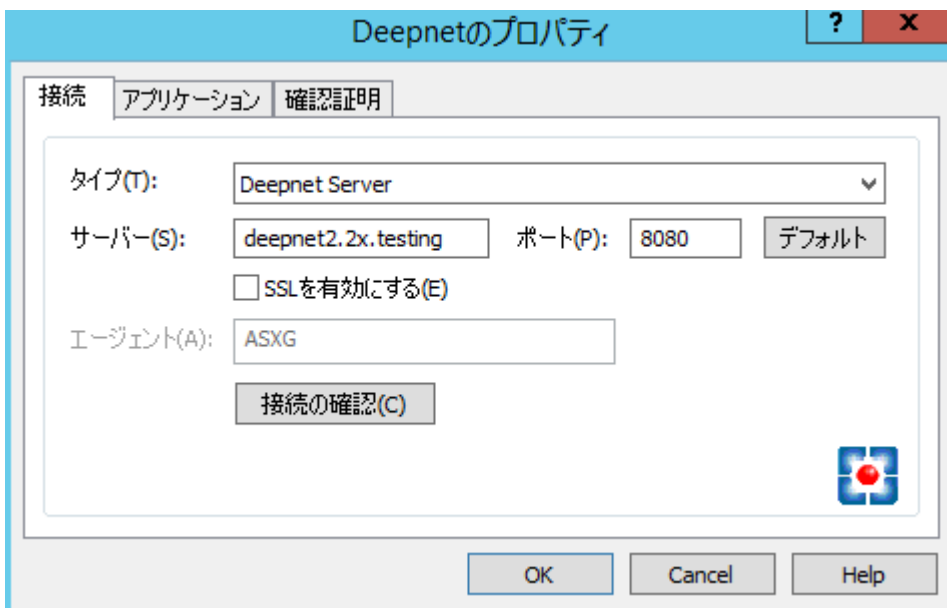
Parallels Remote Application Server の構成

サポートされているトークンの一覧

- SafeID
- FlashID
- MobileID
- QuickID
- GridID
- SecureID (RSA)
- DigiPass (Vasco)

Deepnet Unified Authentication への接続

- 1 RAS Console で [接続] カテゴリーを選択して、[二要素認証] タブをクリックします。
- 2 [プロバイダー] ドロップダウンリストで、[Deepnet] を選択して [設定] ボタンをクリックします。[Deepnet のプロパティ] ダイアログボックスが開きます。



- 3 [接続] タブページで、認証サーバーの設定中に保存したサーバー名とポートを入力します。デフォルトでは、ポート番号は 8080 に設定されています。[接続の確認] をクリックして、認証サーバーにアクセスできるかどうかをテストします。Deepnet サーバーへの SSL での接続を選択することもできます。
- 4 [アプリケーション] タブページをクリックします。
- 5 Deepnet を使用してユーザーを認証する、アプリケーションプロファイルを選択します。Deepnet サーバーに追加するアプリケーションを作成することもできます。
- 6 [既定のドメイン] フィールドでは、認証時とユーザーが追加されるときに既定のドメインユーザーを選択できます。Deepnet ユーザーアカウントのインポートまたは検証は、この既定のドメインを使用して行われます。
- 7 Deepnet ユーザーアカウント、および他のサブグループを含むグループをインポートするときは、[LDAP を使用する] オプションを選択します。
- 8 指定されたユーザー/グループを Deepnet アプリケーションに自動的に追加するには、[Deepnet ユーザーアカウントをインポート...] ボタンをクリックします。
- 9 Deepnet アプリケーションのすべてのユーザーが次の形式であることを確認するには、[Deepnet ユーザーアカウントの確認] ボタンをクリックします。

¥¥domain¥usernameusername@domain の形式で追加されたユーザーは自動的に適切な形式に変更され、ドメインのないユーザーには既定のドメインが割り当てられます。

10 [確認証明] タブページをクリックします。

11 [モード] ドロップダウンリストで、ユーザーの認証方法を選択します。

- [すべてのユーザーに必須です] を選択すると、システムを使用するすべてのユーザーが二要素認証を使用してログインする必要があります。
- [Domain Authenticated Users にトークンを作成する] を選択すると、ドメイン認証されたユーザーのソフトウェアトークンを Parallels Remote Application Server で自動作成することができます。ドロップダウンリストからトークンのタイプを選択します。このオプションは、ソフトウェアトークンでのみ機能します。
- [Deepnet が付いているアカウントのみ利用できます] を選択すると、Deepnet アカウントのないユーザーは二要素認証を使用してログインしなくてもシステムを使用できます。

12 [チャンネルの許可] セクションで、ユーザーがトークンをアクティベートするとき、または Quick ID OTP を要求するときに使用できるチャンネルを指定できます。たとえば、[電子メール] を選択した場合は、有効化コードは電子メール経由でのみ送信できます。[SMS] を選択した場合は、有効化コードは SMS 経由で送信されます。

Deepnet でのユーザーアカウントの作成

Deepnet で新しいユーザーアカウントを追加する場合、ドメイン名をユーザーの [ログイン名] に含めることが重要です。したがって、エントリを次のような形式にする必要があります。

¥¥domain¥username

Parallels アプリケーションにより自動的に作成されたユーザーはすでにこの形式になっていますが、Deepnet コンソールからインポートされたユーザーは修正が必要です。

ユーザー名を修正するには、次の操作を実行します。

- 1** [Deepnet のプロパティ] ダイアログを開きます ([接続] > [二要素認証] > [設定]) 。
- 2** [アプリケーション] タブを選択します。
- 3** [Deepnet ユーザーアカウントの確認] ボタンをクリックします。

username@domain の形式で追加されたユーザーは適切な形式 (¥¥domain¥username) に自動的に変更されます。

RAS ファームへの接続

Parallels Client

Deepnet を有効にすると、ユーザーに二要素認証が適用されます。QuickID などのソフトウェア トークンを使用すると、管理者はユーザーごとにトークンを作成する必要はありません。ユーザーが最初にログインを試みたときに、RAS Publishing Agent がトークンを自動で作成します。

ユーザーが Parallels Client から Parallels 接続へのアクセスを試みると、まず Windows ユーザー名とパスワードの入力を求められます。資格情報が受け付けられると、RAS Publishing Agent は Deepnet サーバーと通信を行い、そのユーザーに固有のトークンを作成します。

次に、このトークンをアクティベートする必要があります。[確認証明] セクションの構成時に選択したチャンネルに基づいて、ボタンをクリックし、メールまたは SMS で有効化コードを送信します。その後、トークンの有効化コードが含まれるメッセージが送信されます。この有効化コードを [有効化コード] テキストボックスに挿入する必要があります。

MobileID または FlashID を使用する場合、該当のソフトウェアをどこでダウンロードできるかに関するメールがユーザーに送信されます。

QuickID トークンを使用する場合、アプリケーションは、メールまたは SMS で送信された一時パスワードを要求します。

GridID を使用する場合、ユーザーはクライアント自体からグリッドを印刷できます。これはユーザーの初回のログオン時にのみ使用できます。

Parallels Web Portal

Deepnet 統一認証を有効にする場合、Parallels Web ポータルへのログインにも二要素認証が必要です。

Dualshield での作業

DualShield 5.6+ 認証プラットフォームの構成

DualShield 5.6+ 認証プラットフォーム

このドキュメントでは、Deepnet DualShield 認証プラットフォーム 5.6 以降を Parallels Remote Application Server 10.6 以降と統合する方法を説明します。記載されているバージョンより前のバージョンを使用する場合は、RADIUS インターフェイスを使用してください。

DualShield 認証プラットフォームについては、次のドキュメントも参照してください。

1 DualShield 認証プラットフォーム - インストールガイド

2 DualShield 認証プラットフォーム - クイックスタートガイド

3 DualShield 認証プラットフォーム - 管理ガイド

Parallels Remote Application Server によってサポートされているトークンの一覧

MobileID (FlashID は MobileID と統合されません)

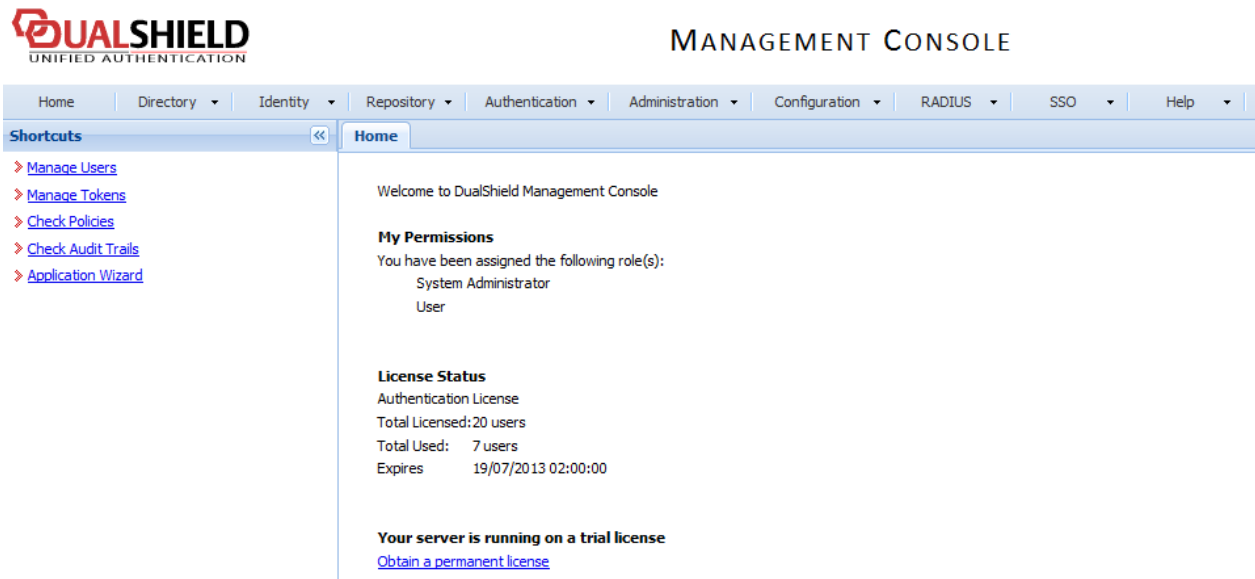
- 1 QuickID
- 2 GridID
- 3 SafeID
- 4 SecureID (RSA)
- 5 DigiPass (Vasco)

SafeID などのハードウェアトークンを使用する場合は、提供された XML ファイルを使用して、最初にトークン情報をインポートする必要があります。[インポート] をクリックして、提供された XML ファイルを参照します。XML ファイルがインポートされたら、各ハードウェアトークンをユーザーに割り当てる必要があります。

DualShield 5.6+ 認証プラットフォームの構成

「DualShield 認証プラットフォーム - インストールガイド」で指定されているすべての手順に従うと、インターネットブラウザ (http://LOCALHOST:8073) で自動的に URP が開き、DualShield の管理コンソールにログインできます。

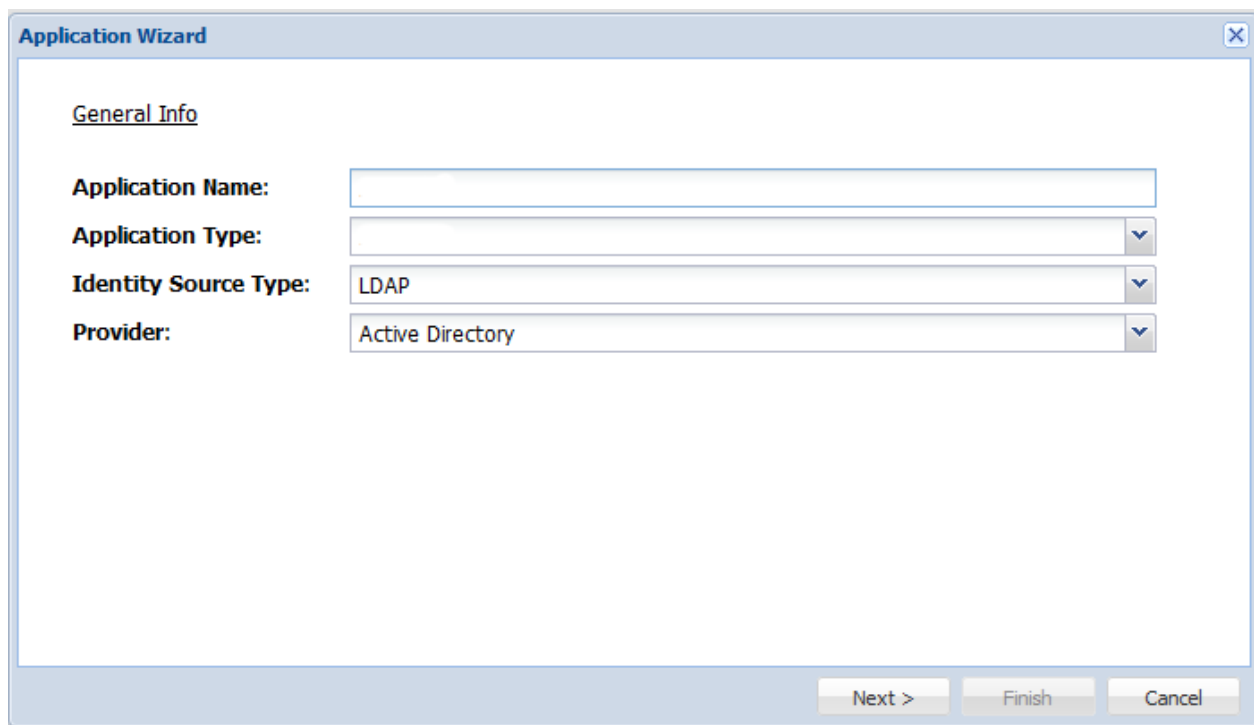
デフォルトの資格情報 (ユーザー: sa、パスワード: sa) を使用して、DualShield の管理コンソールにログインします。デフォルトのパスワードを変更するように要求されます。



アプリケーションへのアクセスが許可されるユーザーのドメインがレルムに含まれているため、アプリケーションはレルムへの接続を提供するように設定されます。

レルムは、複数のドメインユーザーが同じアプリケーションにアクセスできるように設定されます。

Parallels Remote Application Server が通信するアプリケーションを作成する必要があります。
[確認証明] > [アプリケーションウィザード] をクリックして、以下に表示される情報を入力し、
[次へ] を押します。



The screenshot shows a dialog box titled "Application Wizard" with a close button in the top right corner. The "General Info" section is active and contains the following fields:

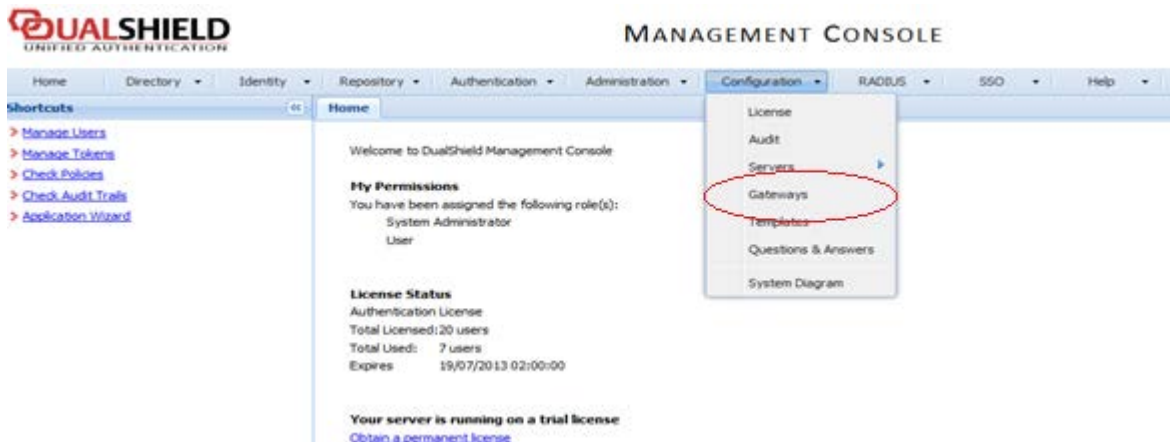
- Application Name:** An empty text input field.
- Application Type:** A dropdown menu with a downward arrow.
- Identity Source Type:** A dropdown menu with "LDAP" selected and a downward arrow.
- Provider:** A dropdown menu with "Active Directory" selected and a downward arrow.

At the bottom of the dialog, there are three buttons: "Next >", "Finish", and "Cancel".

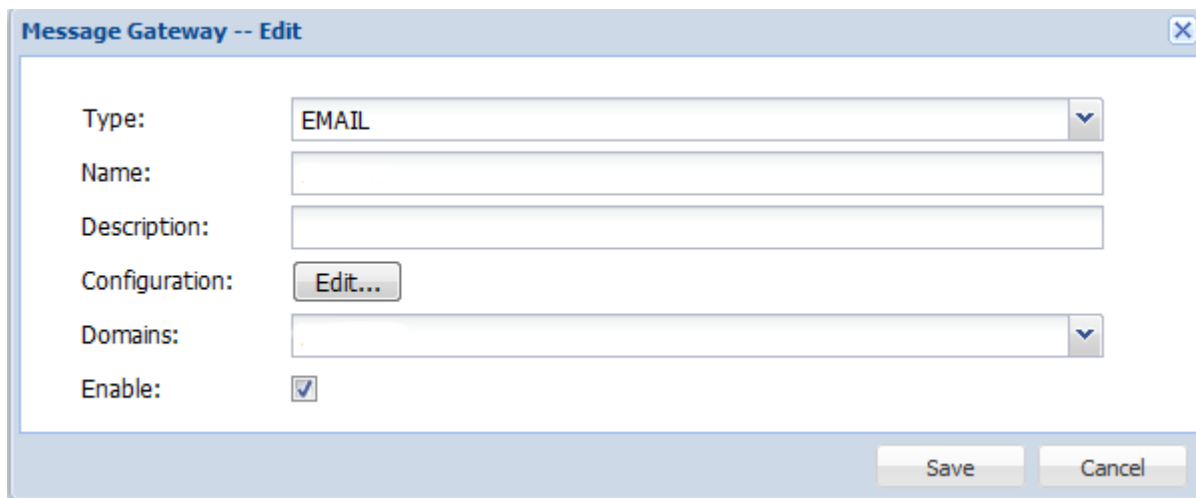
以下に表示される LDAP サーバーの設定を指定して、[完了] を押します。

The screenshot shows the 'Application Wizard' dialog box with the 'LDAP Settings' tab selected. The fields include: LDAP Server URL, Access User (with a red warning: 'LDAPS is mandatory for certain features, such as resetting AD password' and a format example: 'yourdomain\administrator or administrator@yourdomain.com or DN'), Access Password, Confirm Password, Base DN (with a 'Browse...' button), Domain Name, Domain DNS Name, and Domain NetBios Name. Navigation buttons at the bottom are '< Previous', 'Next >', 'Finish', and 'Cancel'.

アプリケーションの構成後に、DualShield サーバーとエンドユーザーが通信するために使用する電子メールゲートウェイまたは SMS ゲートウェイを構成する必要があります。このドキュメントでは、電子メールゲートウェイを使用します。[構成] メニューの [ゲートウェイ] を選択します。



電子メールゲートウェイを構成します。



Message Gateway -- Edit

Type: EMAIL

Name:

Description:

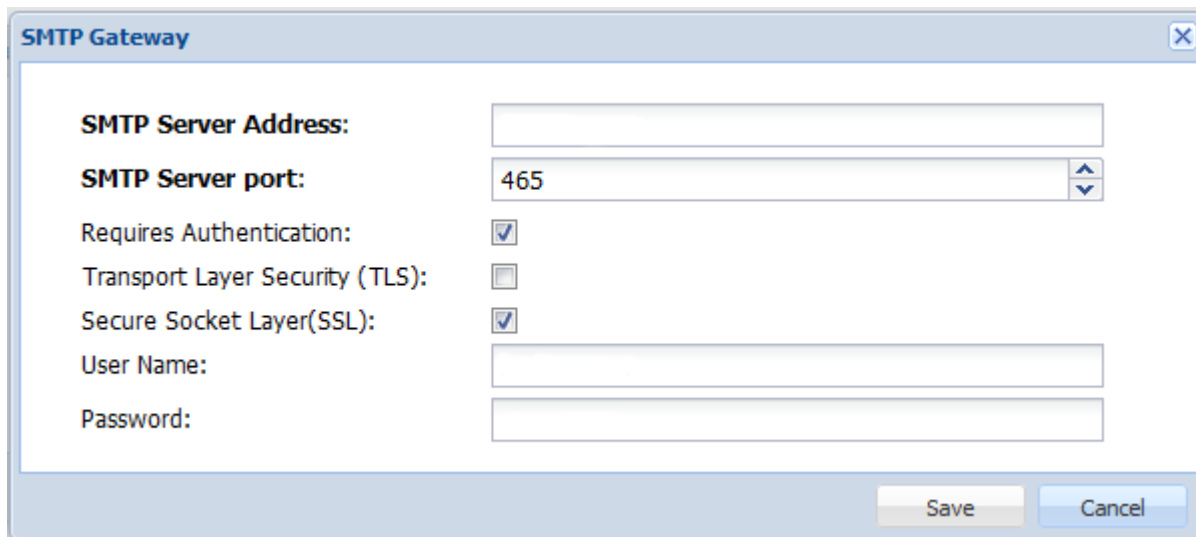
Configuration: Edit...

Domains:

Enable:

Save Cancel

[編集] をクリックして、SMTP サーバー情報を入力します。



SMTP Gateway

SMTP Server Address:

SMTP Server port: 465

Requires Authentication:

Transport Layer Security (TLS):

Secure Socket Layer(SSL):

User Name:

Password:

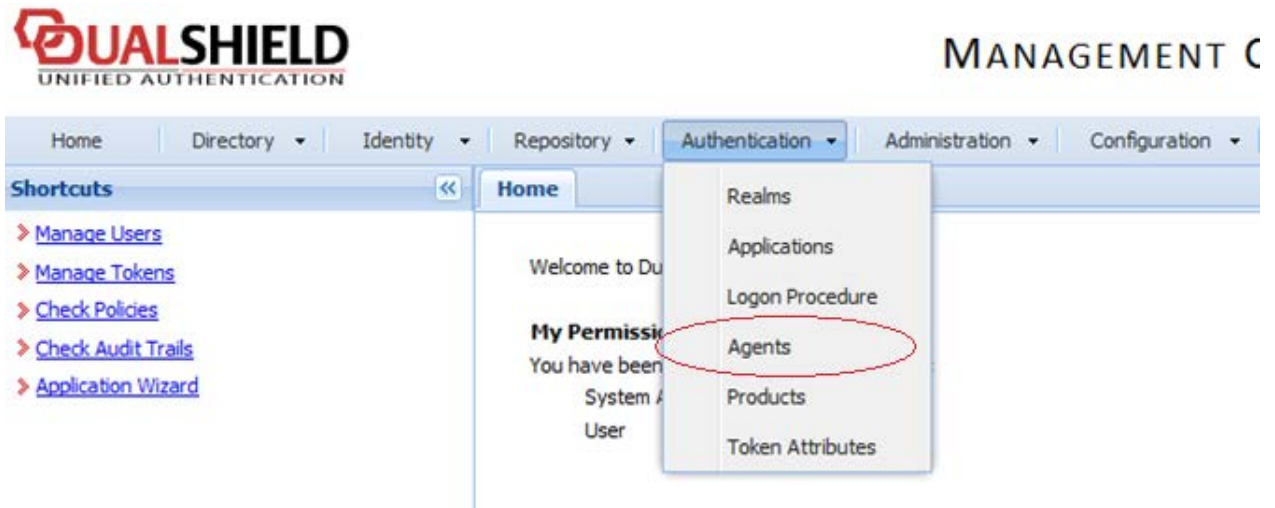
Save Cancel

DualShield 認証プラットフォームを使用するように Parallels Remote Application Server を構成する

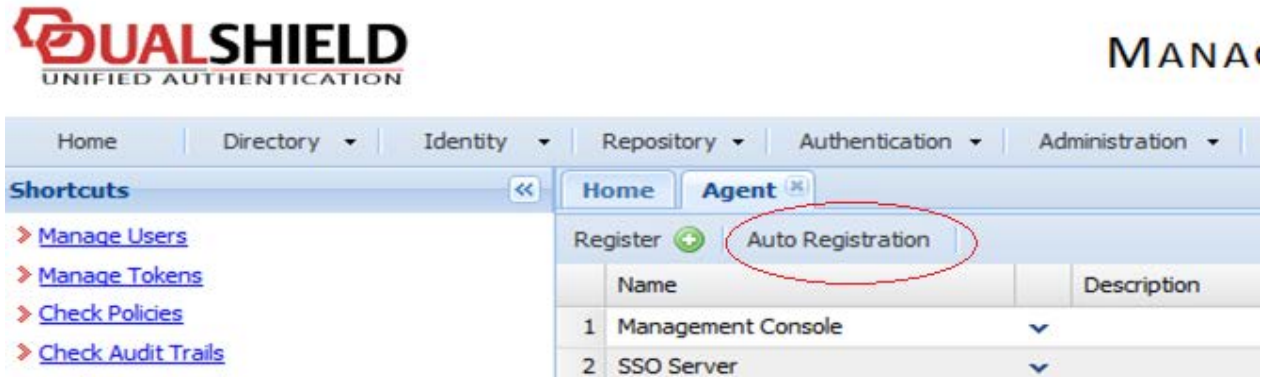
次の手順を実行します。

- 1 RAS Console で、[接続] / [二要素認証] タブページに移動します。
- 2 [プロバイダー] ドロップダウンリストで [Deepnet] を選択します。
- 3 [設定] ボタンをクリックします。

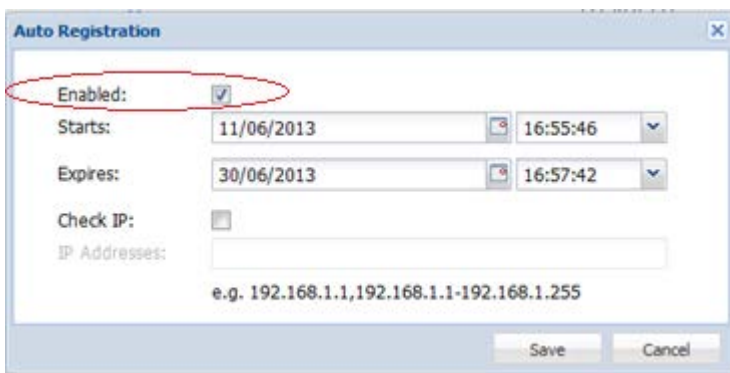
- 4 [接続の確認] ボタンをクリックし、認証サーバーにアクセスできることをテストして、RAS Console が DualShield エージェントとして登録されていることを確認します。” DeepNet サーバーが無効です” というメッセージが表示された場合は、指定したサーバー情報が間違っているか、DualShield エージェントとしての Parallels コンポーネントの自動登録を許可する必要があります。
- 5 DualShield 管理コンソールに戻り、次のように [確認証明] メニューから [エージェント] を選択します。



- 6 [自動登録] を選択します。



- 7 [使用可能] オプションを選択し、日付範囲を設定します。



- 8 エージェントの自動登録を設定したら、RAS Console に戻って [はい] を選択します。Dual Shield エージェントが正常に登録されたことを示すメッセージが表示されます。
すべての RAS Publishing Agent を Deepnet DualShield サーバーに登録する必要があります。バックアップの Publishing Agent を使用している場合、開いているすべてのウィンドウを閉じる必要があります。すべてのウィンドウを閉じると、RAS Console で [適用] を押すことができます。これにより、すべてのエージェントに、DualShield エージェントとして自己登録するよう通知されます。
- 9 [Deepnet のプロパティ] ダイアログで、[アプリケーション] タブをクリックし、DualShield 管理コンソールで以前作成したアプリケーション名を参照します。
- 10 [確認証明] タブをクリックし、ユーザーをどのような方法で認証するかを選択します。
 - [すべてのユーザーに必須です] を選択すると、システムを使用するすべてのユーザーが二要素認証を使用してログインする必要があります。
 - [Domain Authenticated Users にトークンを作成する] を選択すると、ドメイン認証されたユーザーのソフトウェアトークンを Parallels Remote Application Server で自動作成することができます。ドロップダウンリストからトークンのタイプを選択します。このオプションは、QuickID や MobileID などのソフトウェアトークンでのみ機能します。
 - [DualShield が付いているアカウントのみ利用できます] を選択すると、DualShield アカウントを持たないユーザーは二要素認証を使用してログインしなくてもシステムを使用できます。
- 11 [接続] > [二要素認証] タブページに戻ります。
- 12 [除外] セクションで除外ルールを指定します。
 - [ユーザー / グループ除外のリスト] を使用すると、Active Directory 内のユーザーまたはグループのうち、DualShield 認証の使用の対象から除外するユーザーまたはグループを追加できます。

- [除外クライアント IP の一覧] を使用すると、DualShield 認証の使用の対象から除外する IP アドレスまたは IP アドレス範囲を追加できます。
- [除外されるクライアント MAC アドレス] を使用すると、DualShield 認証の使用の対象から除外する MAC アドレスを追加できます。
- [次の Gateway IP へ接続] を使用すると、ゲートウェイに接続されたユーザーを DualShield 認証の使用の対象から除外するようにゲートウェイを設定できます。

RAS ファームへの接続

Parallels Client

DualShield を有効にすると、ユーザーに二要素認証が適用されます。QuickID などのソフトウェアトークンを使用すると、管理者はユーザーごとにトークンを作成する必要はありません。ユーザーが最初にログインを試みたときに、RAS Publishing Agent がトークンを自動で作成します。

ユーザーが Parallels Client から RAS 接続へのアクセスを試みると、まず Windows ユーザー名とパスワードの入力を求められます。資格情報が受け付けられると、RAS Publishing Agent は DualShield サーバーと通信を行い、そのユーザーに固有のトークンを作成します。

MobileID または QuickID を使用する場合、該当のソフトウェアをどこでダウンロードできるかに関するメールがユーザーに送信されます。

QuickID トークンを使用する場合、アプリケーションは、メールまたは SMS で送信された一時パスワードを要求します。

OTP を求められた場合、一時パスワードを入力して Parallels Application Server XG ゲートウェイにログインします。

Parallels Web Portal

DualShield 統合認証が有効になっている場合、Parallels Web Portal にログインするには二要素認証も必要です。

第 18 章

Parallels Remote Application Server の 管理

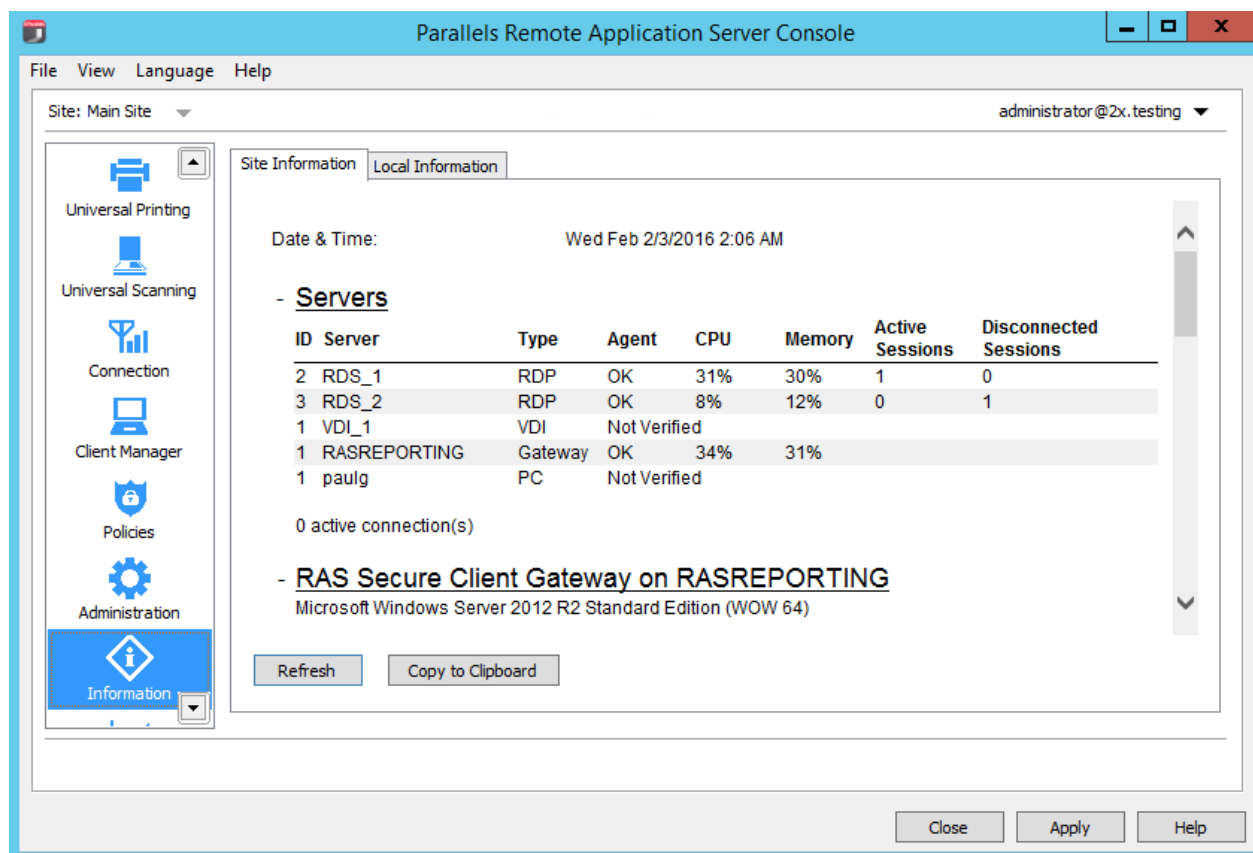
この章の内容

Parallels Remote Application Server のステータス.....	240
ライセンス.....	241
セッションの管理.....	243
モニタリング カウンターおよび電子メール アラートの構成.....	245
Parallels Remote Application Server の構成変更の表示.....	246
監査ログの構成.....	246
メンテナンスとバックアップ.....	248
ファーム設定のエクスポートおよびインポート.....	249
問題の報告とトラブルシューティング.....	250

Parallels Remote Application Server のステ ータス

Parallels Remote Application Server に備えられているいくつかの機能を使用して、ファーム上のアクティビティをモニタリングしたり、システム通知や他のいくつかのオプションを構成したりできます。

サイトの情報を表示するには、RAS Console で [情報] カテゴリーを選択します。



[サイト情報] ページに表示されている、利用可能なサーバー、サーバータイプ、エージェントのステータス、CPU 使用率などの情報を確認します。このページでは、RAS Secure Client Gateway の情報と他の関連情報も確認できます。

[ローカル情報] タブページには、RAS Console が実行されている RAS サーバーの状態が表示されます。

ライセンス

[ライセンス] カテゴリーでは、Parallels Remote Application Server ライセンスを管理できます。

ライセンスを管理するには、RAS Console で [ライセンス] カテゴリーを選択します。右ペインに、以下の情報を含む現在のライセンス情報が表示されます。

- Parallels Remote Application Server エディション情報

- ライセンスの有効期限
- 同時使用ユーザーに基づくライセンス数
- ピーク時のログインユーザー（数と日付）
- 現在のログインユーザー（数）
- ライセンスの猶予期間

[ライセンスを管理] ボタンを使用すると、新しい Parallels ビジネスアカウントに切り替えて、異なるライセンスキーを使用して Parallels Remote Application Server をアクティベートできます。ボタンをクリックすると、[Parallels ビジネスアカウントへのサインイン] ダイアログが表示されます。これは、Parallels ビジネスアカウントに最初にサインインしたときに使用したダイアログと同じです。



新しい Parallels ビジネスアカウントを登録する場合は、[登録] ボタンをクリックし、登録フォームに記入して、[登録] をクリックしてアカウントを作成します。現在、新しいアカウントを使用してサインインしている場合は、異なるライセンスキーを使用して Parallels Remote Application Server をアクティベートする必要があります。このライセンスキーを購入し、アカウントに登録する必要があります。

異なるライセンスキーを使用して Parallels Remote Application Server をアクティベートするには、次の操作を実行します。

- 1 [Parallels ビジネスアカウントへのサインイン] ダイアログで、Parallels ビジネスアカウントの登録に使用した電子メールアドレスとパスワードを入力し、[サインイン] をクリックします。[ライセンス認証] ダイアログが表示されます。

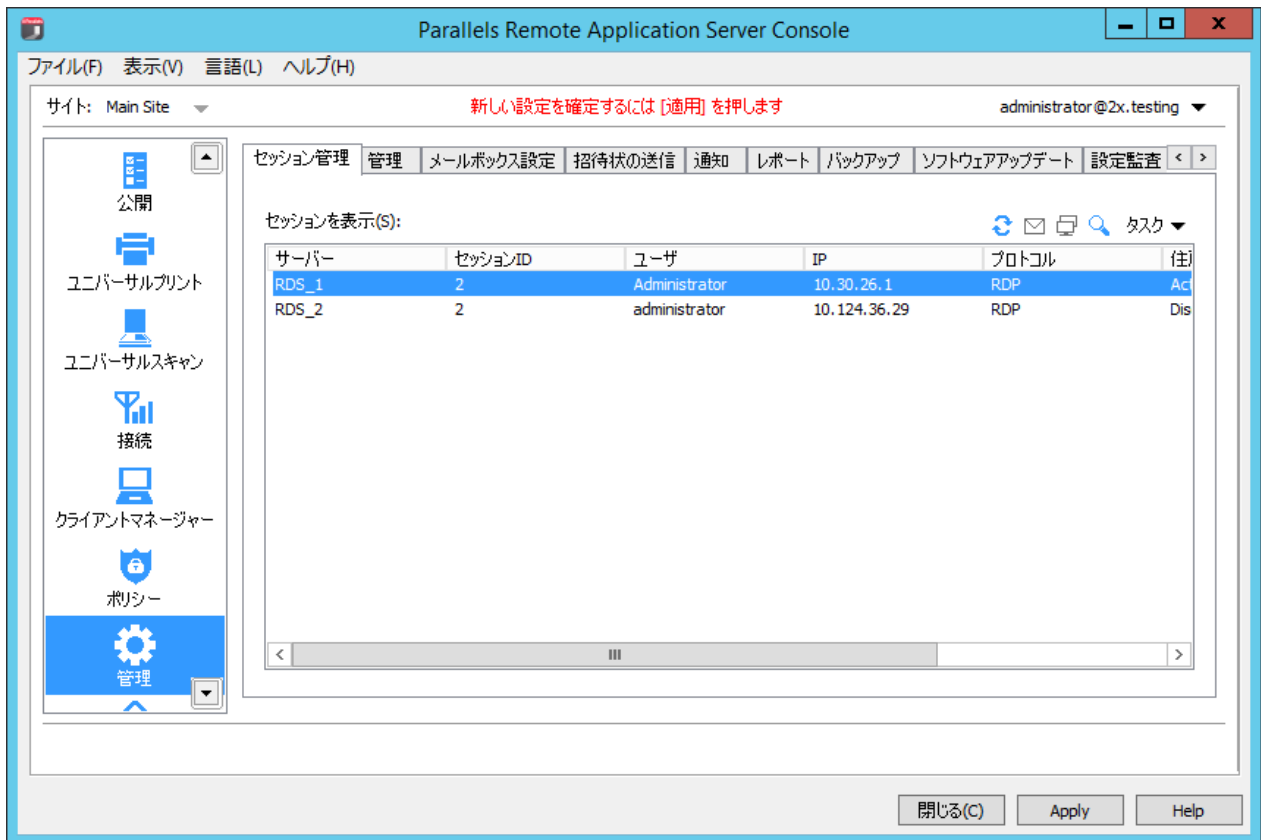
- 2 [ライセンスキーを使用してアクティベートする] オプションを選択し、提供されたフィールドにキーを入力します。フィールドの横にあるボタンをクリックすると、ビジネスアカウントに登録されているサブスクリプションと永久ライセンスキーのリストを表示することができます。リストが空の場合は、サブスクリプションまたはライセンスキーがなく、まず初めに購入する必要があります。
- 3 サブスクリプションをオンラインで購入するには、[ライセンスを購入する] リンクをクリックします。
- 4 [トライアルバージョンをアクティベートする] オプションを選択して、トライアル版の Parallels Remote Application Server をアクティベートすることもできます。
- 5 ライセンスキーを入力した後（またはトライアル版のアクティベートを選択した後）、[アクティベート] をクリックします。Parallels Remote Application Server が正常にアクティベートされたことを示す確認メッセージが表示されます。

セッションの管理

セッション管理機能を使用すると、ホスト上やサイト上のアクティブなセッションを切断、ログオフ、およびリモート制御できます。

セッションを管理するには、次の操作を実行します。

- 1 RAS Console で、[管理] / [セッション管理] に移動します。



- 2 同時に複数のセッションを管理できます。管理するセッションを1つまたは複数選択してから、[タスク] ドロップダウンメニューをクリックします。メニューで、実行するタスクに対応する項目をクリックします。
 - 切断 - 選択したセッションを切断します。
 - ログオフ - セッションの所有者をログオフします。
 - メッセージを送付する - ダイアログが開き、選択したセッションの所有者へのメッセージを入力および送信できます。
 - リモート制御 - 選択したユーザーセッションをリモート制御できます。このオプションを使用できるのは、選択しているセッションが1つの場合のみです。

モニタリング カウンターおよび電子メール アラートの構成

モニタリングカウンターの構成

[管理] カテゴリの [通知] タブページで、システムイベントに関する警告を電子メールで管理者に通知するために使用する通知カウンターを、有効化、無効化、または構成できます。これらのカウンター設定は、ファーム内のすべてのサーバーに適用されます。

次のイベントでカウンターを使用できます。

- サーバーの CPU 使用率が、構成された値よりも高い。
- サーバーのメモリ使用率が、構成された値よりも高い。
- サーバーに接続されているセッション数が、構成された値よりも多い。
- 切断されたセッション数が、構成された値よりも多い。
- RAS Terminal Server Agent がファームから切断された、またはファームに再接続した。

通知カウンターを構成するには、次の操作を実行します。

- 1 RAS Console で、[管理] カテゴリを選択して、[通知] タブをクリックします。
- 2 目的のイベントを選択して、[パラメーター] 列で値を指定します（イベントを右クリックして、[編集] をクリックします）。
- 3 [通知間隔] フィールドで、通知が管理者に電子メールで送信される間隔（分単位）を指定します。

送信メールが機能するように、RAS Console でメールボックスを構成してください。このメールボックスは、通常、初めて RAS Console 実行し、[開始] カテゴリを使用して最初の RAS 環境を設定したときに設定されます。この手順を省略した場合は、ここでメールボックスを設定できます。次のセクションで、メールボックスの設定手順を説明します。

メールを介してシステム通知を行うように SMTP サーバー接続を構成する

[メールボックス設定] タブページの [管理] カテゴリでは、送信メール用の SMTP サーバーを構成できます。管理者がシステムイベントのアラート（前のセクションを参照）を受信し、ユーザーに招待メールを送信するには、SMTP サーバーが必要です。

SMTP サーバーを構成するには、次の手順に従います。

- 1 RAS Console で、[管理] カテゴリーを選択し、[メールボックス設定] タブをクリックします。
- 2 [メールボックスサーバー] フィールドに、使用するメールサーバーの FQDN または IP アドレスを入力します。
- 3 [送信者アドレス] フィールドに送信者のアドレスを入力します。
- 4 必要に応じて、[TLS / SSL を使用] および [SMTP サーバーは認証をリクエストする] (提供されているフィールドに SMTP サーバーのユーザー名とパスワードを入力します) の各オプションを選択します。
- 5 [テスト E メール] セクションを使用して、SMTP サーバーの接続をテストできます。複数のメールアドレスをセミコロンで区切って入力することができます。[テストメール送信] をクリックして、設定をテストします。

Parallels Remote Application Server の構成変更の表示

Parallels Remote Application Server に加えられたすべての構成変更を表示するには、次の操作を実行します。

- 1 RAS Console で、[管理] カテゴリーを選択し、[設定監査] タブを選択します。
- 2 [設定監査] リストの各エントリは、Parallels Remote Application Server の管理者が RAS Console で実行したタスクに対応しています。
- 3 リストを更新するには、[更新] アイコン (円の中に 2 つの矢印があるアイコン) をクリックします。
- 4 リストのエントリをダブルクリックすると、対応する構成タスクの詳細が表示されます。

監査ログの構成

Parallels Remote Application Server では、監査はデフォルトで無効になっています。監査はサーバー単位またはサイト単位で有効にすることができます。これについては、このセクションに続くサブセクションで説明しています。

監査を有効にして構成するには、RAS Console で、[ファーム] / <サイト名> / [設定] に移動します。

Parallels Remote Application Server の監査ログ

監査ログには、開いているセッション、および各セッションの合計時間に関する情報が含まれません。

監査ログは、[監査] タブページで構成できます。

- [プロセス] リストには、[監査を表示する] ボタンをクリックしたときに生成される監査ログファイルに含まれないプロセスが表示されます。プロセスを追加または削除するには、[タスク] > [追加] または [タスク] > [削除] をクリックします。プロセスの名前を変更するには、[追加] > [プロパティ] をクリックします。リスト全体をリセットして、デフォルトのプロセスを表示するには、[追加] > [デフォルト] をクリックします。
- 監査ログを有効または無効にするには、[監査] ドロップダウンリストで [有効] または [無効] を選択します。
- 監査ログファイルを表示するには、[監査を表示する] ボタンをクリックします。
- ログファイルをクリアするには、[監査ファイルをクリア] ボタンをクリックします。
- ログファイルがバックアップされる頻度を指定するには、[ログファイルのバックアップ] ドロップダウンリストを使用します。バックアップログファイルは、他のログファイルと同じディレクトリに保存されます。バックアップログファイルは、RAS Monitor アプリケーションの [バックアップ] ノードから表示できます。

Parallels Remote Application Server のログ (サーバー別)

Parallels Remote Application Server のログは、Parallels のサポート部門がトラブルシューティングを行うために使用します。したがって、指示があった場合にのみ、このログを有効にする必要があります。

特定のサーバー向けのトラブルシューティング用ログの収集を管理するには、次の操作を実行します。

- 1 RAS Console で、[ファーム] / <サイト名> / [ターミナルサーバー] に移動します。
- 2 サーバーのログを有効にするには、サーバーを右クリックして、コンテキストメニューで [ロギングの有効化] をクリックします。
- 3 サーバーのログを表示するには、サーバーを右クリックして、コンテキストメニューで [ログの収集] をクリックします。
- 4 サーバーのログファイルをクリアするには、サーバーを右クリックして、コンテキストメニューで [ログファイルのクリア] をクリックします。

Parallels Remote Application Server のログ (サイト別)

サイト内のすべてのサーバーを対象として、ログをグローバルに有効化、無効化、管理することもできます。

注意: Parallels サポートに問題を報告する場合、ログファイルを準備し、サポートリクエストとともに送信することをお勧めします。ログファイルを準備するには、以下の手順を実行します。

グローバルロギングの管理:

- 1 RAS Console で、[ファーム] / <サイト名> / [設定] に移動し、[グローバルロギング] タブをクリックします。
- 2 [動作] セクションの項目を使用して、次の動作を実行します。
 - すべてのログを開始: サイト内のすべてのサーバーに対して、ログを有効にします。
 - すべてのログを停止: すべてのログを停止します。
 - すべてのログを取得: すべてのログを取得し、ファイルに保存します (ファイル名と保存場所を指定する必要があります)。
 - すべてのログをクリア: すべてのログをクリアします。このアイテムをクリックすると、警告は表示されずにログはクリアされます。
- 3 [設定] セクションで、ログファイルをバックアップする頻度を指定します。

メンテナンスとバックアップ

Parallels Remote Application Server を最新の状態に保つ

デフォルトでは、Parallels Remote Application Server は、RAS Console が起動されるたびにアップデートがないかどうかを確認します。アップデートの確認を無効にするには、[管理] カテゴリーを選択し、[ソフトウェアアップデート] タブをクリックします。[Parallels Remote Application Server Console の立上げ時にアップデートのチェックをします] オプションをクリアします。アップデートがないかどうかを手動で確認するには、[すぐにチェック] ボタンをクリックします。

同じ [ソフトウェアアップデート] タブページに、Parallels Remote Application Server で使用されているモジュールの読み取り専用リストも表示されます。Parallels サポートからの明確な要求がない限り、これを無視できます。

Parallels Remote Application Server 構成のバックアップ

Parallels Remote Application Server のファーム構成をバックアップするには、次の操作を実行します。

- 1 [管理] カテゴリを選択し、[バックアップ] タブをクリックします。
- 2 [エクスポート] アイコンをクリックします。
- 3 エクスポート手順を実行する前にすべてのサイトを同期することを通知するメッセージが表示されます。エクスポートを続行するには [はい] をクリックし、中止するには [いいえ] をクリックします。
- 4 ファイル名とエクスポート先のフォルダーを指定し、[保存] をクリックします。

注意:Parallels Remote Application Server 構成のバックアップには、実際の構成のみが含まれます。ダウンロードされた OS など、関連のない構成オブジェクトはバックアップに含まれません。

バックアップから構成を復元するには、[インポート] アイコンをクリックし、指示に従います。

ファーム設定のエクスポートおよびインポート

Parallels Remote Application Server インストールには PowerShell インターフェイスが含まれており、これを使用してファーム設定のエクスポートとインポートができます。このインターフェイスの使用法の 1 つとして、自動化テストを実行できます。事前設定を作成し、エクスポートした後、インポートすることで、特定のテストシナリオでその設定を使用できます。これを Windows タスクスケジューラーと併用すれば、ファーム設定の定期的なバックアップを行うことができます。

インターフェイスのインストール

まず、Parallels のウェブサイトから RAS_PS_Interface.zip ファイルを入手する必要があります。次に、次の手順を実行します。

- 1 RAS_PS_Interface.zip アーカイブをローカルのハードドライブに展開します。
- 2 64 ビットバージョンの PowerShell を開始します。
- 3 アーカイブの抽出場所にディレクトリを変更します。
- 4 次のコマンドを実行します。

```
Import-Module .\PSInterface.dll
```

インターフェイスの使用

ファーム設定をエクスポートするには、次のコマンドを実行します。

Get-Settings

Get-Settings の使用方法に関するヘルプを表示するには、次のコマンドを実行します。

```
help Get-Settings
```

ファーム設定をインポートするには、次のコマンドを実行します。

```
Set-Settings
```

ヘルプを表示するには、次のコマンドを実行します。

```
help Set-Settings
```

問題の報告とトラブルシューティング

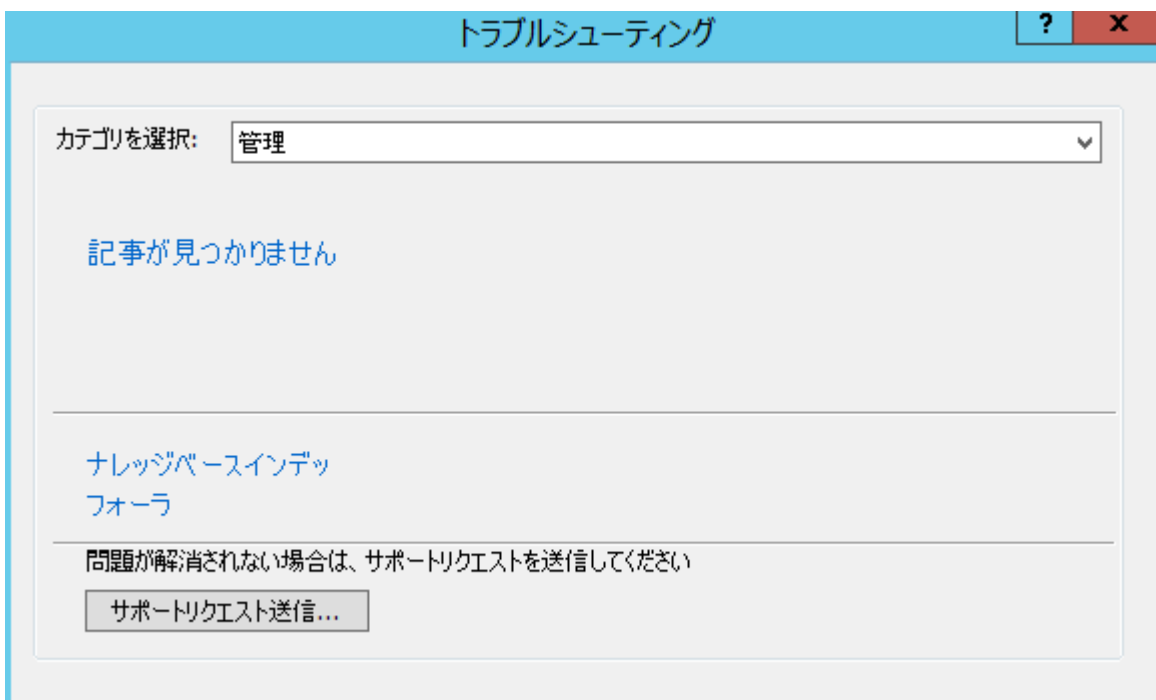
Parallels Remote Application Server で問題が発生した場合は、RAS Console ですぐに解決策を検索できます。解決策を見つけられない場合は、Parallels にサポートリクエストを送信できます。このセクションでは、これらの作業をどのようにして行うかを説明します。

解決策を検索

RAS Console で解決策を検索するには、次の操作を実行します。

- 1 RAS Console で、[ヘルプ] > [トラブルシューティング] の順にクリックします。

- 2 [トラブルシューティング] ダイアログが開きます。



- 3 [カテゴリを選択] ドロップダウンリストで、発生している問題のカテゴリを選択します。ダイアログの中央のエリアに、選択したカテゴリに関連する KB 記事のリストが自動的に読み込まれます。
- 4 興味のある記事をクリックして開き、ウェブブラウザで読んでください。
- 5 [ナレッジベース] リンク、または [フォーラム] リンクをクリックして、Parallels のナレッジベース、または Parallels のフォーラムに移動することもできます。

サポートリクエスト

注意: Parallels に自動的に送信されたサポートリクエストによってサポートチケットが作成され、そのチケットは Parallels サポート部に送信されます。現在、有効である RAS サブスクリプション、またはサポート契約がない場合は、チケットは作成されません。サポートを受けるには、サブスクリプション、またはサポート契約を購入する必要があります。

指定したカテゴリに記事が存在しない場合、または問題に対する解決策を見つけられない場合は、Parallels にサポートリクエストを送信できます。サポートリクエストを送信する前に、グローバルロギングが有効になっていること、および RAS Console 内にメールボックスが設定されていることを確認してください。

グローバルロギングを有効にするには、次の操作を実行します。

- 1 RAS Console で、[ファーム] / <サイト名> / [設定] に移動します。

- 2 [グローバルロギング] タブをクリックし、[すべてのログを開始] アクションアイテムをクリックします。

注意: グローバルロギングが無効になっていた場合、ログを収集するために問題を再現させる必要があります。

メールボックスを設定していない場合は、次の手順に従って設定してください。

- 1 RAS Console で、[管理] / [メールボックス設定] に移動します。
- 2 送信メールサーバーの情報、メールアドレス、また、必要に応じてセキュリティ/認証情報を入力してください。
- 3 テストメール用のフィールドにメールアドレスを入力して、[テストメール送信] をクリックすると、テストメールを送信できます。

Parallels にサポートリクエストを送信するには、次の操作を実行します。

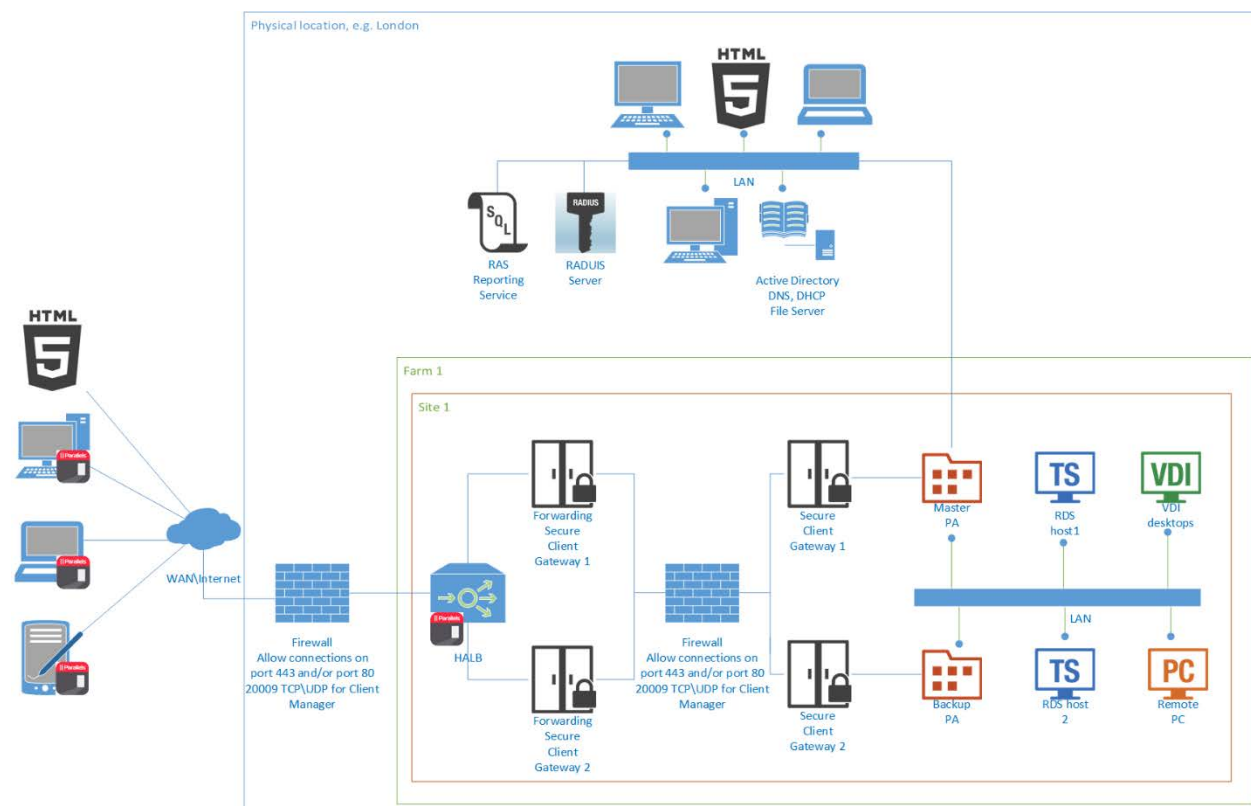
- 1 [トラブルシューティング] ダイアログで、[サポートリクエストを送信] ボタンをクリックします。
- 2 [サポートに問い合わせ] ダイアログが開きます。

- 3 あなたのフルネームと企業名を入力してください。

- 4 件名を入力してください。これは、Parallels サポートに送信されるメールの件名に使用されます。
- 5 [クエリーの入力] ボックスに、できるだけ詳細に問題を説明してください。
- 6 ファイルをメールに添付するには、[添付] フィールドを使用してください。ファイルを参照するには、[...] ボタンをクリックします。Parallels サポートが解決策を見つけるのに役立つ、画像やその他のファイルを添付することができます。ログファイルと Parallels Remote Application Server の設定は収集され、自動的にメールに添付されるため、ユーザーがこの操作を行う必要はありません。
- 7 ダイアログの一番下のドロップダウンリストで、メールを送信するか、収集されたデータを自動的に含む zip ファイルとして保存するかのどちらかを選択できます。
- 8 前の手順で選択したアクションに応じて、[送信] をクリックしてメールを送信するか、[保存] をクリックしてローカルドライブ、またはネットワークフォルダーに zip ファイルを保存します。

第 19 章

ポート参照



転送用 Parallels Secure Client Gateway と複数の Parallels Secure Client Gateway、冗長の Parallels Publishing Agent、および混合デスクトップシナリオを使用する、HALB のデュアル DMZ 構成では、以下のポートを使用します。

インターネット向けのファイアウォール上:

- TCP 80
- UDP 80 (RDP-UDP を有効にする場合)
- TCP 443 (SSL を有効にする場合)
- UDP 443 (SSL と RDP-UDP を有効にする場合)
- TCP 3389 (RDP とロードバランスを有効にする場合)

HALB アプライアンス上、外部:

- TCP 80

- TCP 443 (SSL を有効にする場合)

HALB アプライアンス上、内部:

- TCP 80
- TCP 443 (SSL を有効にする場合)
- TCP 31006
- UDP 31006
- RAW 112 (VRRP)

転送用 Parallels Secure Client Gateway が通信で使用するポート:

- TCP 80
- UDP 80 (RDP-UDP を有効にする場合)
- TCP 443 (SSL を有効にする場合)
- UDP 443 (SSL と RDP-UDP を有効にする場合)
- TCP 3389 (RDP とロードバランスを有効にする場合)
- UDP 20000 (ゲートウェイ検索)
- UDP 20009 (クライアントマネージャーを有効にする場合)

Parallels Secure Client Gateway が通信で使用するポート:

- TCP 80
- UDP 80 (RDP-UDP を有効にする場合)
- TCP 443 (SSL を有効にする場合)
- UDP 443 (SSL と RDP-UDP を有効にする場合)
- TCP 3389 (RDP とロードバランスを有効にする場合)
- UDP 20000 (ゲートウェイ検索)
- UDP 20009 (クライアントマネージャーを有効にする場合)

Parallels Publishing Agent が通信で使用するポート:

- TCP 20001 - 冗長サービス
- TCP 20002 - Publishing Agent サービスのポート (2XSecureClientGateway および UI コンソールとの通信)
- TCP 20003 - Terminal Server Agent のポート (Terminal Server Agent との通信)

Parallels Terminal Server Agent が通信で使用するポート:

- TCP 30004 - Terminal Server Agent の通信ポート

- UDP 30004 - Terminal Server Agent の通信ポート
- TCP 3389 - 標準の RDP 接続
- UDP 3389 - 標準の RDP 接続
- TCP 30005 - Terminal Server Agent の通信ポート (シェル + プリンターリダイレクター)

Parallels VDI Agents が通信で使用するポート:

- TCP 30006 - VDI Agent の通信ポート
- UDP 30006 - VDI Agent の通信ポート
- TCP 30007 - VDI Agent の通信ポート
- TCP 30009 - VDI Agent の通信ポート
- TCP 30005 - Terminal Server Agent の通信ポート (シェル + プリンターリダイレクター)

Parallels Remote PC Agents が通信で使用するポート:

- UDP 30004
- TCP 3389 - 標準の RDP 接続
- UDP 3389 - 標準の RDP 接続

Parallels Client が通信で使用するポート:

- TCP 80
- UDP 80 (RDP-UDP を有効にする場合)
- TCP 443 (SSL を有効にする場合)
- UDP 443 (SSL と RDP-UDP を有効にする場合)
- TCP 3389 - 標準の RDP 接続
- UDP 3389 - 標準の RDP 接続
- UDP 20009 - クライアントマネージャー

内部のファイアウォールポート:

- ソフトウェアのリモートインストール、プッシュ / 引き継ぎ:TCP 135、445、49179

Active Directory および Active Directory ドメインサービスのポートの要件については、次の記事を参照してください

い。 <https://technet.microsoft.com/en-us/library/dd772723%28v=ws.10%29.aspx>

Remote Application Server のファイアウォールの要件については、次の記事を参照してください。 <http://kb.parallels.com/en/123255>

インデックス

C

Citrix XenServer - 94

D

Deepnet でのユーザーアカウントの作成 - 231

Deepnet での作業 - 225

Deepnet の構成 - 225

DualShield 5.6+ 認証プラットフォームの構成 - 232

Dualshield での作業 - 232

DualShield 認証プラットフォームを使用するように Parallels Remote Application Server を構成する - 236

H

HALB アプライアンスのパスワードの変更 - 181

M

Microsoft Hyper-V - 102

P

Parallels Client の種類とビルド番号によるアクセスの制限 - 217

Parallels Client 設定の管理 - 205

Parallels RAS Web Portal - 224

Parallels Remote Application Server Console - 26

Parallels Remote Application Server とは - 10

Parallels Remote Application Server のアクティベート - 25

Parallels Remote Application Server のインストール - 15, 17

Parallels Remote Application Server のステータス - 240

Parallels Remote Application Server のログ (サーバー別) - 247

Parallels Remote Application Server のログ (サイト別) - 248

Parallels Remote Application Server の概要 - 10

Parallels Remote Application Server の構成 - 218, 229

Parallels Remote Application Server の構成変更の表示 - 246

Parallels Remote Application Server の管理 - 240

Parallels Remote Application Server 向けに Citrix XenServer を用意する - 94

Parallels Remote Application Server 向けに Hyper-V を用意する - 102

Parallels Remote Application Server 向けに VMware vSphere を用意する - 105

- Parallels Remote Application Sever を使用する前に - 26
- Parallels Web Portal - 239
- Parallels ビジネスアカウントへのサインイン - 23
- R
- RAS Console での HALB アプライアンスの構成 - 178
- RAS PC Agent の手動インストール - 122
- RAS Publishing Agent の接続設定 - 215
- RAS Secure Client Gateway - 143
- RAS Secure Client Gateway での SSL 暗号化の有効化 - 151
- RAS Secure Client Gateway ネットワークオプションの構成 - 150
- RAS Secure Client Gateway のステータスの確認 - 147
- RAS Secure Client Gateway の有効化および無効化 - 148
- RAS Secure Client Gateway の概要 - 143
- RAS Secure Client Gateway の管理 - 148
- RAS Secure Client Gateway の追加 - 145
- RAS Secure Client Gateway へのアクセスのフィルター - 157
- RAS Terminal Server Agent のステータスの確認 - 49
- RAS VDI Agent のステータスの確認 - 73
- RAS Web Portal - 159
 - 前提条件およびインストール - 159
- RAS テンプレートのメンテナンス - 82
- RAS テンプレートの作成 - 79
- RAS テンプレートの構成 - 80
- RAS テンプレートの管理 - 78
- RAS ファームへの接続 - 232, 239
- RAS レポート - 211
- RAS レポートの展開および構成 - 209
- S
- Safenet での作業 - 222
- SafeNet の構成 - 222
- V
- VDI Agent 技術 - 93
- VDI ホスト - 71
- VDI ホストのプール管理 - 83
- VDI ホストの追加 - 71
- VMWare vSphere - 105
- W
- Windows デスクトップの置換 - 199
- Windows デバイスおよびグループの電源サイクルのスケジューリング - 203
- Windows デバイスグループ - 202
- Windows デバイスの管理 - 195
- Wyse シンククライアント OS のサポート - 157
- ア
- アプライアンスのインストールおよび VDI ホストの構成 - 75
- アプリケーションの公開 - 31

カ

カスタマエクスペリエンスプログラムへの参加 - 44

ク

クライアントセッションからのログオンの管理 - 59

ゲ

ゲートウェイでの HTML5 サポートの有効化 - 153

ゲートウェイのトンネリングポリシー - 157

ゲートウェイモードと転送設定の変更 - 156

ゲストからのアプリケーションの公開 - 89

ゲストからのウェブアプリケーションの公開 - 90

ゲストからのドキュメントの公開 - 92

ゲストからのネットワークフォルダーの公開 - 91

ゲストからのバーチャルデスクトップの公開 - 88

ゲストからの公開 - 88

こ

このドキュメントについて - 11

サ

サイトと管理 - 36

サイトと管理者 - 36

サイトの管理 - 40

シ

システム要件 - 15

ス

スキャン アプリケーションの管理 - 190

セ

セッションの管理 - 243

ソ

ソフトウェア要件 - 15

タ

ターミナル サーバーからのドキュメントの公開 - 69

ターミナル サーバーのグループ化 - 57

ターミナル サーバーの構成 - 49

ターミナル サーバーの追加 - 46

ターミナルサーバー - 45

ターミナルサーバーからのアプリケーションの公開 - 63

ターミナルサーバーからのウェブアプリケーションの公開 - 67

ターミナルサーバーからのデスクトップの公開 - 61

ターミナルサーバーからのネットワークフォルダーの公開 - 67

ターミナルサーバーからの公開 - 60

ターミナルサーバーのサイト割り当ての変更 - 50

ターミナルサーバーのスケジューラーを使用 - 57

ターミナルサーバーのプロパティの表示と変更 - 51

ターミナルサーバーを追加する - 29

- デ
 - デバイスのモニタリング - 194
 - デバイスの管理 - 192
 - デバイスを接続するようユーザーを招待 - 192
- ト
 - トンネリングポリシーの構成 - 158
- パ
 - パーシスタントゲスト - 87
- バ
 - バーチャルゲストをテンプレートから作成する方法 - 80
- ハ
 - ハードウェア要件 - 17
- バ
 - バックアップ Publishing Agent の追加 - 172
 - バックアップの Publishing Agent - 172
 - バックアップの Publishing Agent 管理 - 173
- フ
 - ファームへの新しいサイトの追加 - 37
 - ファーム設定 - 163
 - ファーム設定のエクスポートおよびインポート - 249
- プ
 - プールでのバーチャルゲストの構成 - 85
 - プールの追加および削除 - 84
 - プールメンバーの追加および削除 - 84
- フ
 - フロントマネジメント - 186
- ポ
 - ポート参照 - 254
- メ
 - メールを介してシステム通知を行うように SMTP サーバー接続を構成する - 245
 - メンテナンスとバックアップ - 248
- モ
 - モニタリング カウンターおよび電子メールアラートの構成 - 245
 - モニタリングカウンターの構成 - 245
- ユ
 - ユーザー、クライアント、IP、MAC、ゲートウェイによるルールのフィルタリング - 139
 - ユーザーを招待 - 32
 - ユニバーサルスキャン - 188
 - ユニバーサルスキャンの管理 - 188
 - ユニバーサルプリント - 183
 - ユニバーサルプリントサーバーの管理 - 183
 - ユニバーサルプリントのフィルタリング - 185
- ラ
 - ライセンス - 241
 - ライセンスの管理 - 25

- リ
- リソースベースのロードバランスおよびラウンドロビンのロードバランス - 174
 - リモート PC - 121
 - リモート PC からのアプリケーションの公開 - 125
 - リモート PC からのウェブアプリケーションの公開 - 126
 - リモート PC からのデスクトップの公開 - 125
 - リモート PC からのドキュメントの公開 - 127
 - リモート PC からのネットワークフォルダーの公開 - 127
 - リモート PC からの公開 - 125
 - リモート PC の構成 - 123
 - リモート PC の追加 - 121
- レ
- レポート作成 - 209
- ロ
- ロードバランスの詳細設定 - 176
- ワ
- ワイルドカード機能の使用 - 87
- 一
- 一般設定 - 166
- 二
- 二要素認証 - 218
- 公
- 公開およびフィルタリング - 129
 - 公開デスクトップの管理 - 134
 - 公開ドキュメントの管理 - 136
 - 公開フォルダーの管理 - 139
 - 公開済みのアプリケーションの管理 - 129
- 利
- 利用できるターミナルサーバーの表示 - 45
- 受
- 受信接続用の IP アドレスの構成 - 149
- 問
- 問題の報告とトラブルシューティング - 250
- 手
- 手動による RAS Secure Client Gateway の追加 - 146
 - 手動による RAS Terminal Server Agent のインストール - 48
 - 手動による RAS VDI Agent のインストール - 73
- 接
- 接続および認証の設定 - 215
- 用
- 用語と略語 - 11
- 監
- 監査ログの構成 - 246
- 管
- 管理ページへのログイン - 162

管理者

追加、管理、構成 - 41

管理者アカウントの権限の構成 - 42

管理者アカウントの管理 - 43

管理者アカウントの追加 - 41

管理者用インスタントメッセージの使用 -
43

簡

簡単な RAS 環境のセットアップ - 28

結

結論 - 35

詳

詳細設定 - 211

負

負荷分散 - 174

高

高可用性ロード バランス - 177